

平成 28 年度  
男女共同参画に関する意識調査結果  
報 告 書

平成 2 9 年 3 月

曾於市



---

---

## 目 次

---

---

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	実施期間	1
3.	調査対象	1
4.	調査方法	1
5.	回収状況	1
6.	集計上の留意点	1
7.	回答者の属性	5
II	調査結果	
問1－問5	【現在の職場・仕事の状況】	7
問6－問7	【男女の平等感について】	15
問8－問9	【家庭における夫婦の役割分担】	27
問10－問11	【「男は仕事、女は家庭」の考え方】	43
問12－問15	【仕事・家庭生活・地域活動の両立】	45
問16	【少子化の理由】	50
問17	【地域活動への参加状況】	52
問18	【方針決定の場に女性の参画が少ない理由】	62
問19	【防災・災害復興対策における性別への配慮が必要なこと】	64
問20	【男女共同参画社会の実現に必要なこと】	65
問21－問25	【暴力等について】	67
問26	【男女共同参画に関する言葉の認知度】	89
	自由回答	103

### 付属資料

平成28年度 曾於市男女共同参画に関する意識調査票	111
---------------------------	-----



## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

平成20年3月に策定した「曾於市男女共同参画プラン」は10年間のプランで、計画期間が来年度で終了する。これまでのプランの検証と第2次プラン策定のため、市民の意識と実態を把握し、今後の男女共同参画社会づくりに向けた施策の一層の推進を図るための基礎資料とする。

### 2. 実施期間

平成28年11月1日（火）～12月22日（木）

### 3. 調査対象

市内在住（一部市内が職場も可とした）20歳以上の男女、2,000人を住民基本台帳から無作為に抽出。

### 4. 調査方法

郵送による配布、回収。

### 5. 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,000件	800件	797件	39.9%

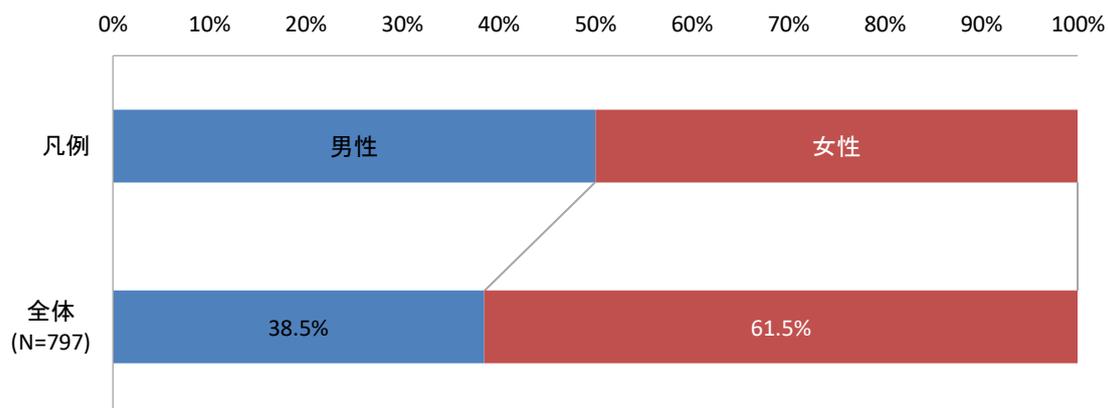
### 6. 集計上の留意点

- (1) グラフ中の「N」は、母数となるサンプル数(回答者数)を示している。
- (2) 集計結果は百分率で算出し、四捨五入の関係上、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) クロス集計結果については、性別ごとの構成比、年代ごとの構成比を示している。

## 7. 回答者の属性

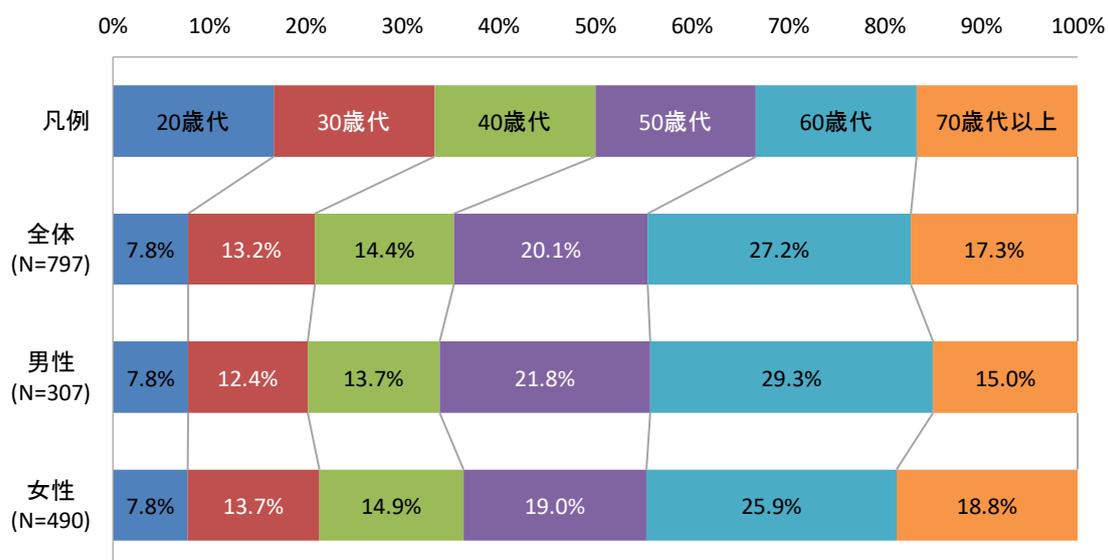
### 【1】性別

性別については「男性」が38.5%、「女性」が61.5%となっている。



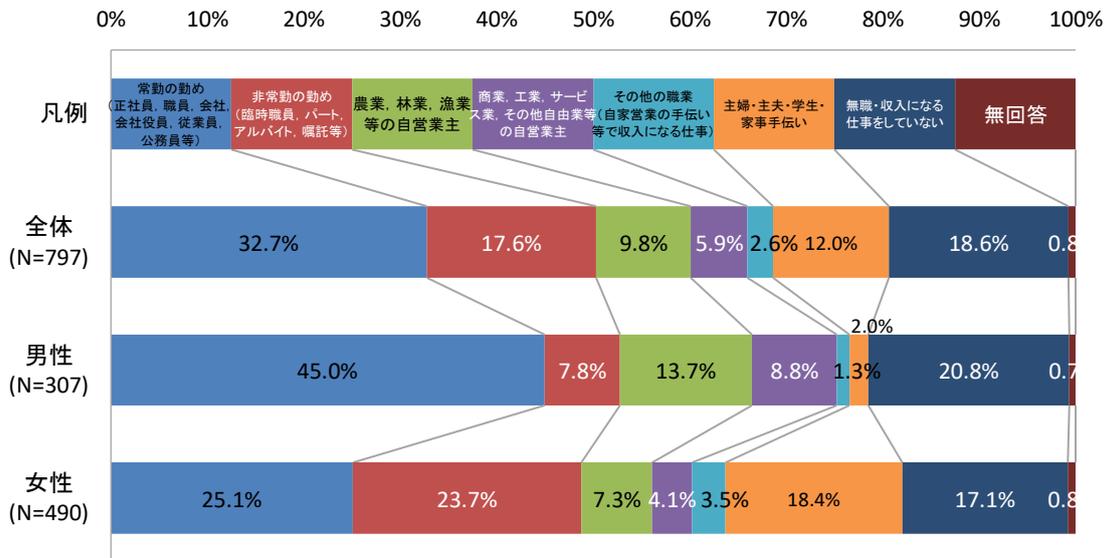
### 【2】年齢別

年齢については、「60歳代」が27.2%で最も多く、次いで「50歳代」が20.1%、「70歳代以上」が17.3%となっている。



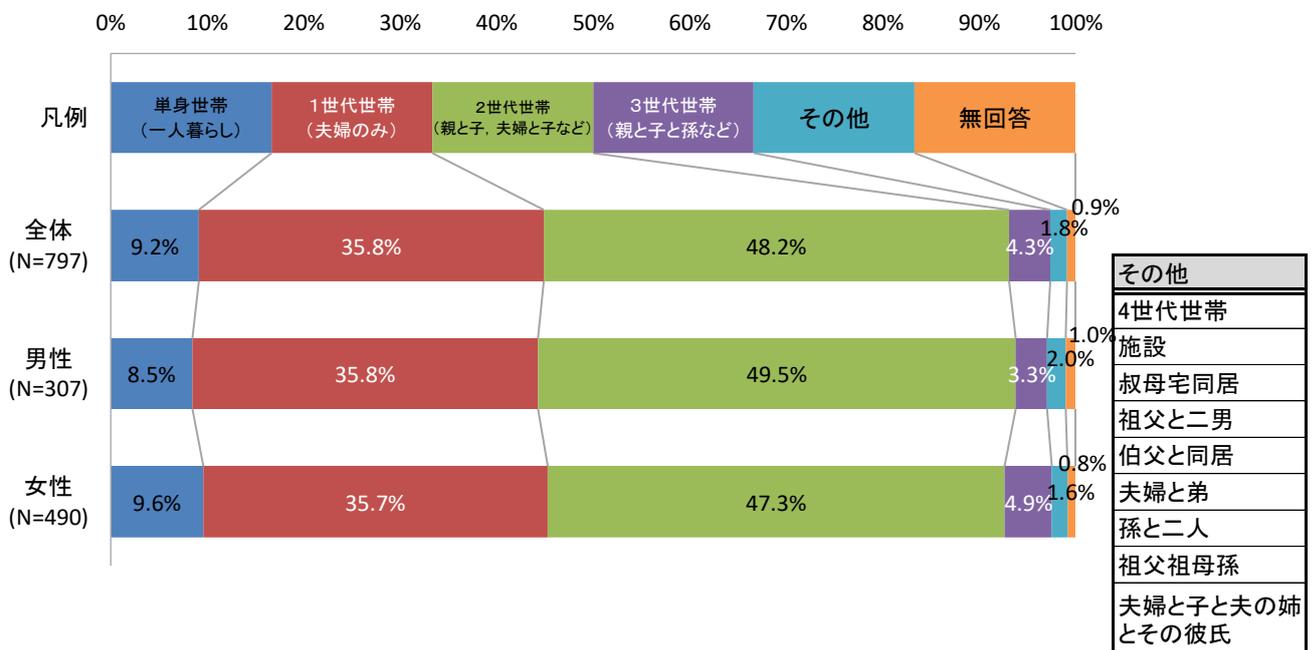
### 【3】職業別

職業別については、「常勤の勤め（正社員、職員、会社、会社役員、従業員、公務員等）」が32.7%で最も多く、次いで「無職・収入になる仕事をしていない」が18.6%、「非常勤の勤め（臨時職員、パート、アルバイト、嘱託等）」が17.6%となっている。



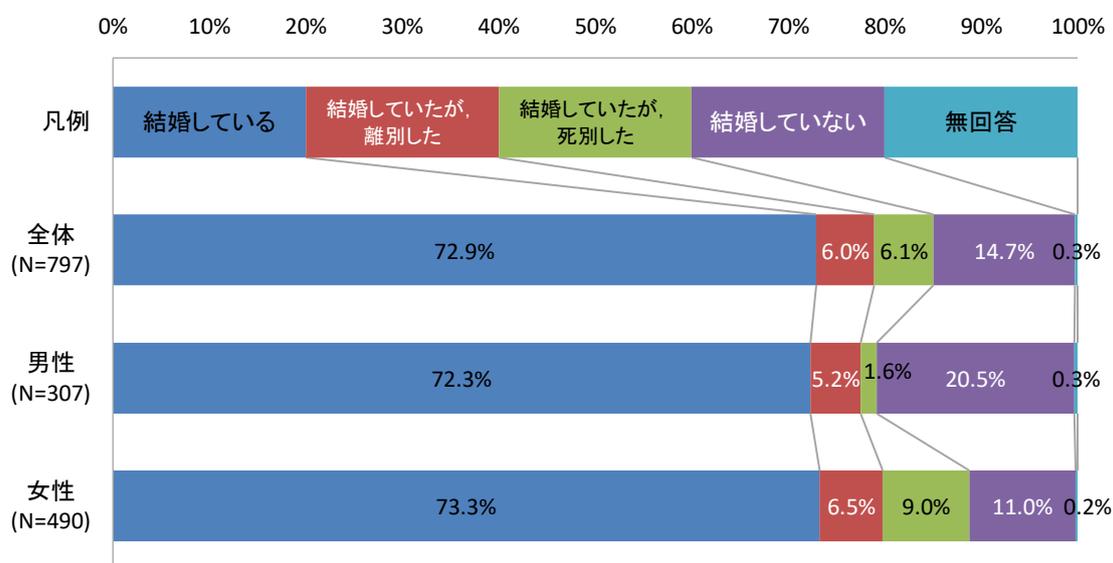
### 【4】家族構成

家族構成については、「2世代世帯（親と子、夫婦と子など）」が48.2%で最も多く、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」が35.8%、「単身世帯（一人暮らし）」が9.2%となっている。



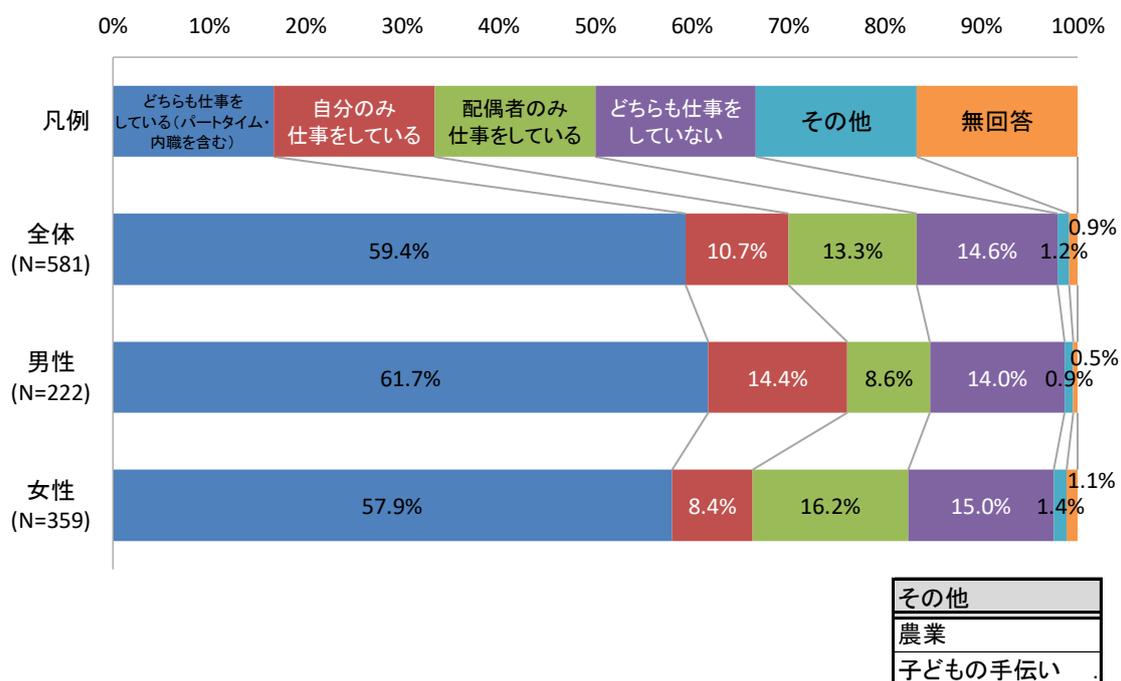
## 【5】配偶者の有無

配偶者の有無については、「結婚している」が 72.9%で最も多く、次いで「結婚していない」が 14.7%、「結婚していたが、死別した」が 6.1%となっている。



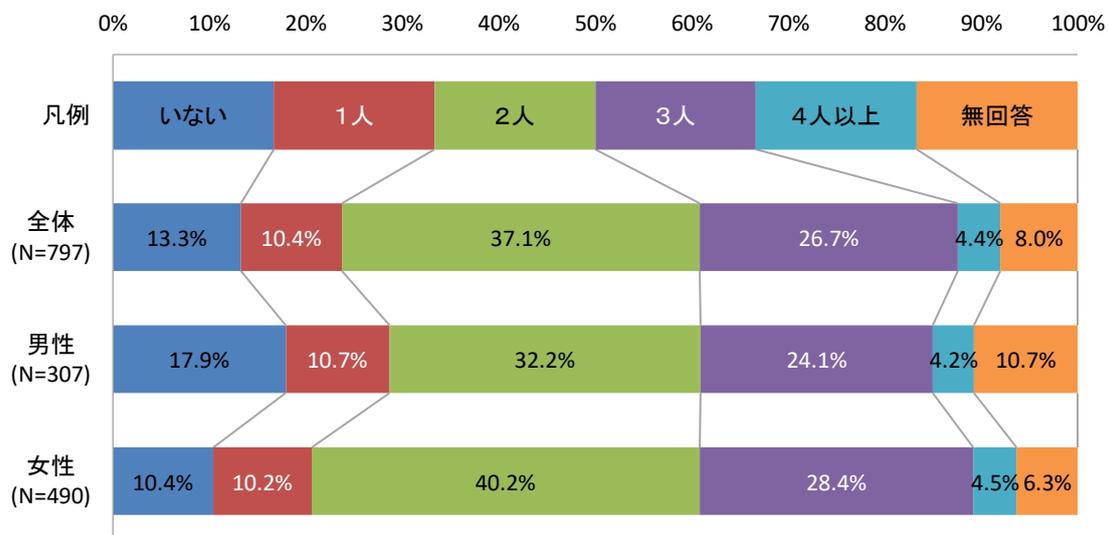
## 【6】配偶者の就業状況

配偶者の就業状況については、「どちらも仕事をしている（パートタイム・内職を含む）」が 59.4%で最も多く、次いで「どちらも仕事をしていない」が 14.6%、「配偶者のみ仕事をしている」が 13.3%となっている。



## 【7】子供の人数

子供の人数については、「2人」が37.1%で最も多く、次いで「3人」が26.7%、「いない」が13.3%となっている。



## Ⅱ 調査結果

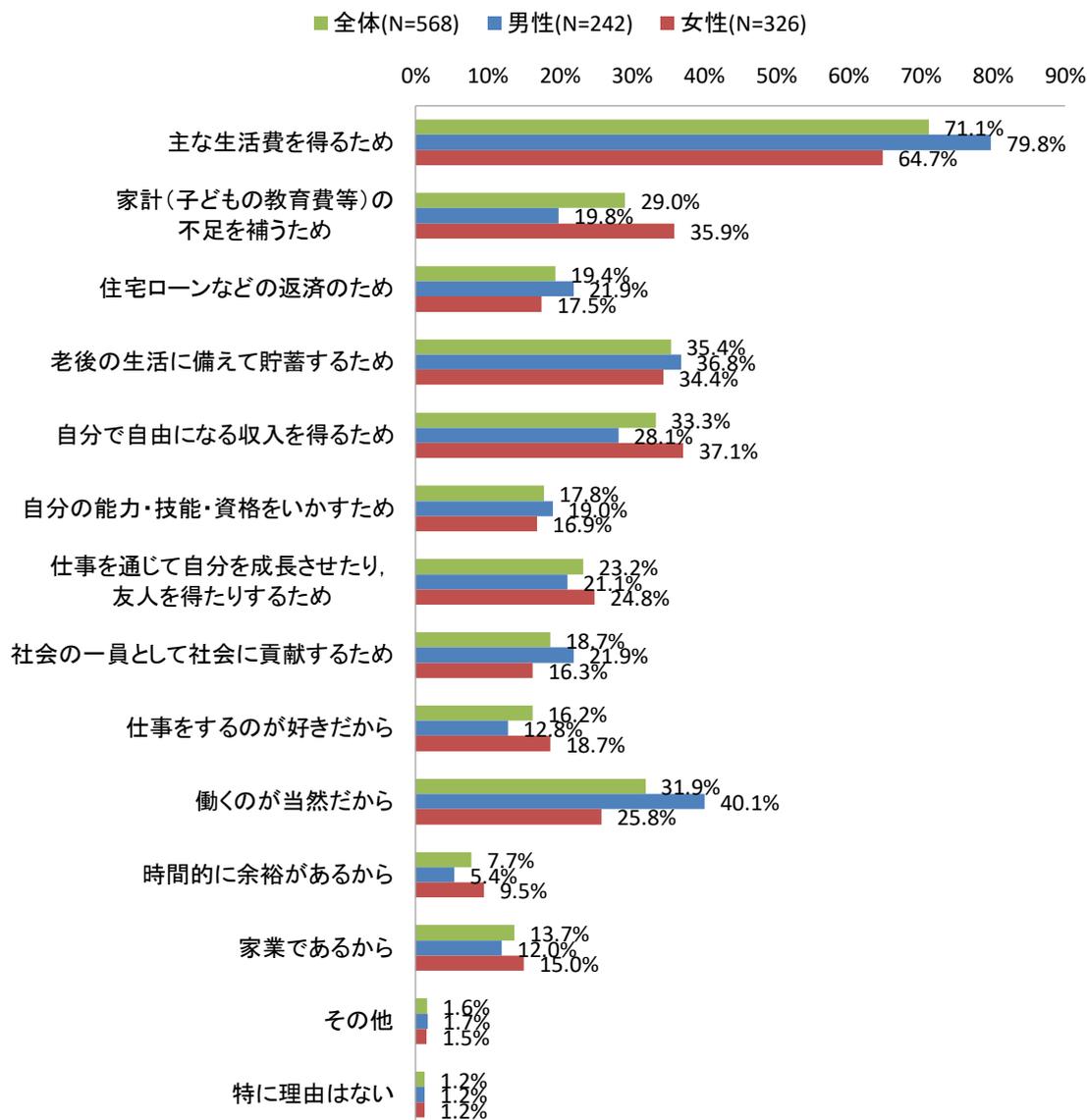
【問1】から【問4】は、ふだん収入になる仕事（1年間に30日以上）をしている方におたずねします。

問1 あなたが、現在仕事をしているのは、どのような理由からですか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

現在仕事をしている理由については、「主な生活費を得るため」が71.1%で最も多く、次いで「老後の生活に備えて貯蓄するため」が35.4%、「自分で自由になる収入を得るため」が33.3%となっている。

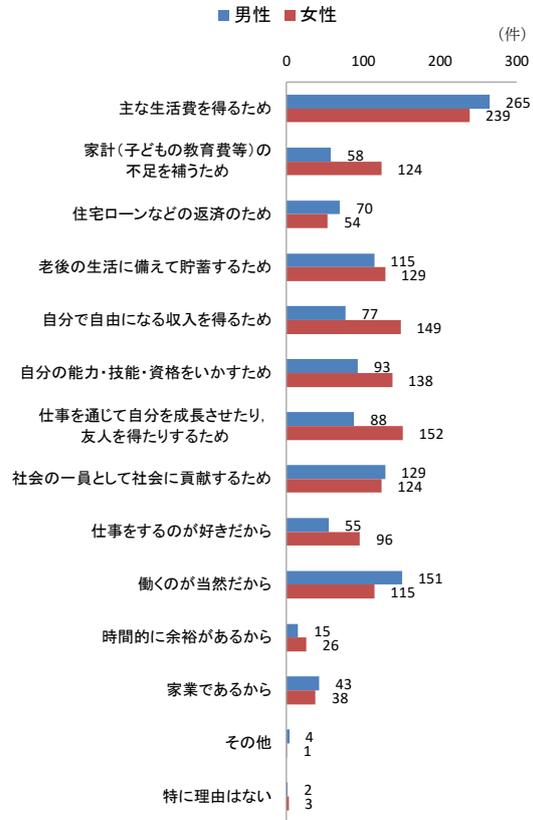
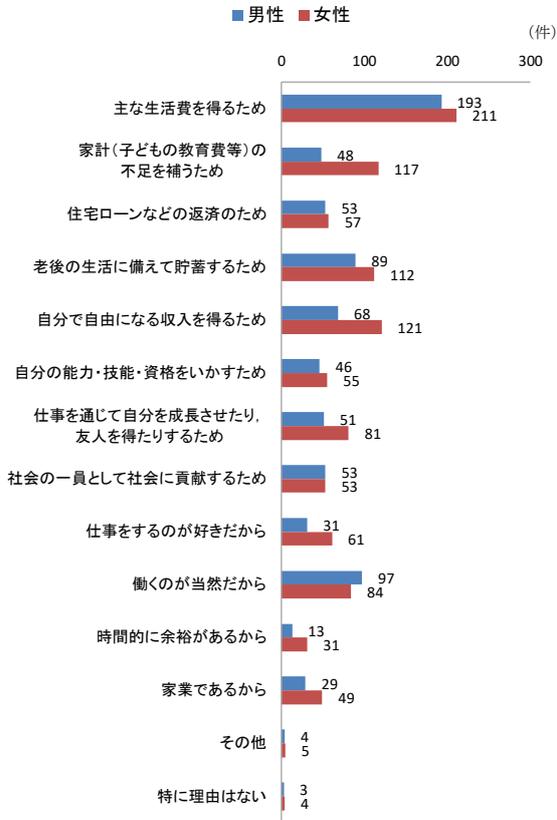
性別では、男女共に「主な生活費を得るため」が最も多く、次いで、男性が「働くのが当然だから」「老後の生活に備えて貯蓄するため」女性が「自分で自由になる収入を得るため」「家計（子どもの教育費等）の不足を補うため」が多くなっている。

前回調査と比較すると、男性は「社会の一員として社会に貢献するため」、女性は「仕事を通じて自分を成長させたり、友人を得たりするため」が減少している。



【今回 (H28)】

【前回 (H24)】



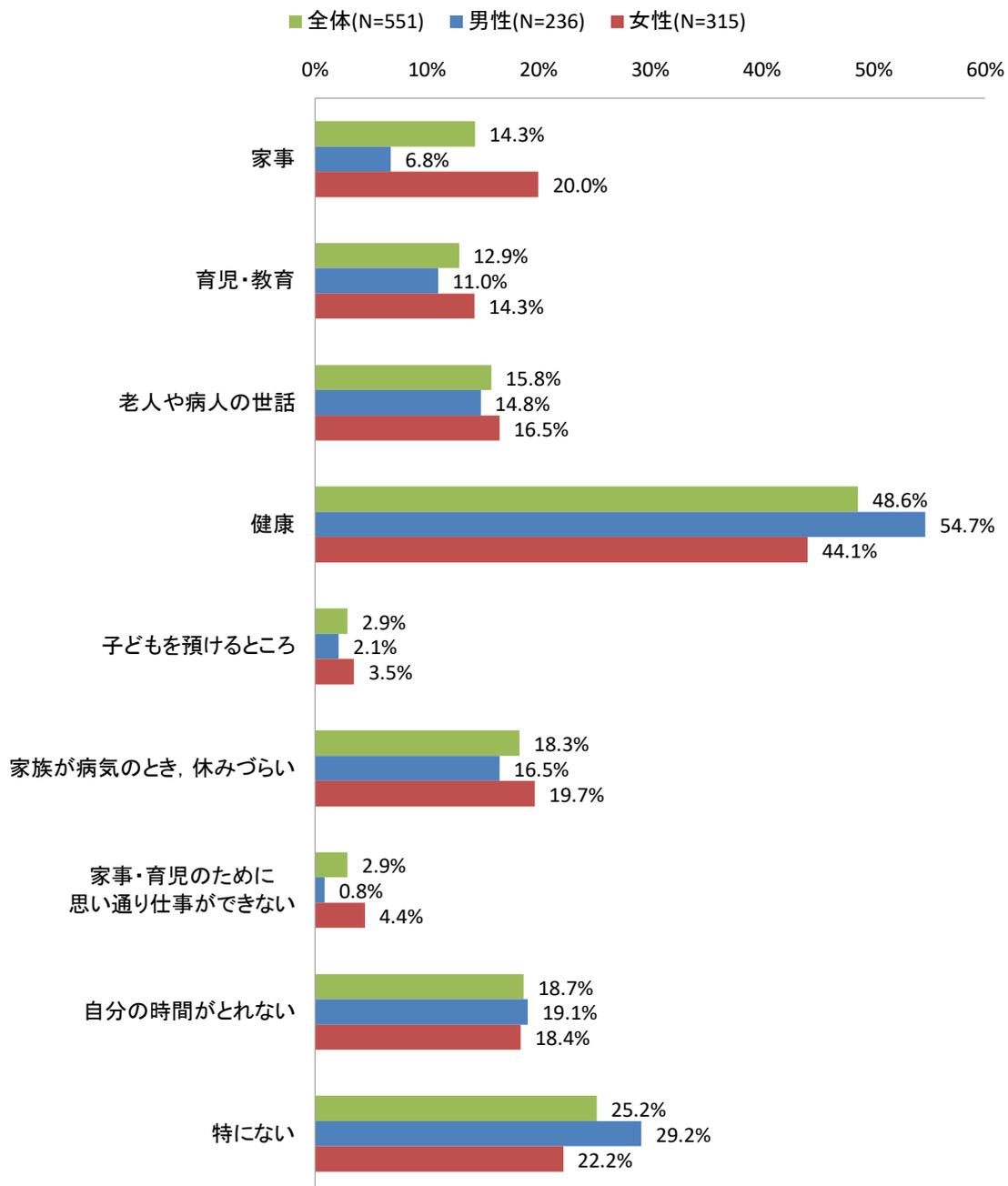
その他
夢をかなえるため
ボケ防止のため
農作業の手伝い
生きがい
命令
生活のリズムを作り健康でいたいから

問2 あなたが現在働いている中で、気がかりなことがありますか。あてはまる番号を3つ以内でお選びください。

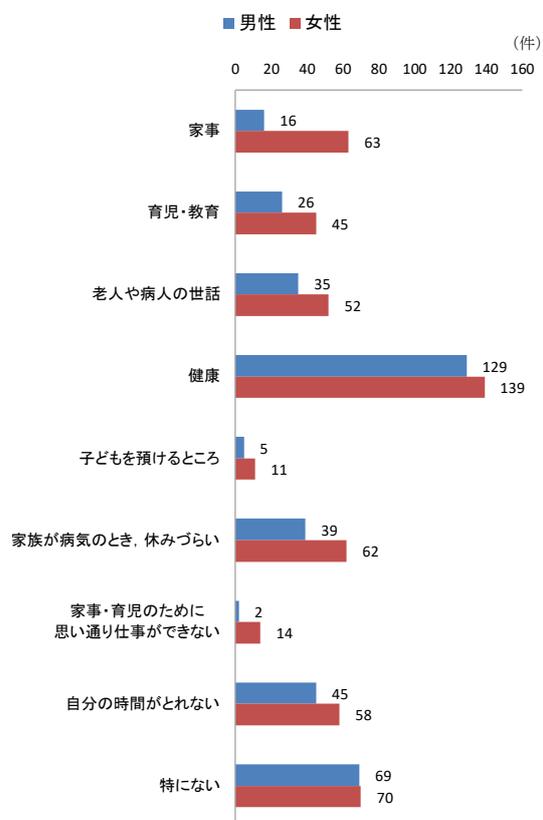
現在働いている中で、気がかりなことについては、「健康」が48.6%で最も多く、次いで「特にない」が25.2%、「自分の時間がとれない」が18.7%となっている。

性別では、男女共に、「健康」が最も多く、女性より男性の割合が約10ポイント多い。一方、「家事」「家族が病気の時、休みづらい」は、男性より女性の割合が多くなっている。

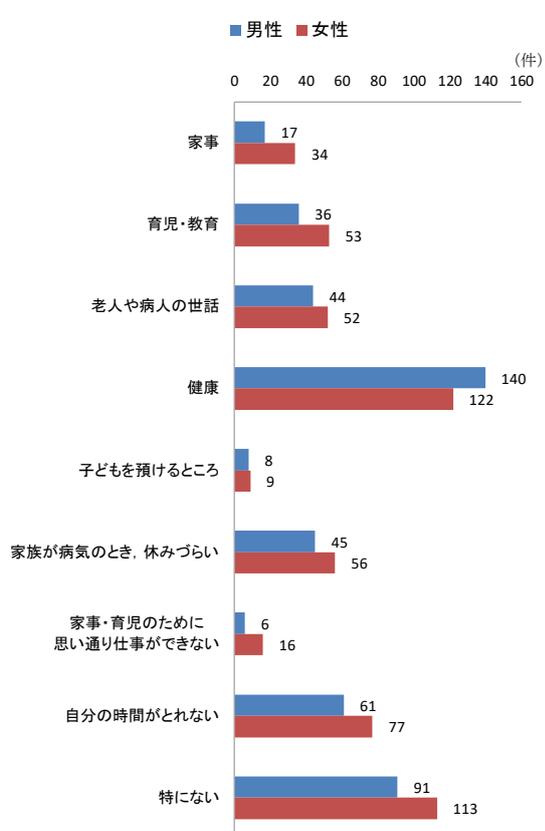
前回調査と比較すると、女性の「家事」が増加している。



【今回 (H28)】



【前回 (H24)】



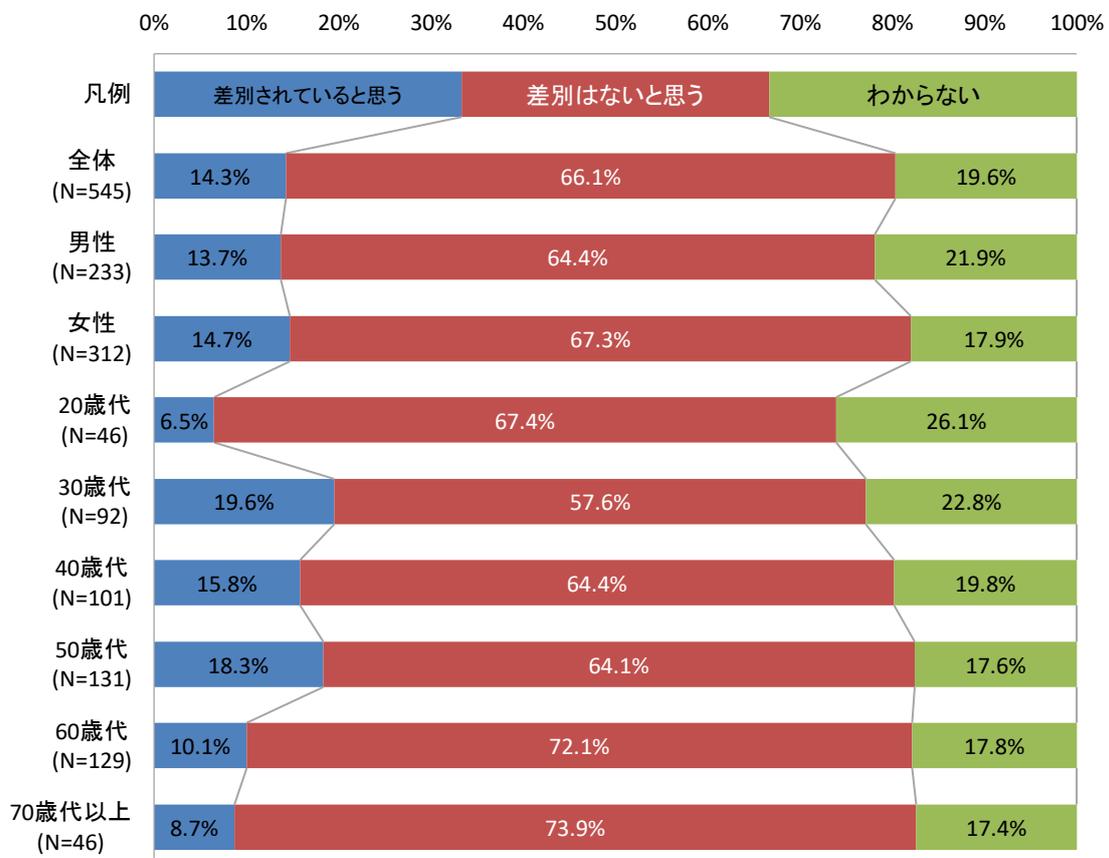
問3 あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性と男性では差別されていると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

女性と男性では差別されていると思いますかについては、「差別されていると思う」が14.3%、「差別はないと思う」が66.1%、「わからない」が19.6%となっている。

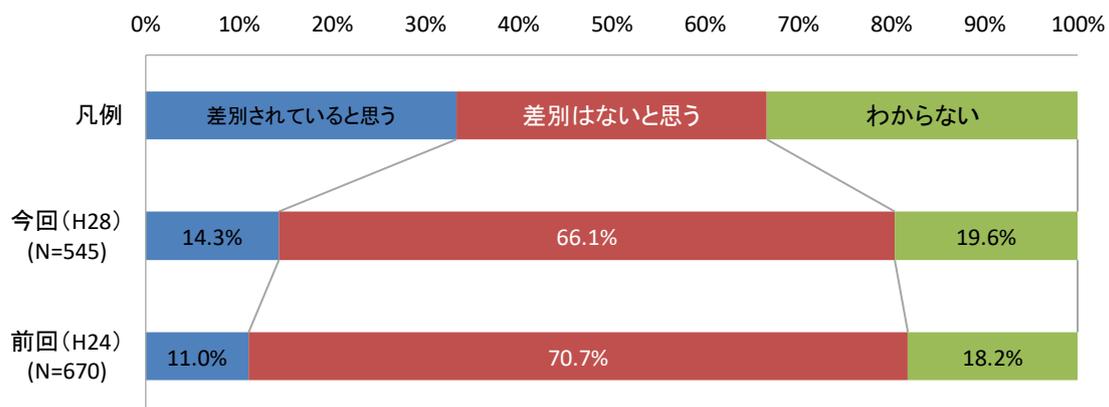
性別では、「差別されていると思う」は、男性より女性が約1ポイント多い。

年代別では、30歳代、50歳代において「差別されていると思う」が約20%と多く、60歳以上の7割は「差別はないと思う」としている。

前回調査と比較すると、「差別されていると思う」が3.3ポイント増加している。



【前回 (H24 との比較)】



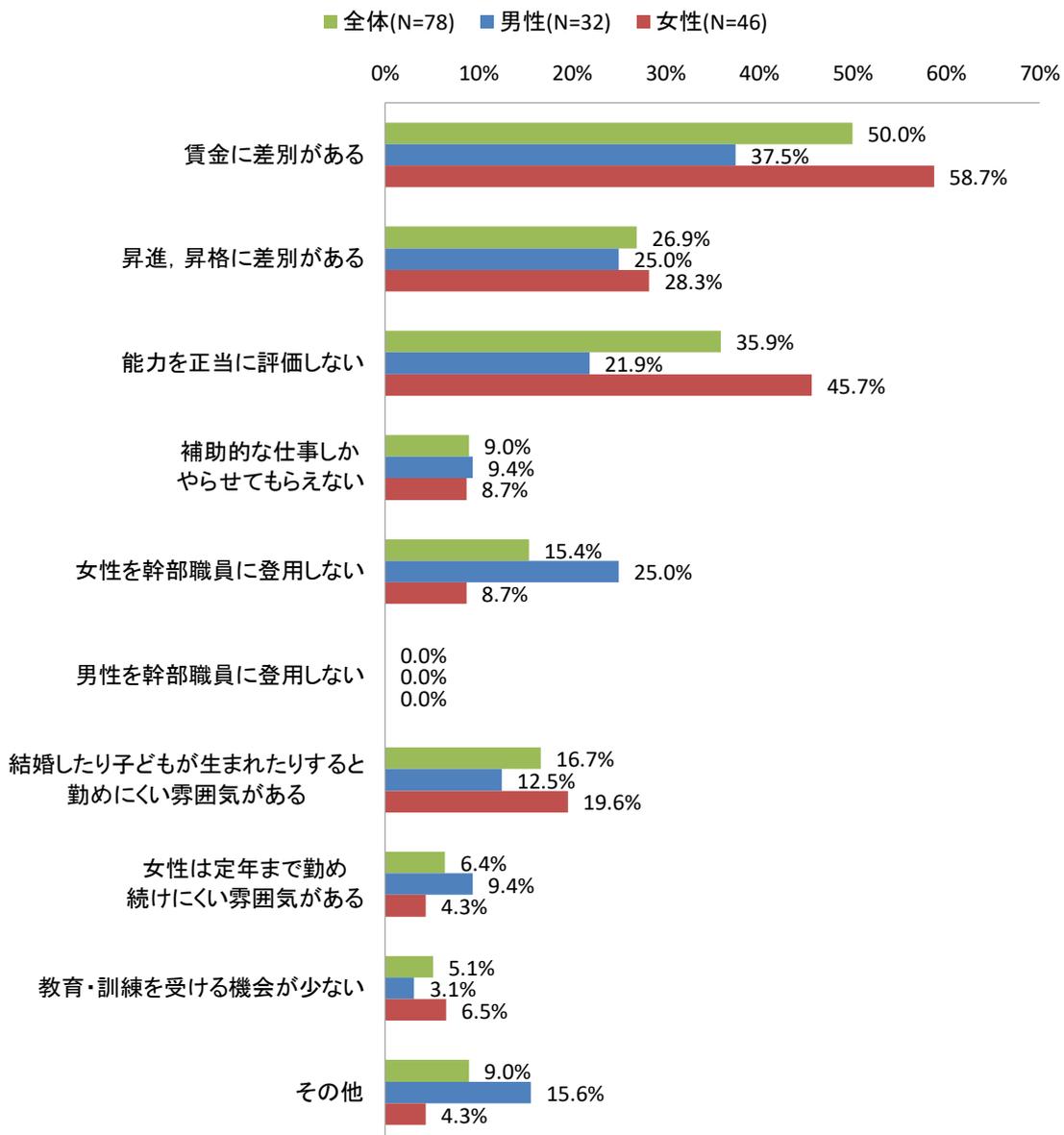
【問3】で「1. 差別されていると思う」を選んだ方におたずねします。

問4 それは具体的にどのようなことですか。あてはまる番号を3つ以内でお選びください。

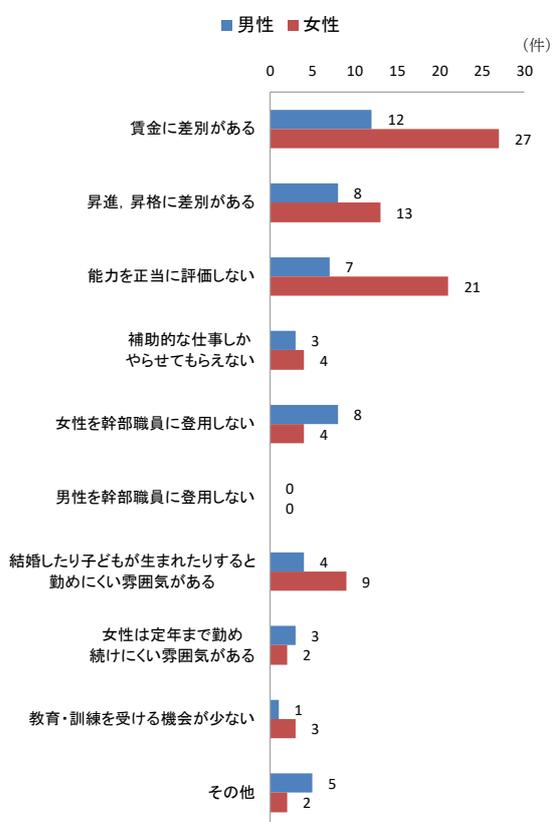
差別されていることについては、「賃金に差別がある」が 50.0%で最も多く、次いで「能力を正当に評価しない」が 35.9%、「昇進、昇格に差別がある」が 26.9%となっている。

性別では、「賃金に差別がある」「能力を正当に評価しない」は、男性より女性が 20 ポイント以上多くなっている。また、「女性を幹部職員に登用しない」は、男性が女性より約 16 ポイント多くなっている。

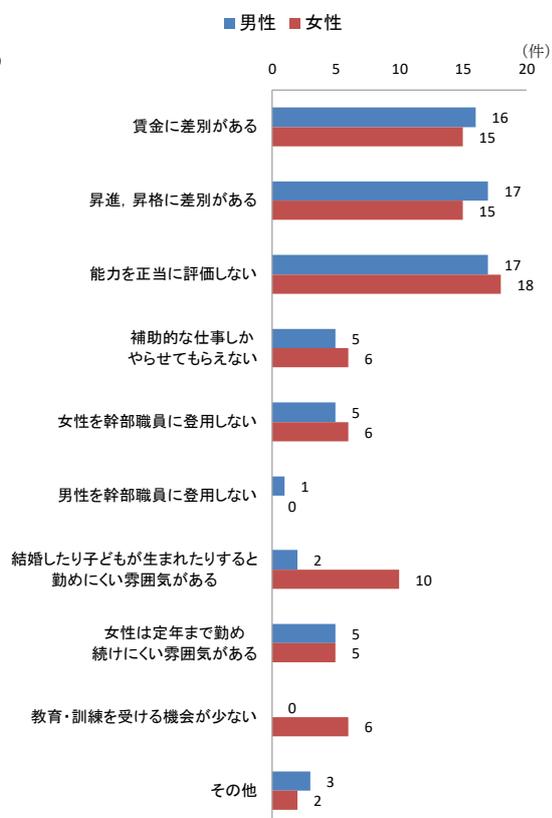
前回調査と比較すると、男性が「賃金に差別がある」「能力を正当に評価しない」「昇進、昇格に差別がある」という回答が減少したのに対し、女性は反対に増加している。



【今回 (H28)】



【前回 (H24)】



その他
お茶入れなどは女性に任せてしまう
女性がうるさい
女性だけにトイレ掃除が割り当てられている
女性の希望者が少ない
男性は休みづらい
人によって話し方や態度を変えているような気がする

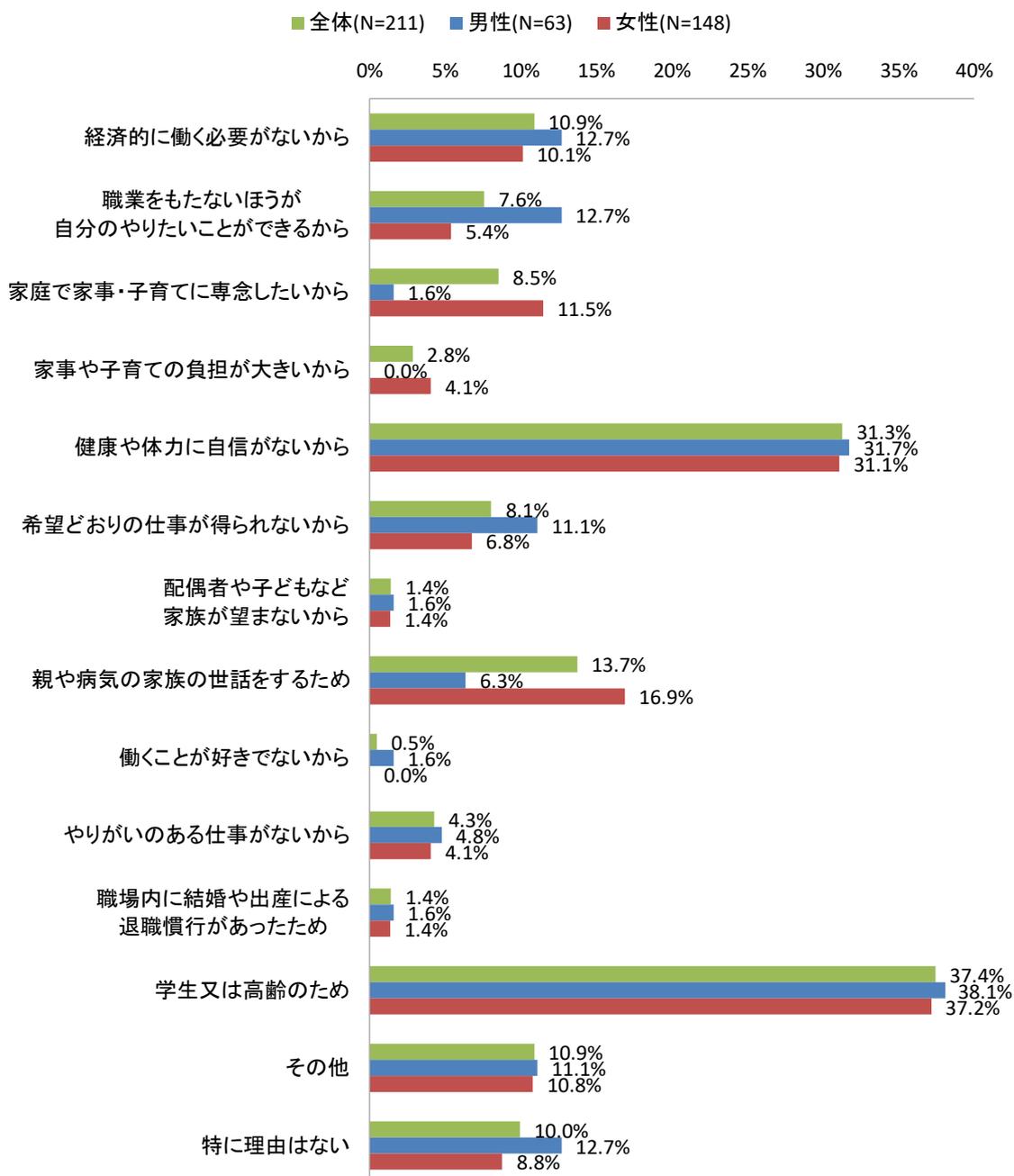
ふだん収入になる仕事をしていない方におたずねします。

問5 あなたが、現在、仕事をしていないのは、どのような理由からですか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

仕事をしていない理由については、「学生又は高齢のため」が 37.4%で最も多く、次いで「健康や体力に自信がないから」が 31.3%、「親や病気の家族の世話をするため」が 13.7%となっている。

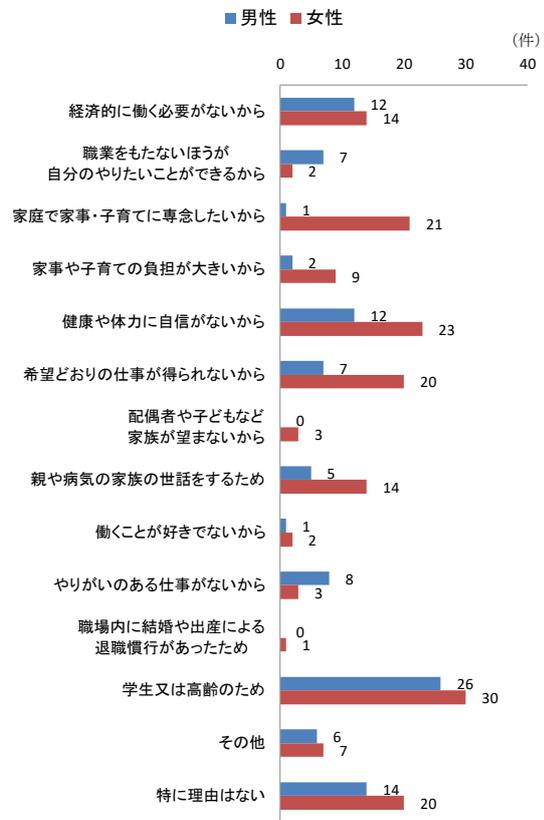
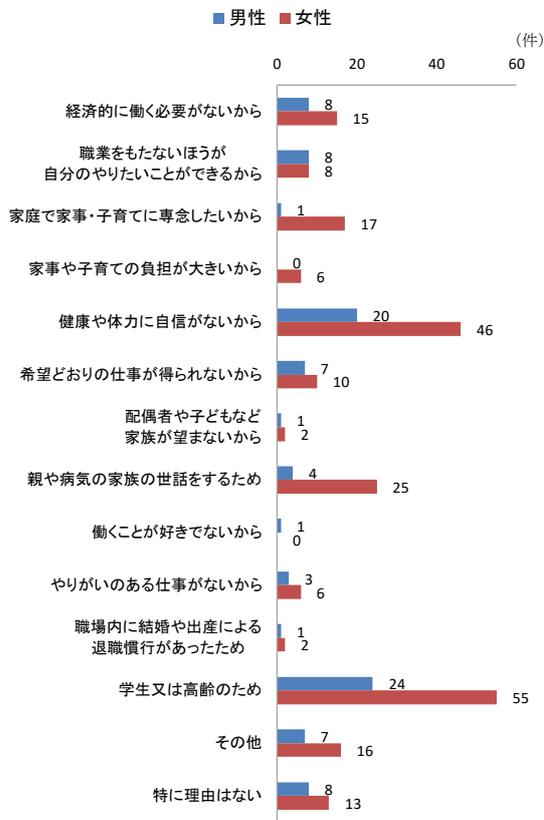
性別では、「親や病気の家族の世話をするため」「家庭で家事・子育てに専念したいから」が、男性より女性が約 10 ポイント多くなっている。

前回調査と比較すると、女性の「親や病気の家族の世話をするため」が増加している。



【今回 (H28)】

【前回 (H24)】



その他
家庭の事情により休職中
施設利用中
人間不信
妊娠中のため
病気のため
障害があるため
就職活動中
研修中
家業の手伝い

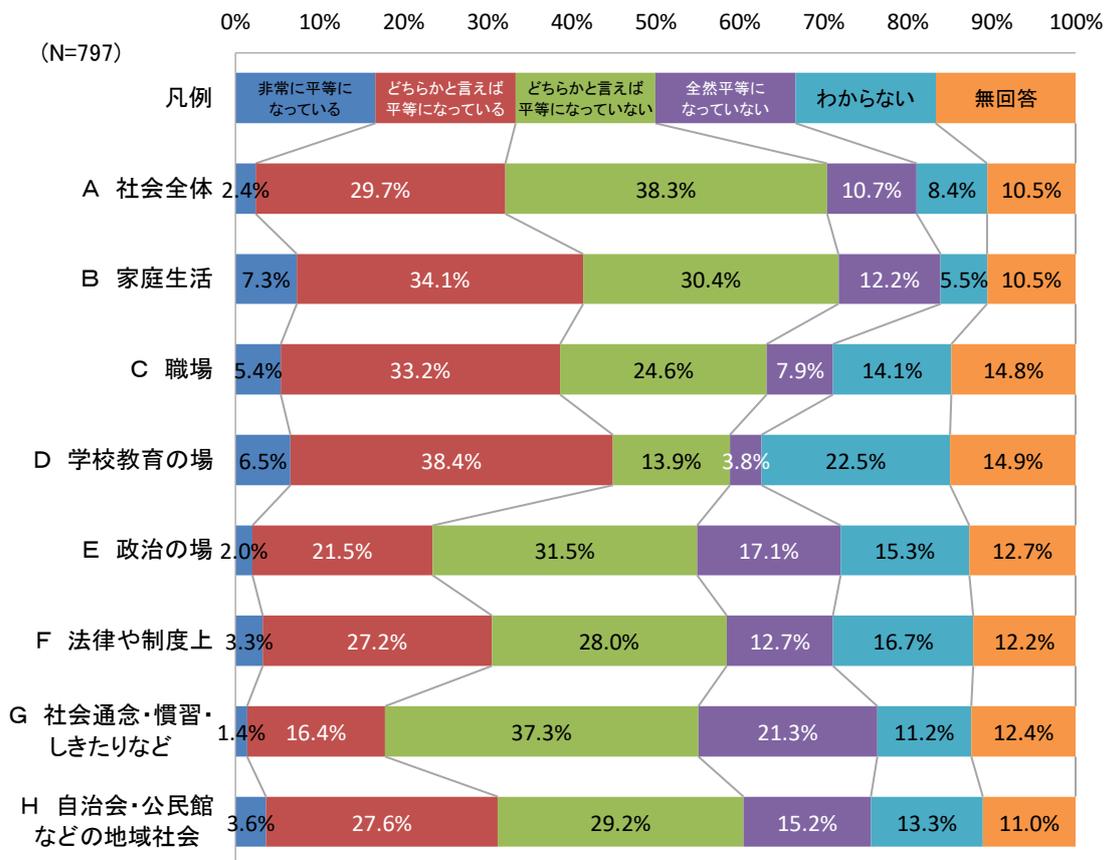
問6 あなたは、次にあげるような項目で男女の地位は平等になっていると思いますか。A～Hのそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

男女の地位について、「平等」（非常に平等になっている+どちらかと言えば平等になっている）と感じているのは「学校教育の場」が44.9%で最も多く、次いで「家庭生活」が41.4%、「職場」が38.6%となっている。

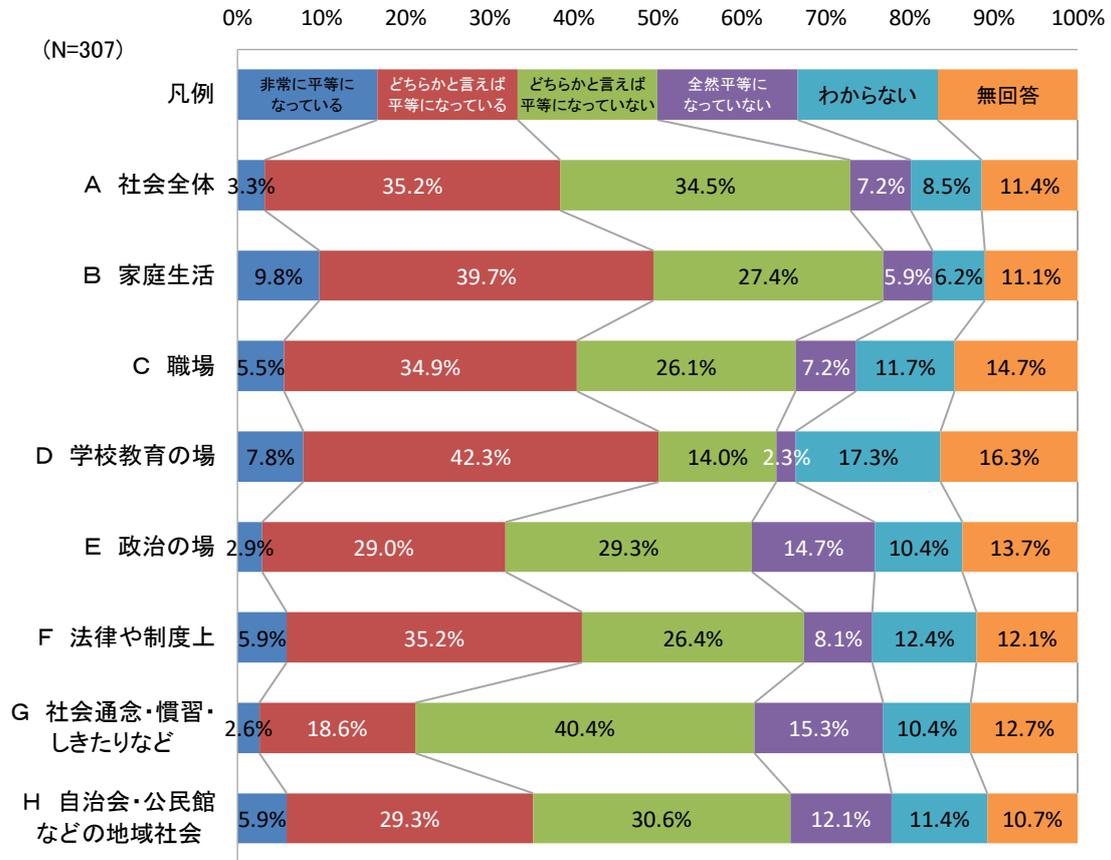
「不平等」（全然平等になっていない+どちらかと言えば平等になっていない）と感じているのは「社会通念・慣習・しきたりなど」が58.6%で最も多く、次いで「社会全体」が49.0%、「政治の場」が48.6%となっている。

性別では、「平等」と感じているのは、男女共に「学校教育の場」が最も多く、全ての分野で男性が女性より多くなっている。一方、「不平等」と感じているのは、男女共に「社会通念・慣習・しきたりなど」が最も多く、「社会全体」「家庭生活」「法律や制度上」で、女性が男性より10ポイント以上多くなっている。

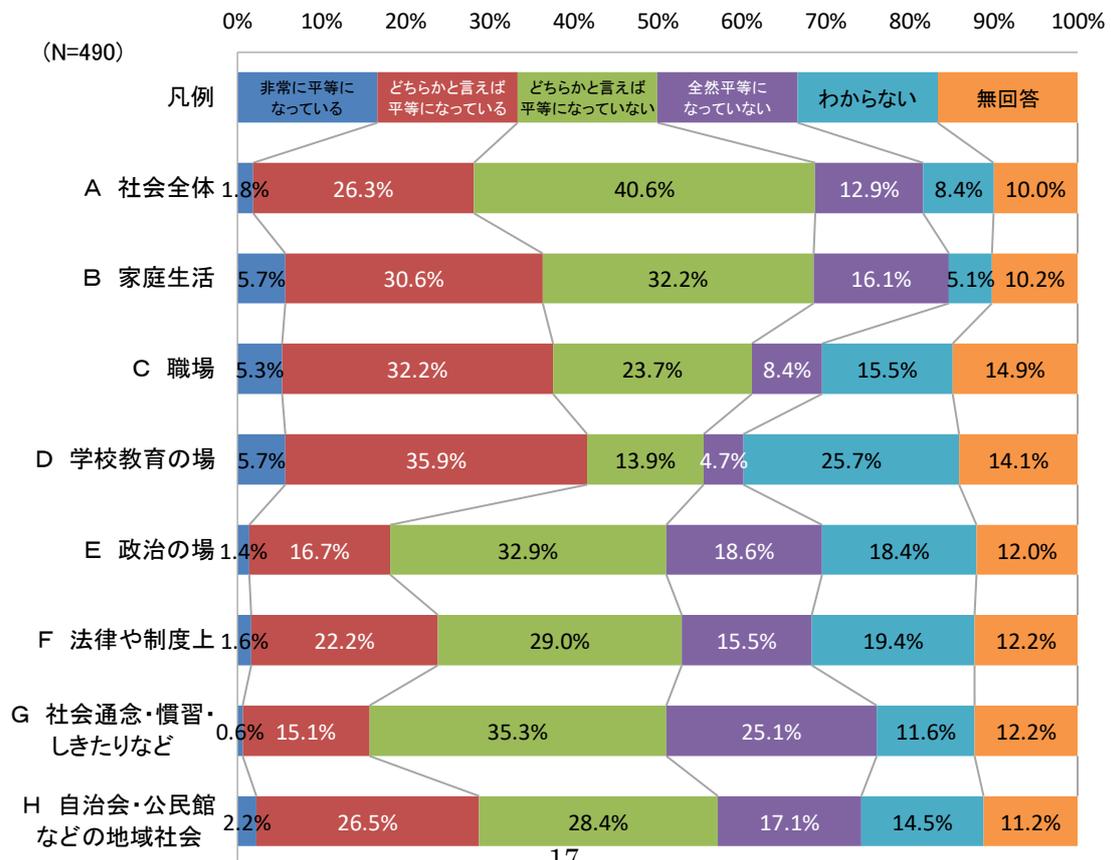
### 総括



## 総括(男性)



## 総括(女性)



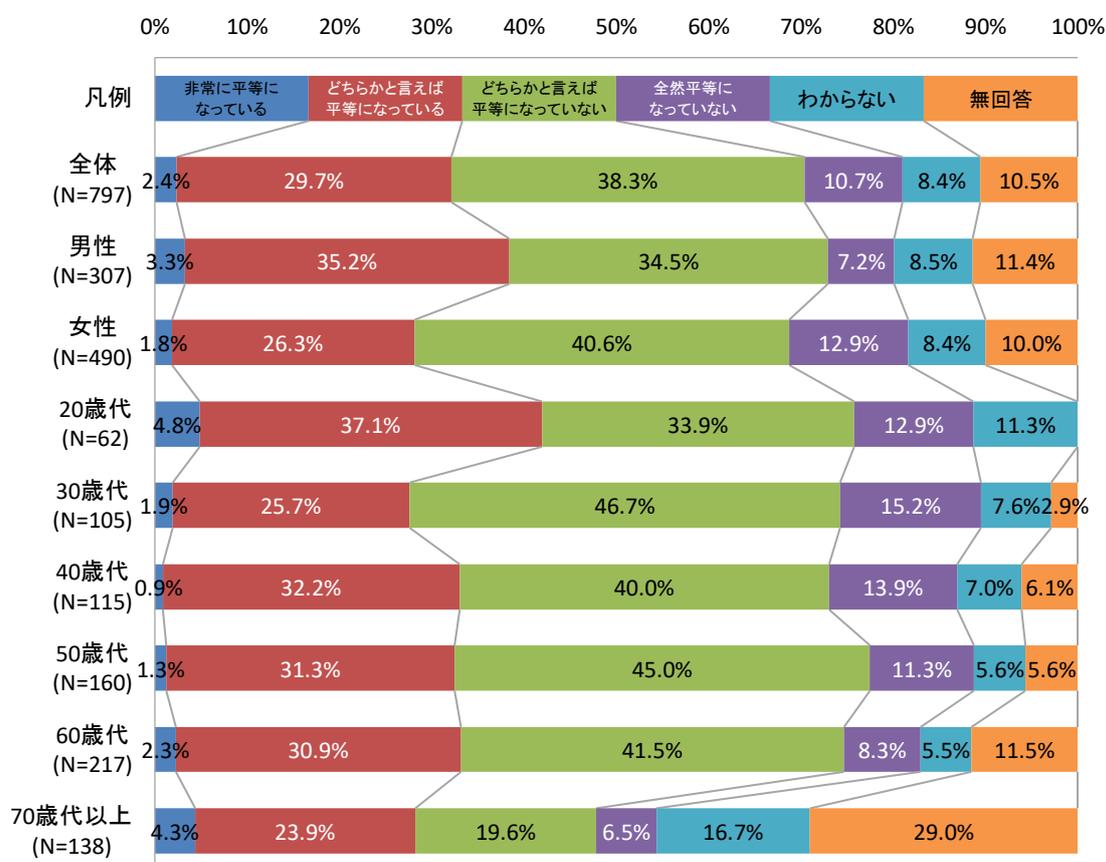
## A 社会全体

社会全体について、「平等」と感じているのは 32.1%、「不平等」と感じているのは 49.0%となっている。

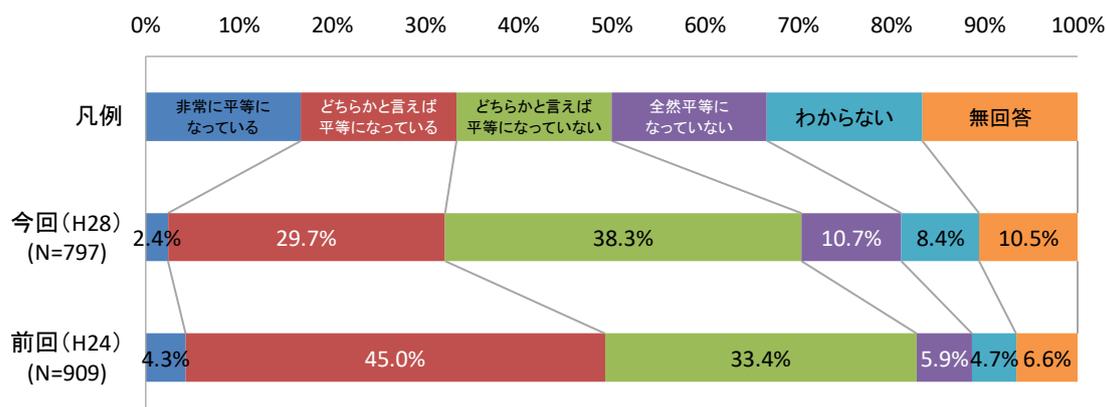
性別では、男女共に「不平等」が多く、女性が男性よりも 11.8 ポイント多くなっている。

年代別では、「60 歳代」以下において「不平等」が多くなっており、「30 歳代」が 61.9%で最も多く、次いで「50 歳代」が 56.3%、「40 歳代」が 53.9%となっている。

前回調査と比較すると、「平等」が 17.2 ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



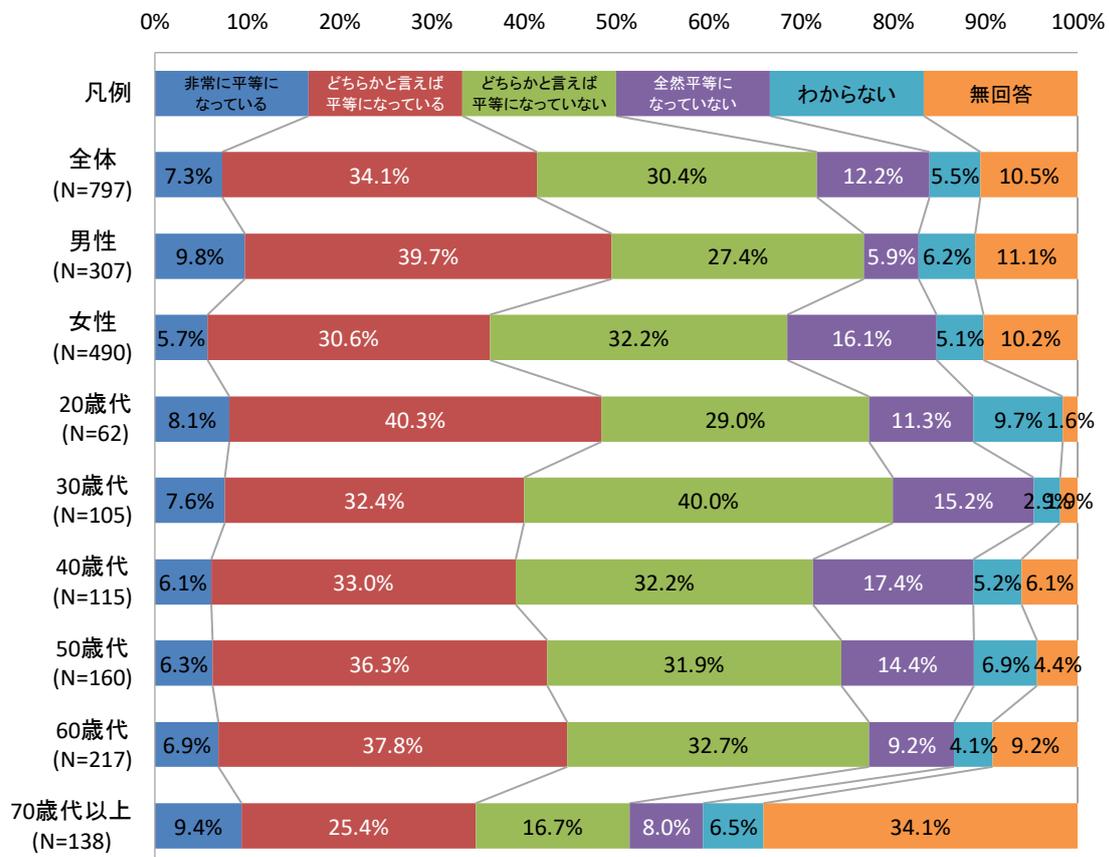
## B 家庭生活

家庭生活について、「平等」と感じているのは 41.4%、「不平等」と感じているのは 42.5%となっている。

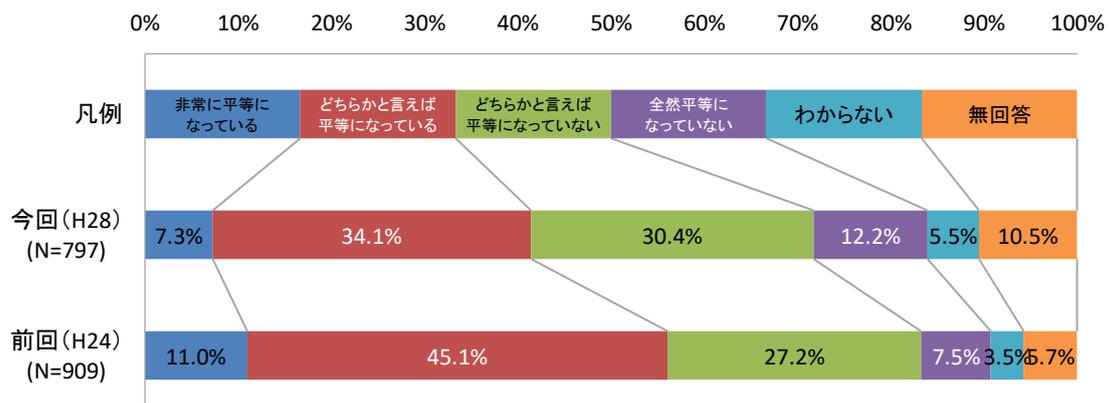
性別では、男性は「平等」、女性は「不平等」が多い。男性の「平等」は、女性よりも 13.2 ポイント高くなっている。

年代別では、「30 歳代」～「50 歳代」において「不平等」が多くなっており、「30 歳代」が 55.2%で最も多く、次いで「40 歳代」が 49.6%、「50 歳代」が 46.3%となっている。

前回調査と比較すると、「平等」が 14.7 ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



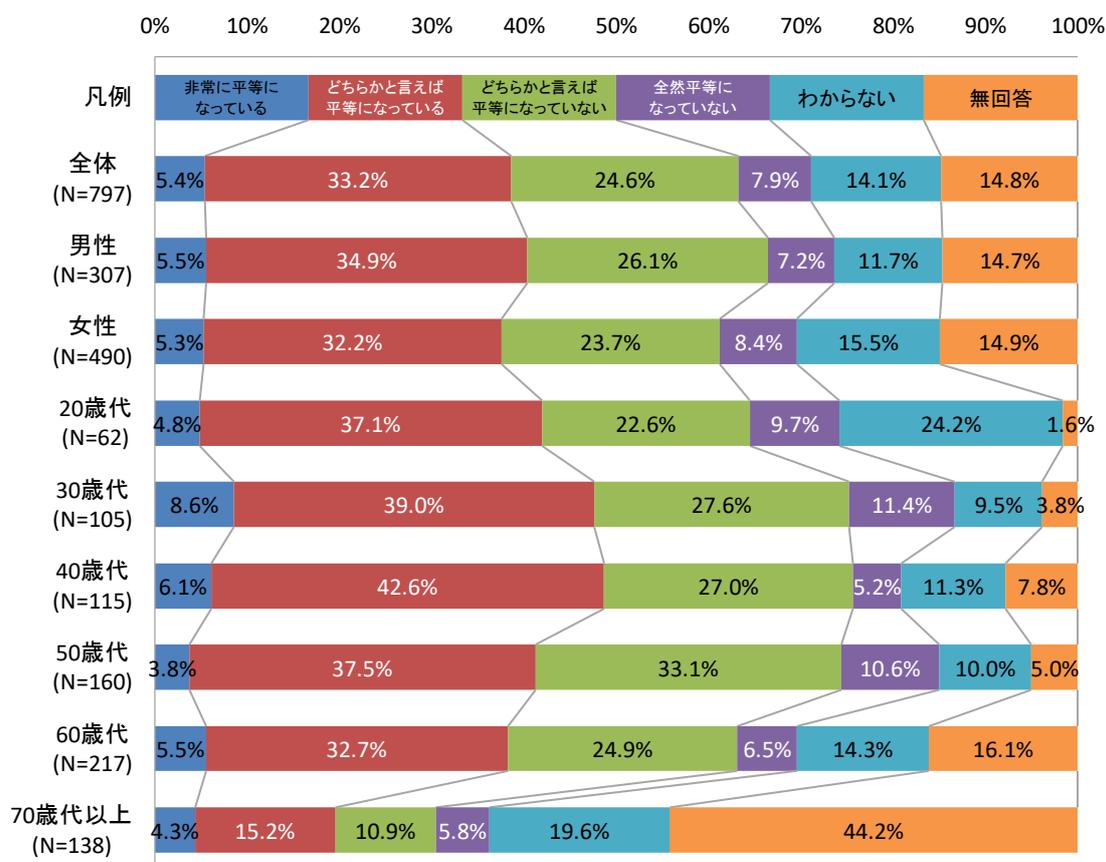
### C 職場

職場について、「平等」と感じているのは38.6%、「不平等」と感じているのは32.5%となっている。

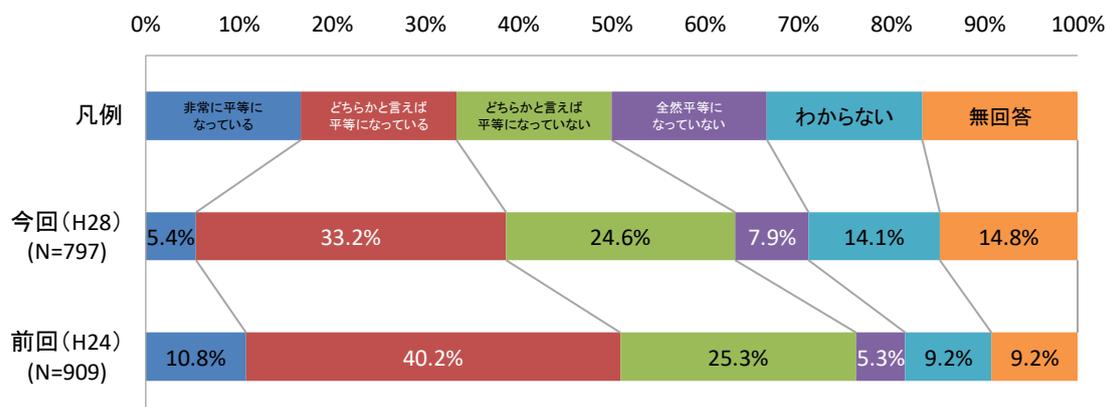
性別では、男女共に「平等」が多く、男性が女性より2.8ポイント多くなっている。

年代別では、「50歳代」以外では「平等」が多くなっており、「40歳代」が48.7%で最も多く、次いで「30歳代」が47.6%、「20歳代」が41.9%となっている。

前回調査と比較すると、「平等」が12.3ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



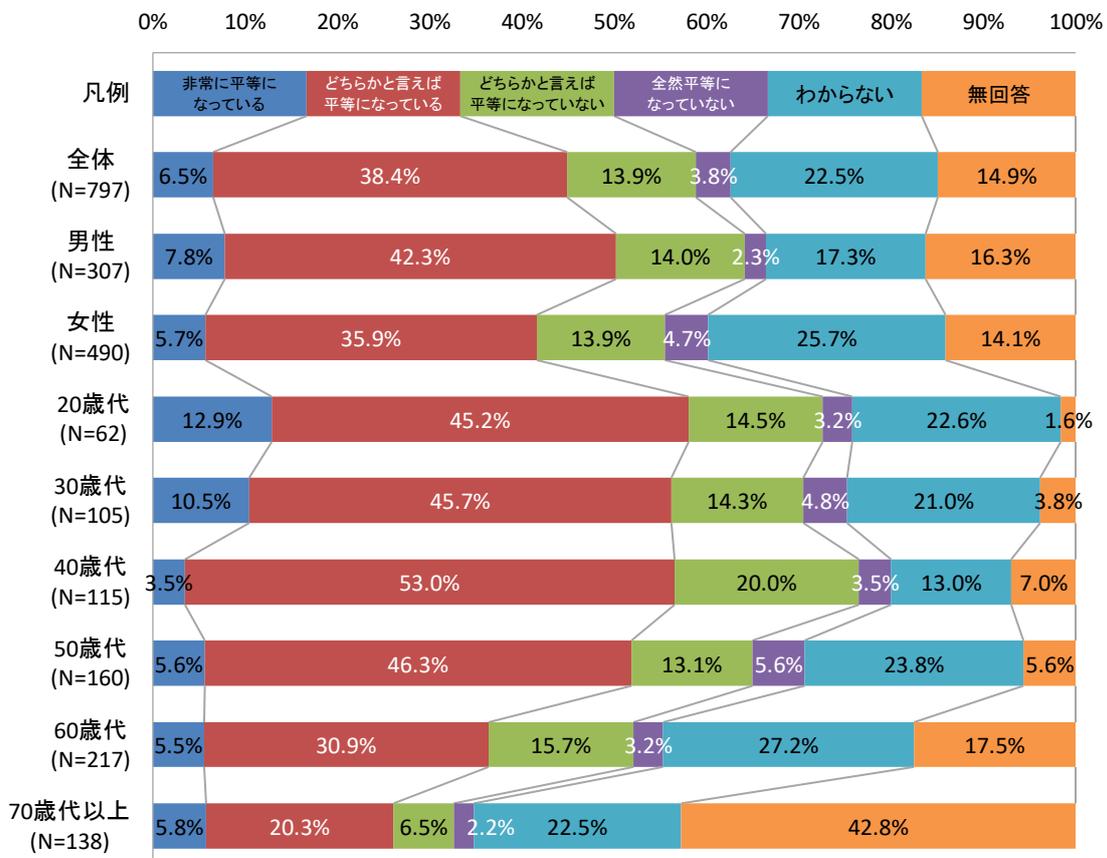
## D 学校教育の場

学校教育の場について、「平等」と感じているのは 44.9%、「不平等」と感じているのは 17.7%となっている。

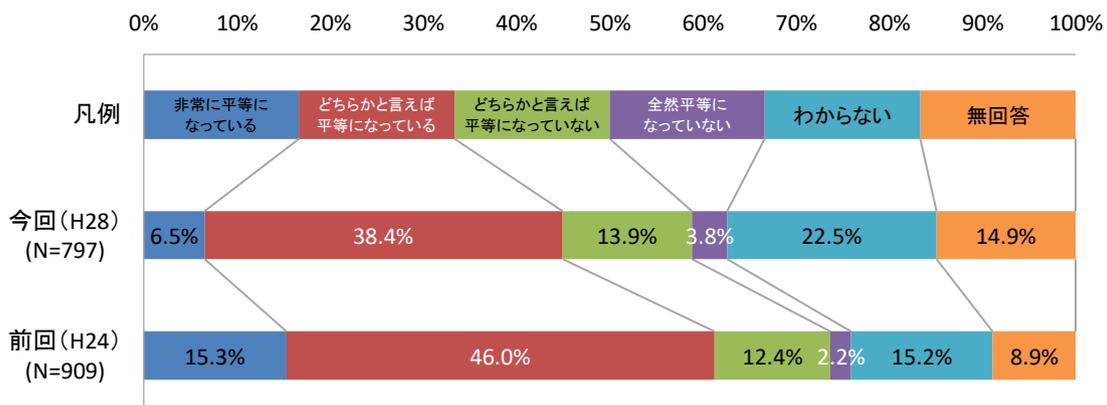
性別では、男女共に「平等」が多く、男性が女性より 8.6 ポイント多くなっている。

年代別では、全ての年代で「平等」が多くなっており、「20 歳代」が 58.1%で最も多く、次いで「40 歳代」が 56.5%、「30 歳代」が 56.2%となっている。

前回調査と比較すると、「平等」が 16.4 ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



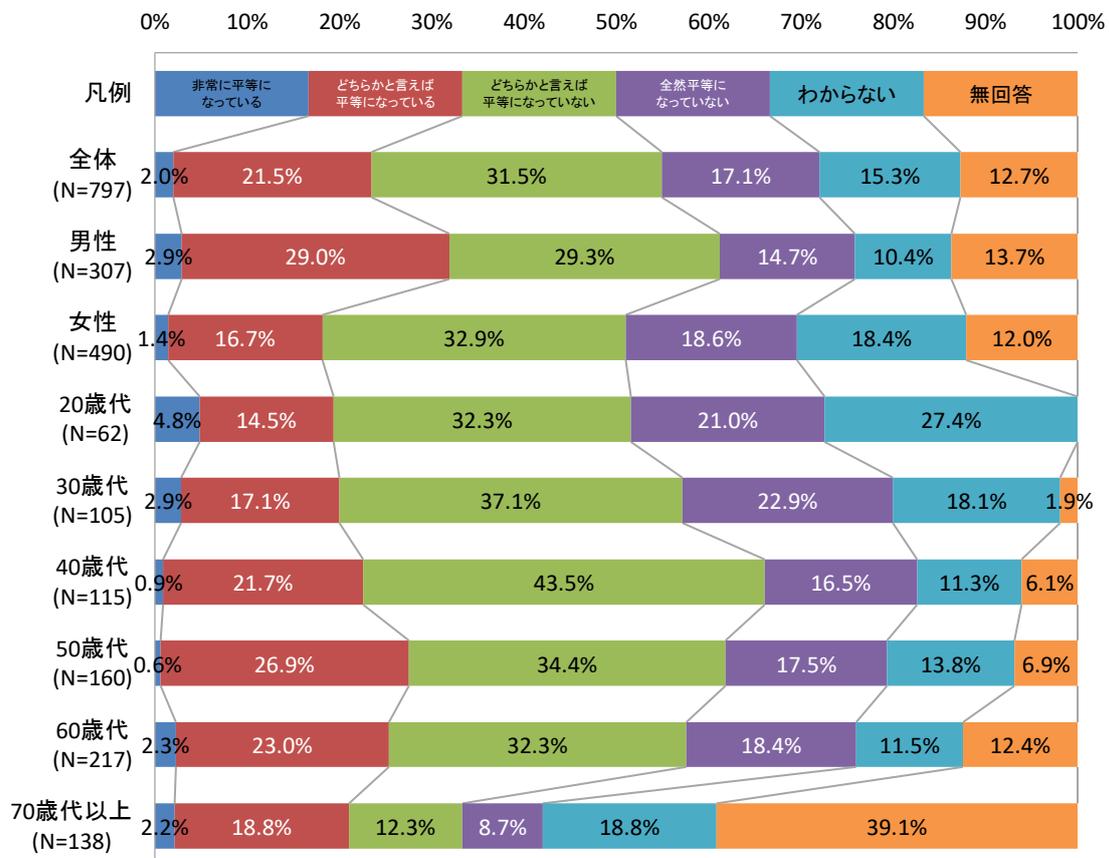
## E 政治の場

政治の場について、「平等」と感じているのは 23.5%、「不平等」と感じているのは 48.6%となっている。

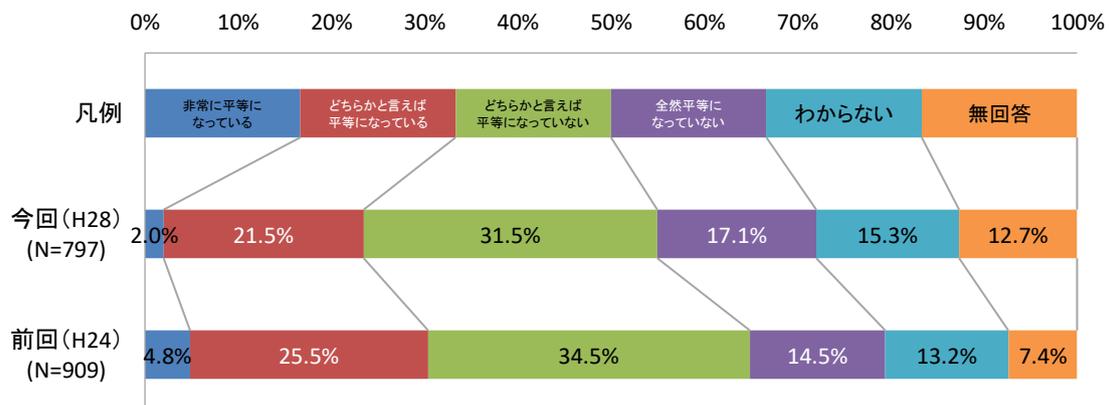
性別では、男女共に「不平等」が多く、男性が女性より 7.5 ポイント多くなっている。

年代別では、「60 歳代」以下では、「不平等」が多くなっており、「30 歳代」「40 歳代」が 60.0%で最も多く、次いで「20 歳代」が 53.2%となっている。

前回調査と比較すると、「平等」が 6.8 ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



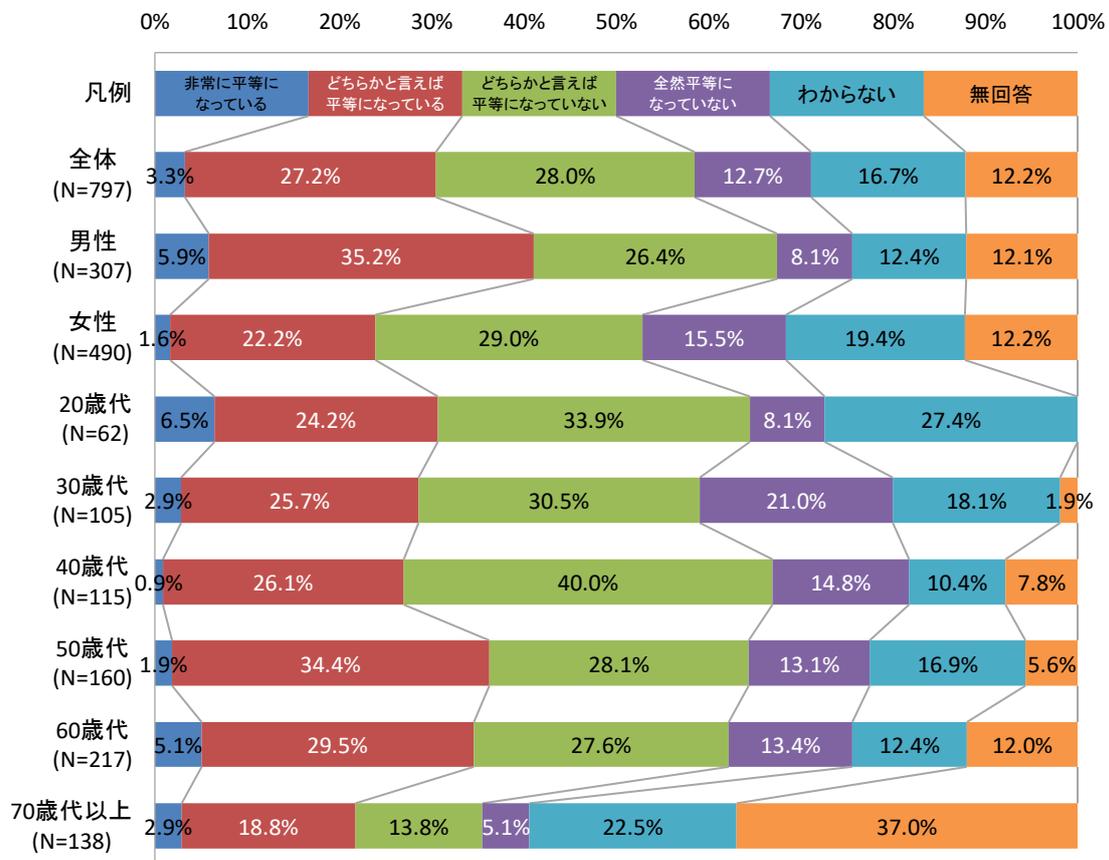
## F 法律や制度上

法律や制度上について、「平等」と感じているのは 30.5%、「不平等」と感じているのは 40.7%となっている。

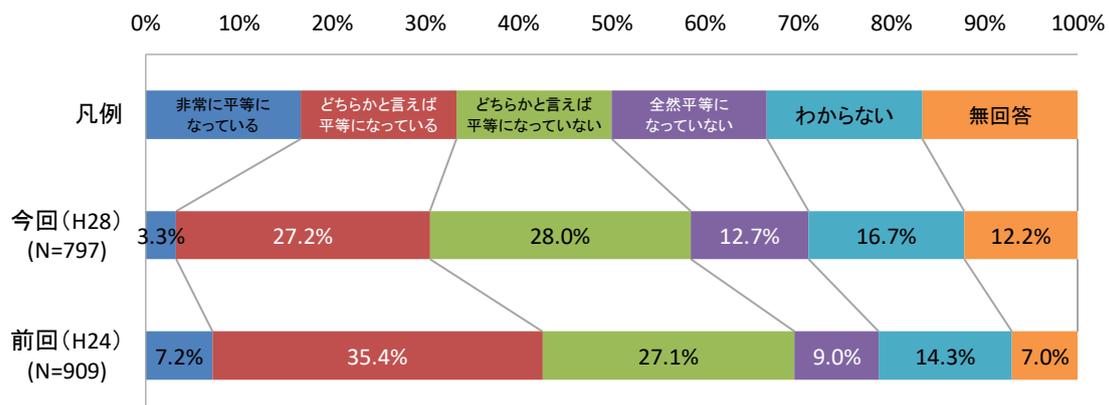
性別では、男性は「平等」、女性は「不平等」が多い。男性の「平等」は、女性よりも 17.1 ポイント高くなっている。

年代別では、「60 歳代」以下では、「不平等」が多くなっており、「40 歳代」が 54.8%で最も多く、次いで「30 歳代」が 51.5%、「20 歳代」が 42.0%となっている。

前回調査と比較すると、「平等」が 12.1 ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



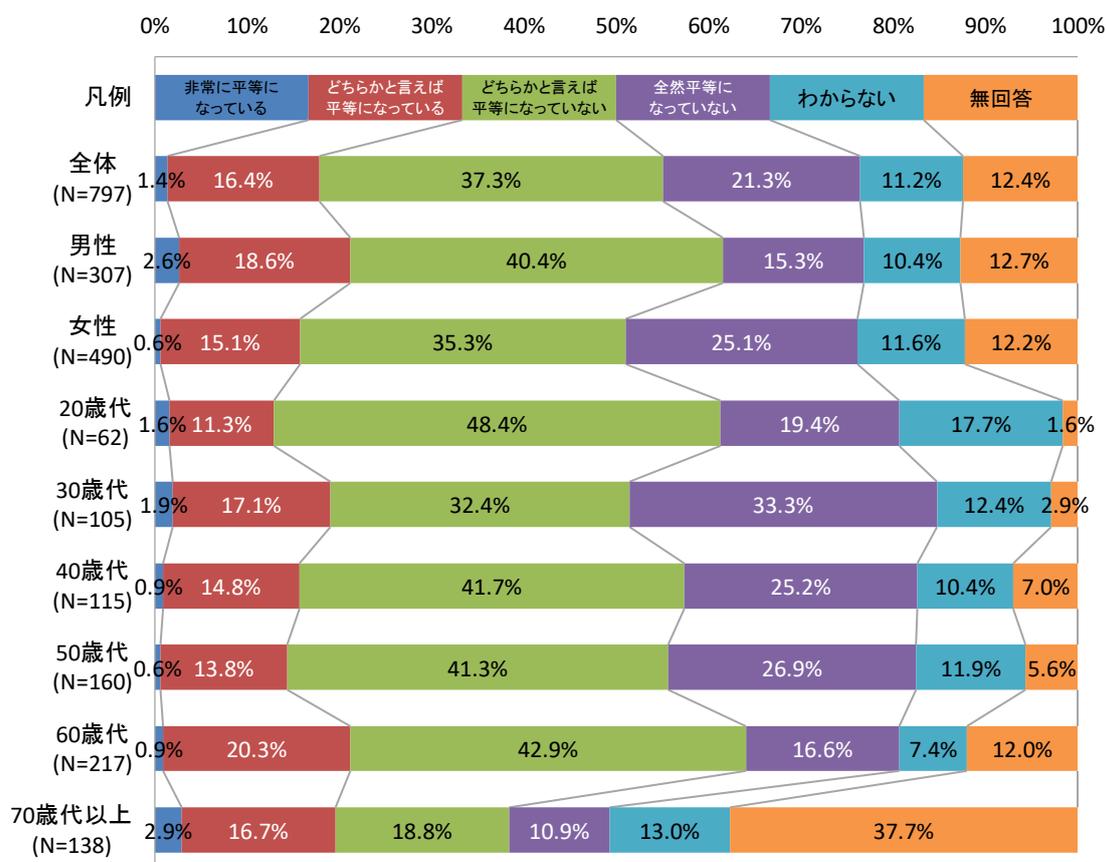
## G 社会通念・慣習・しきたりなど

社会通念・慣習・しきたりなどについて、「平等」と感じているのは 17.8%、「不平等」と感じているのは 58.6%となっている。

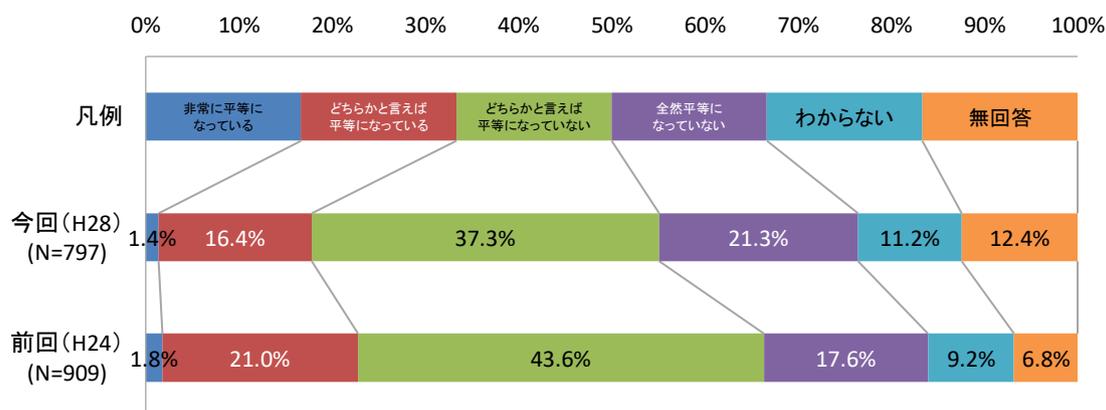
性別では、男女共に「不平等」が多く、女性が男性よりも 4.7 ポイント多くなっている。

年代別では、全ての年代において、「不平等」が多くなっており、「50 歳代」が 68.1%で最も多く、次いで「20 歳代」が 67.7%、「40 歳代」が 67.0%となっている。

前回調査と比較すると、「平等」が 5.0 ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



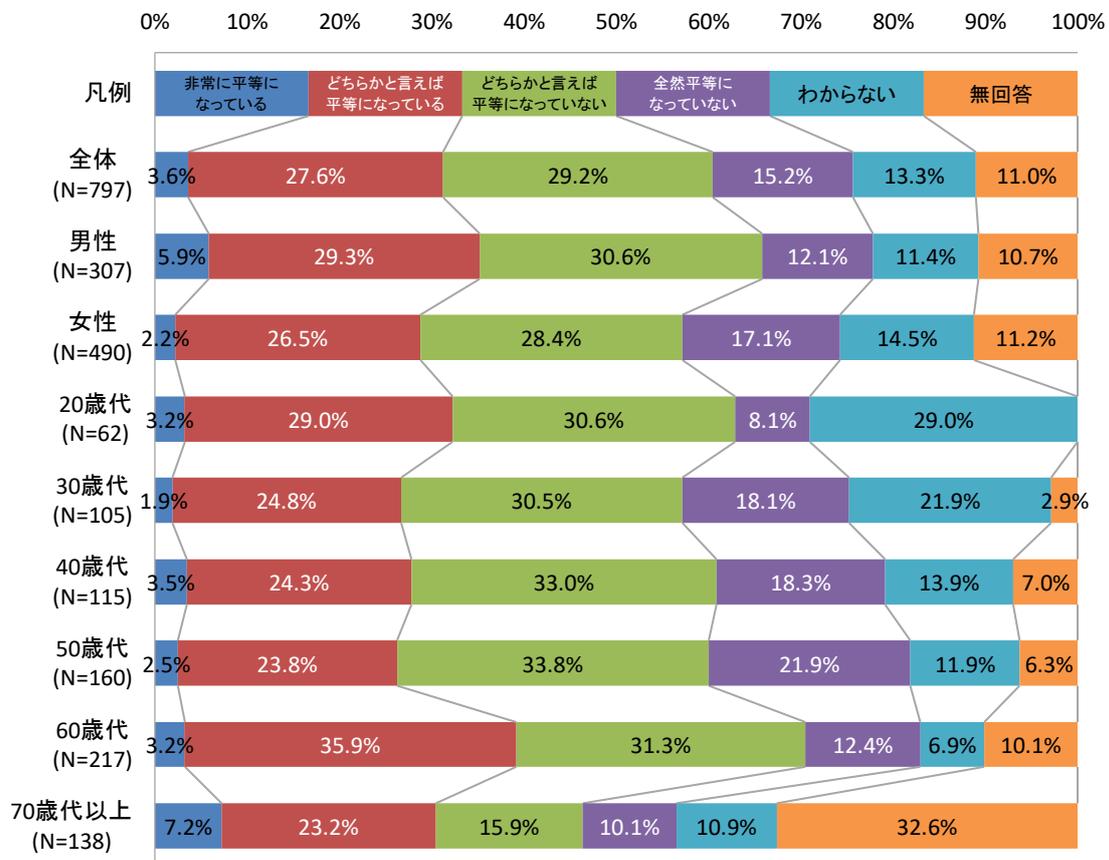
## H 自治会・公民館などの地域社会

自治会・公民館などの地域社会について、「平等」と感じているのは 31.2%、「不平等」と感じているのは 44.4%となっている。

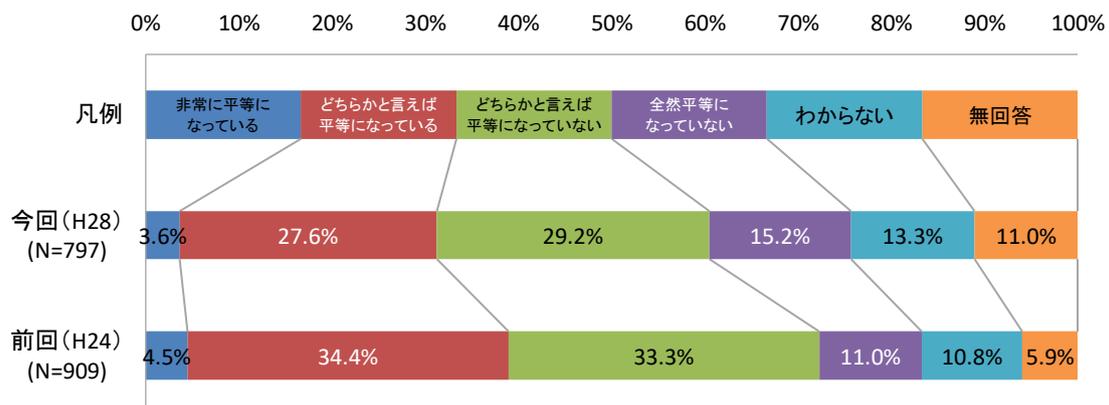
性別では、男女共に「不平等」が多く、女性が男性よりも 2.8 ポイント多くなっている。

年代別では、「60 歳代」以下において、「不平等」が多くなっており、「50 歳代」が 55.6%で最も多く、次いで「40 歳代」が 51.3%、「40 歳代」が 48.6%となっている。

前回調査と比較すると、「平等」が 7.7 ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



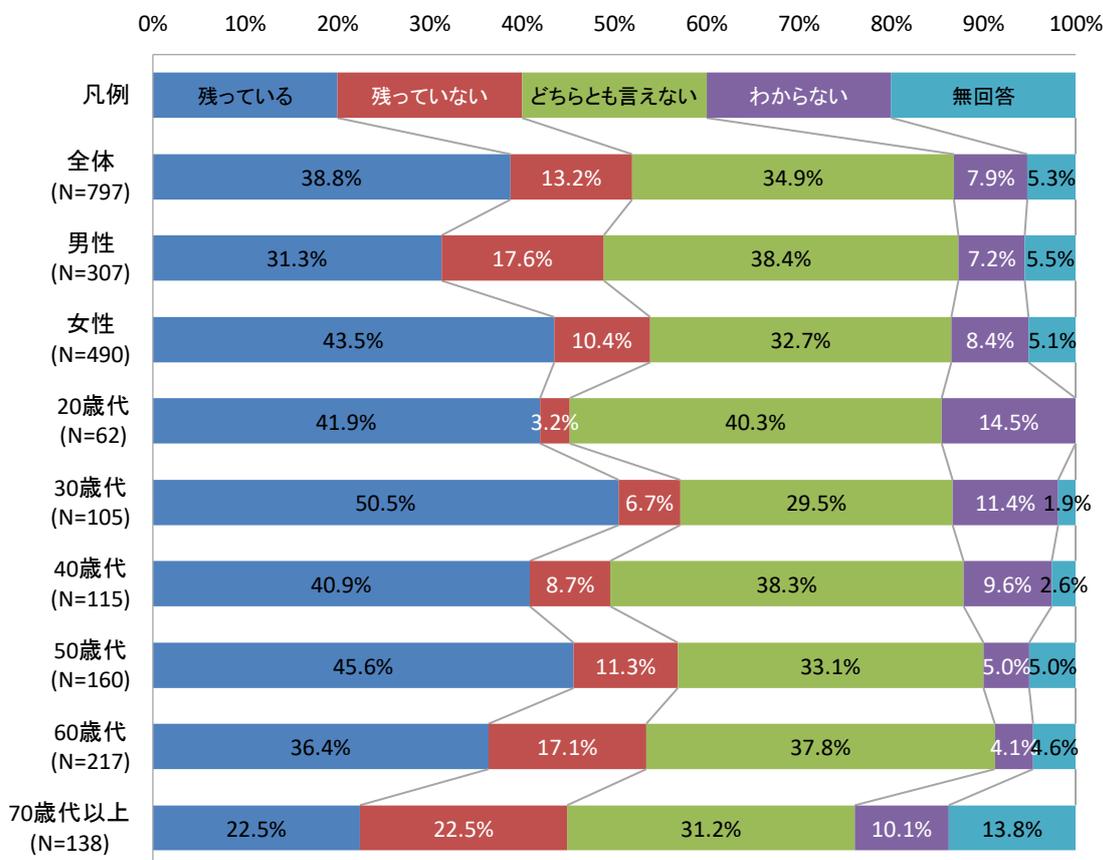
問7 あなたは今でも「男尊女卑」の気風が残っていると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

「男尊女卑」の気風が残っているかについては、「残っている」が38.8%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」が34.9%、「残っていない」が13.2%となっている。

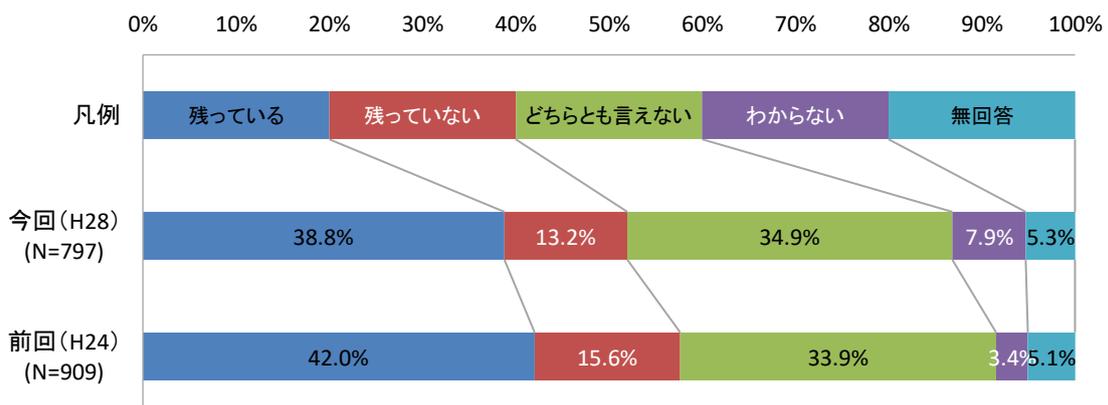
性別では、男性は「どちらとも言えない」、女性は「残っている」が多い。「残っている」は、女性が男性よりも12.2ポイント多くなっている。

年代別では、「60歳代」以下において、「残っている」が多くなっており、「30歳代」が50.5%で最も多く、次いで「50歳代」が45.6%、「20歳代」が41.9%となっている。

前回調査と比較すると、「残っている」が3.2ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】

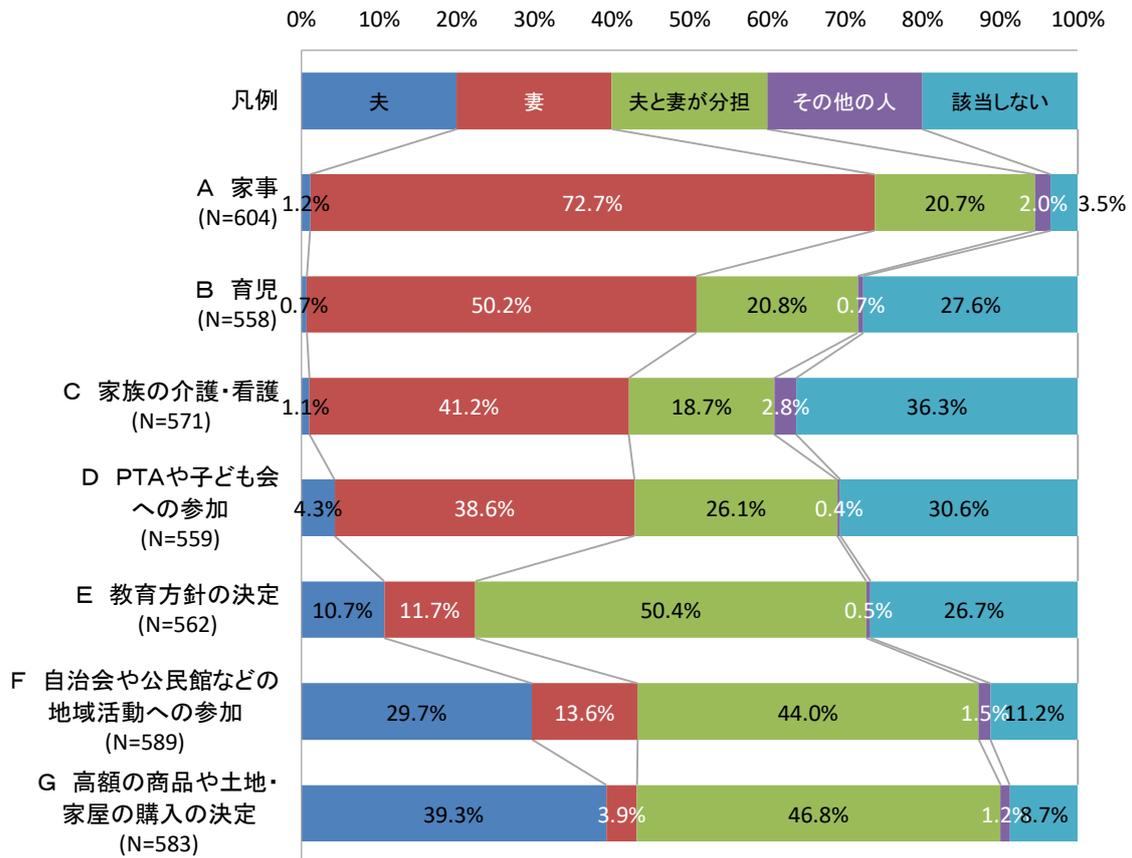


現在結婚している方におたずねします。

問8 あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の事柄を、主に誰が行っていますか。A～Gのそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。(育児、介護等については現在該当しなくても過去に経験があればそれをもとにお答えください。該当がない場合は5をお選びください。)

家庭内の事柄を主に誰が行っていますかについては、「家事」「育児」「家族の介護・看護」「PTAや子ども会への参加」は「妻」の割合が高く、「教育方針の決定」「自治会や公民館などの地域活動への参加」「高額の商品や土地・家屋の購入の決定」は「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。特に「家事」は「妻」の割合が7割以上となっている。

## 総括

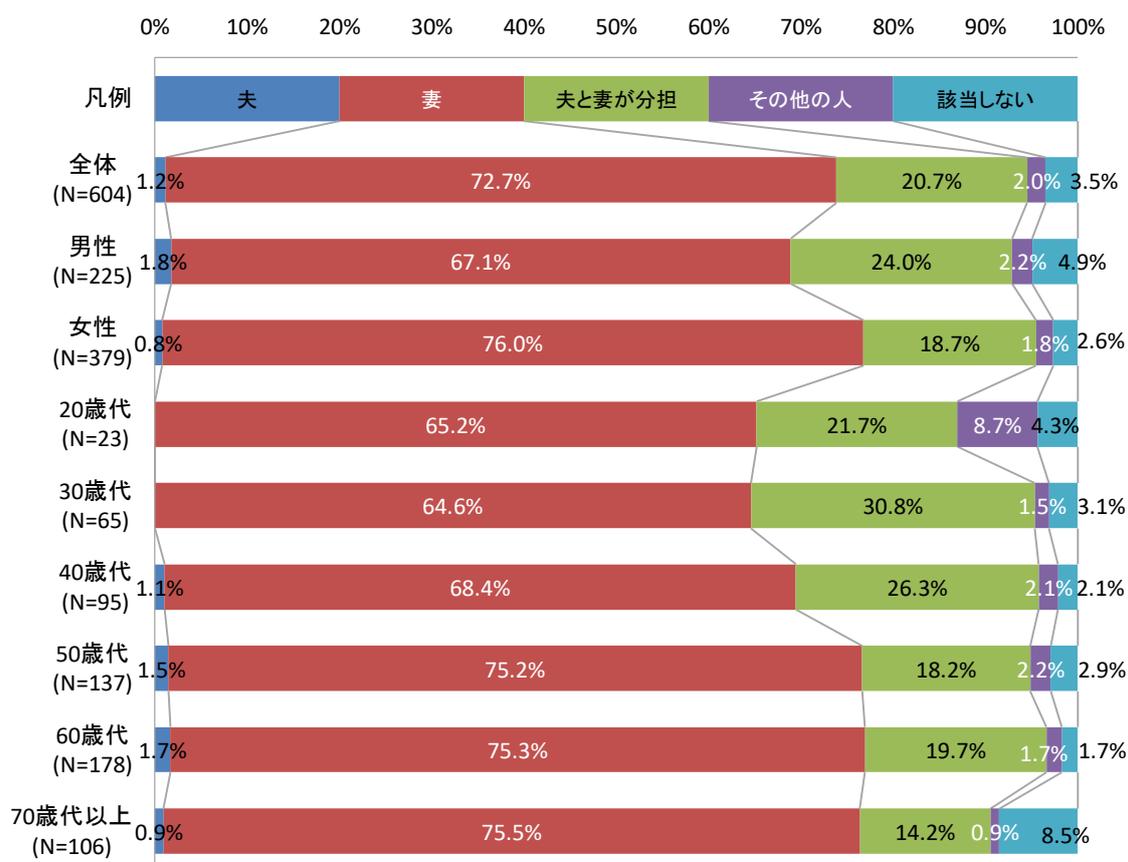


## A 家事

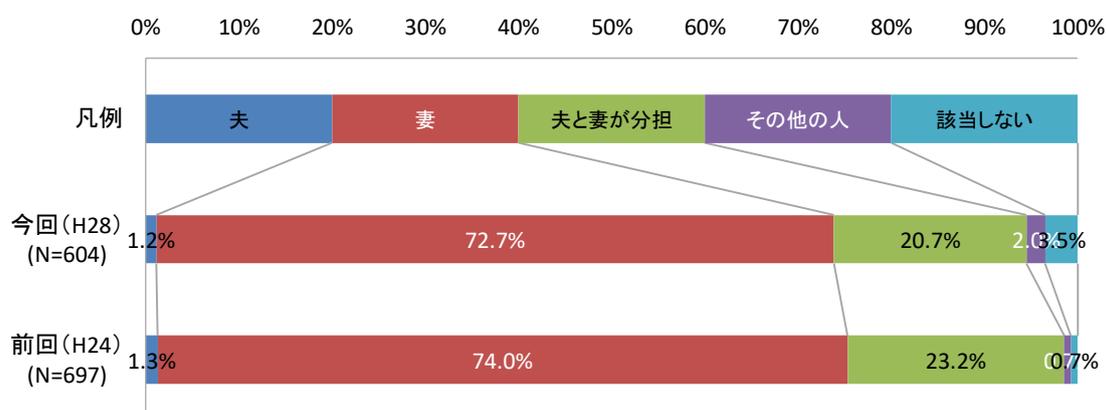
家事については、「夫」が1.2%、「妻」が72.7%、「夫と妻が分担」が20.7%、「その他の人」が2.0%となっている。

年代別では、「30歳代」「40歳代」では「夫と妻が分担」が約3割、「50歳代」以上は「妻」が7割以上となっている。

前回調査と比較すると、「妻」が1.3ポイント減少、「夫と妻が分担」が2.5ポイント増加している。



【前回 (H24 との比較)】

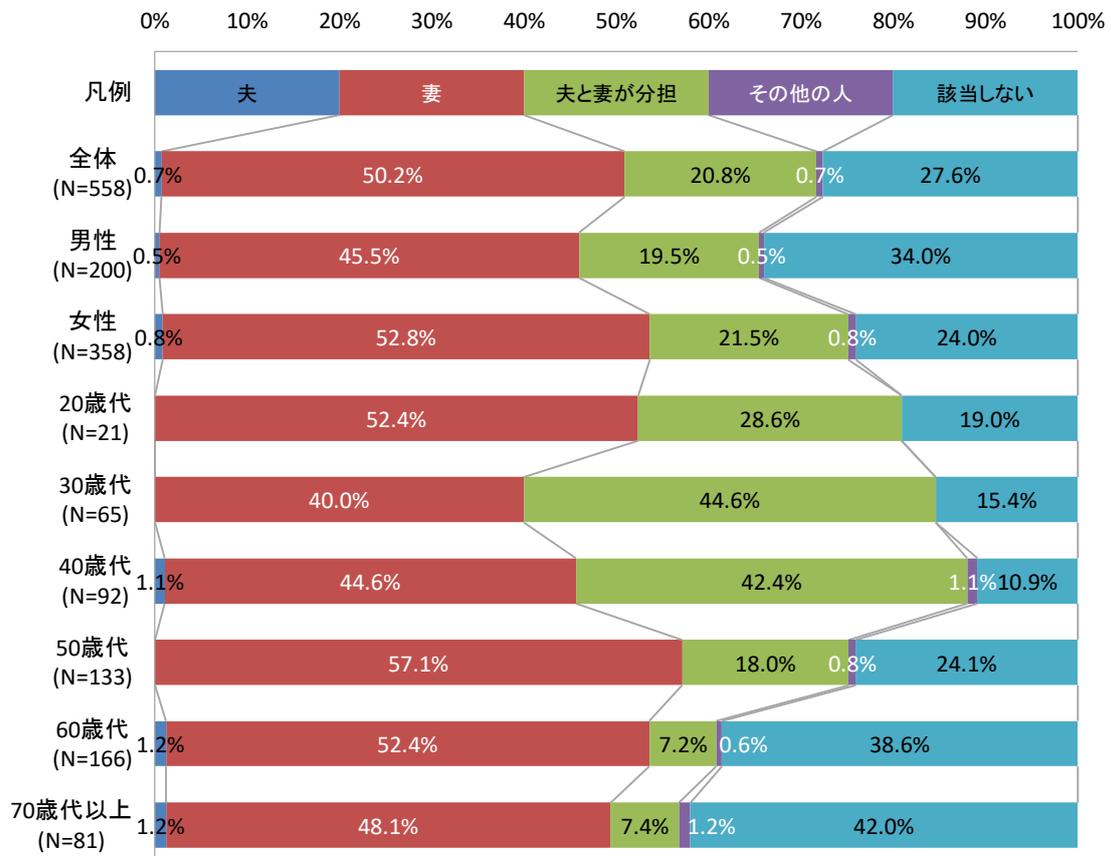


## B 育児

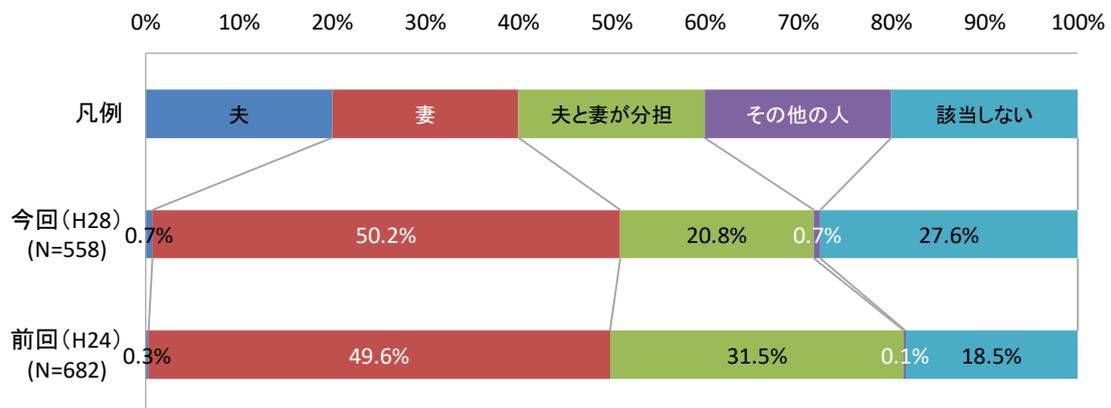
育児については、「夫」が0.7%、「妻」が50.2%、「夫と妻が分担」が20.8%、「その他の人」が0.7%となっている。

年代別では、「30歳代」「40歳代」では「妻」、「夫と妻が分担」の割合が同様に約4割となっている。

前回調査と比較すると、「妻」が0.6ポイント増加、「夫と妻が分担」が10.7ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】

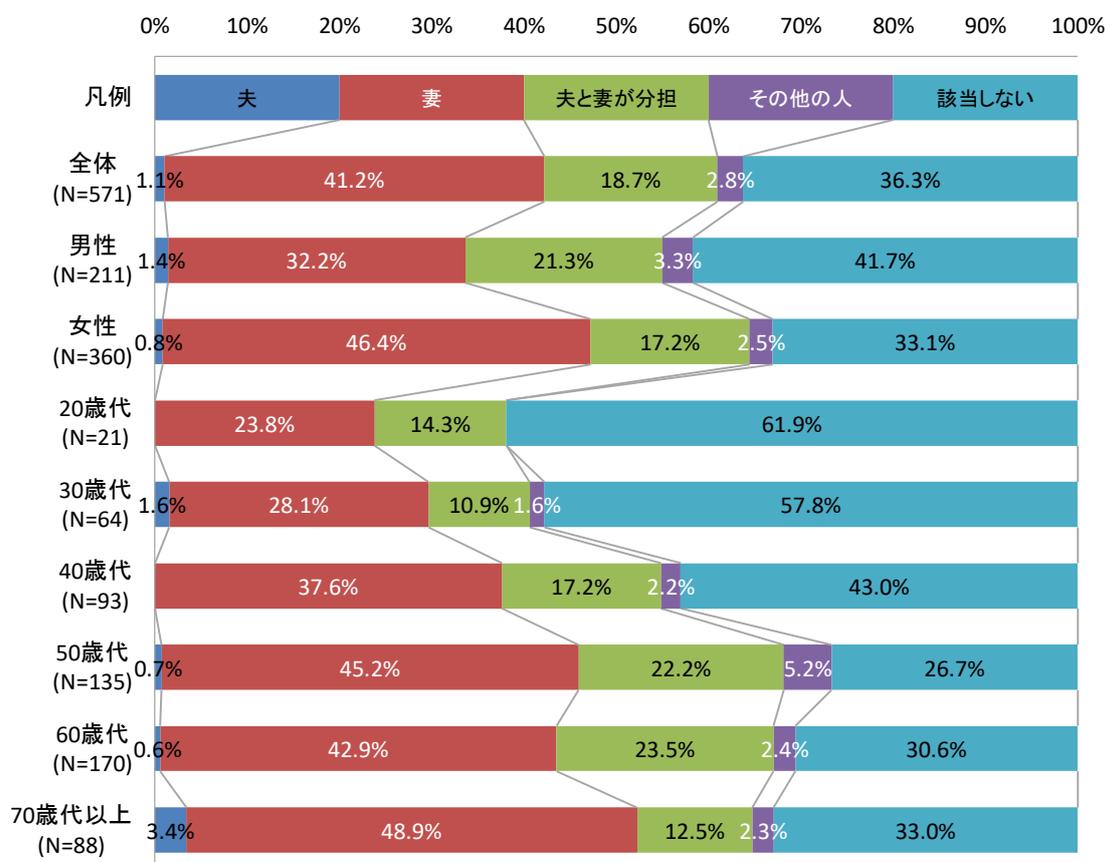


### C 家族の介護・看護

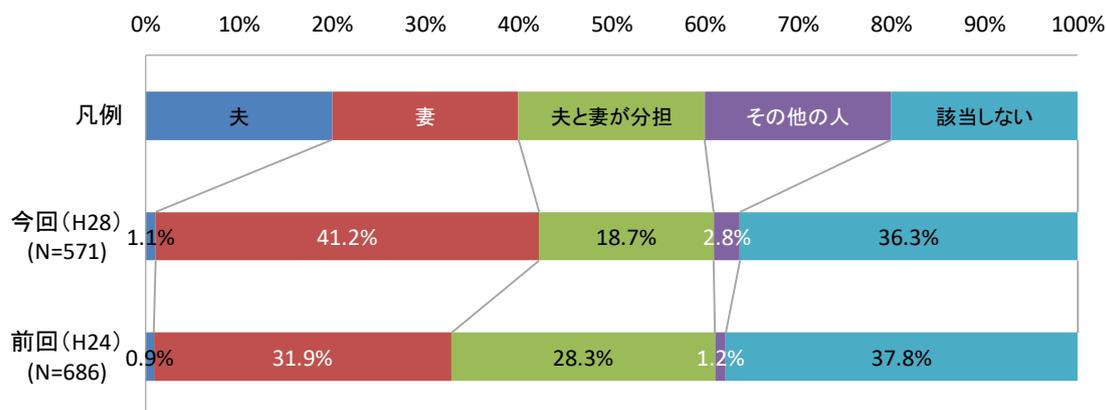
家族の介護・看護については、「夫」が1.1%、「妻」が41.2%、「夫と妻が分担」が18.7%、「その他の人」が2.8%となっている。

年代別では、「50歳代」「60歳代」では「妻」が約4割、「夫と妻が分担」が約2割となり他の年代よりも割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「妻」が9.3ポイント増加、「夫と妻が分担」が9.6ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】

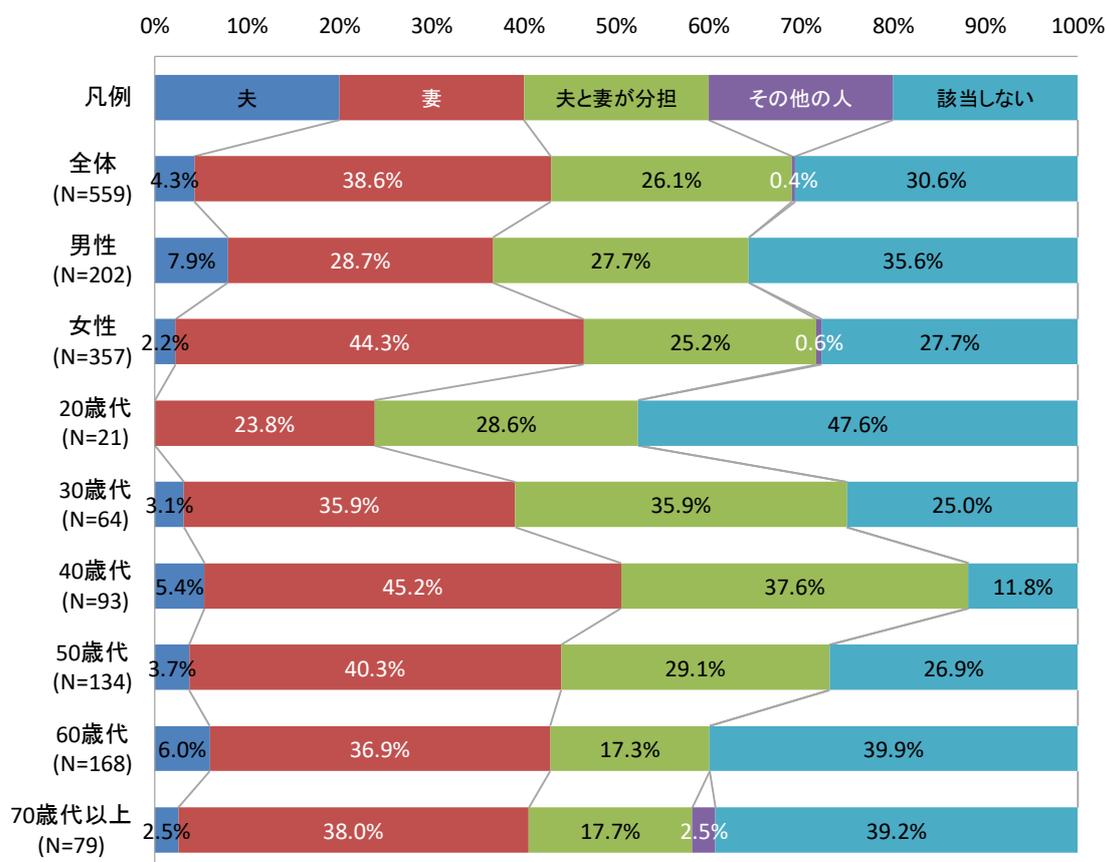


## D PTAや子ども会への参加

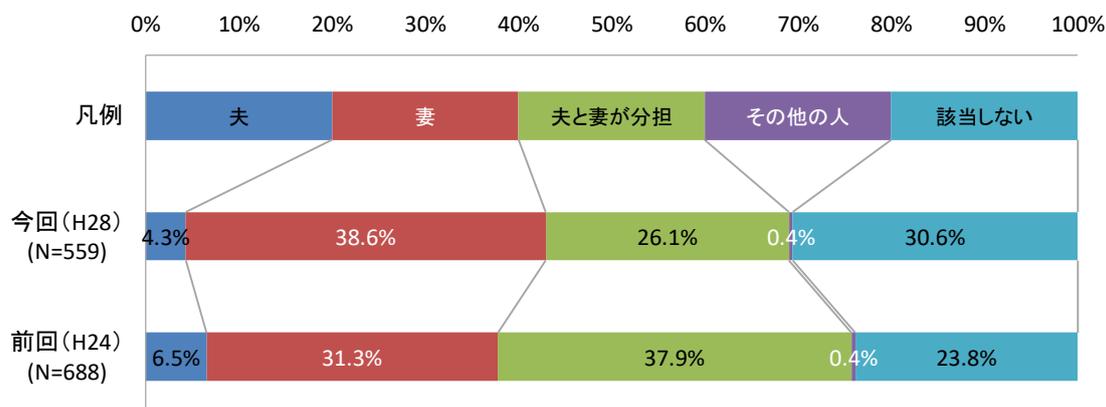
PTAや子ども会への参加については、「夫」が4.3%、「妻」が38.6%、「夫と妻が分担」が26.1%、「その他の人」が0.4%となっている。

年代別では、「20歳代」では「夫と妻が分担」が最も多く、年代が上がるほど「妻」の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「妻」が7.3ポイント増加、「夫と妻が分担」が11.8ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】

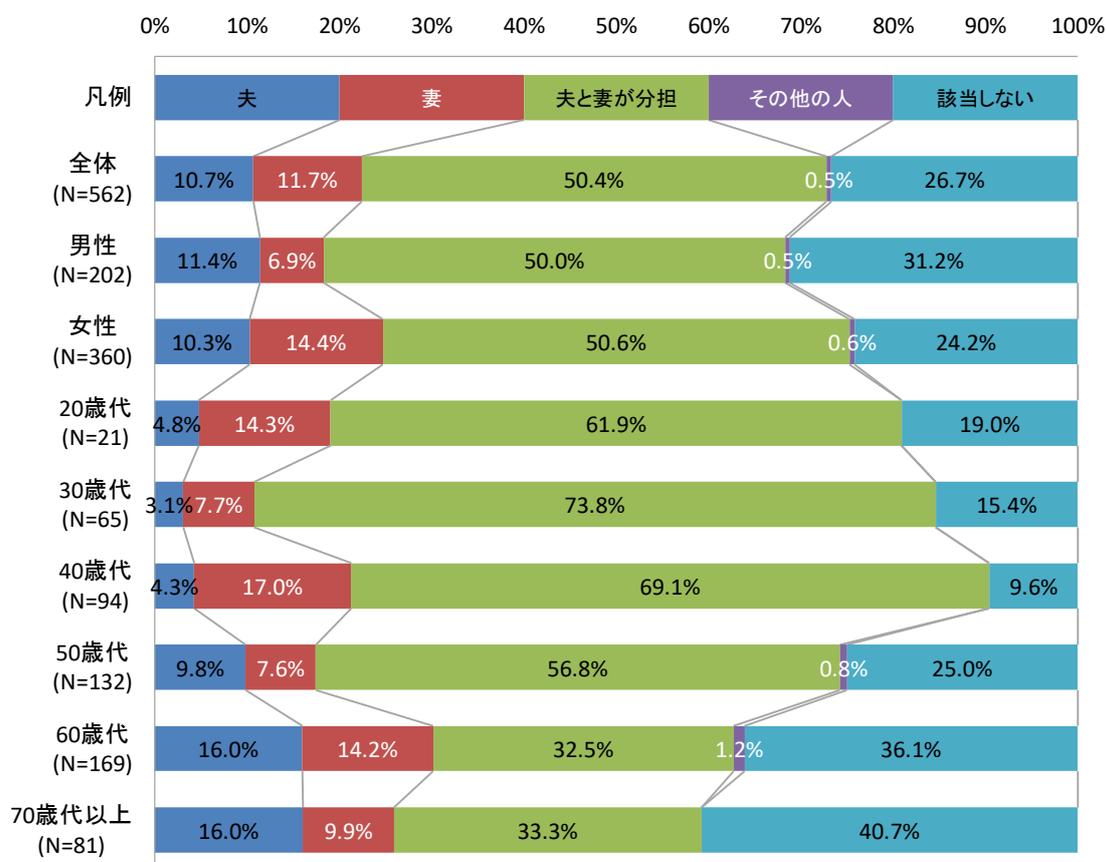


## E 教育方針の決定

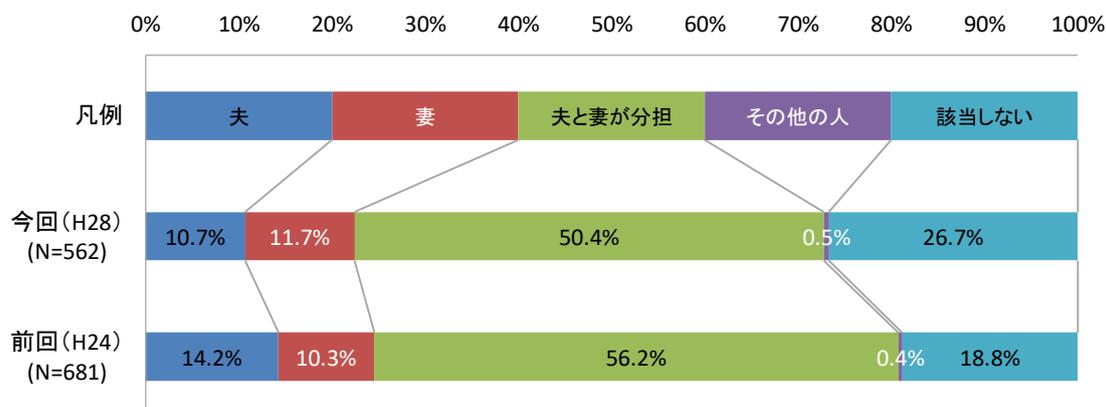
教育方針の決定については、「夫」が 10.7%、「妻」が 11.7%、「夫と妻が分担」が 50.4%、「その他の人」が 0.5%となっている。

年代別では、全ての年代において「夫と妻が分担」の割合が高くなっており、「30 歳代」「40 歳代」では約 7 割となっている。

前回調査と比較すると、「夫」が 3.5 ポイント減少、「妻」が 1.4 ポイント増加、「夫と妻が分担」が 5.8 ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】

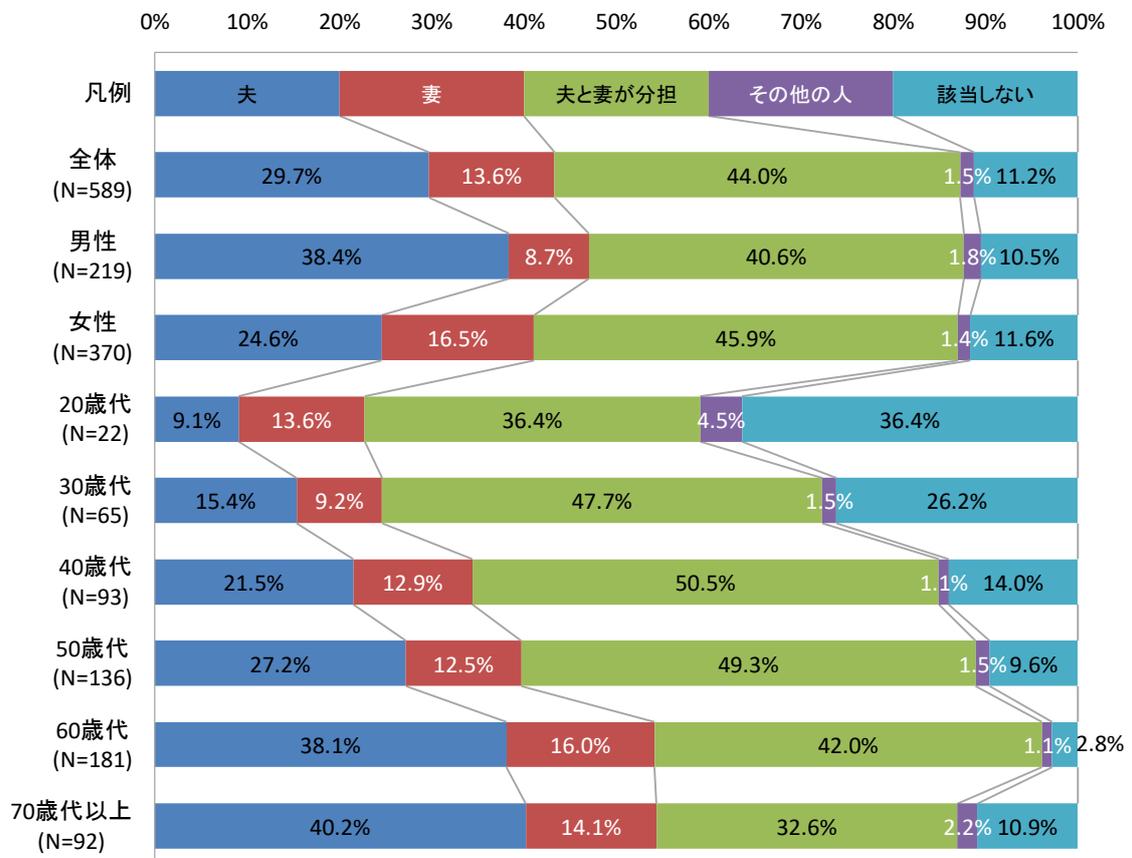


## F 自治会や公民館などの地域活動への参加

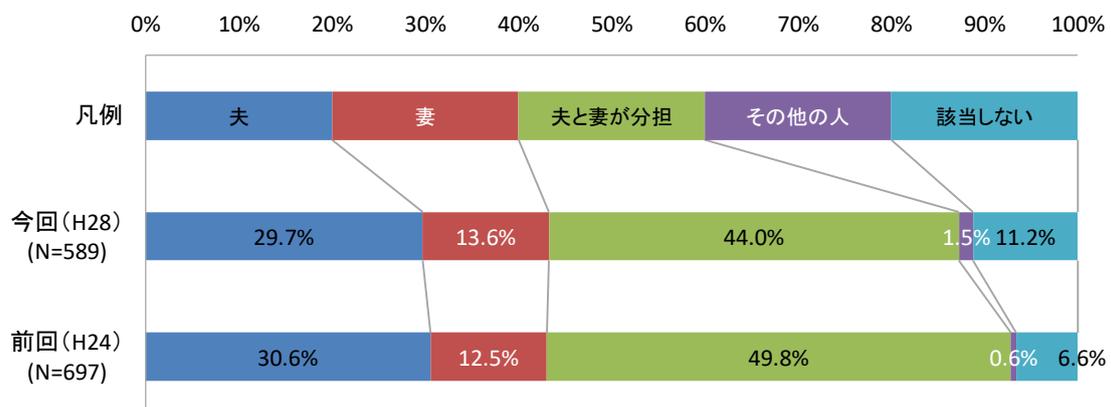
自治会や公民館などの地域活動への参加については、「夫」が29.7%、「妻」が13.6%、「夫と妻が分担」が44.0%、「その他の人」が1.5%となっている。

年代別では、「70歳代以上」では「夫」，その他の年代においては「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「夫」が0.9ポイント減少、「妻」が1.1ポイント増加、「夫と妻が分担」が5.8ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】

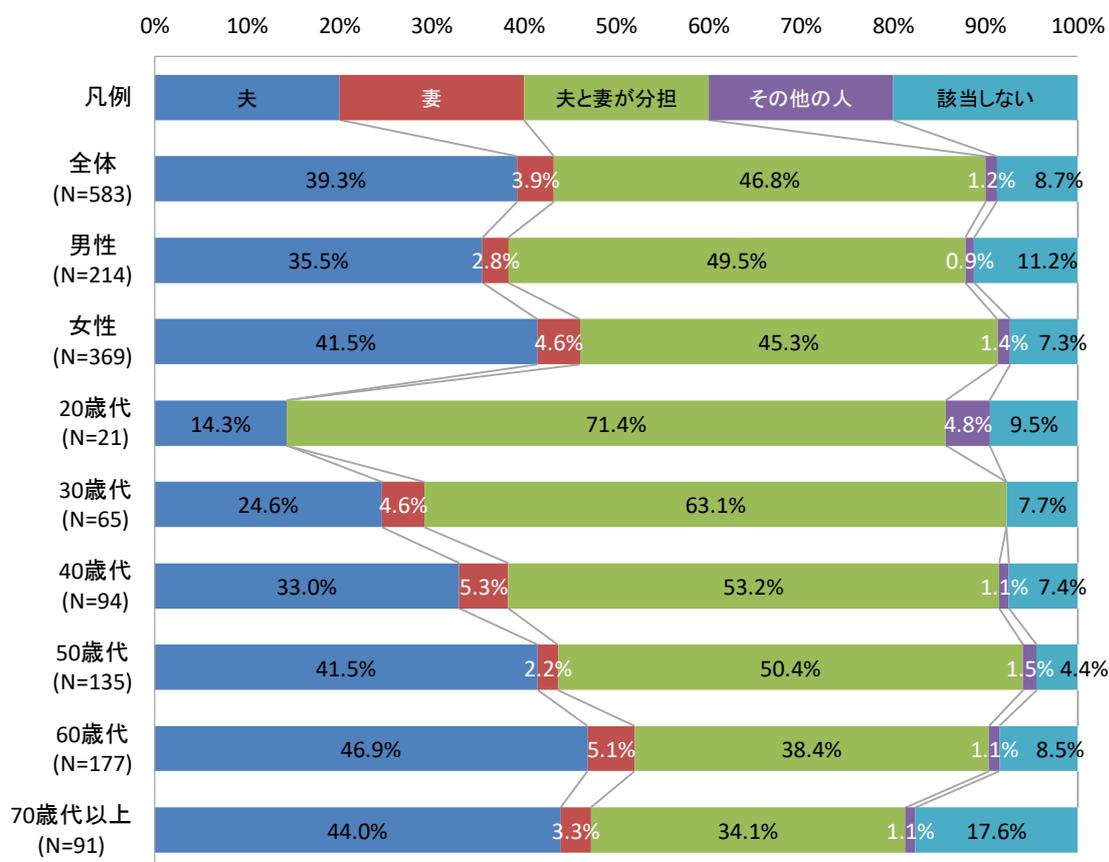


## G 高額の商品や土地・家屋の購入の決定

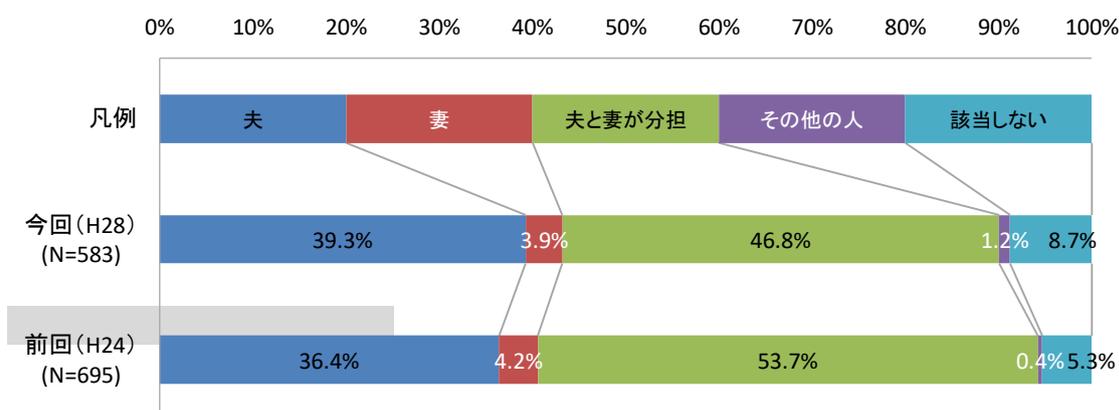
高額の商品や土地・家屋の購入の決定については、「夫」が39.3%、「妻」が3.9%、「夫と妻が分担」が46.8%、「その他の人」が1.2%となっている。

年代別では、「60歳代」「70歳代以上」では「夫」、その他の年代においては「夫と妻が分担」の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「夫」が2.9ポイント増加、「妻」が0.3ポイント減少、「夫と妻が分担」が6.9ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】

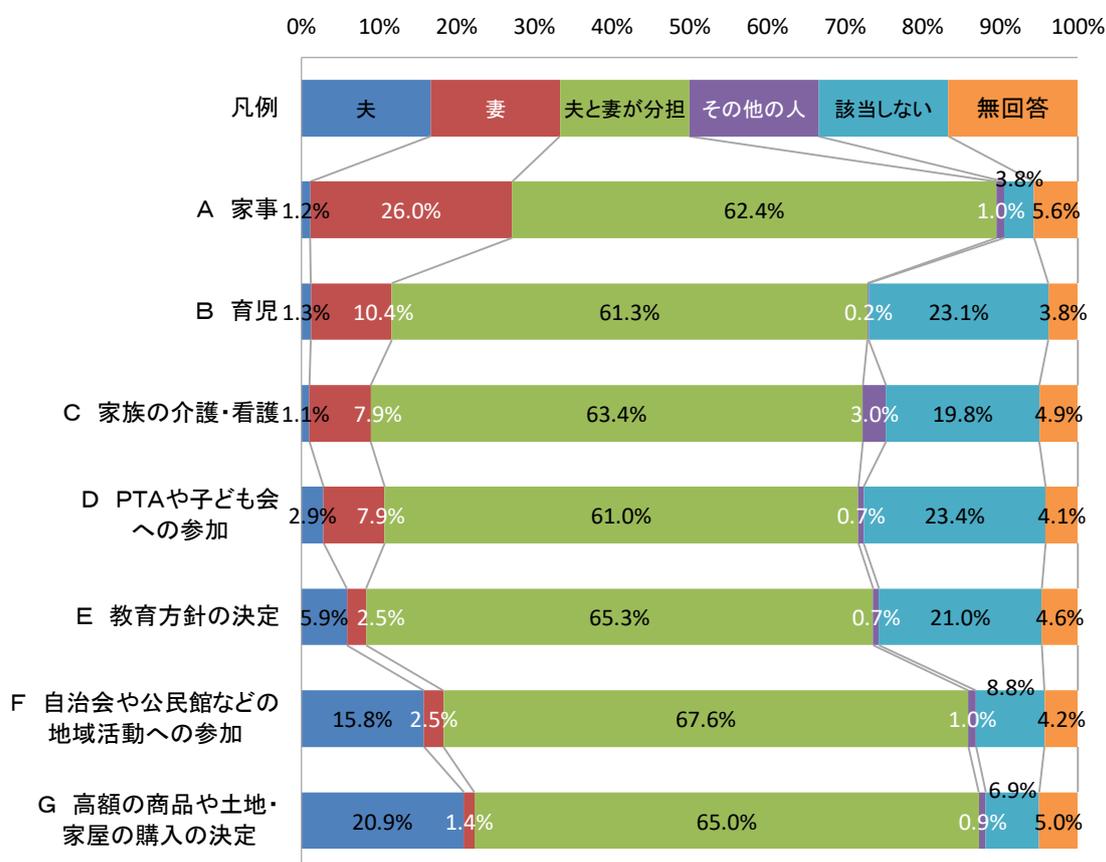


【問8】に回答された方におたずねします。

問9 あなたは、次にあげるような家庭内の事柄を、誰にして欲しいとお考えですか。  
A～Gのそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選び  
ください。

家庭内の事柄を誰にしてほしいかについては、全てにおいて「夫と妻が分担」の割合が6割以上となっている。「家事」は「妻」，「高額の商品や土地・家屋の購入の決定」は「夫」も割合が2割以上となっている。

## 総括

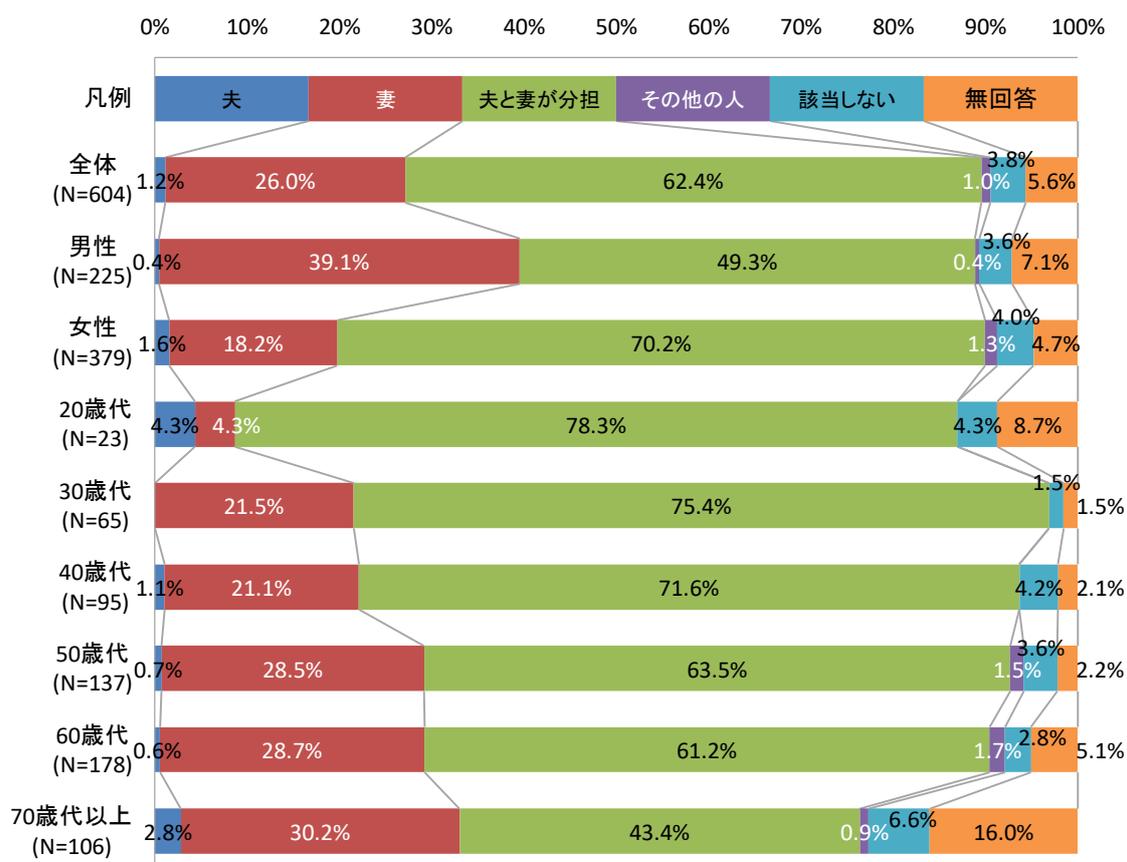


## A 家事

家事については、「夫」が1.2%、「妻」が26.0%、「夫と妻が分担」が62.4%、「その他の人」が1.0%となっている。

性別では、女性が「夫と妻が分担」で20.9ポイント多くなっている。

年代別では、「20歳代」「30歳代」「40歳代」は「夫と妻が分担」が7割以上となり、「70代以上」は「妻」が3割、「夫と妻が分担」が4割となっている。

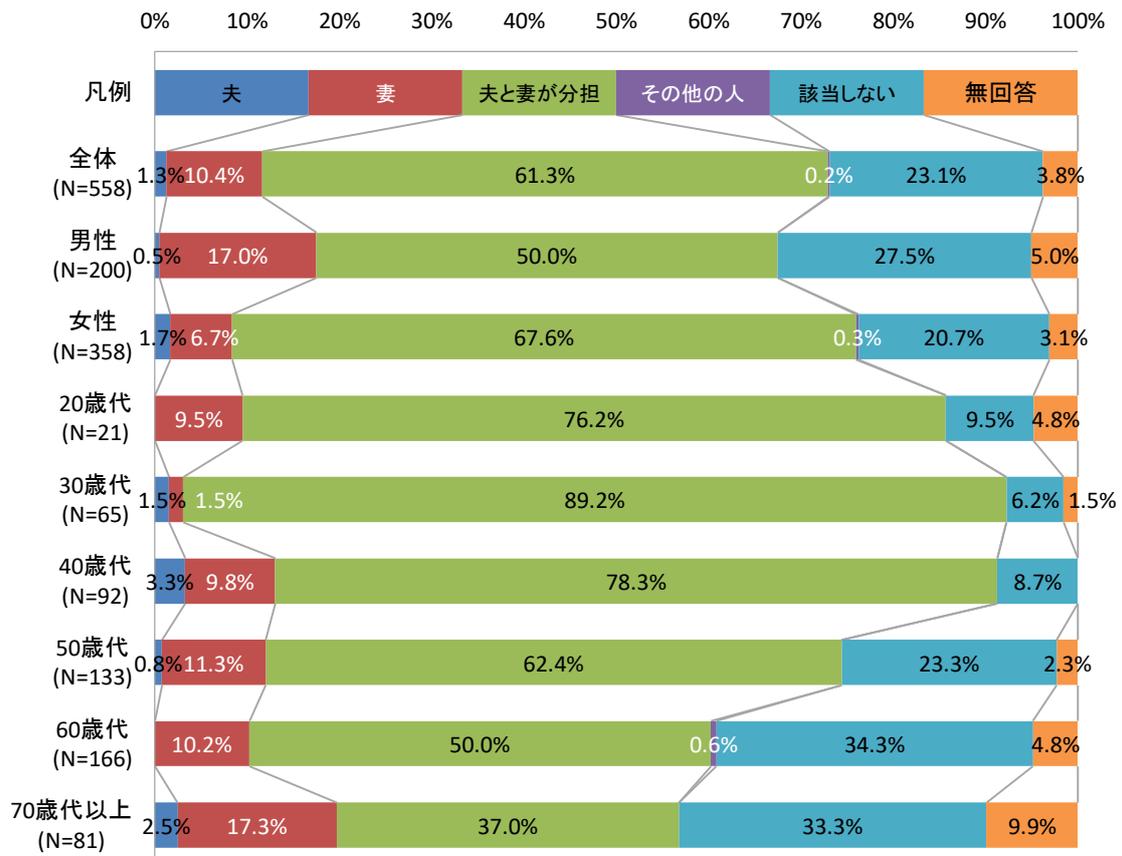


## B 育児

育児については、「夫」が1.3%、「妻」が10.4%、「夫と妻が分担」が61.3%、「その他の人」が0.2%となっている。

性別では、女性が「夫と妻が分担」で17.6ポイント多くなっている。

年代別では、「30歳代」では「夫と妻が分担」が約9割で、「20歳代」「40歳代」は7割以上となっている。

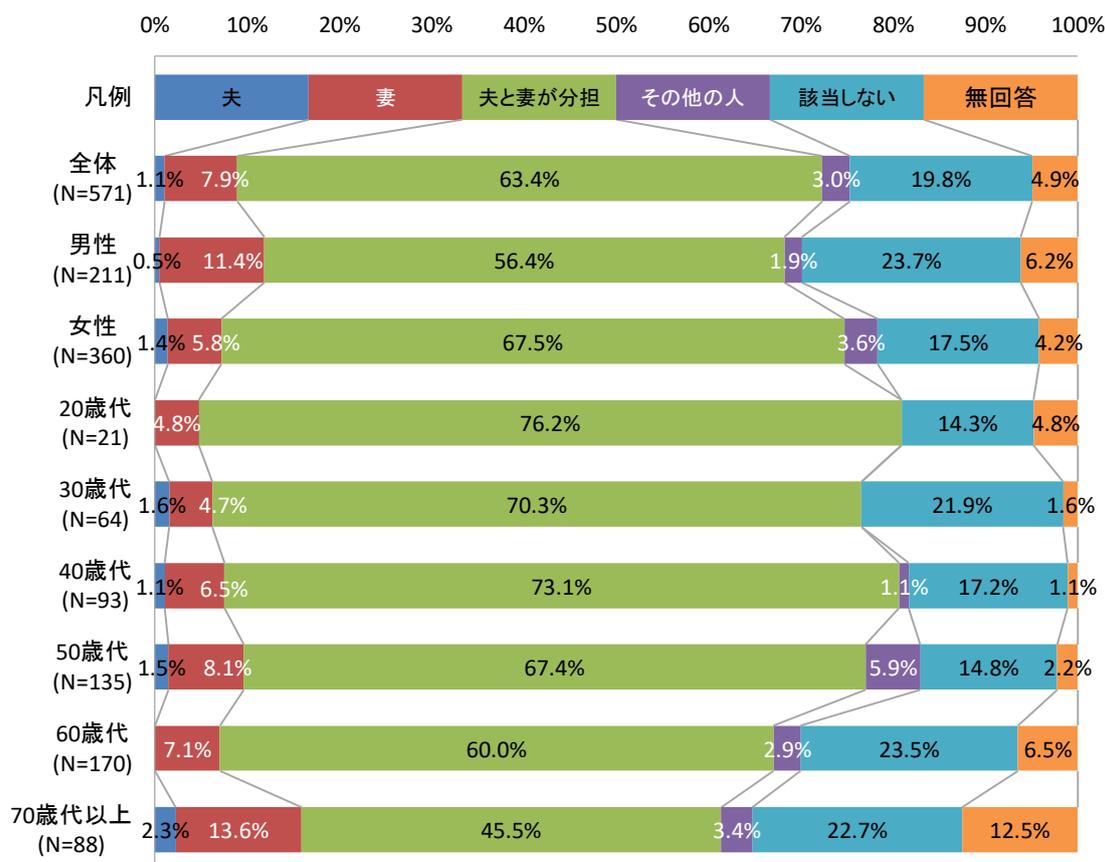


### C 家族の介護・看護

家族の介護・看護については、「夫」が 1.1%、「妻」が 7.9%、「夫と妻が分担」が 63.4%、「その他の人」が 3.0%となっている。

性別では、女性が「夫と妻が分担」で 11.1ポイント多くなっている。

年代別では、「20歳代」「30歳代」「40歳代」で「夫と妻が分担」が7割以上となっている。

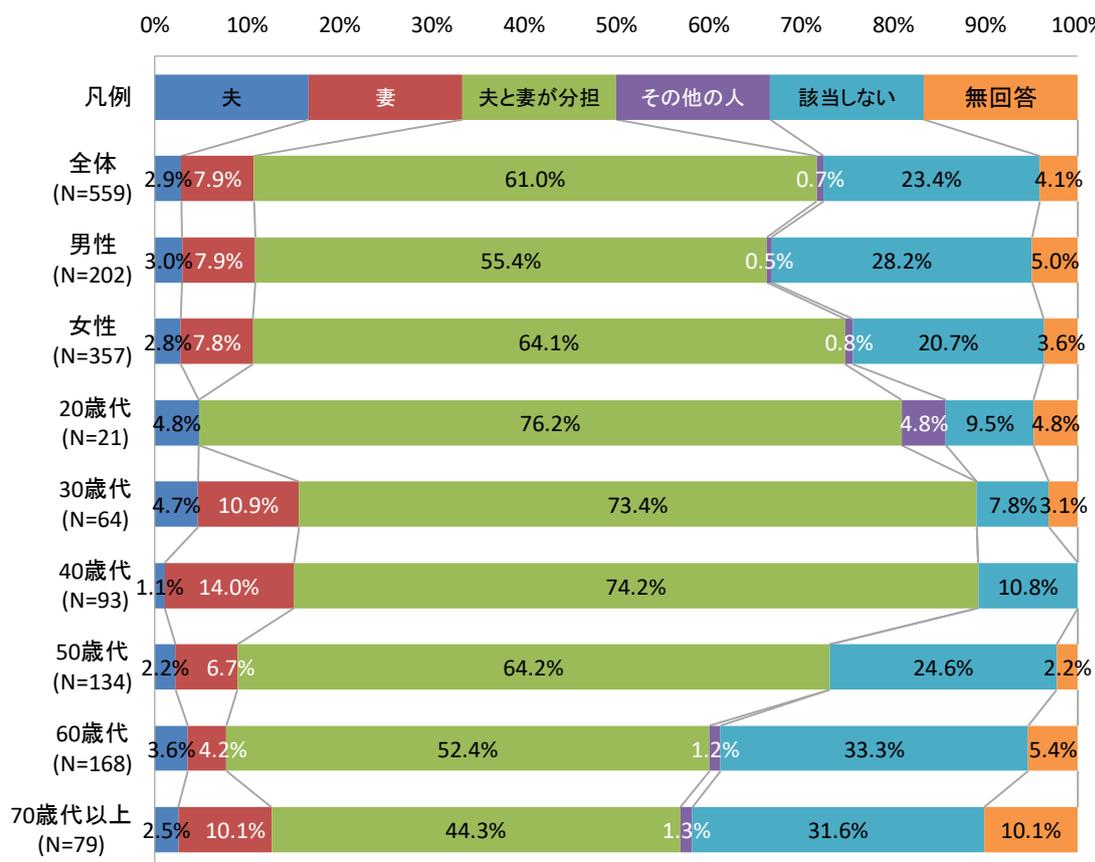


## D PTAや子ども会への参加

PTAや子ども会への参加については、「夫」が2.9%、「妻」が7.9%、「夫と妻が分担」が61.0%、「その他の人」が0.7%となっている。

性別では、女性が「夫と妻が分担」で8.7ポイント多くなっている。

年代別では、「20歳代」「30歳代」「40歳代」で「夫と妻が分担」が7割以上となっている。

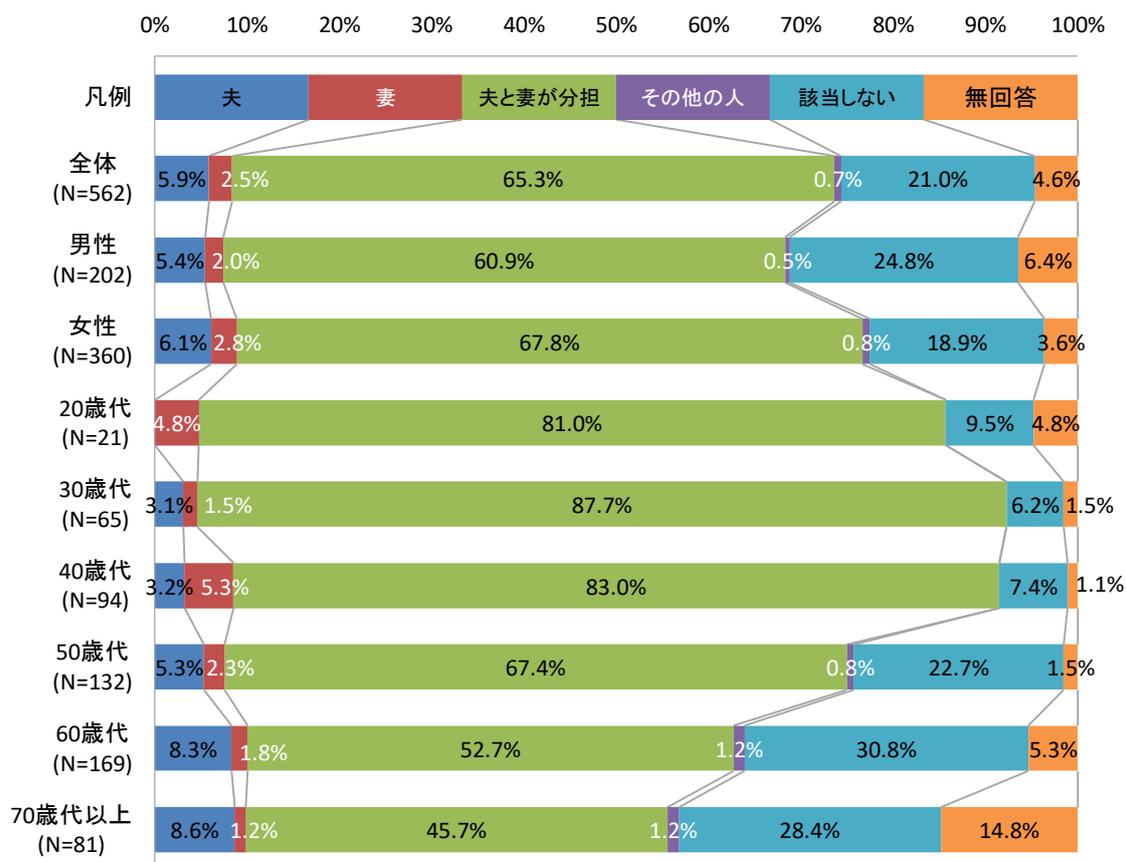


## E 教育方針の決定

教育方針の決定については、「夫」が 5.9%、「妻」が 2.5%、「夫と妻が分担」が 65.3%、「その他の人」が 0.7%となっている。

性別では、女性が「夫と妻が分担」で 6.9ポイント多くなっている。

年代別では、「20歳代」「30歳代」「40歳代」で「夫と妻が分担」が8割以上となっている。

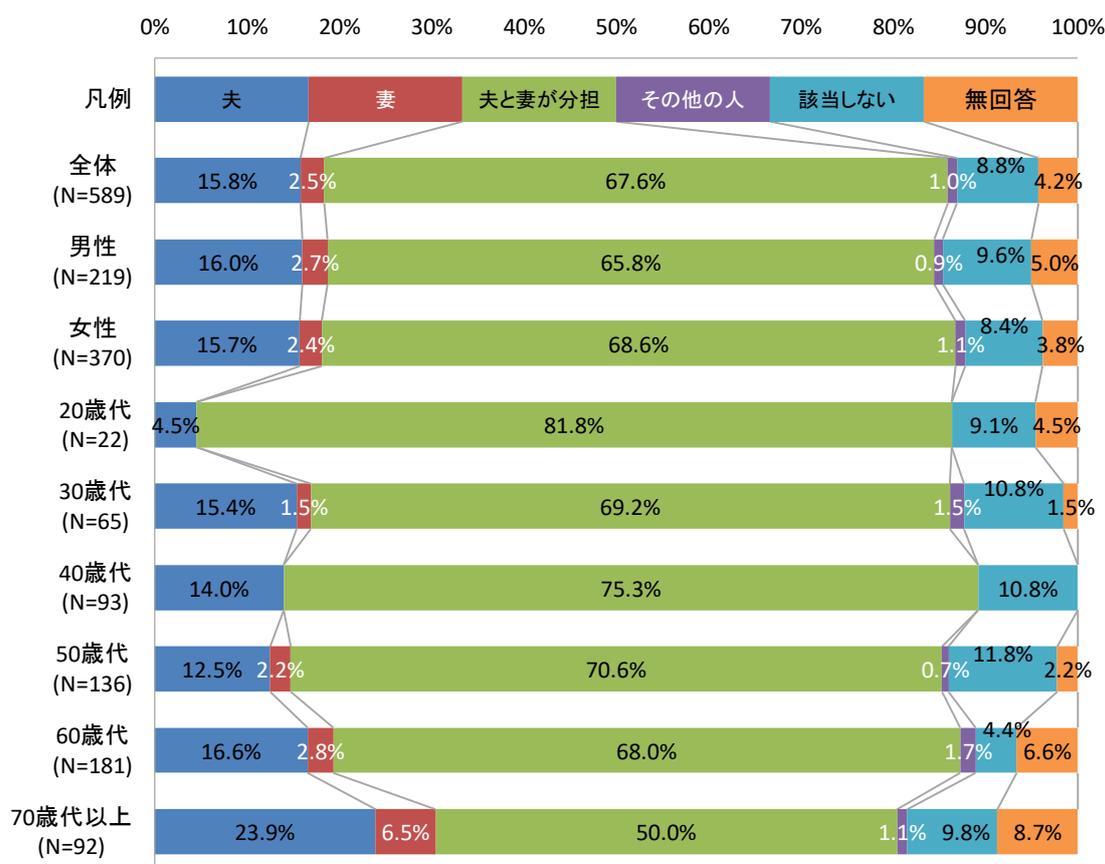


## F 自治会や公民館などの地域活動への参加

自治会や公民館などの地域活動への参加については、「夫」が15.8%、「妻」が2.5%、「夫と妻が分担」が67.6%、「その他の人」が1.0%となっている。

性別では、女性が「夫と妻が分担」で2.8ポイント多くなっている。

年代別では、「20歳代」は「夫と妻が分担」が8割以上となり、全ての年代で「夫」が「妻」より割合が高くなっている。

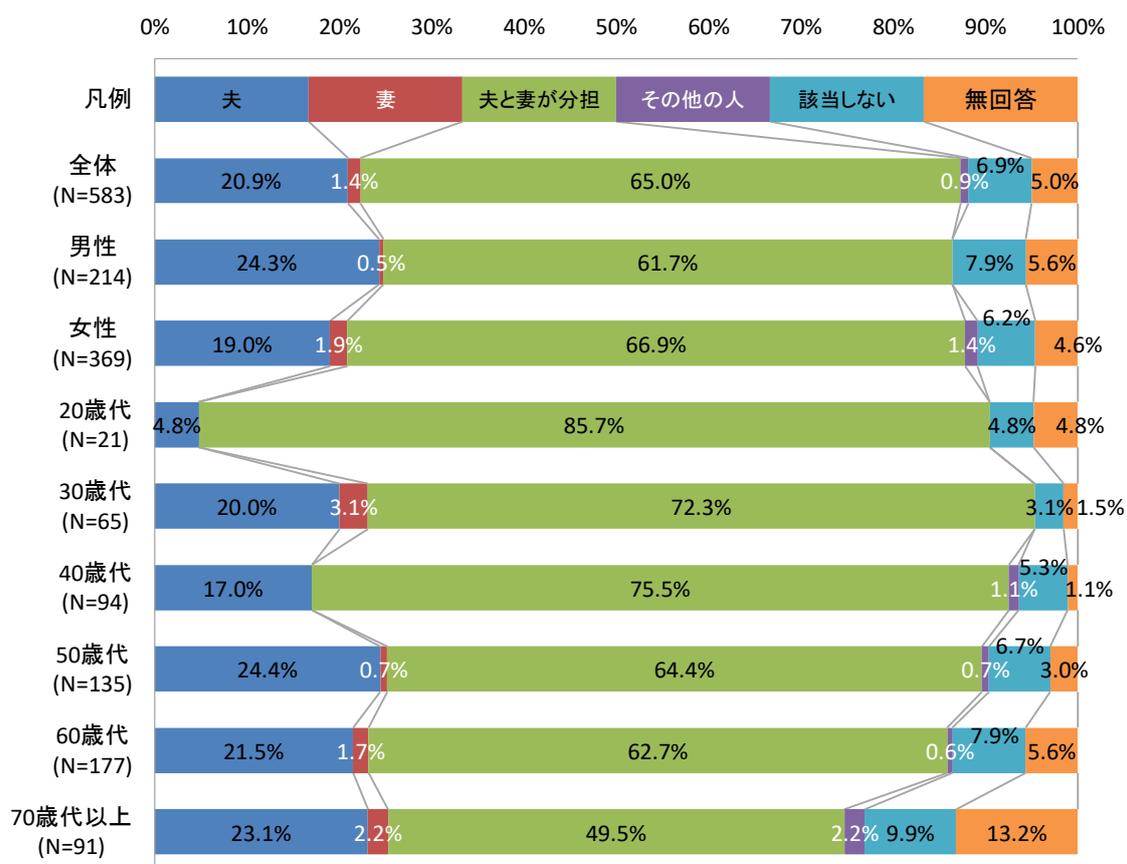


## G 高額の商品や土地・家屋の購入の決定

高額の商品や土地・家屋の購入の決定については、「夫」が20.9%、「妻」が1.4%、「夫と妻が分担」が65.0%、「その他の人」が0.9%となっている。

性別では、女性が「夫と妻が分担」で5.2ポイント多くなっている。

年代別では、「20歳代」は「夫と妻が分担」が8割以上となり、全ての年代で「夫」が「妻」より割合が高くなっている。

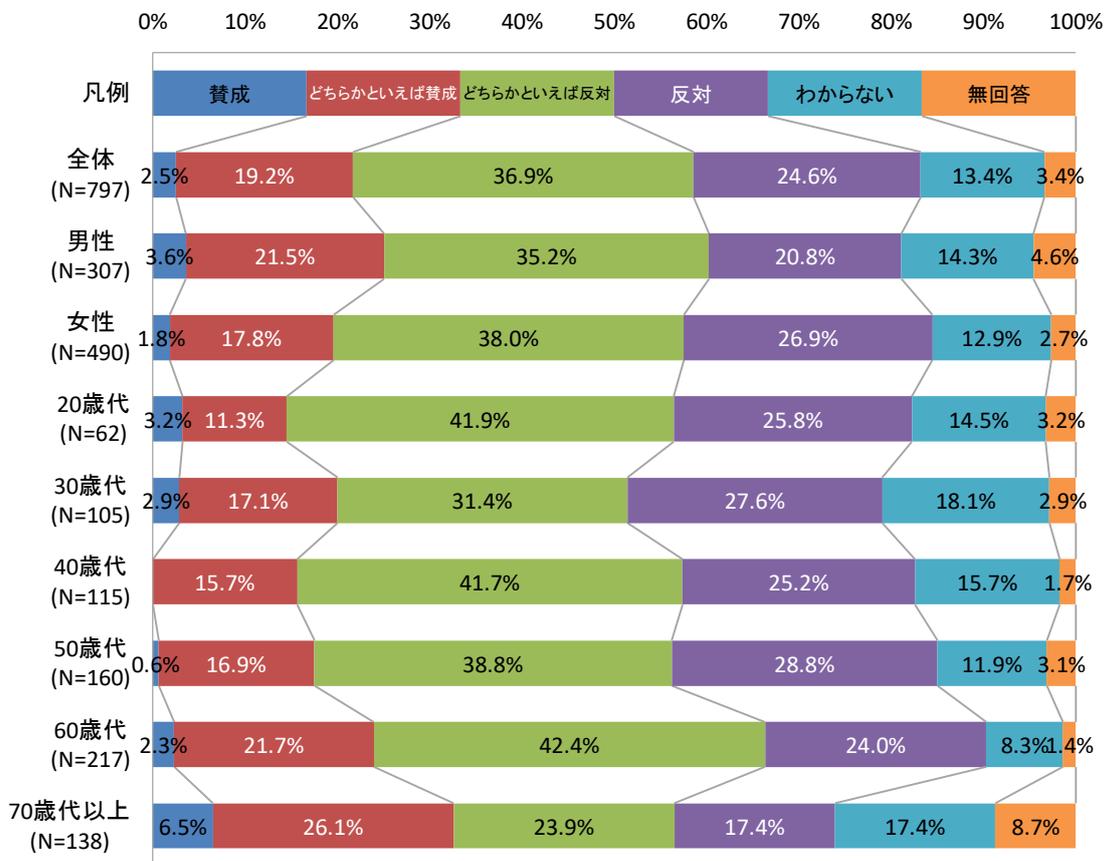


問 10 あなたは、「男は仕事，女は家庭」などと，性別によって役割を固定する考え方について，どう思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

性別によって役割を固定する考え方については，「反対」61.5%（反対24.6%+どちらかといえば反対36.9%），「賛成」21.7%（賛成2.5%+どちらかといえば賛成19.2%）と回答者の約2割が固定的性別役割分担意識を持っている。

性別では，「反対」は男性より女性が8.9ポイント多くなっている。

年代別では，「反対」は「70代以上」で約4割と最も少なく，次いで「60歳代」，「30歳代」の順に低くなっている。

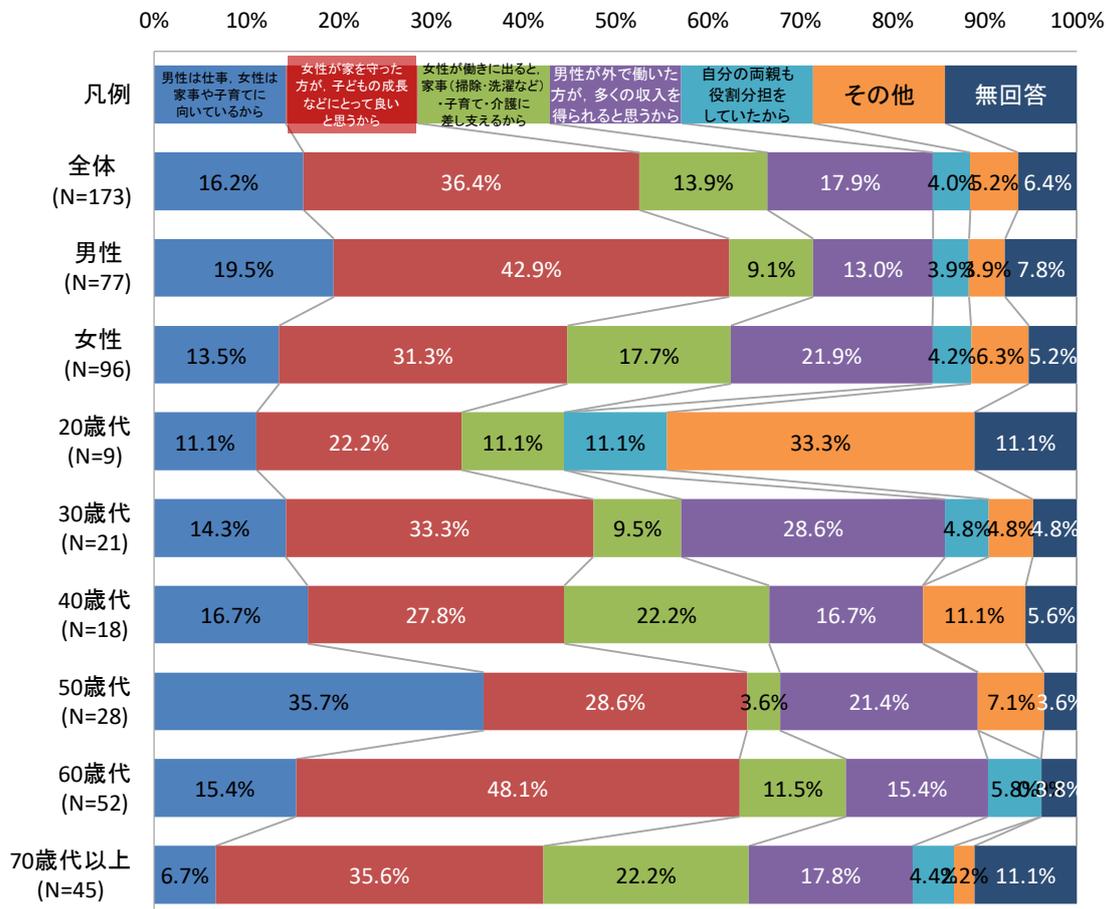


【問 10】で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」を選んだ方におたずねします。  
 問 11 それほどのような理由ですか。あてはまる番号を1つお選びください。

理由については、「女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が 36.4%で最も多く、次いで「男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」が 17.9%、「男性は仕事、女性は家事や子育てに向いているから」が 16.2%となっている。

性別では、男女共に「女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が最も多く、女性より男性が約 12 ポイント多くなっている。

年代別では、「50 歳代」で「男性は仕事、女性は家事や子育てに向いているから」が約 4 割、「60 歳代」で「女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」が約 5 割と、他の年代より多くなっている。



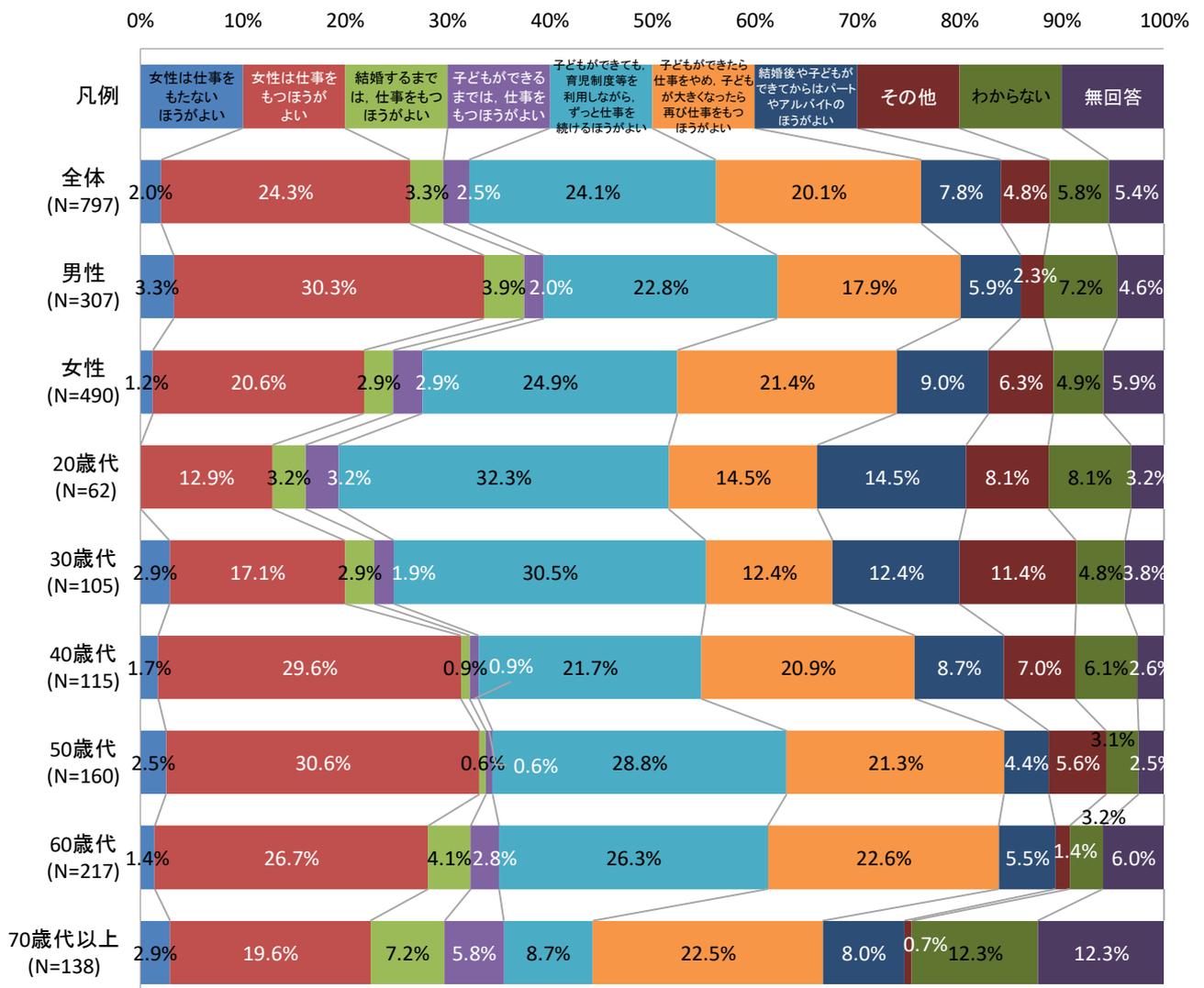
その他	
女性が邪魔	昔からの風習で良いと感じているから
我が家は現在その役割のため	役割分担してもお互いに補い合えばいいと思う
男が家にいると浮気や薬などをやるから	それぞれの性別における役割があるから
何かについて考えがあるということに賛成	
遅くまで女性が外で働くと危険だから	

問 12 一般的に女性が仕事をもつ（外に出て働くこと）ことについて、あなたはどうかお考えですか。あてはまる番号を1つお選びください。

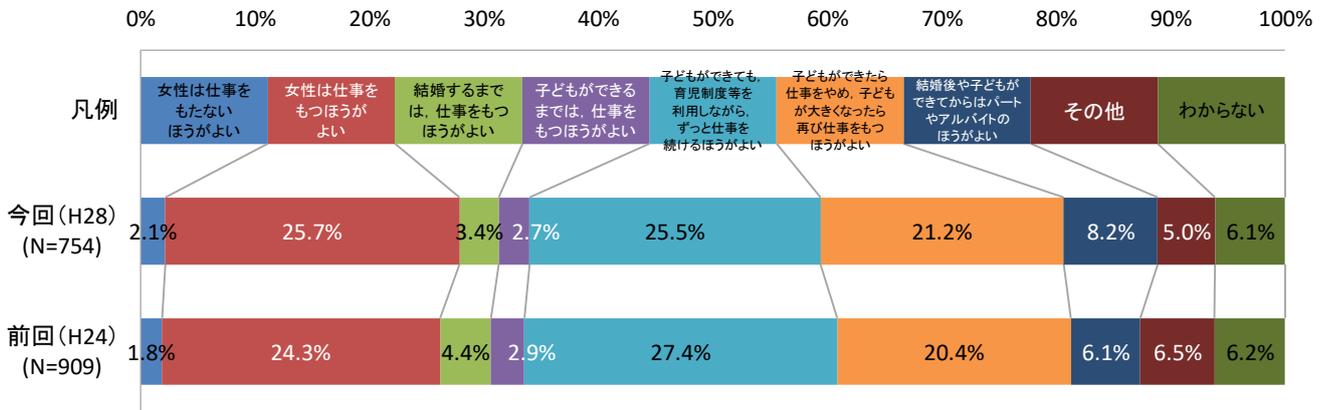
女性が仕事をもつことについては、「女性は仕事をもつほうがよい」が24.3%で最も多く、次いで「子どもができて、育児制度等を利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい」が24.1%、「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」が20.1%となっている。

性別では、「女性は仕事をもつほうがよい」は、女性より男性が6ポイント多い。また、「子どもができて、育児制度等を利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい」「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつほうがよい」は、男性より女性が多くなっている。

前回調査と比較すると、大きな変化はないことがわかる。



【前回 (H24 との比較)】



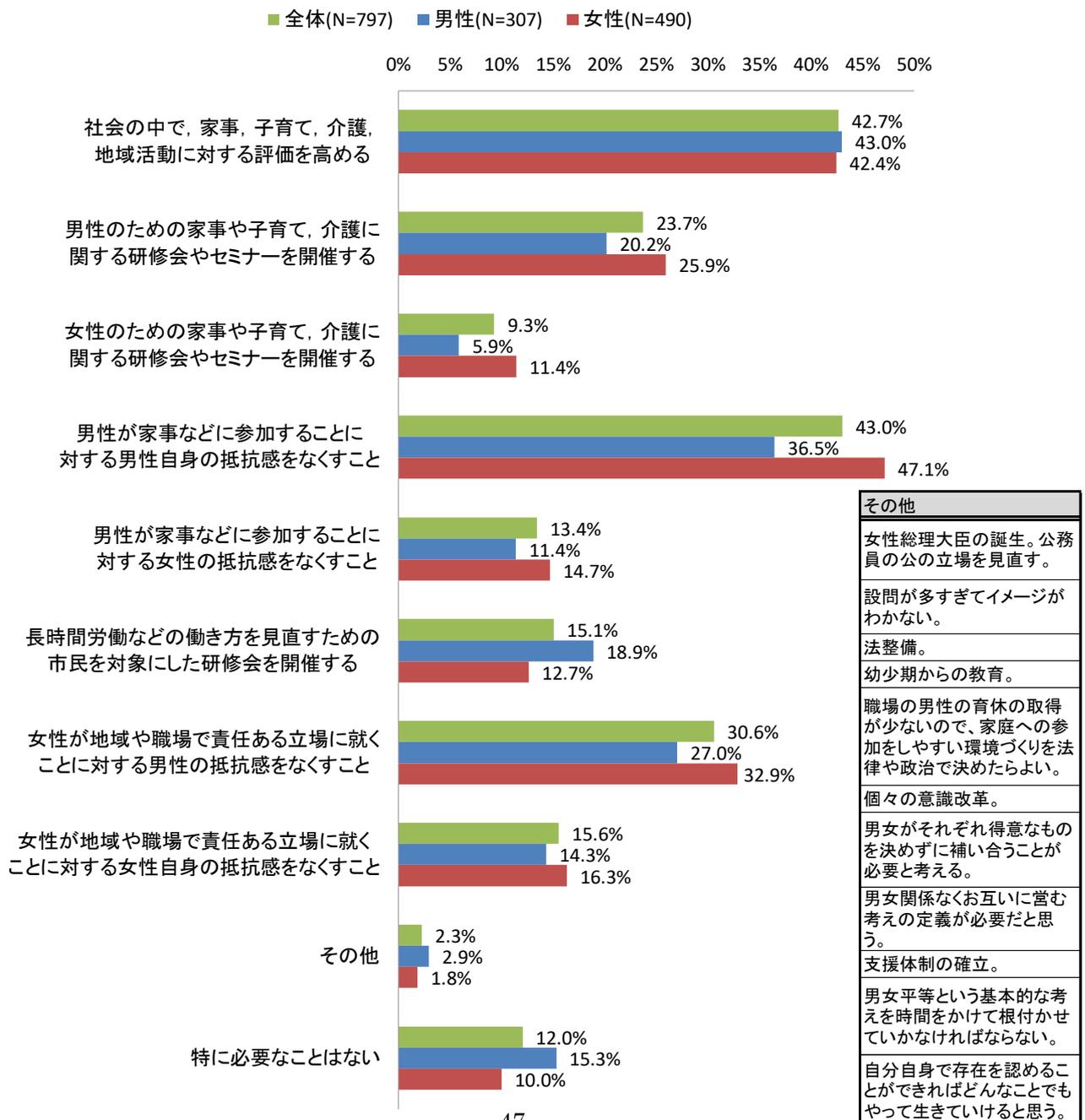
※前回との比較部分に関しては、前回報告書と条件を同じにするため無回答を除いて集計している。

その他	
その時の現状や環境に対して一番ベストな方法をとればよいと思う。	
その場その場でできる人ができることをすればいい。	女性が自信を持てる仕事をするのは大切だと思いますが子育てを人任せにするとよくないと思う。
家庭において各々の働き方があると思う。	女性の意思に任せるべき。
家庭の事情による。	人によって違いなので個人の考え次第だと思う。
個人の自由。	
収入を考えると共働きでなければ生活できないのでは。	その人の気持ちや環境で変わらと思う。
相手の考え次第。	結婚した時の状況による。お金の余裕があれば子どもを見た方がいいと思う。
収入次第。	

問 13 あなたは、職場や家庭、地域活動において、男女がともに責任や役割を果たすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号をいくつでもお選び下さい。

責任や役割を果たすために必要なことについては、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 43.0%で最も多く、次いで「社会の中で、家事、子育て、介護、地域活動に対する評価を高める」が 42.7%、「女性が地域や職場で責任ある立場に就くことに対する男性の抵抗感をなくすこと」が 30.6%となっている。

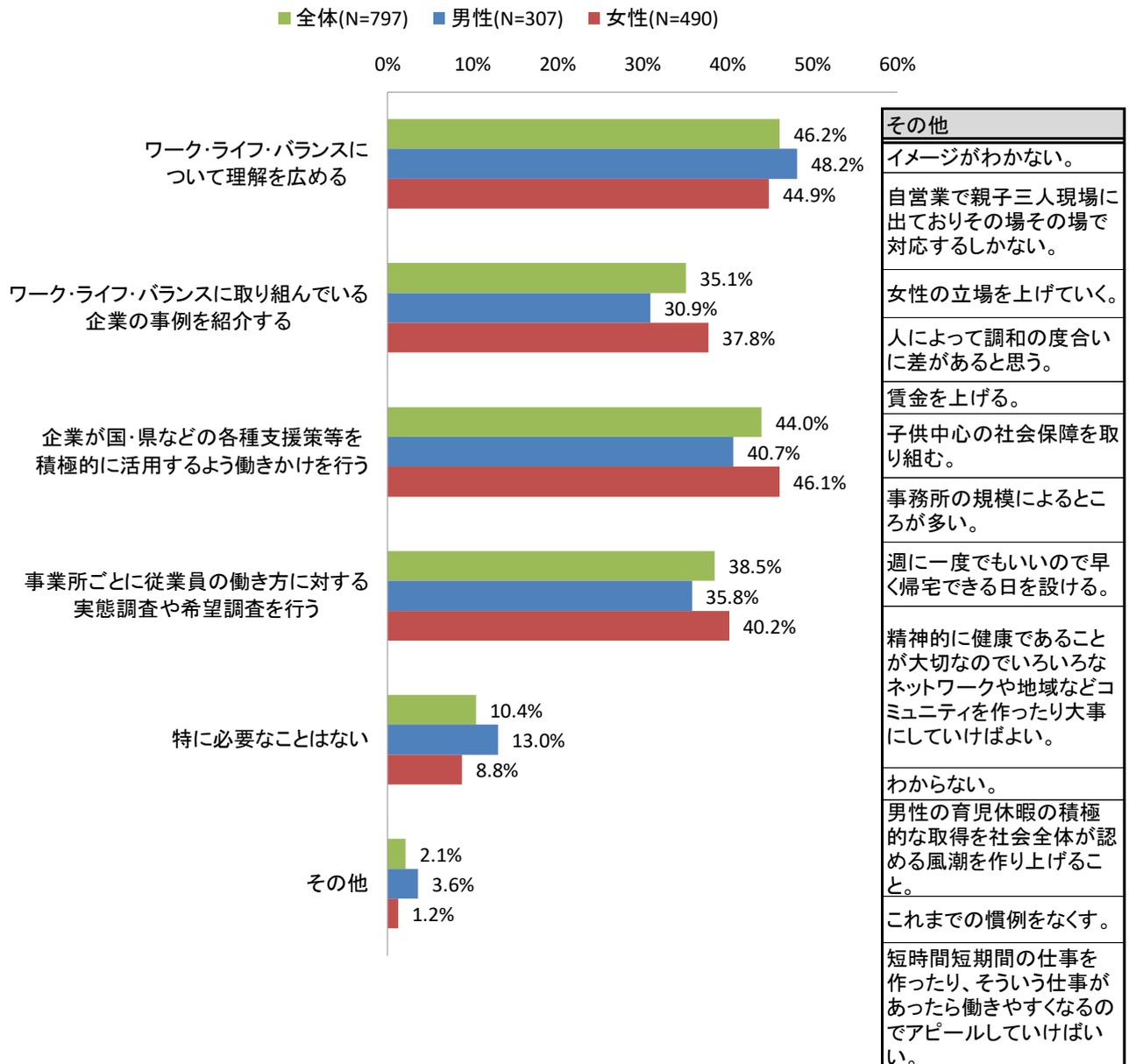
性別では、男性が「社会の中で、家事、子育て、介護、地域活動に対する評価を高める」(43.0%)、女性が「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(47.1%)で最も多くなっている。



問 14 あなたは、社会の中で仕事と家庭の調和（ワーク・ライフ・バランス）を進めるためにどのような取り組みをする必要があると思いますか。あてはまる番号を3つ以内でお選びください。

必要な取り組みについては、「ワーク・ライフ・バランスについて理解を広める」が46.2%で最も多く、次いで「企業が国・県などの各種支援策等を積極的に活用するよう働きかけを行う」が44.0%、「事業所ごとに従業員の働き方に対する実態調査や希望調査を行う」が38.5%となっている。

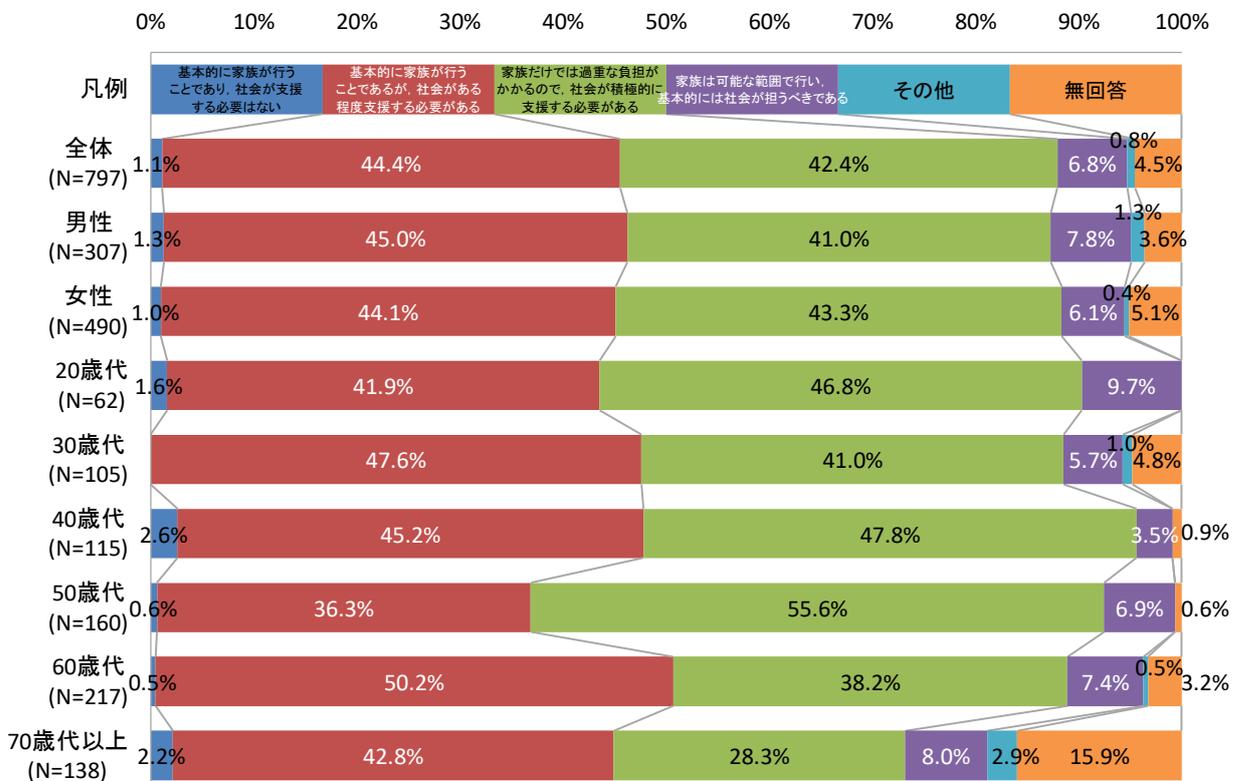
性別では、男性が「ワーク・ライフ・バランスについて理解を広める」（48.2%）、女性が「企業が国・県などの各種支援策等を積極的に活用するよう働きかけを行う」（46.1%）で最も多くなっている。



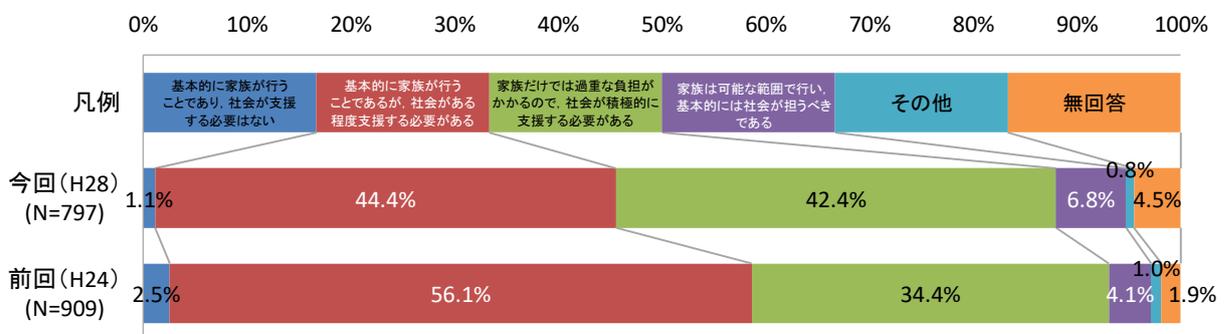
問 15 あなたは、子育てや介護に対する社会の支援について、どのようにお考えですか。あてはまる番号を1つお選びください。

子育てや介護に対する社会の支援については、「基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある」が44.4%で最も多く、次いで「家族だけでは過重な負担がかかるので、社会が積極的に支援する必要がある」が42.4%となっている。性別では、大きな差異はみられない。

前回調査と比較すると、「基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある」が減少し、「家族だけでは過重な負担がかかるので、社会が積極的に支援する必要がある」が増加している。



【前回 (H24 との比較)】

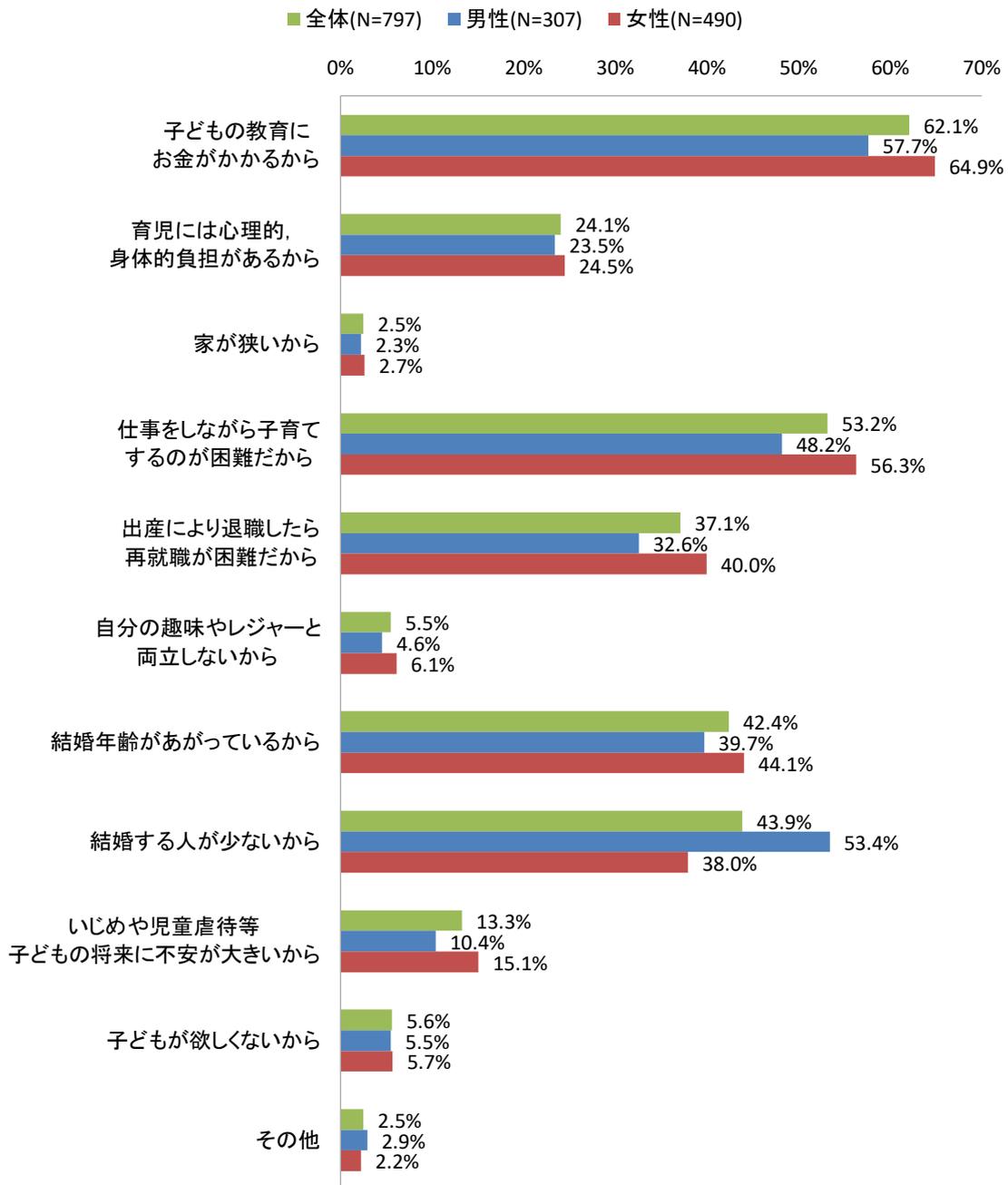


**その他**  
 子育てと介護は考え方が違うと思う。介護については支援が必要だと考える。  
 介護保険制度がある中で、年金の方にも回してほしい。

問 16 少子化がわが国の深刻な問題となっていますが、その理由は何だと思えますか。  
 あてはまる番号をいくつでもお選びください。

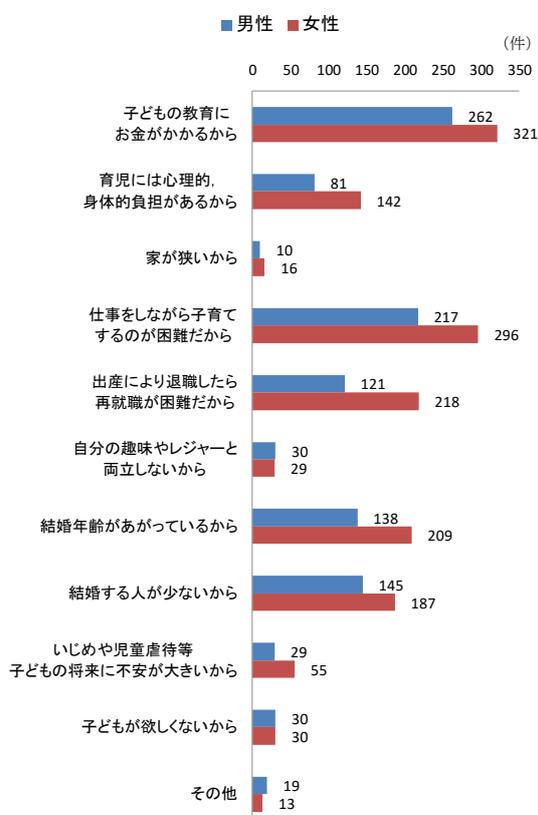
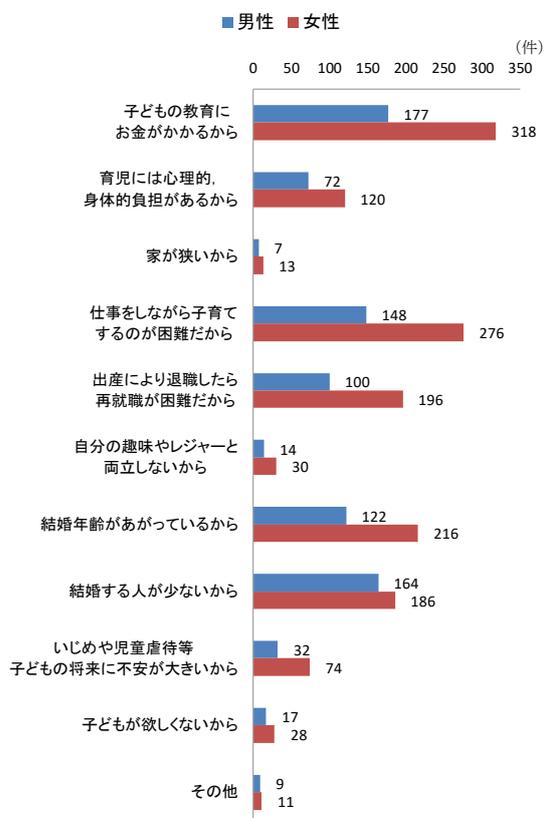
少子化の理由については、「子どもの教育にお金がかかるから」が62.1%で最も多く、次いで「仕事をしながら子育てするのが困難だから」が53.2%、「結婚する人が少ないから」が43.9%となっている。

前回調査と比較すると、男性で「結婚する人が少ないから」が前回より上位となっている。



【今回 (H28)】

【前回 (H24)】



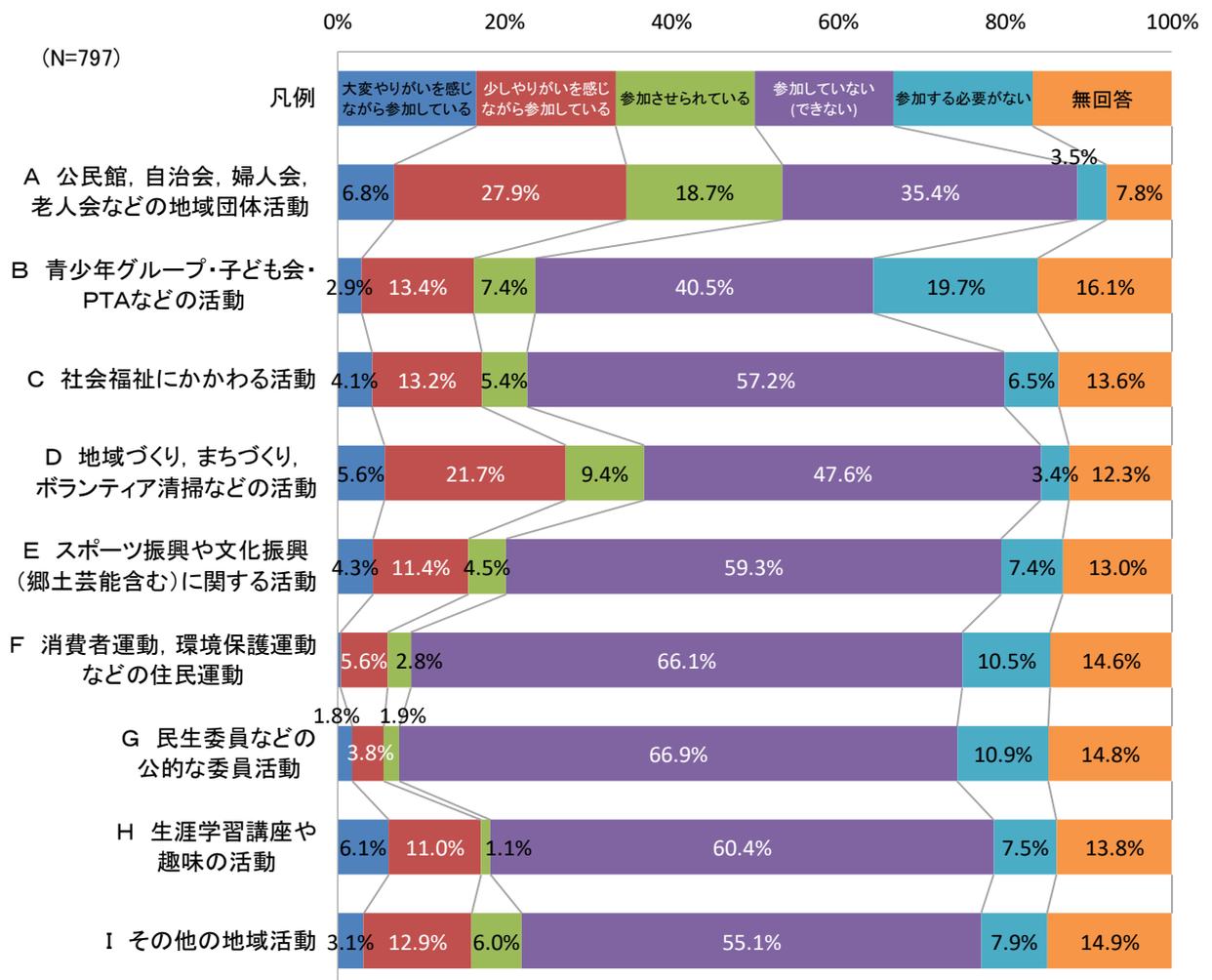
その他	
経済的にも主人の給料など削減ばかりで生活に余裕が持てないから。	社会が女性が働く事の方を家事よりも評価するたため。
仕事に対する収入の問題。	核家族化が収入の地域格差によって進んでいる現状。
世の中での考え方の違い。	地域間格差の問題。
賃金が低い。労働時間が長い。	子育てによる楽しさ苦しさに魅力を感じられない社会だから。
働く女性が増えているため。	経済的負担が大きくなるため。
不妊治療を受けている人への支援が必要。	若い人が正社員で働ける環境が少ないから。
不妊治療にお金がかかるから。	収入が少なく不安だから。
保育園の不足。	

問 17 あなたは現在、何か地域活動等に参加していますか。また活動にやりがいを感じていますか。A～I のそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

地域活動については、全てにおいて「参加していない(できない)」の割合が高くなり、特に「消費者運動、環境保護運動などの住民運動」、「民生委員などの公的な委員活動」、「生涯学習講座や趣味の活動」は6割以上となっている。

「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」では、「公民館、自治会、婦人会、老人会などの地域団体活動」、「地域づくり、まちづくり、ボランティア清掃などの活動」において2割以上となっている。

### 総括

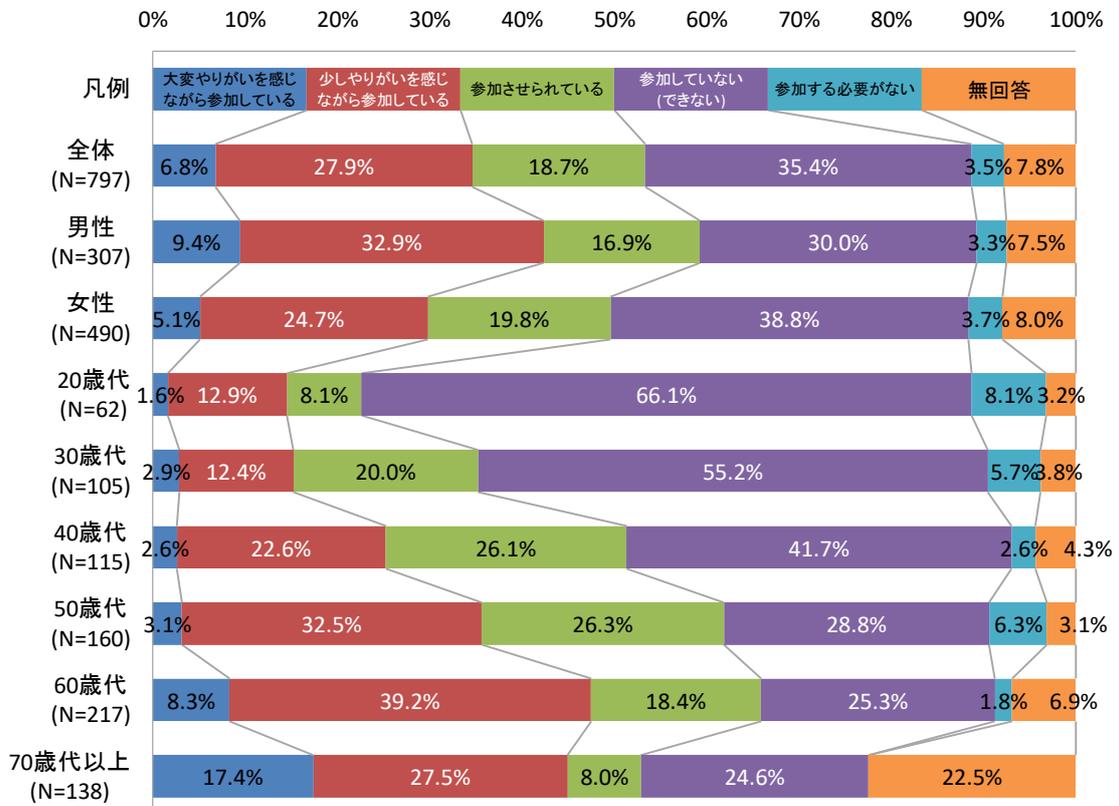


## A 公民館、自治会、婦人会、老人会などの地域団体活動

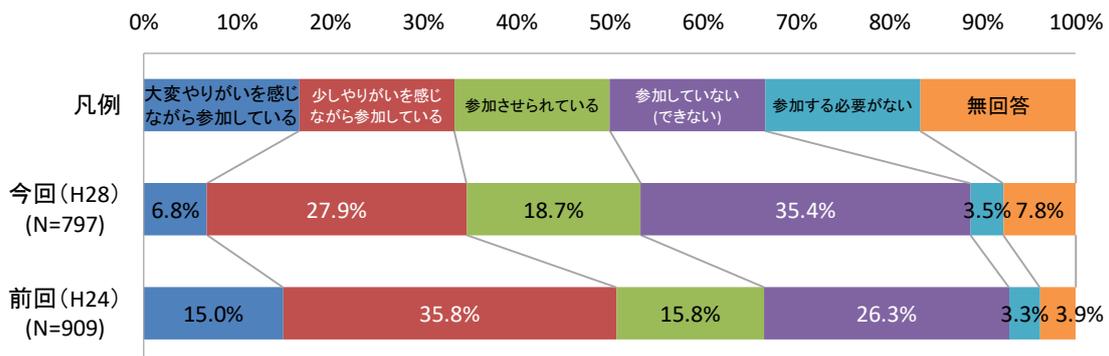
公民館、自治会、婦人会、老人会などの地域団体活動については、「参加していない(できない)」が35.4%で最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が27.9%、「参加させられている」が18.7%となっている。

「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」について、性別では、男性が女性より約12ポイント多く、年代別では、「60歳代」が47.5%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると、「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」が減少し、「参加していない(できない)」が9.1ポイント増加している。



【前回 (H24 との比較)】

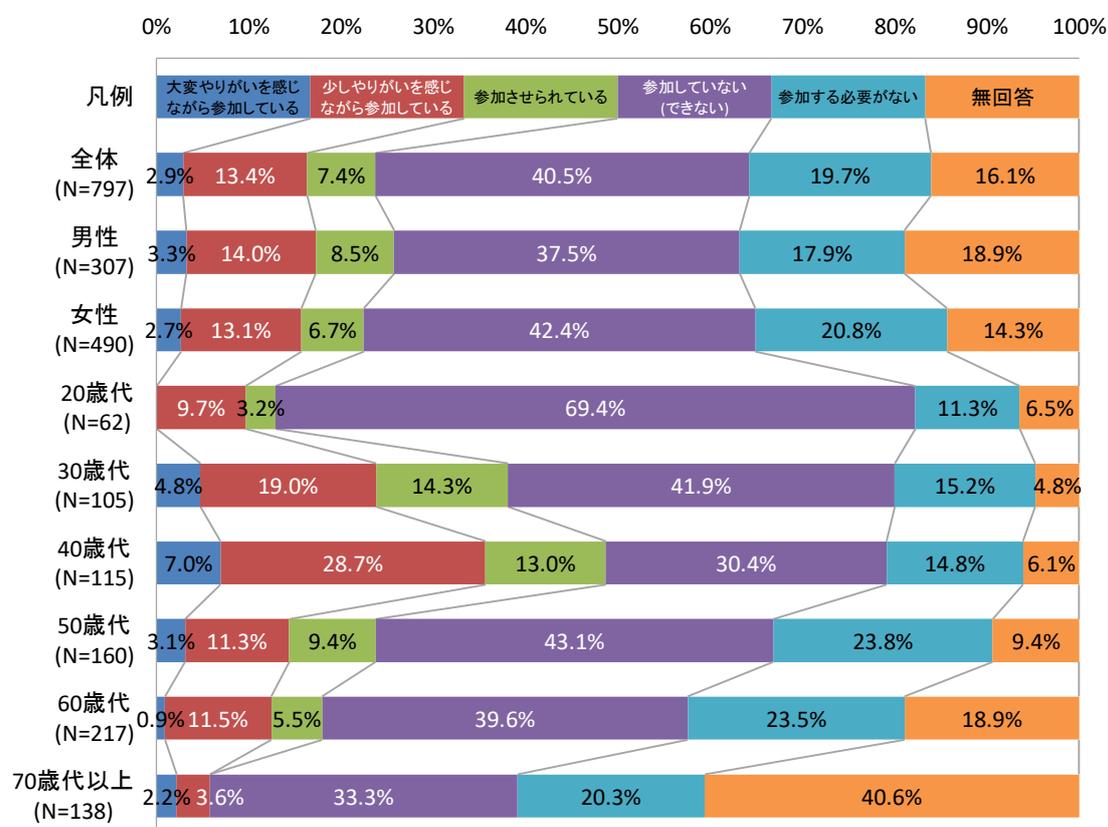


## B 青少年グループ・子ども会・PTAなどの活動

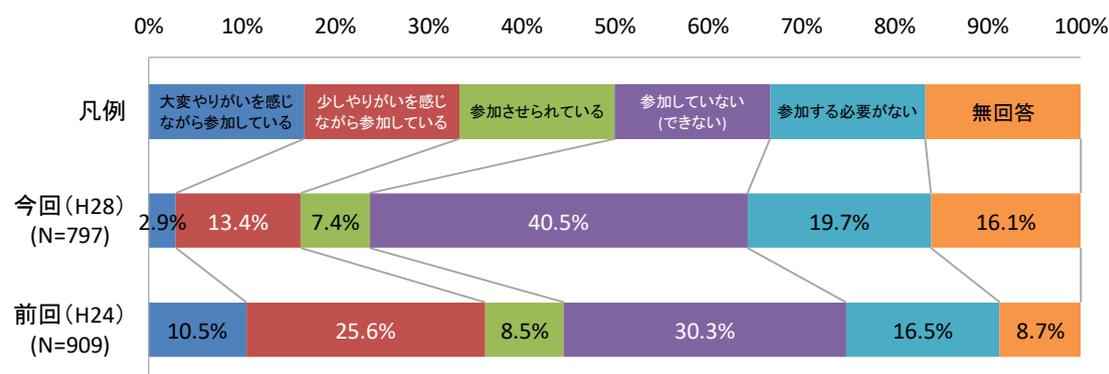
青少年グループ・子ども会・PTAなどの活動については、「参加していない(できない)」が40.5%で最も多く、次いで「参加する必要がある」が19.7%、「少しやりがいを感じながら参加している」が13.4%となっている。

「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」については、性別では、男女で大きな差異はみられない。年代別では、「40歳代」が35.7%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると、「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」が減少し、「参加していない(できない)」が10.2ポイント増加している。



【前回 (H24 との比較)】

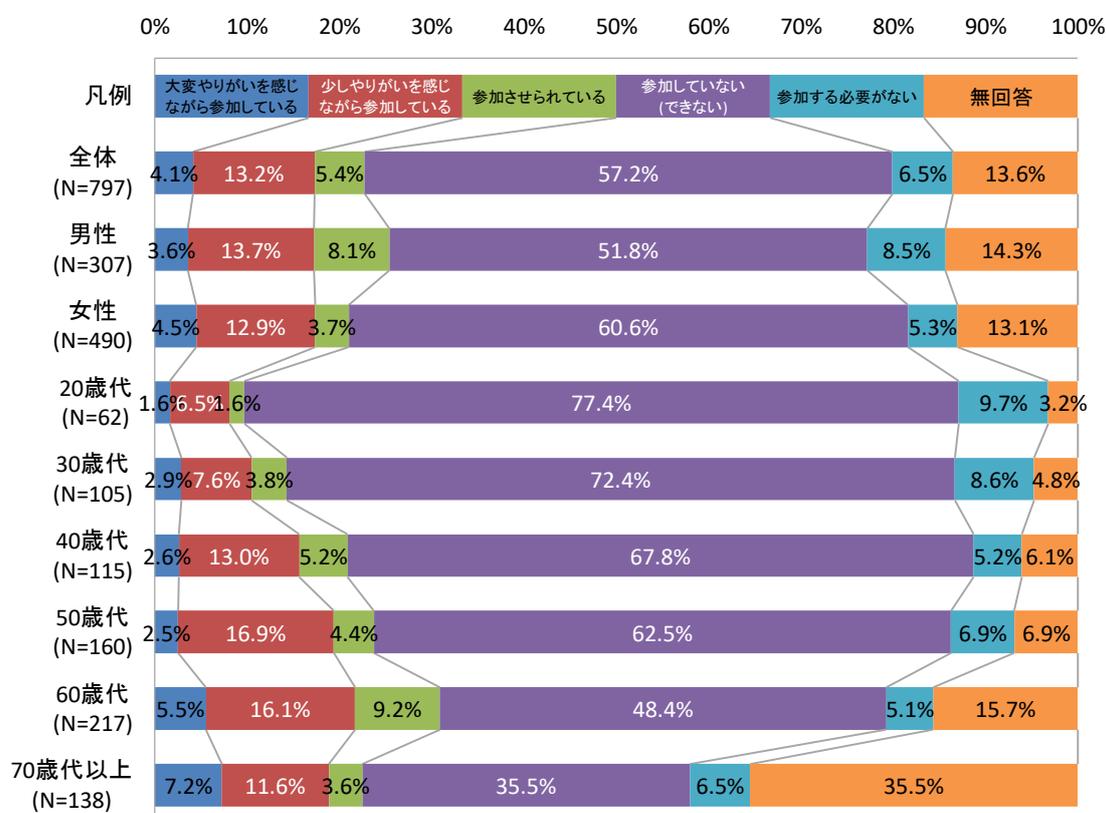


### C 社会福祉にかかわる活動

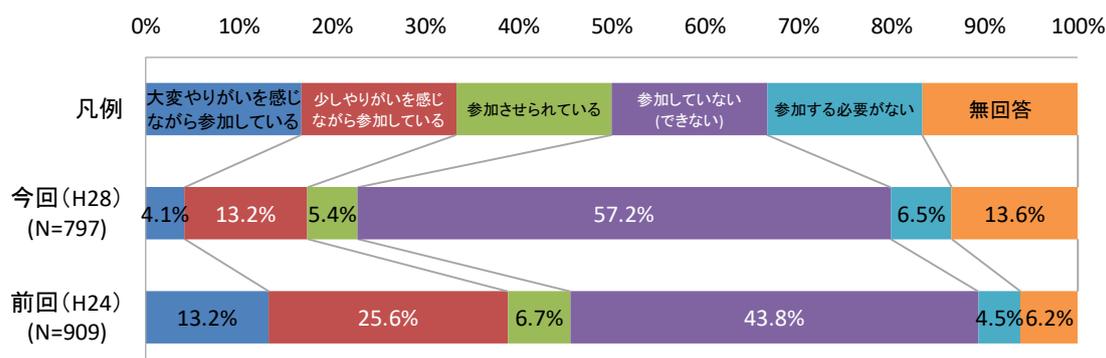
社会福祉にかかわる活動については、「参加していない(できない)」が57.2%で最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が13.2%、「参加する必要がない」が6.5%となっている。

「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」については、性別では、男女で大きな差異はみられない。年代別では、「60歳代」が21.6%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると、「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」が減少し、「参加していない(できない)」が13.4ポイント増加している。



【前回 (H24 との比較)】

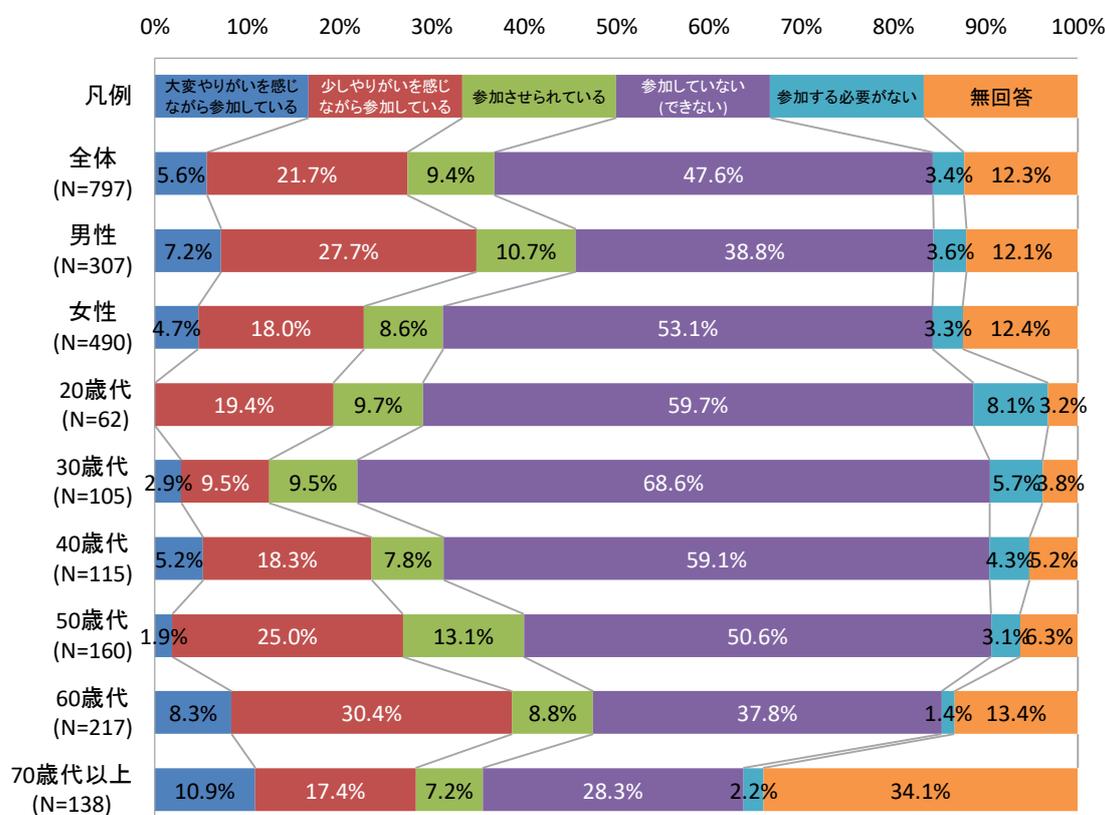


## D 地域づくり, まちづくり, ボランティア清掃などの活動

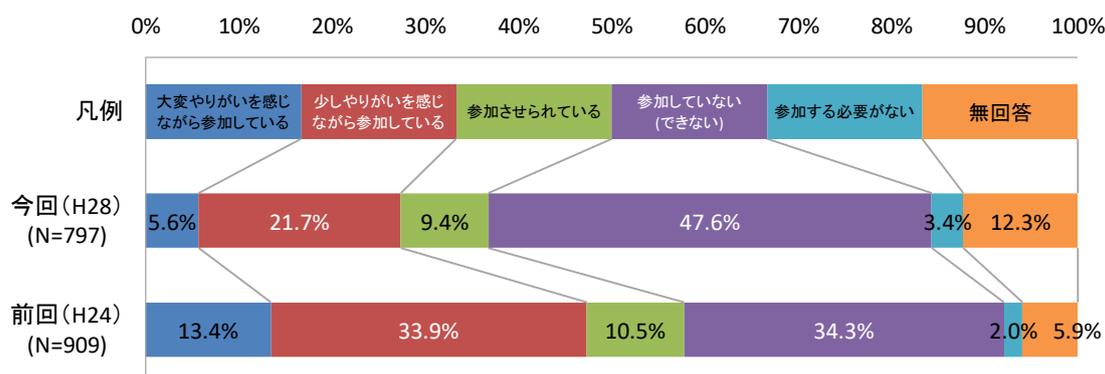
地域づくり, まちづくり, ボランティア清掃などの活動については, 「参加していない(できない)」が47.6%で最も多く, 次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が21.7%, 「参加させられている」が9.4%となっている。

「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」については, 性別では, 男性が女性より約12ポイント多く, 年代別では, 「60歳代」が38.7%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると, 「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」が減少し, 「参加していない(できない)」が13.3ポイント増加している。



【前回 (H24 との比較)】

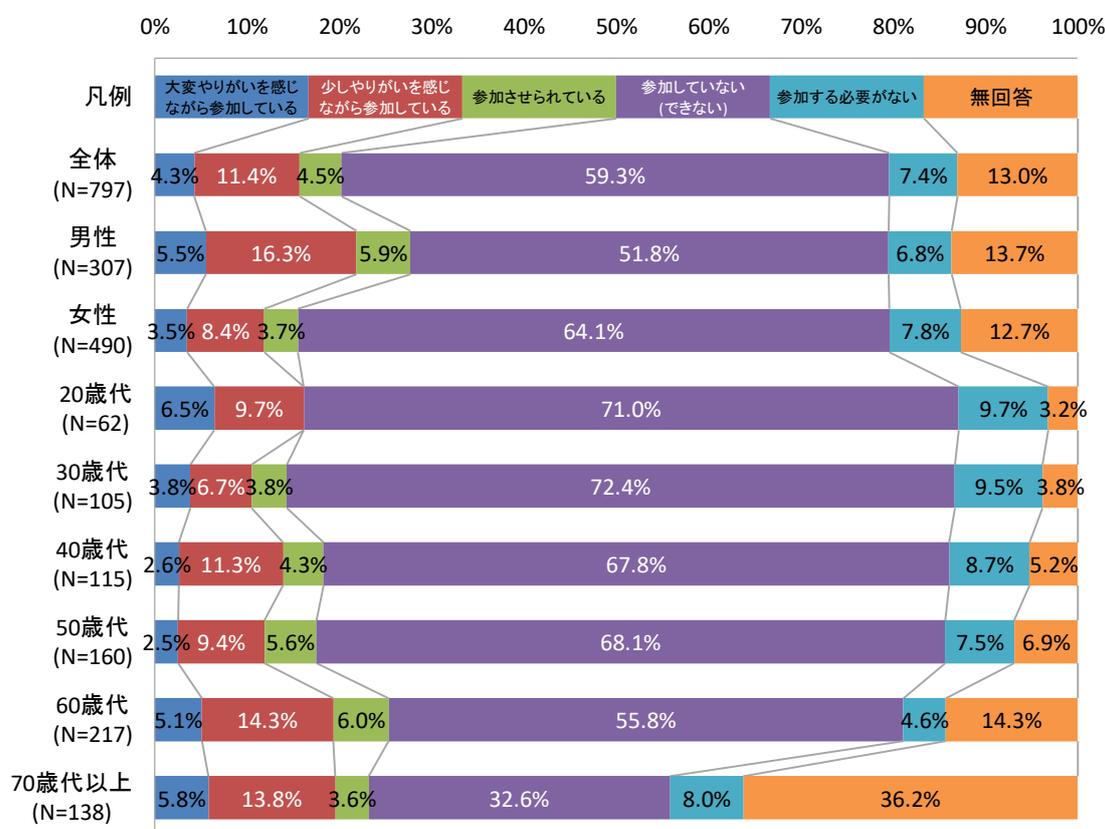


## E スポーツ振興や文化振興(郷土芸能含む)に関する活動

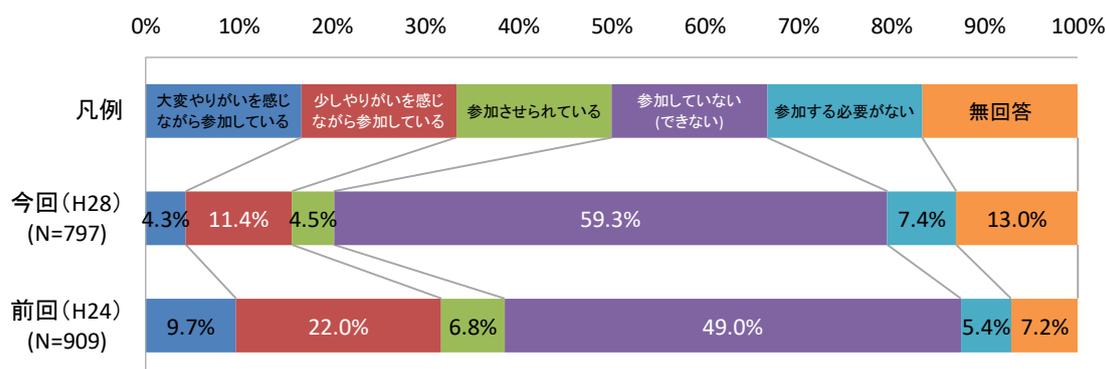
スポーツ振興や文化振興(郷土芸能含む)に関する活動については、「参加していない(できない)」が59.3%で最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が11.4%、「参加する必要がある」が7.4%となっている。

「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」については、性別では、男性が女性より約6ポイント多く、年代別では、「70歳代以上」が19.6%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると、「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」が減少し、「参加していない(できない)」が10.3ポイント増加している。



### 【前回 (H24 との比較)】

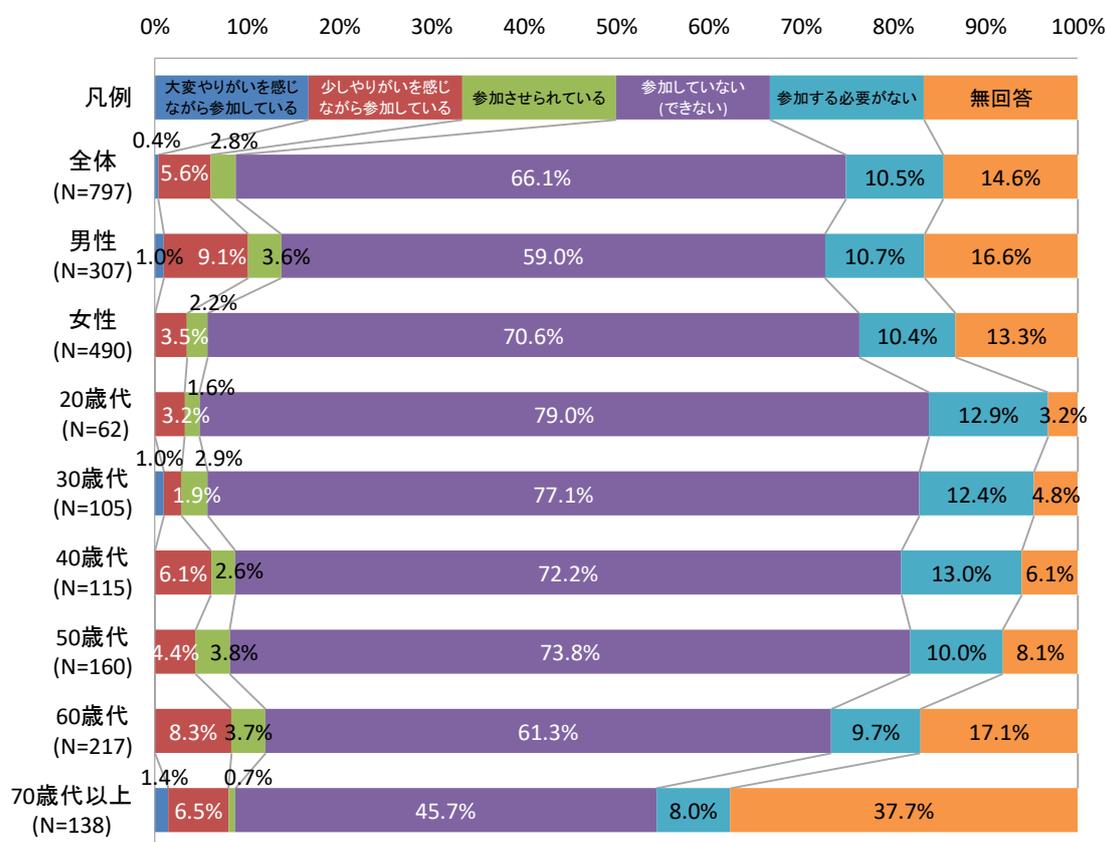


## F 消費者運動, 環境保護運動などの住民運動

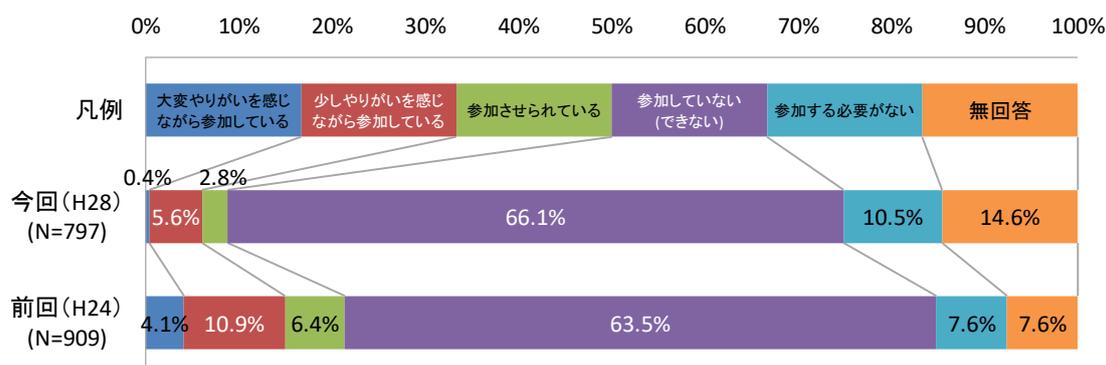
消費者運動, 環境保護運動などの住民運動については, 「参加していない(できない)」が 66.1%で最も多く, 次いで「参加する必要がある」が 10.5%, 「少しやりがいを感じながら参加している」が 5.6%となっている。

「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」については, 性別では, 男性が女性より約 4 ポイント多く, 年代別では, 「60 歳代」が 12.0%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると, 「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」が減少し, 「参加していない(できない)」が 10.3 ポイント増加している。



【前回 (H24 との比較)】

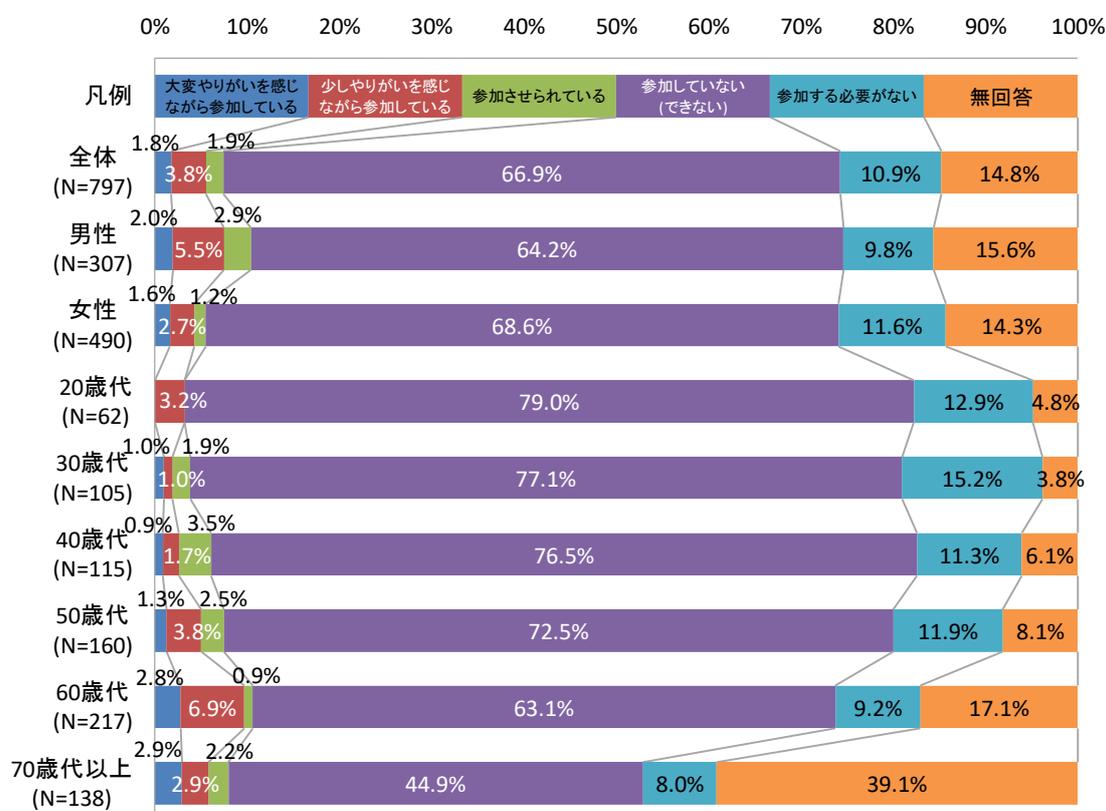


## G 民生委員などの公的な委員活動

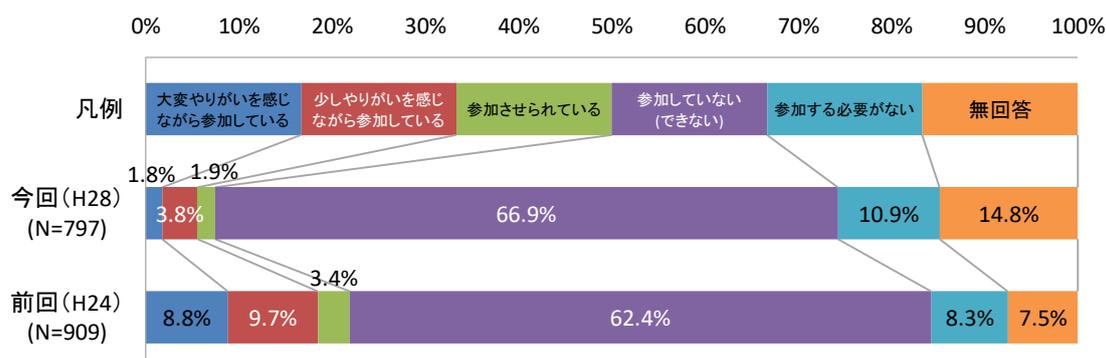
民生委員などの公的な委員活動については、「参加していない(できない)」が66.9%で最も多く、次いで「参加する必要がある」が10.9%、「少しやりがいを感じながら参加している」が3.8%となっている。

「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」については、性別では、男性が女性より約3ポイント多く、年代別では、「60歳代」が9.7%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると、「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」が減少し、「参加していない(できない)」が4.5ポイント増加している。



【前回 (H24 との比較)】

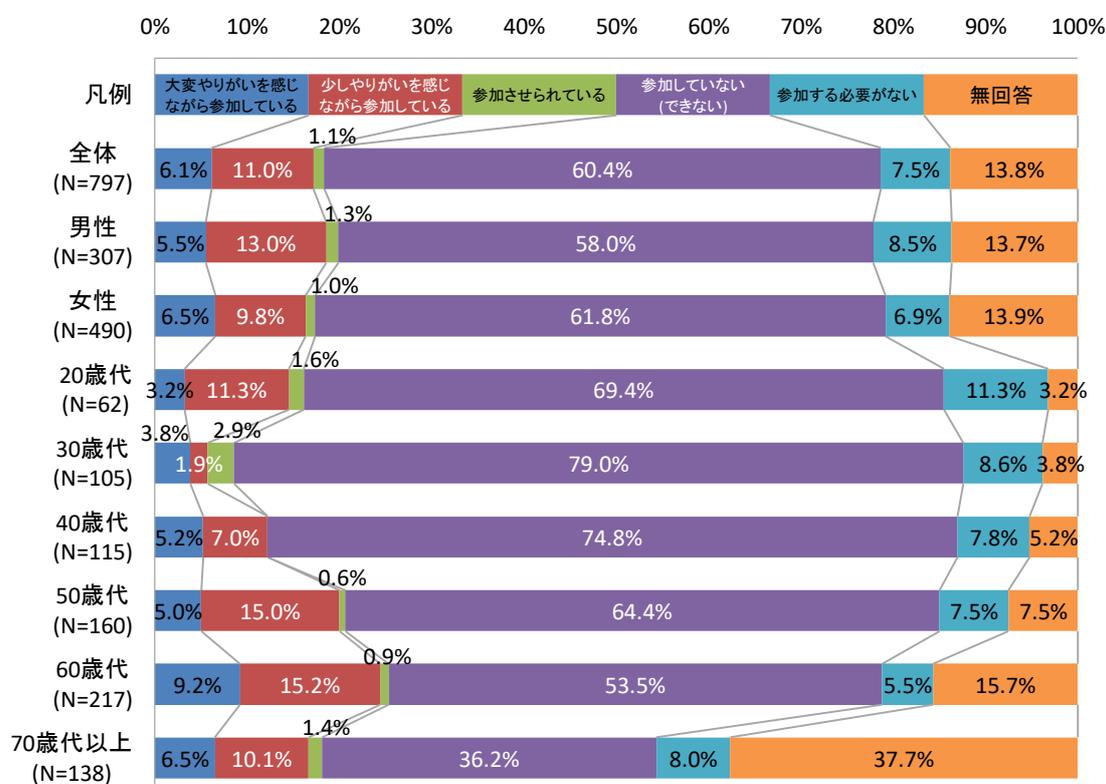


## H 生涯学習講座や趣味の活動

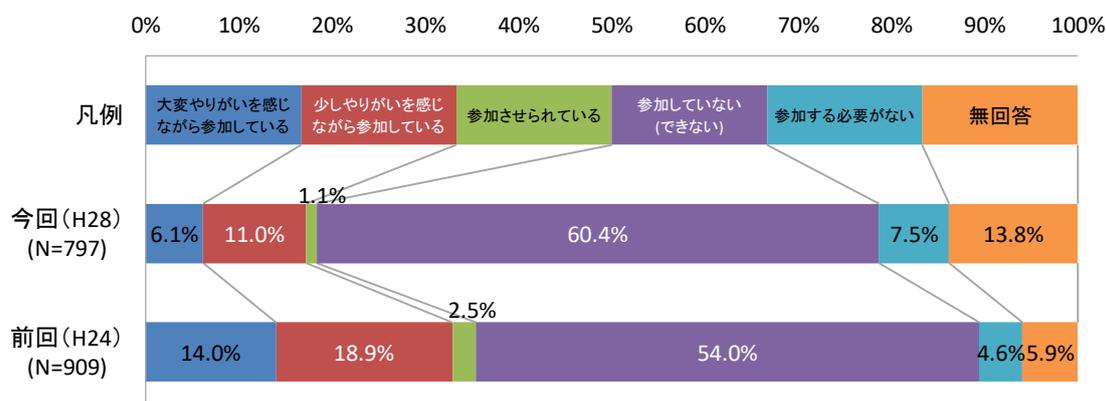
生涯学習講座や趣味の活動については、「参加していない(できない)」が60.4%で最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が11.0%、「参加する必要がある」が7.5%となっている。

「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」については、性別では、男女で大きな差異はみられない。年代別では、「60歳代」が24.4%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると、「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」が減少し、「参加していない(できない)」が6.4ポイント増加している。



【前回 (H24 との比較)】

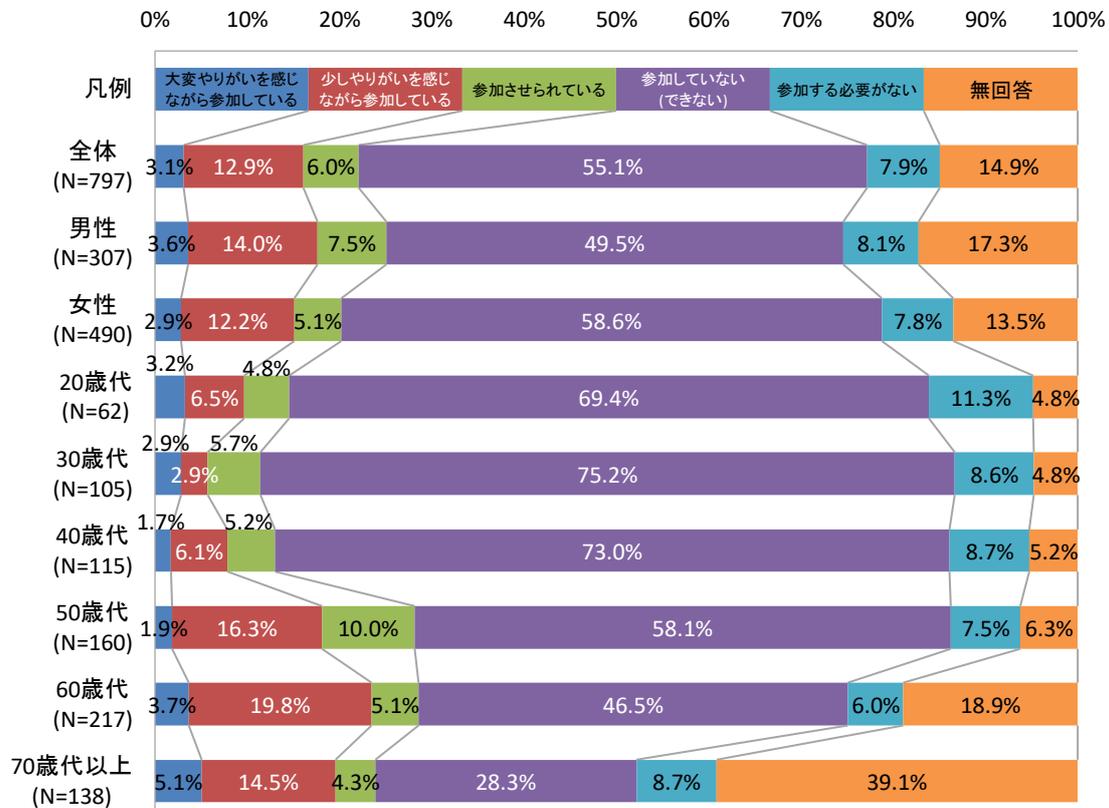


## I その他の地域活動

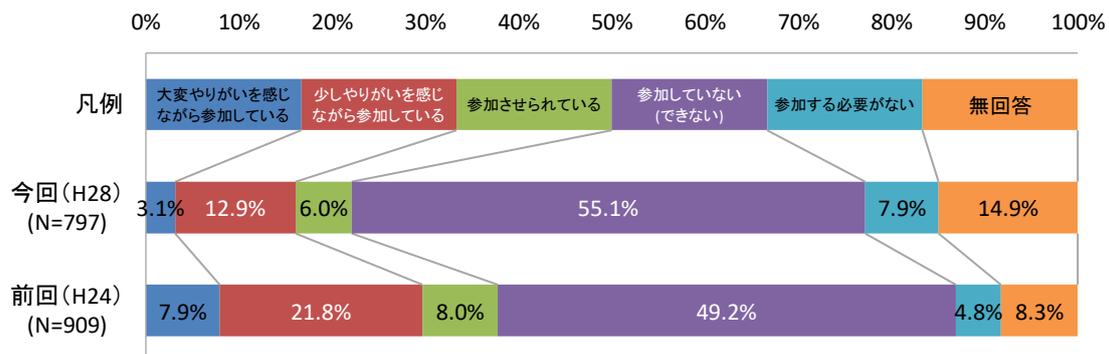
その他の地域活動については、「参加していない(できない)」が55.1%で最も多く、次いで「少しやりがいを感じながら参加している」が12.9%、「参加する必要がある」が7.9%となっている。

「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」については、性別では、大きな差異はみられない。年代別では、「60歳代」が23.5%と最も多くなっている。

前回調査と比較すると、「大変やりがいを感じながら参加している」「少しやりがいを感じながら参加している」が減少し、「参加していない(できない)」が5.9ポイント



【前回 (H24 との比較)】

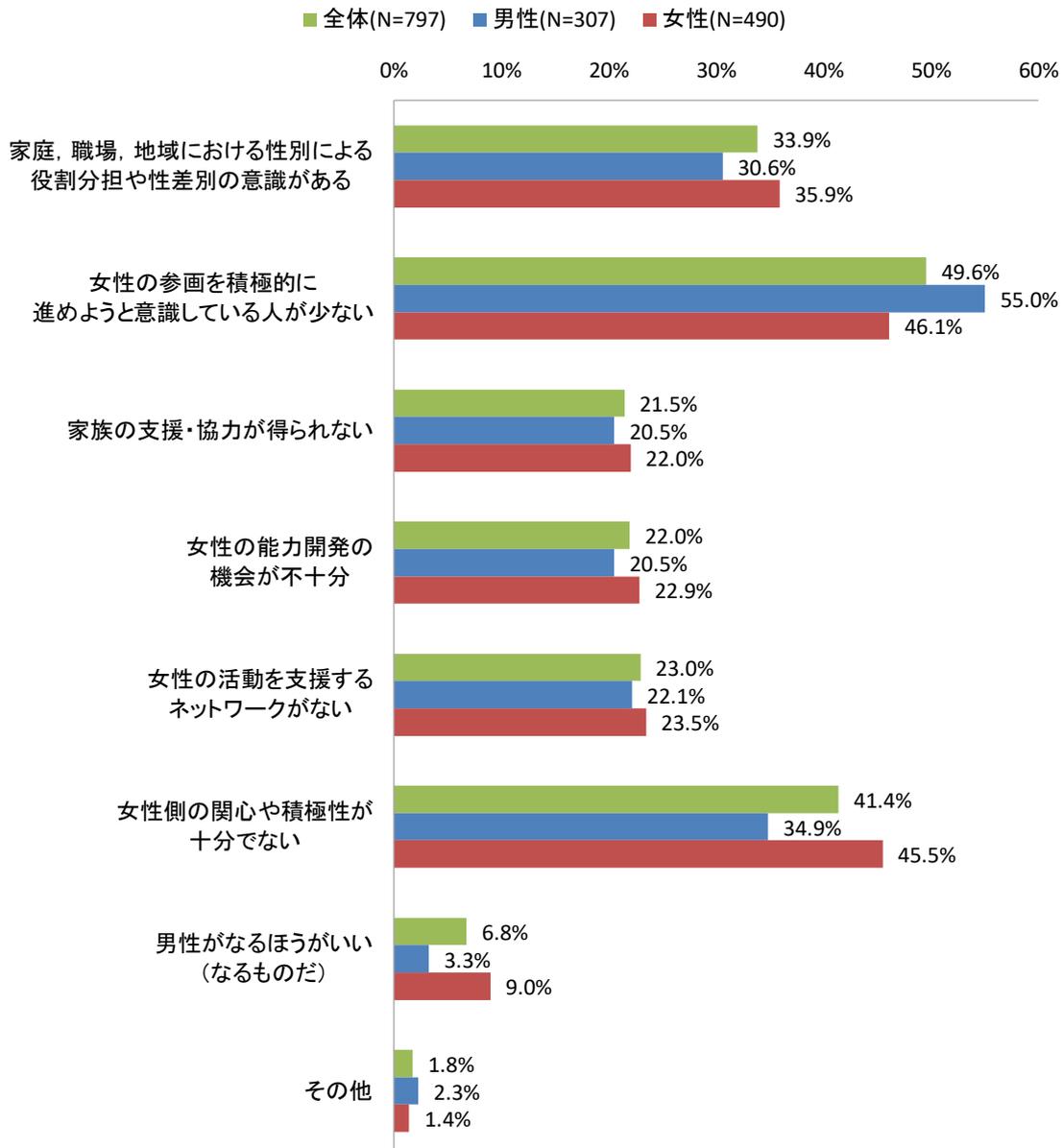


問 18 一般的に、政策決定の場や自治組織等の方針決定の場への女性の参画が少ないようですが、それはなぜだと思いますか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

女性の参画が少ない理由については、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」が 49.6%で最も多く、次いで「女性側の関心や積極性が十分でない」が 41.4%、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある」が 33.9%となっている。

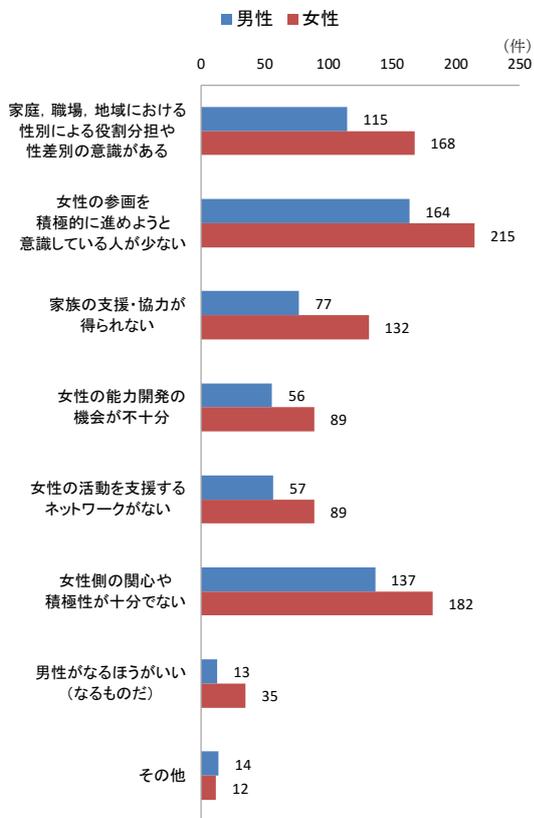
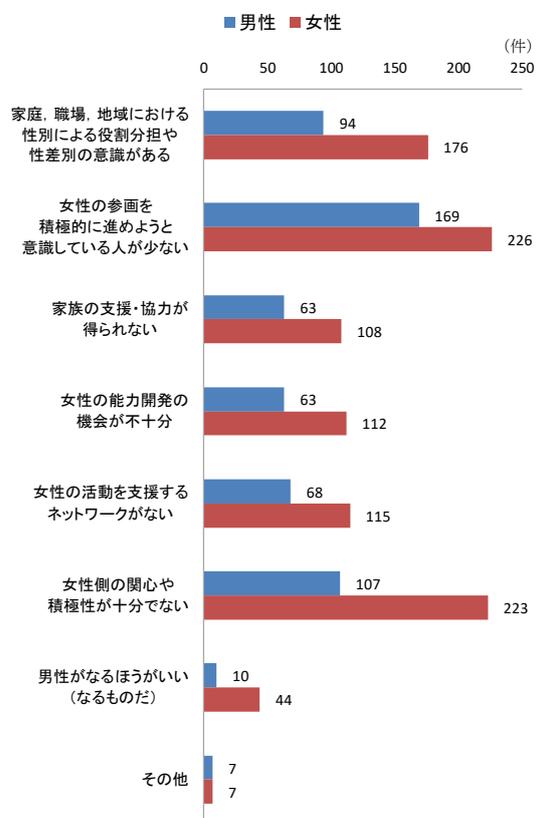
性別では、男女共に「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」が最も多く、男性が女性より 8.9 ポイント多くなっている。

前回調査と比較すると、男女共に「家族の支援・協力が得られない」が減少している。



【今回 (H28)】

【前回 (H24)】

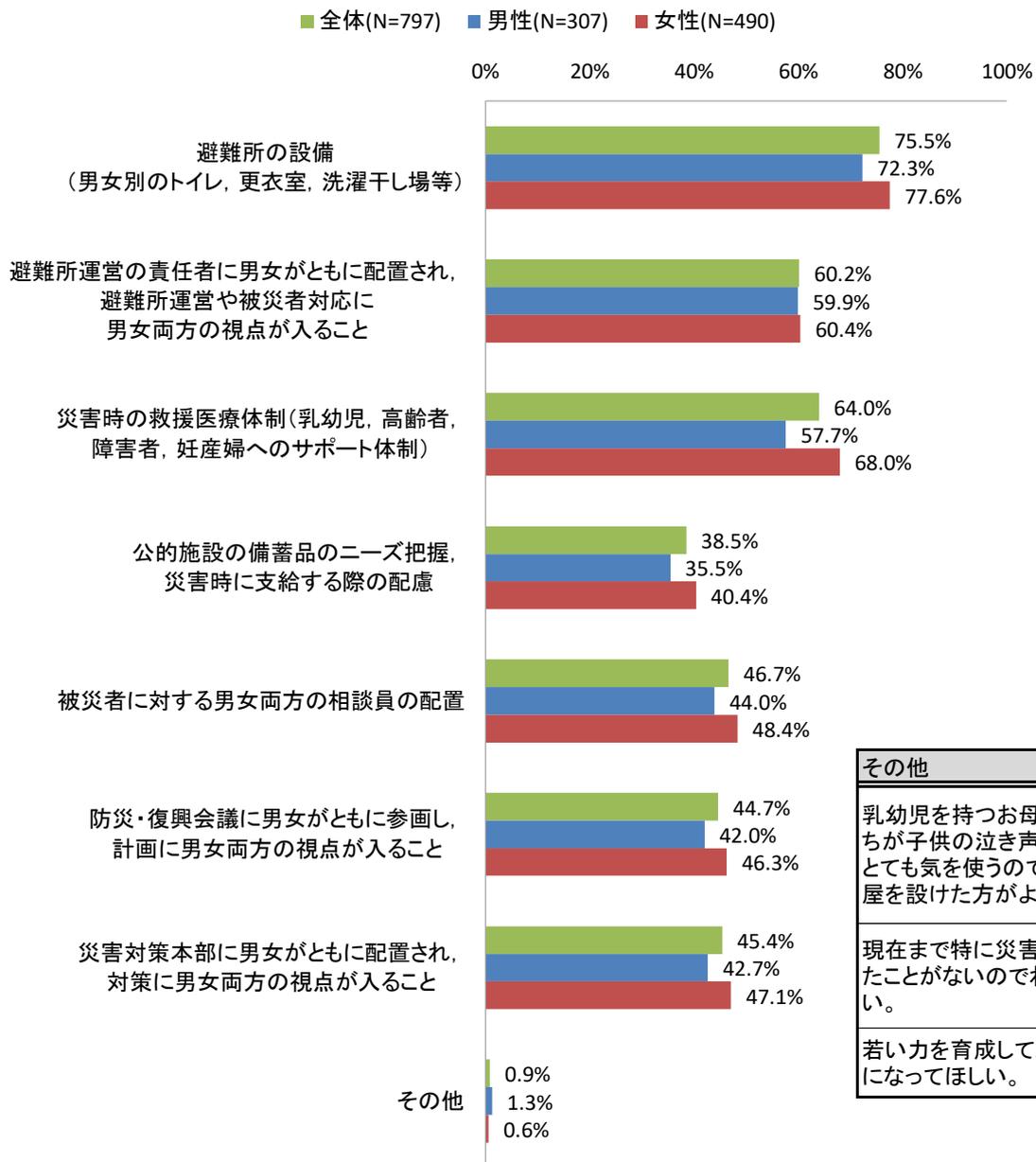


その他
参加したくても時間がな い。休みが自由に取れな い。
選択できる項目自体が差 別的だと思う。
高齢者の方が多いのでは ないでしょうか。
積極的に参加している。
女性の参画が少ないとは 思わない。
高齢化社会でなかなか参 加できない。

問 19 あなたは、性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のために必要なことについては、「避難所の設備（男女別のトイレ，更衣室，洗濯干し場等）」が 75.5%で最も多く，次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児，高齢者，障害者，妊産婦へのサポート体制）」が 64.0%，「避難所運営の責任者に男女がともに配置され，避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が 60.2%となっている。

性別では，男女共に「避難所の設備（男女別のトイレ，更衣室，洗濯干し場等）」が最も多く，女性が男性より 5.3 ポイント多くなっている。

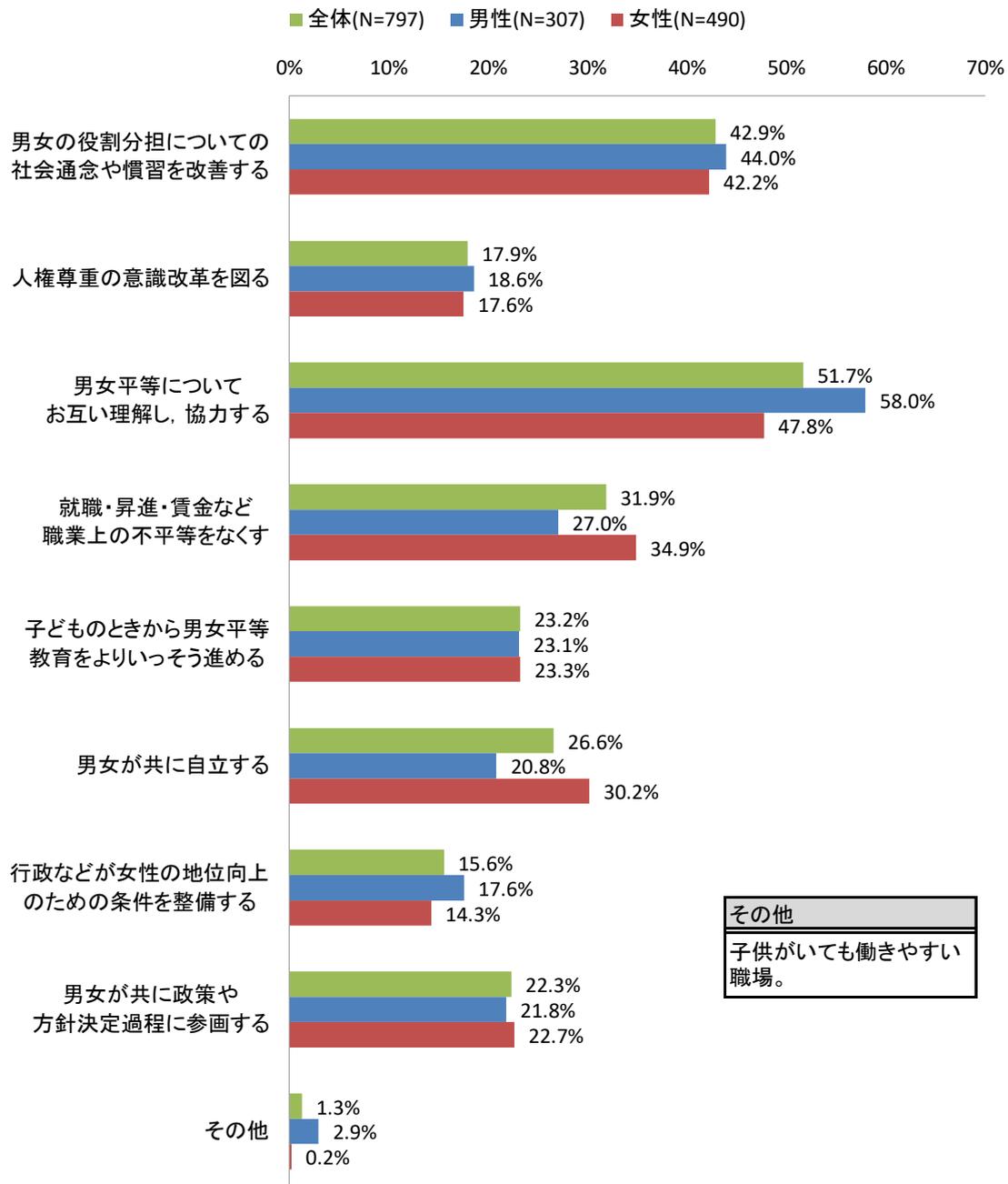


問20 男女共同参画社会の実現に向けて、今後どのようなことが必要だと思いますか。  
 あてはまる番号を3つ以内でお選びください。

男女共同参画社会の実現に向けて必要なことについては、「男女平等についてお互い理解し、協力する」が51.7%で最も多く、次いで「男女の役割分担についての社会通念や慣習を改善する」が42.9%、「就職・昇進・賃金など職業上の不平等をなくす」が31.9%となっている。

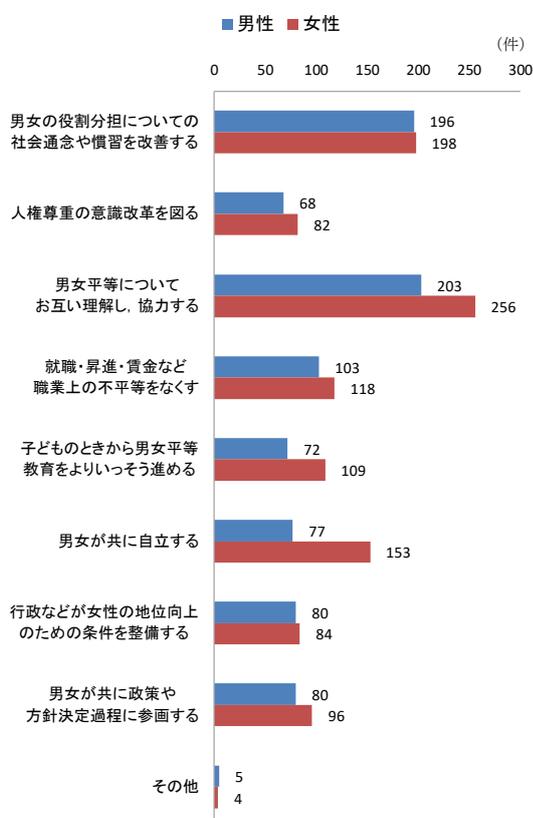
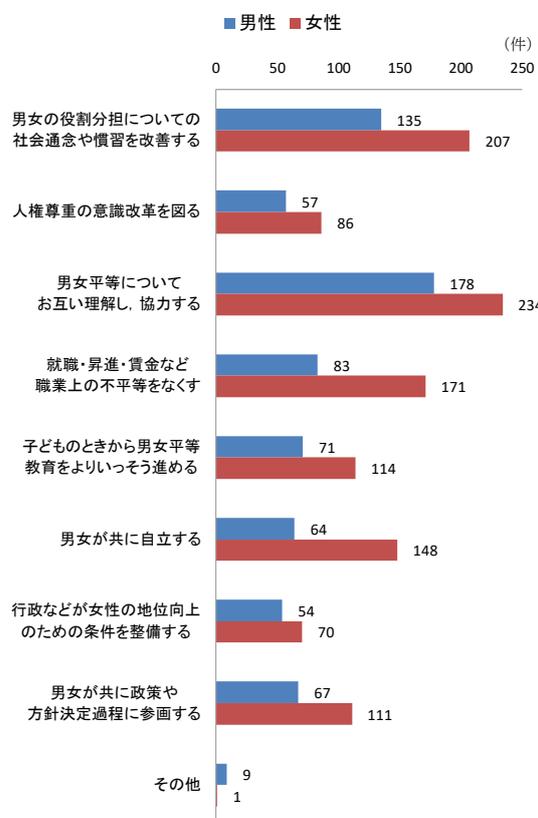
性別では、男女共に「男女平等についてお互い理解し、協力する」が最も多く、男性が女性より10.2ポイント多くなっている。

前回調査と比較すると、女性の「就職・昇進・賃金など職業上の不平等をなくす」が上位となっている。



【今回 (H28)】

【前回 (H24)】

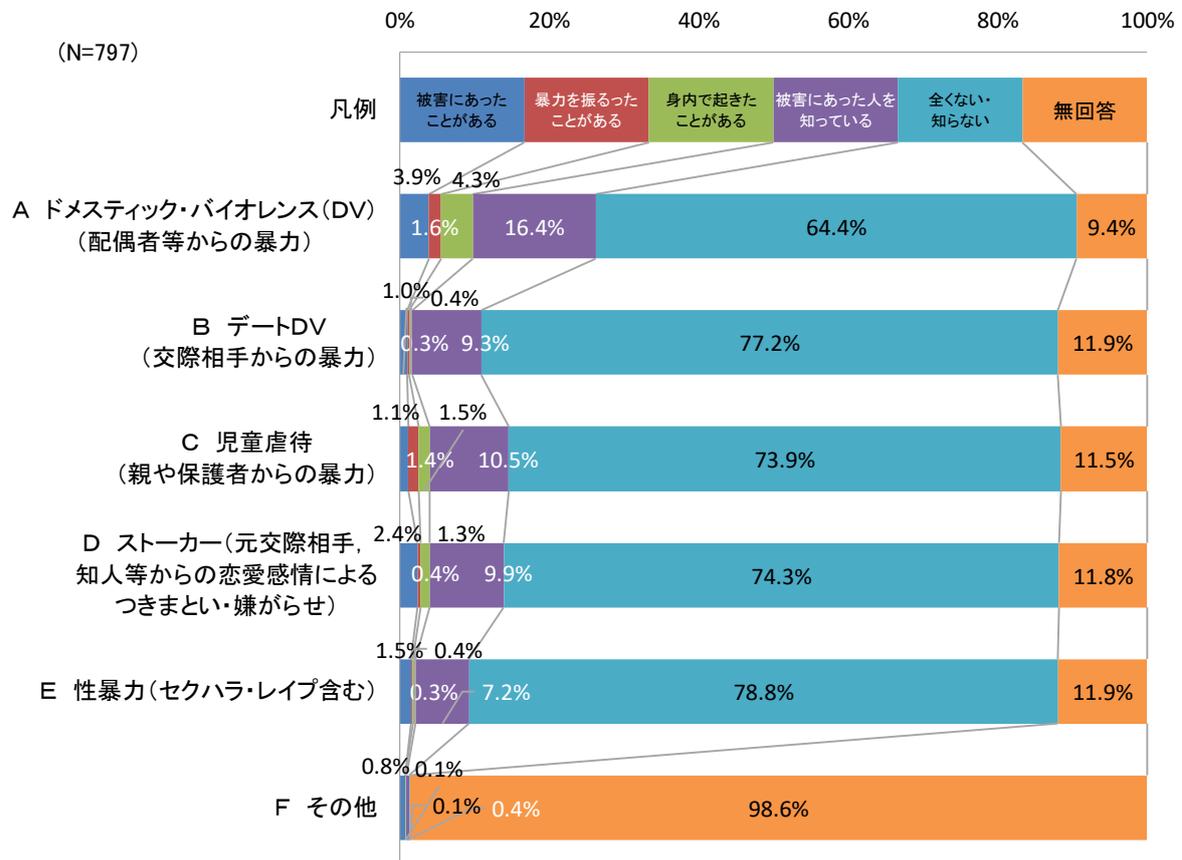


問 21 あなたは、DV（夫・妻（事実婚や別居中，離・死別を含む）や交際相手（過去の相手も含む）からの暴力）や児童虐待，ストーカー（つきまとい・嫌がらせ），性暴力などについて経験したり，見聞きしたりしたことがありますか。A～Fのそれぞれの項目について，右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

DVや交際相手（過去の相手も含む）からの暴力や児童虐待，ストーカー，性暴力などについて経験したり，見聞きしたりしたことがありますかについては，全てにおいて「全くない・知らない」の割合が高くなっている。

次いで，「被害にあった人を知っている」「被害にあったことがある」が多くなっている。

### 総括

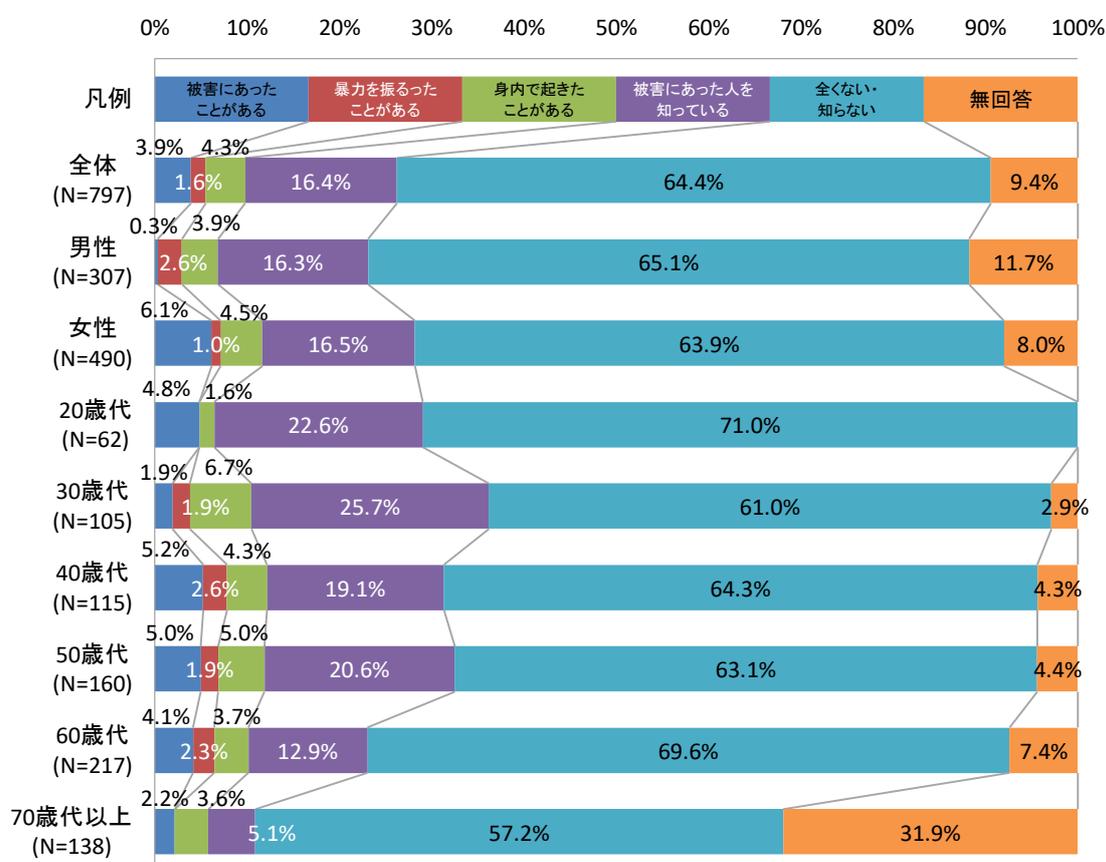


## A ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者等からの暴力)

ドメスティック・バイオレンス (DV) (配偶者等からの暴力) については、「全くない・知らない」が64.4%で最も多く、次いで「被害にあった人を知っている」が16.4%、「身内で起きたことがある」が4.3%となっている。

性別では、女性が「被害にあったことがある」が5.8ポイント多くなっている。

年代別では、「20歳代」「30歳代」「50歳代」で「被害にあった人を知っている」が2割以上で、「70歳代以上」では「被害にあったことがある」「身内で起きたことがある」「被害にあった人を知っている」をあわせて約1割となっている。

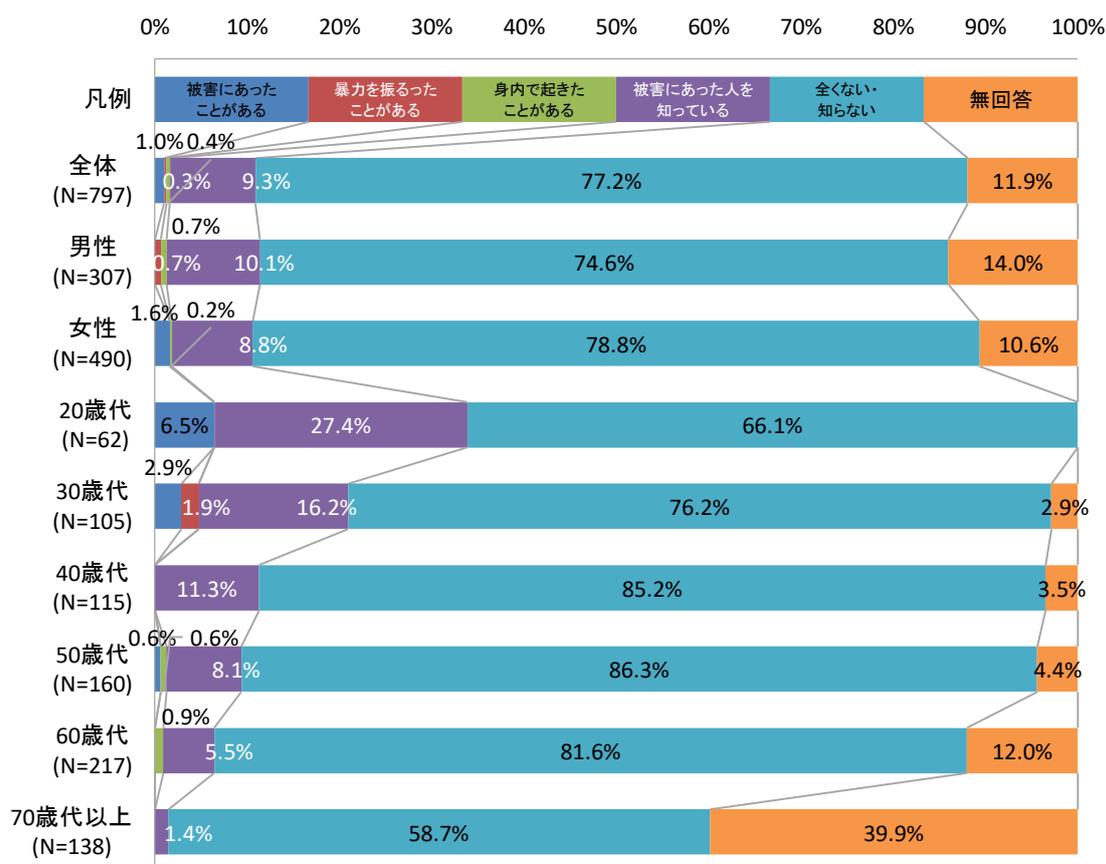


## B デートDV(交際相手からの暴力)

デートDV(交際相手からの暴力)については、「全くない・知らない」が77.2%で最も多く、次いで「被害にあった人を知っている」が9.3%、「被害にあったことがある」が1.0%となっている。

性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、20歳代で「被害にあった人を知っている」が多くなっている。

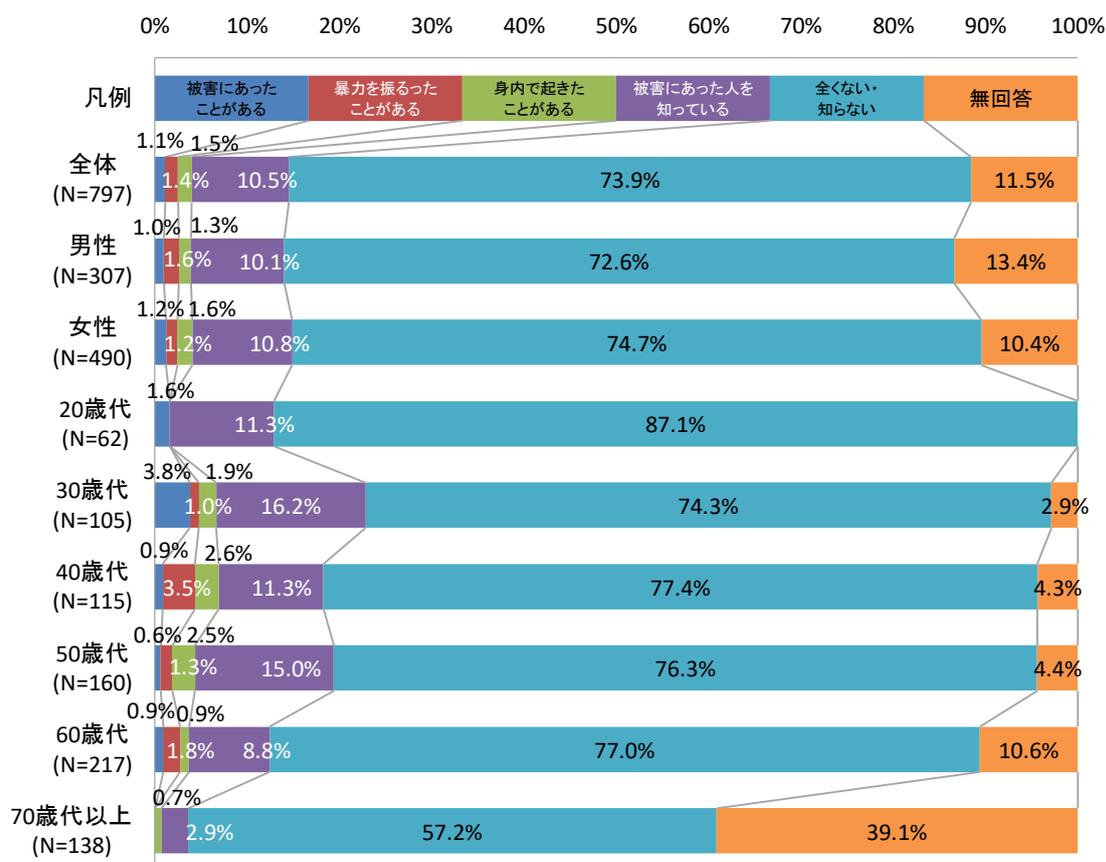


### C 児童虐待(親や保護者からの暴力)

児童虐待(親や保護者からの暴力)については、「全くない・知らない」が73.9%で最も多く、次いで「被害にあった人を知っている」が10.5%、「身内で起きたことがある」が1.5%となっている。

性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、30歳代で「身内で起きたことがある」「被害にあった人を知っている」が多くなっている。

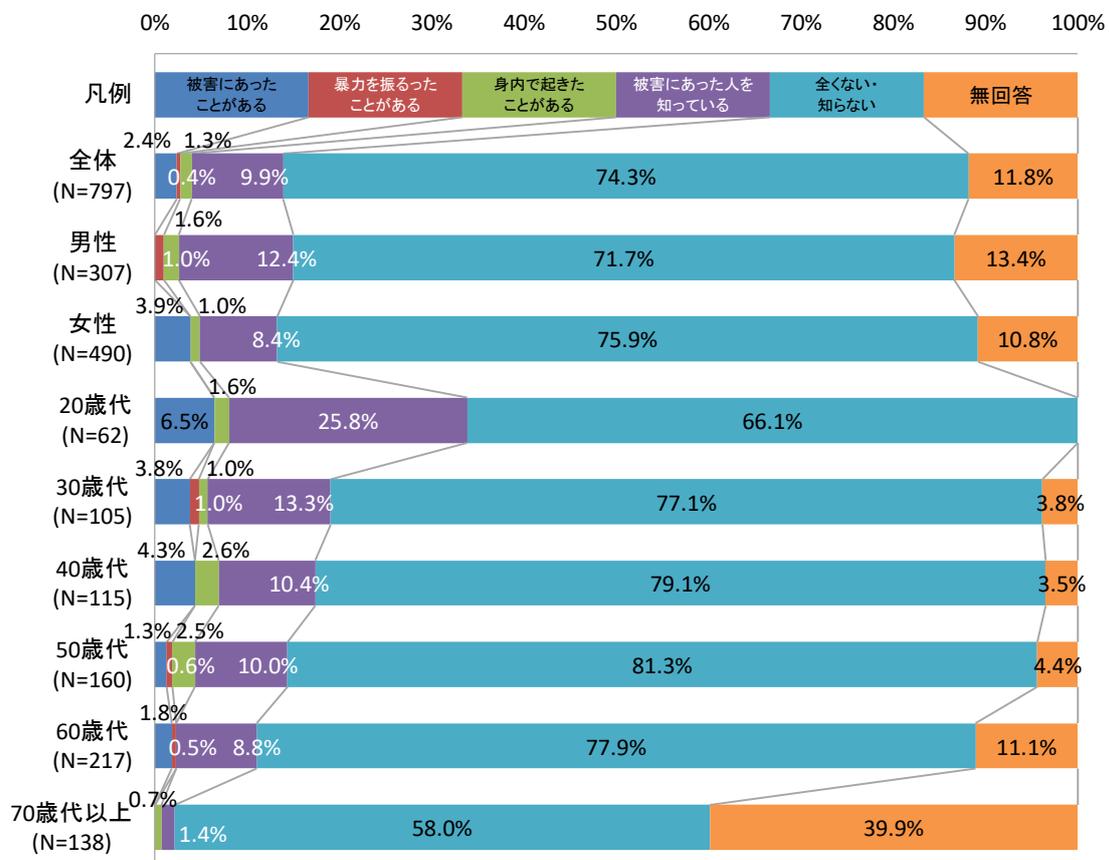


#### D ストーカー(元交際相手, 知人等からの恋愛感情によるつきまとい・嫌がらせ)

ストーカー(元交際相手, 知人等からの恋愛感情によるつきまとい・嫌がらせ)については、「全くない・知らない」が74.3%で最も多く、次いで「被害にあった人を知っている」が9.9%、「被害にあったことがある」が2.4%となっている。

性別では、女性が「被害にあったことがある」が3.9ポイントとなっている。

年代別では、20歳代で「被害にあったことがある」「被害にあった人を知っている」が多くなっている。

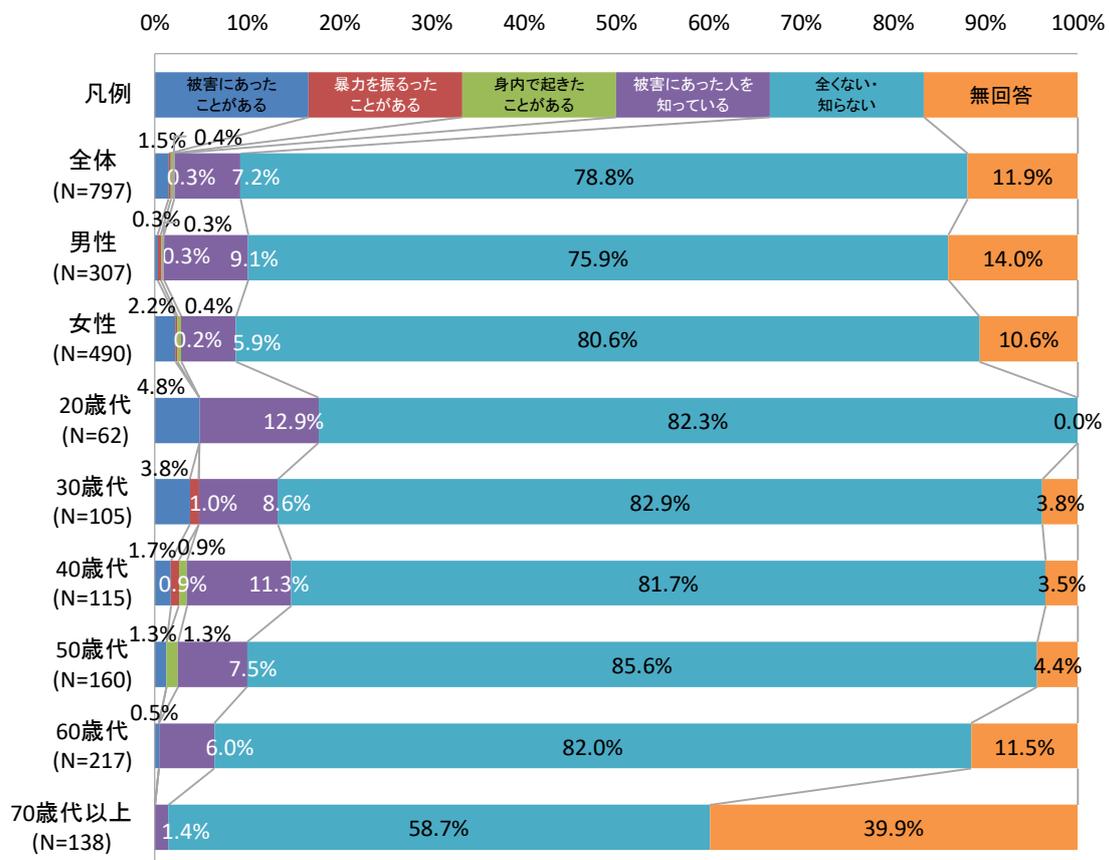


## E 性暴力(セクハラ・レイプ含む)

性暴力(セクハラ・レイプ含む)については、「全くない・知らない」が78.8%で最も多く、次いで「被害にあった人を知っている」が7.2%、「被害にあったことがある」が1.5%となっている。

性別では、大きな差はみられなかった。

年代別では、20歳代で「被害にあったことがある」「被害にあった人を知っている」が多くなっている。



## F その他

その他については、「被害にあったことがある」(0.8%)、「被害にあった人を知っている」(0.4%)、「身内で起きたことがある」(0.1%)、「全くない・知らない」(0.1%)との回答があった。

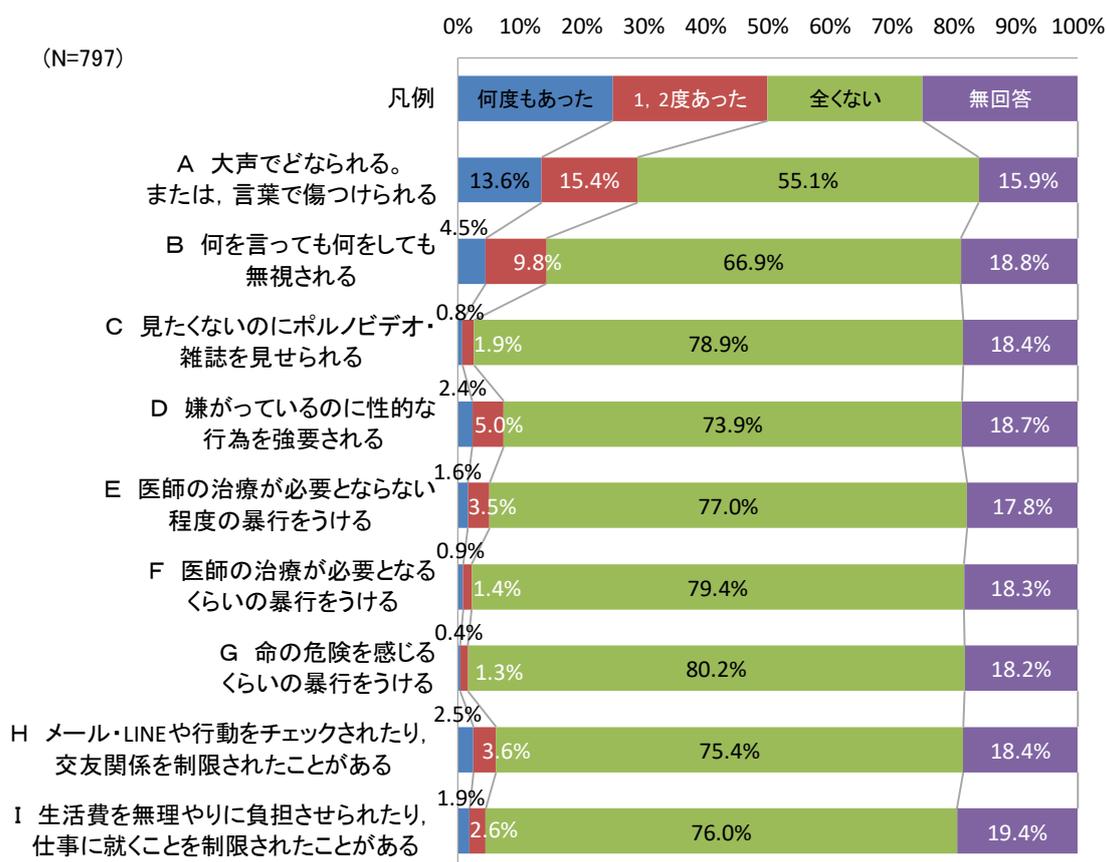
その他
パワハラ
言葉による嫌がらせ
暴力団
老人が家にしつこく来る
アルコール中毒
彼氏から妊娠させられた

問 22 あなたはこれまでに、あなたの夫・妻（事実婚や別居中，離・死別を含む），交際相手（過去の相手も含む）から、次のようなことをされたことがありますか。A～Iのそれぞれの項目について、右欄の1～3にあてはまる番号を1つお選びください。

あなたの夫・妻（事実婚や別居中，離・死別を含む），交際相手（過去の相手も含む）からされたことについては、全てにおいて「全くない」の割合が高くなっている。

「何度もあった」「1, 2度あった」が多かったのは、「大声でどなられる。または、言葉で傷つけられる」で 29.0%，「何を言っても何をしても無視される」で 14.3% となっている。その他においては、10.0%以下となっている。

## 総括



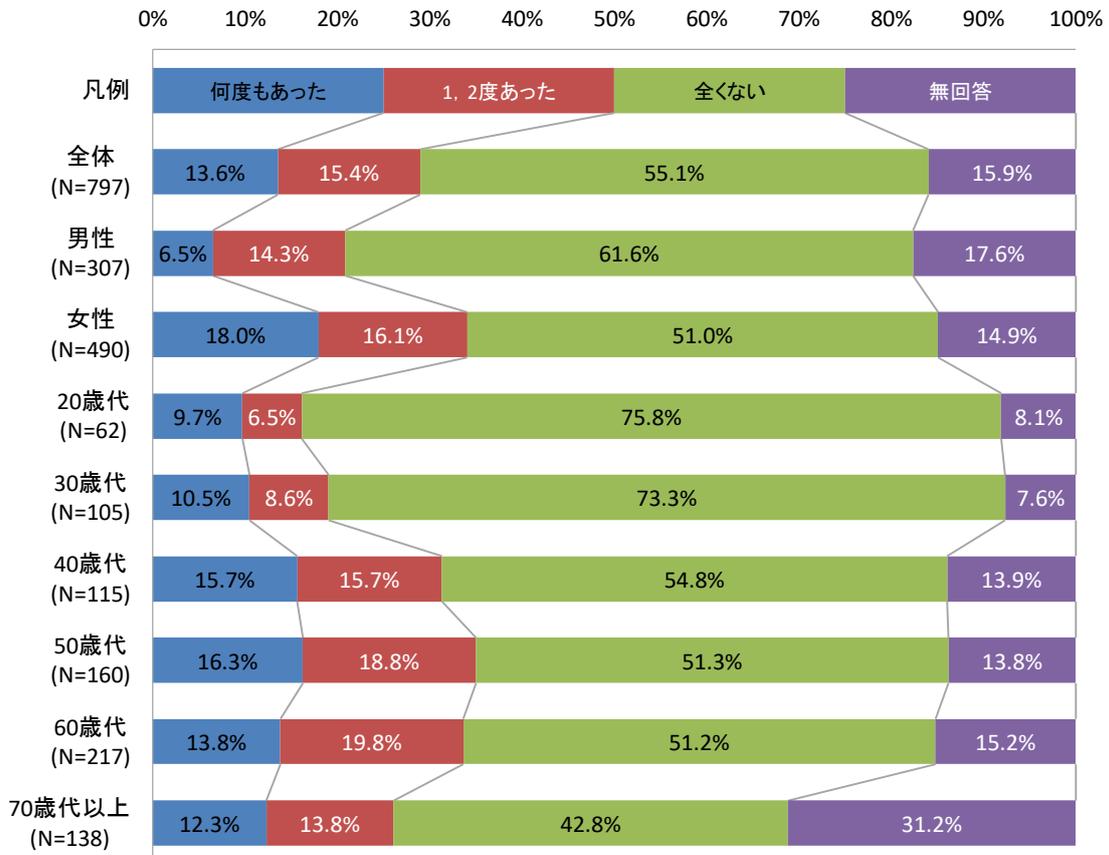
## A 大声でどなられる。または、言葉で傷つけられる

大声でどなられる。または、言葉で傷つけられるについては、「何度もあった」が13.6%、「1, 2度あった」が15.4%、「全くない」が55.1%となっている。

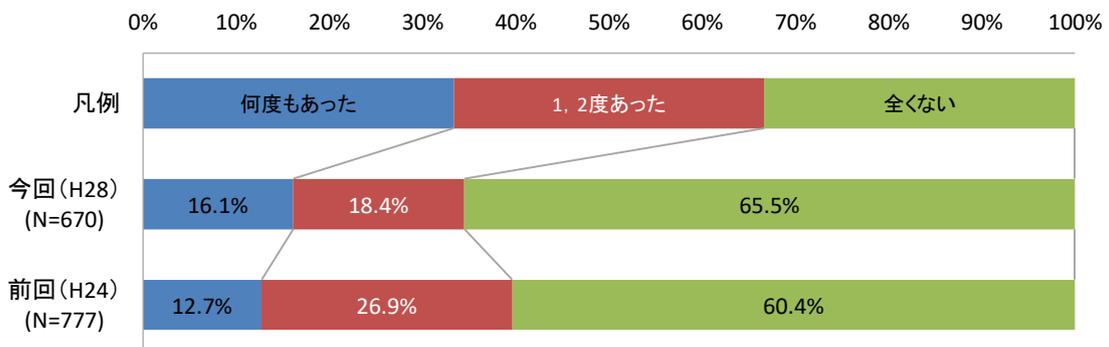
性別では、「何度もあった」が女性が男性より11.5ポイント多くなっている。

年代別では、「40歳代」「50歳代」「60歳代」で（「何どもあった」+「1, 2度あった」）が3割以上となっている。

前回調査と比較すると、「何どもあった」が3.4ポイント増加し、「1, 2度あった」が8.5ポイント減少している。



### 【前回 (H24 との比較)】



※前回との比較部分に関しては、前回と条件を同じにするため無回答を除いて集計している。

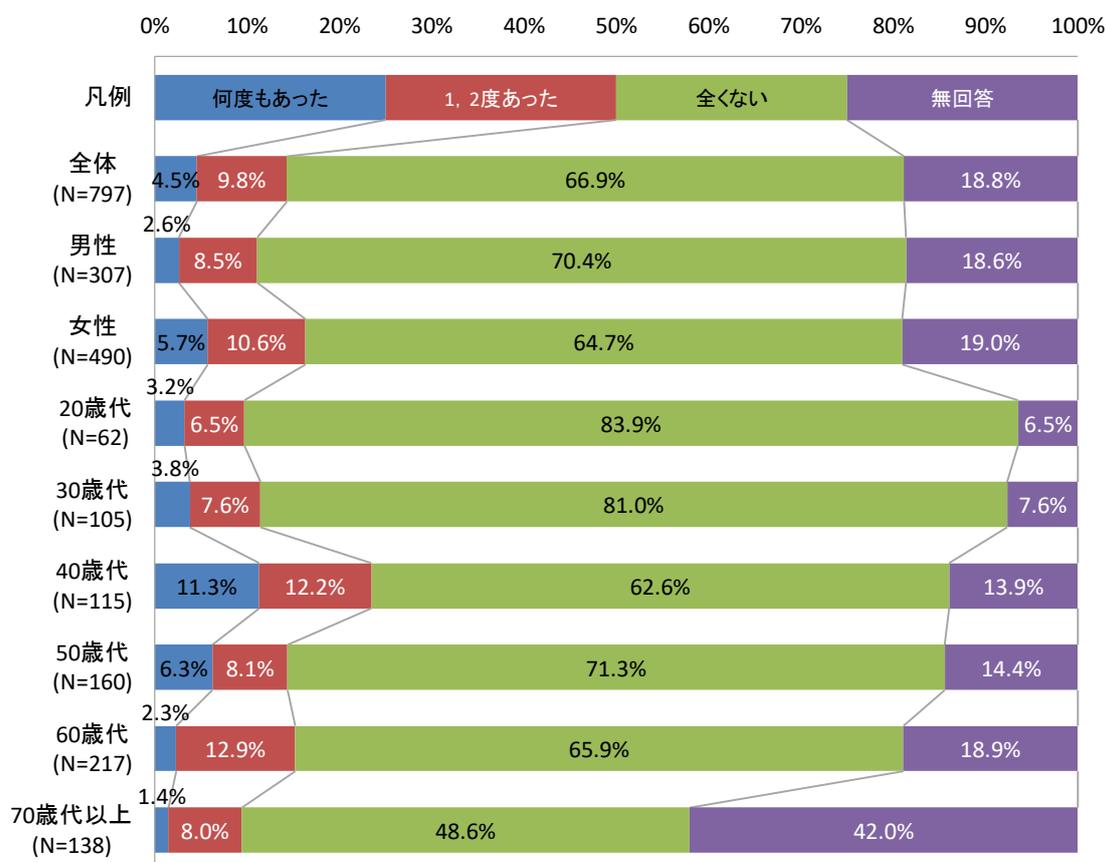
## B 何を言っても何をしても無視される

何を言っても何をしても無視されるについては、「何度もあった」が4.5%、「1, 2度あった」が9.8%、「全くない」が66.9%となっている。

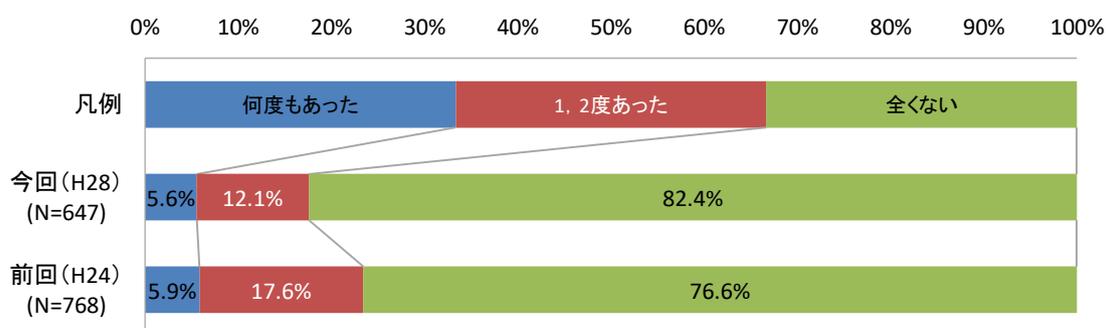
性別では、女性が（「何度もあった」＋「1, 2度あった」）が5.2ポイント多くなっている。

年代別では、「40歳代」で（「何どもあった」＋「1, 2度あった」）が2割以上となっている。

前回調査と比較すると、「1, 2度あった」が5.5ポイント減少している。



### 【前回 (H24 との比較)】

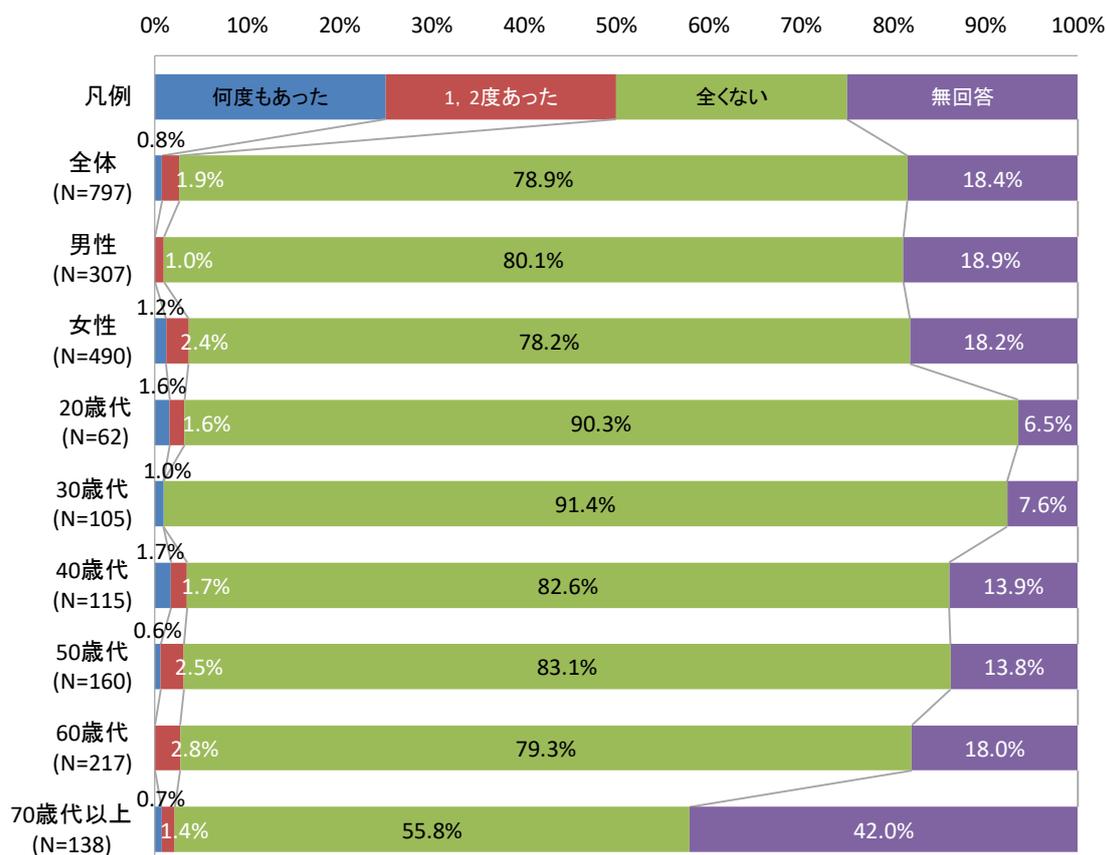


※前回との比較部分に関しては、前回と条件を同じにするため無回答を除いて集計している。

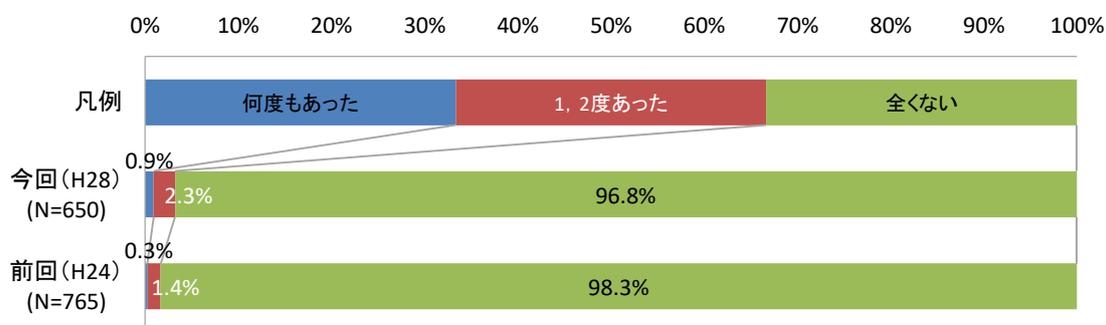
### C 見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられる

見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられるについては、「何度もあった」が0.8%、「1, 2度あった」が1.9%、「全くない」が78.9%となっている。

性別、年代別、前回調査では、大きな差はみられなかった。



#### 【前回 (H24 との比較)】



※前回との比較部分に関しては、前回と条件を同じにするため無回答を除いて集計している。

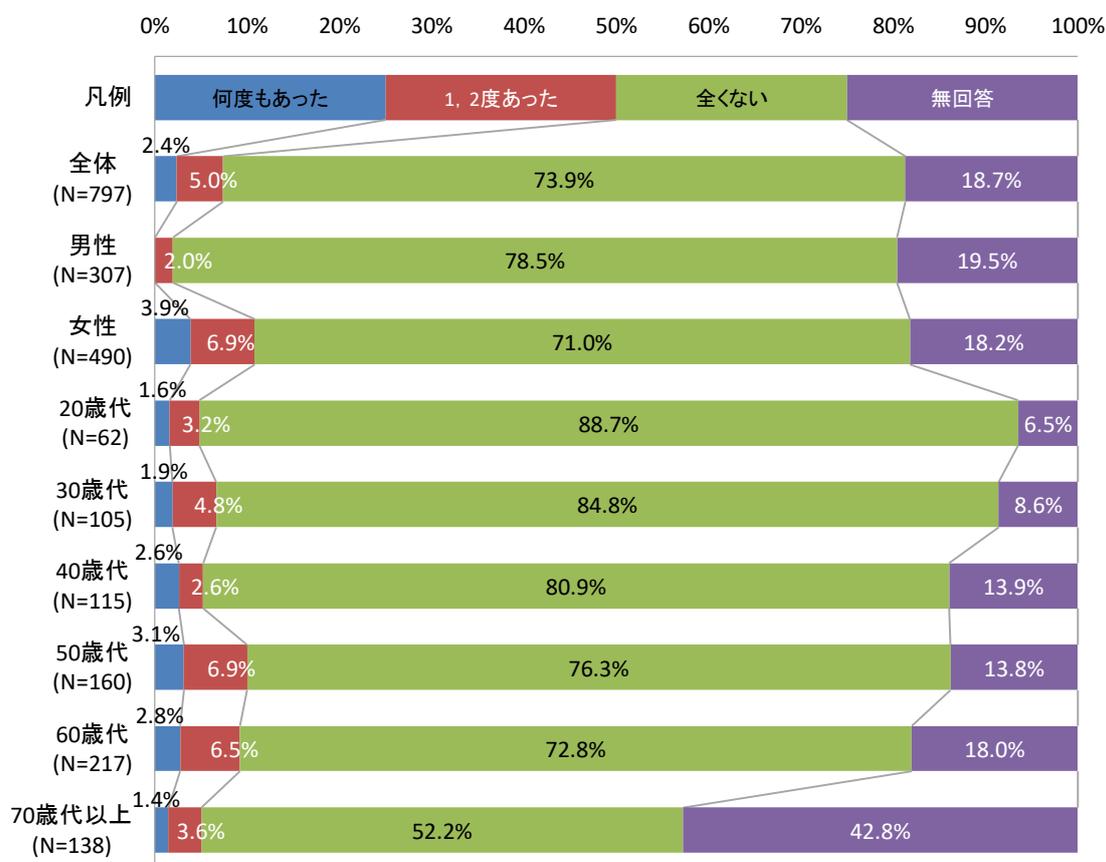
## D 嫌がっているのに性的な行為を強要される

嫌がっているのに性的な行為を強要されるについては、「何度もあった」が2.4%、「1, 2度あった」が5.0%、「全くない」が73.9%となっている。

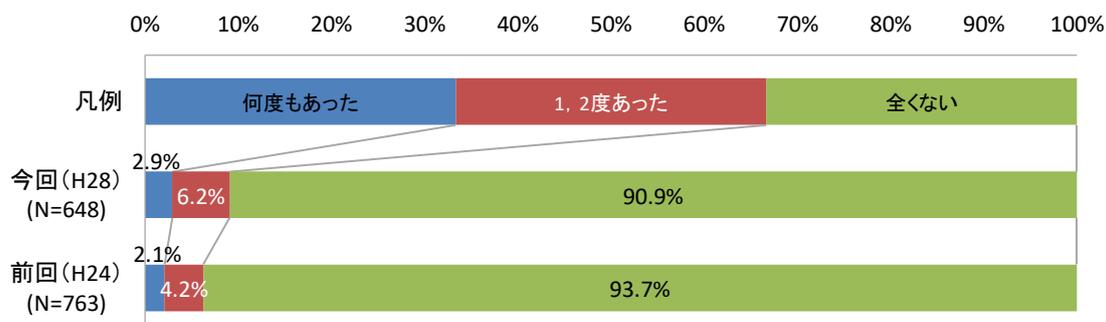
性別では、女性が（「何度もあった」＋「1, 2度あった」）が8.8ポイント多くなっている。

年代別では、「50歳代」で（「何どもあった」＋「1, 2度あった」）が最も多くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられなかった。



### 【前回 (H24 との比較)】



※前回との比較部分に関しては、前回と条件を同じにするため無回答を除いて集計している。

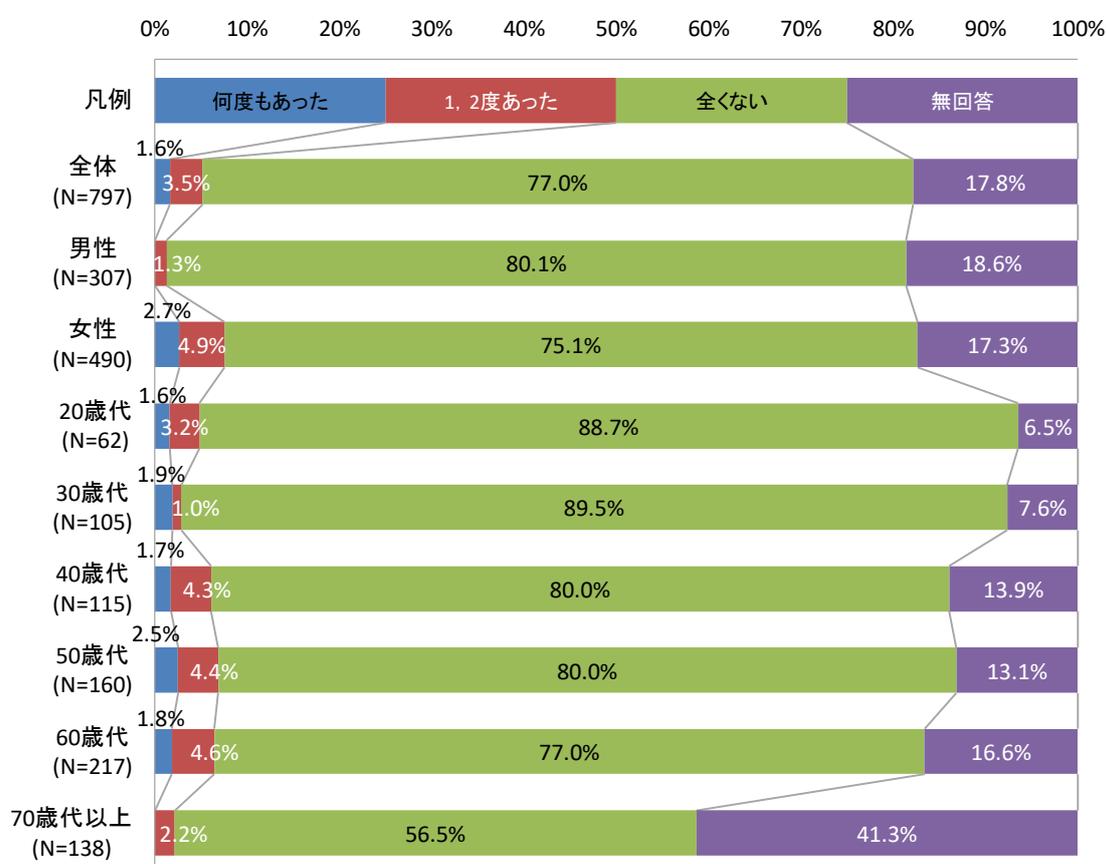
## E 医師の治療が必要とされない程度の暴行を受ける

医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けるについては、「何度もあった」が1.6%、「1, 2度あった」が3.5%、「全くない」が77.0%となっている。

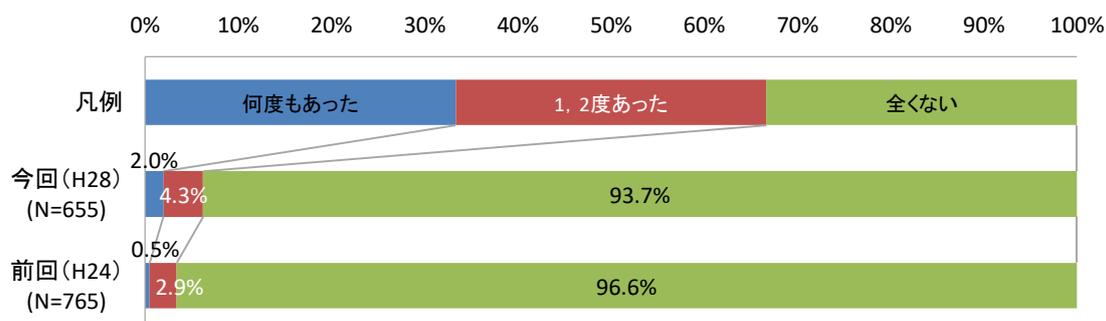
性別では、女性が（「何どもあった」＋「1, 2度あった」）が6.3ポイント多くなっている。

年代別では、「40歳代」「50歳代」「60歳代」で（「何どもあった」＋「1, 2度あった」）が6.0%以上となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられなかった。



### 【前回 (H24 との比較)】



※前回との比較部分に関しては、前回と条件を同じにするため無回答を除いて集計している。

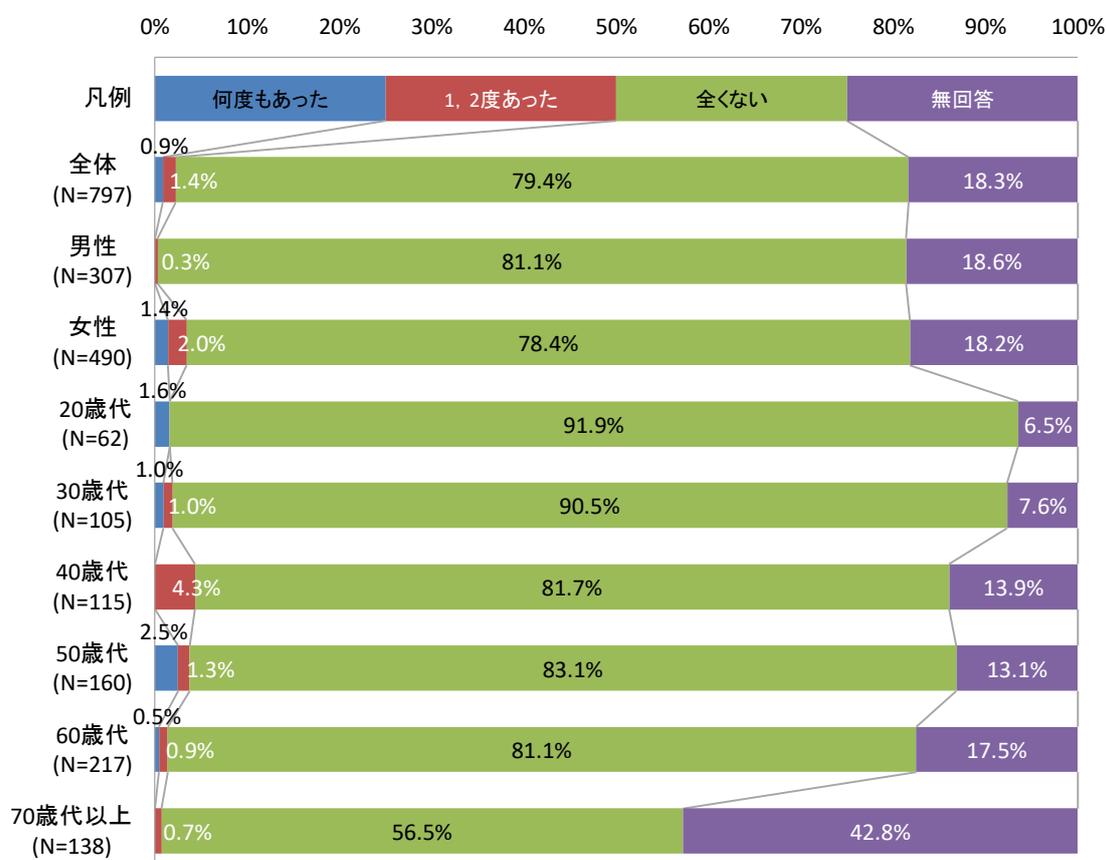
## F 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける

医師の治療が必要となるくらいの暴行を受けるについては、「何度もあった」が0.9%、「1, 2度あった」が1.4%、「全くない」が79.4%となっている。

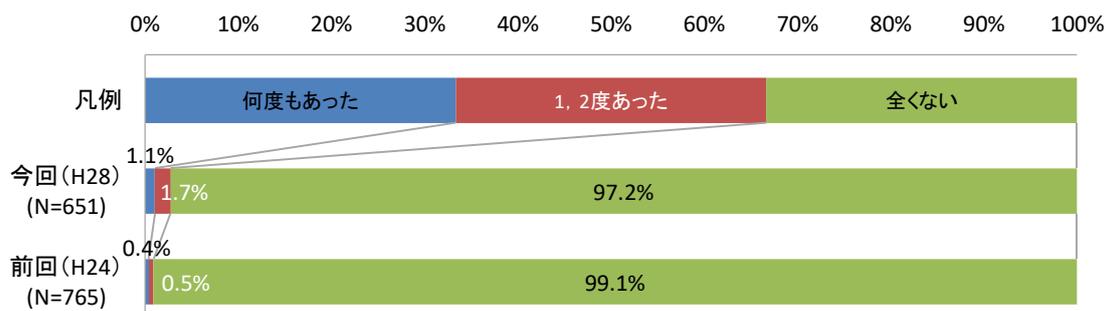
性別では、女性が（「何度もあった」＋「1, 2度あった」）が3.2ポイント多くなっている。

年代別では、「40歳代」で（「何どもあった」＋「1, 2度あった」）が4.3%で最も多くなっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられなかった。



### 【前回 (H24 との比較)】



※前回との比較部分に関しては、前回と条件を同じにするため無回答を除いて集計している。

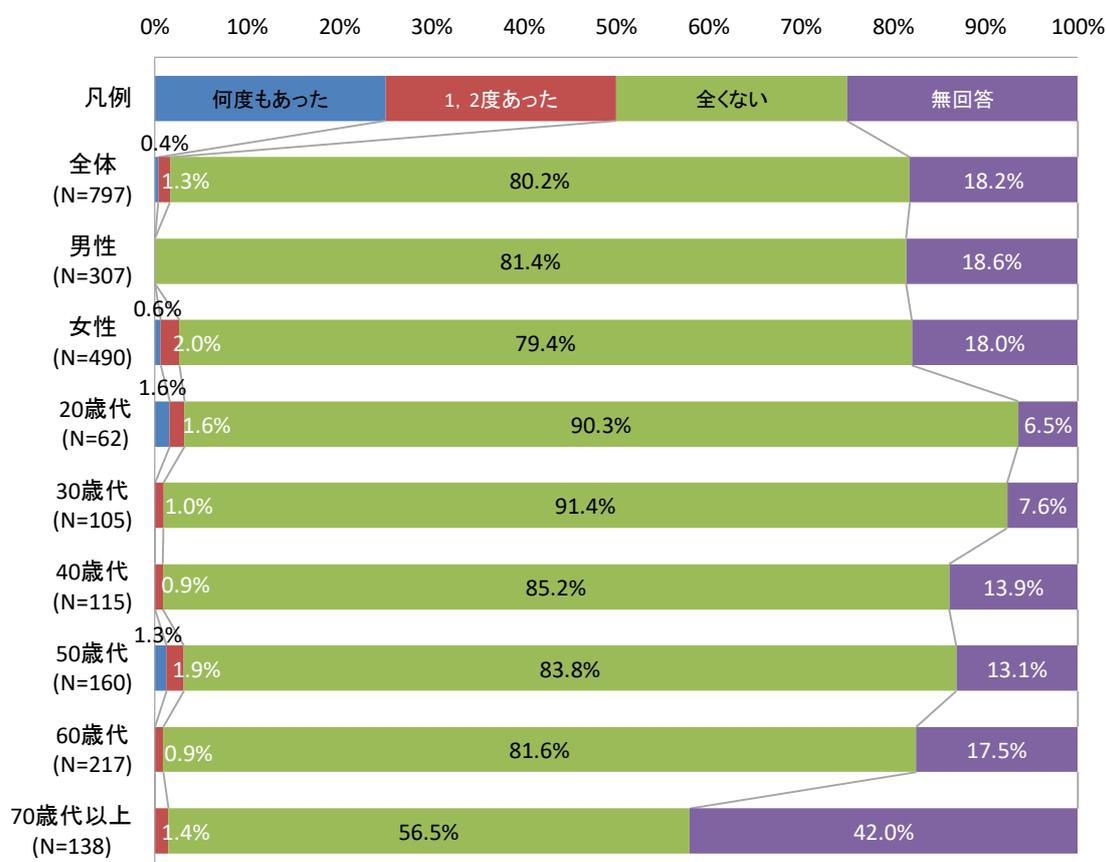
## G 命の危険を感じるくらいの暴行をうける

命の危険を感じるくらいの暴行をうけるについては、「何度もあった」が 0.4%、「1, 2度あった」が 1.3%、「全くない」が 80.2%となっている。

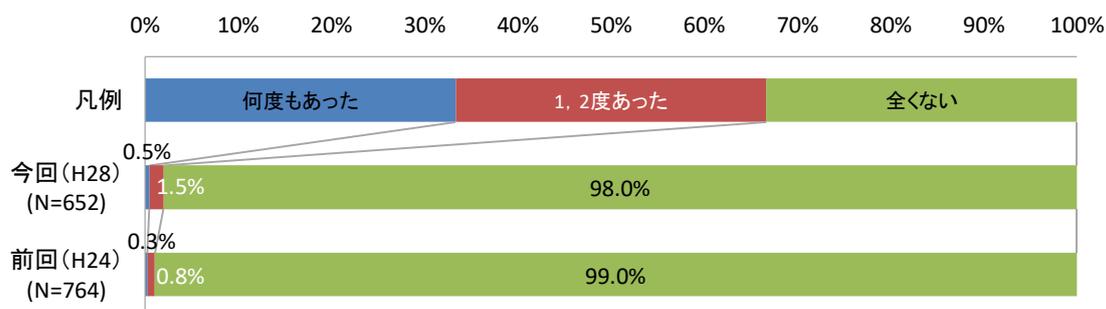
性別では、女性が（「何度もあった」＋「1, 2度あった」）2.7がポイント多くなっている。

年代別では、「20歳代」「50歳代」で（「何度もあった」＋「1, 2度あった」）が 3.0%以上となっている。

前回調査と比較すると、大きな差はみられなかった。



【前回 (H24 との比較)】



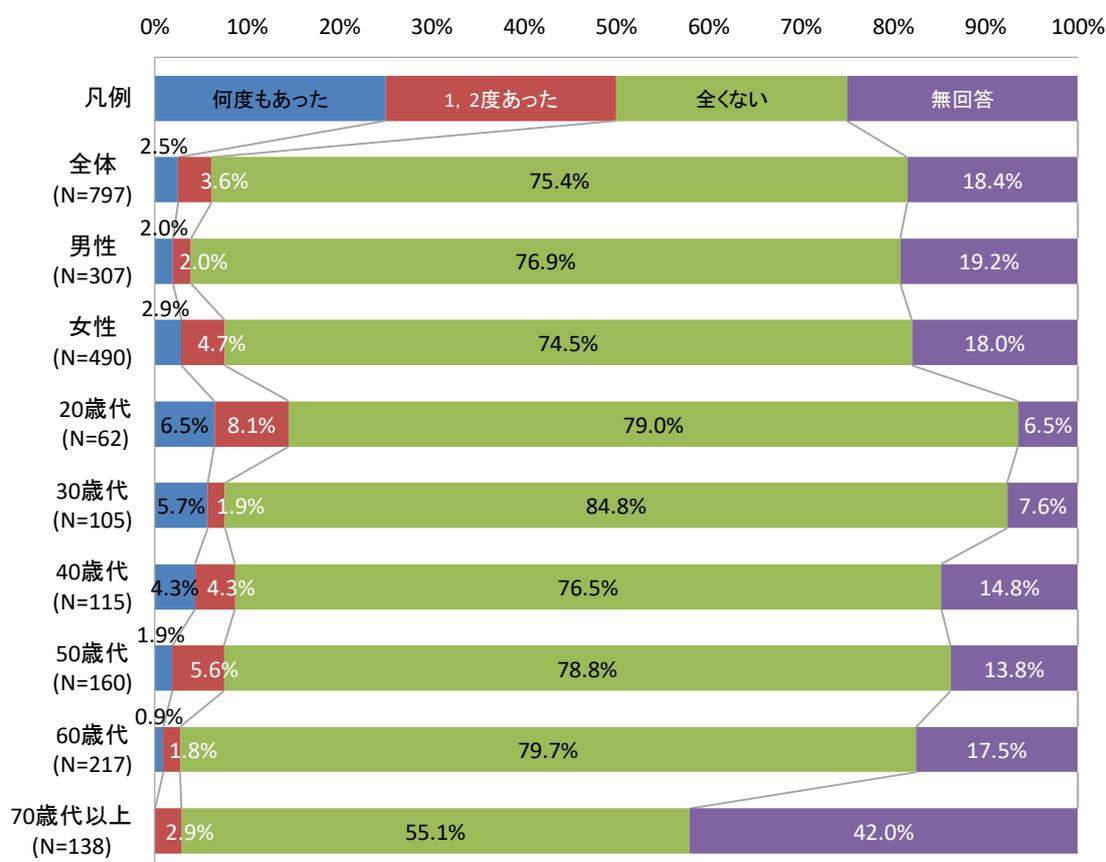
※前回との比較部分に関しては、前回と条件を同じにするため無回答を除いて集計している。

## H メール・LINE や行動をチェックされたり、交友関係を制限されたことがある

メール・LINE や行動をチェックされたり、交友関係を制限されたことがあるについては、「何度もあった」が2.5%、「1, 2度あった」が3.6%、「全くない」が75.4%となっている。

性別では、女性が（「何度もあった」＋「1, 2度あった」）3.7がポイント多くなっている。

年代別では、「20歳代」で（「何度もあった」＋「1, 2度あった」）が14.5%と最も多く、その他の年代と大きな差がみられた。

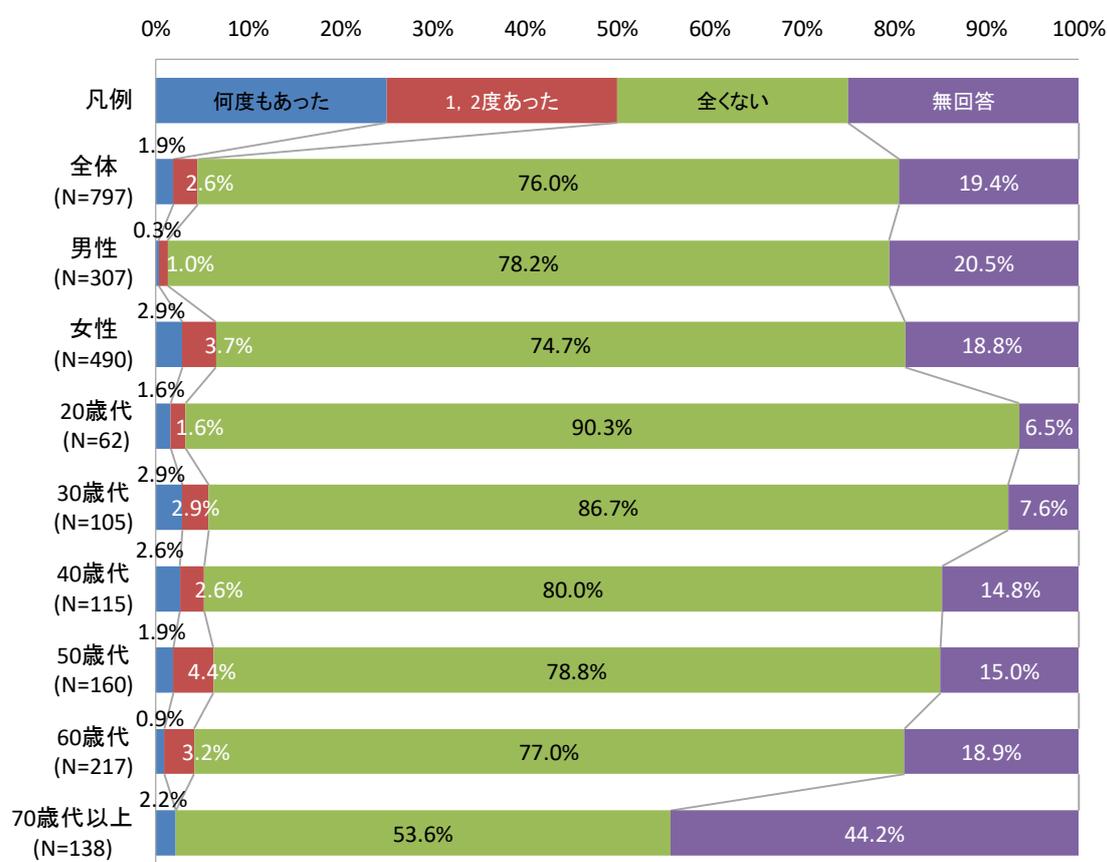


## I 生活費を無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたことがある

生活費を無理やりに負担させられたり、仕事に就くことを制限されたことがあるについては、「何度もあった」が1.9%、「1, 2度あった」が2.6%、「全くない」が76.0%となっている。

性別では、女性が（「何度もあった」＋「1, 2度あった」）が5.2ポイント多くなっている。

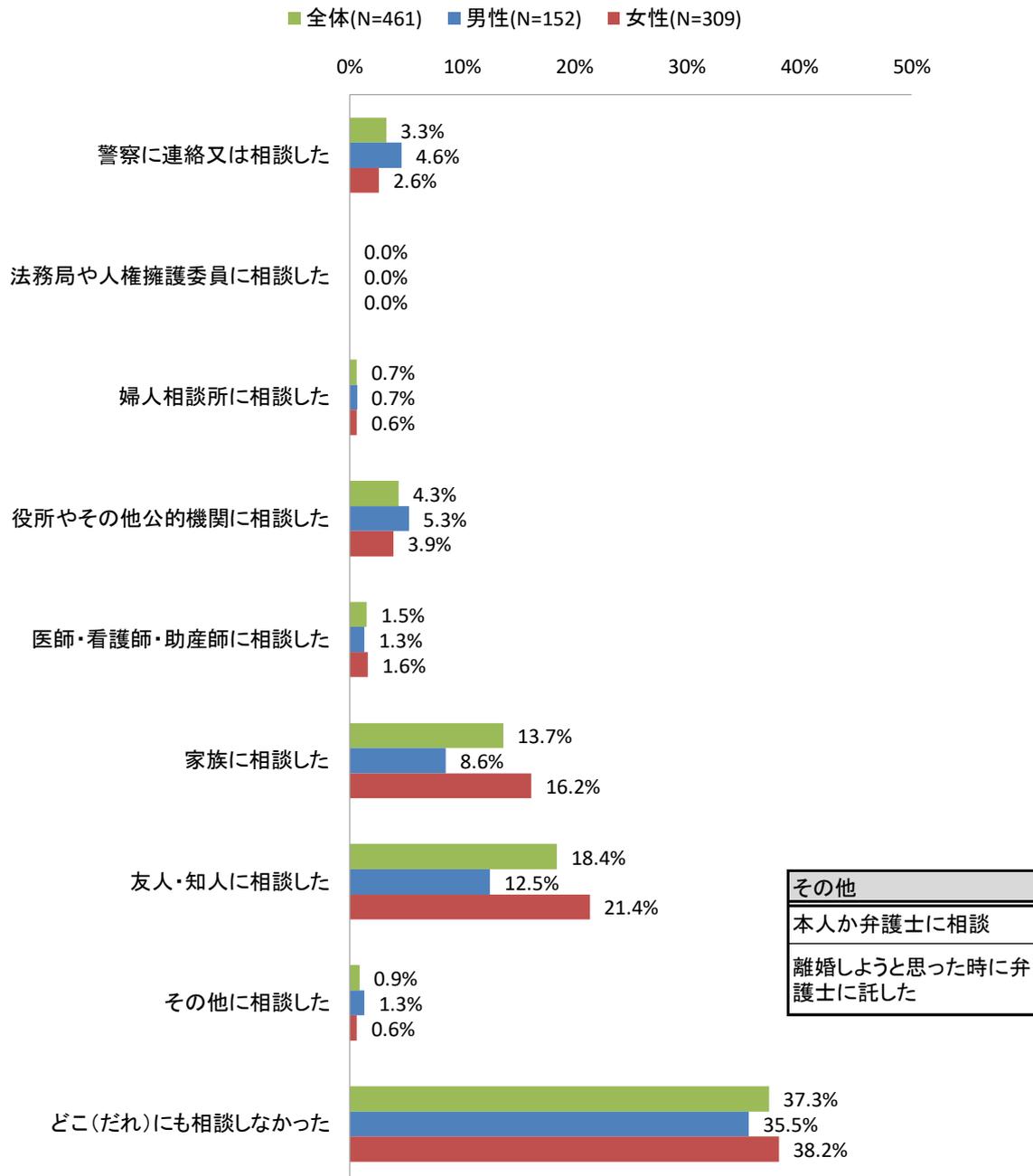
年代別では、「50歳代」で（「何度もあった」＋「1, 2度あった」）が6.3%と最も多くなっている。



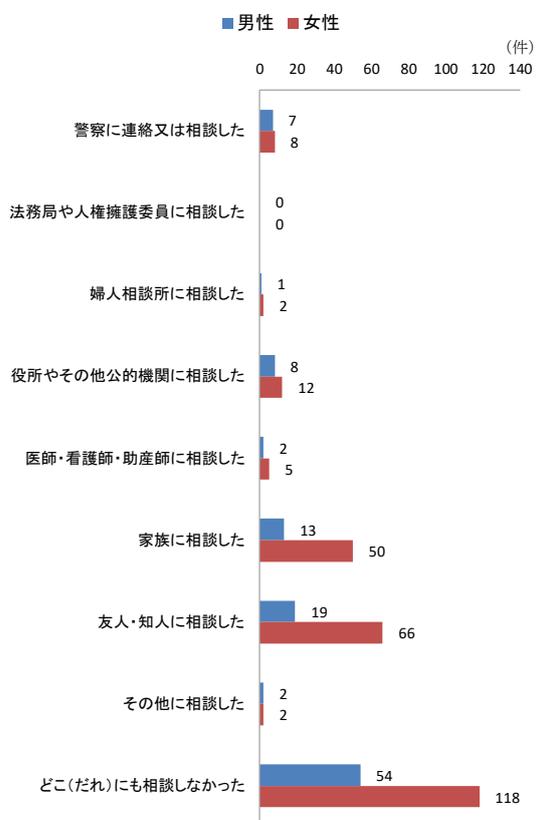
問 23 【問 21】【問 22】の回答で該当する方のみお答えください。そのようなとき、あなたはどうしましたか。あてはまる番号を3つ以内でお選びください。

被害後の行動については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 37.3%で最も多く、次いで「友人・知人に相談した」が 18.4%、「家族に相談した」が 13.7%となっている。

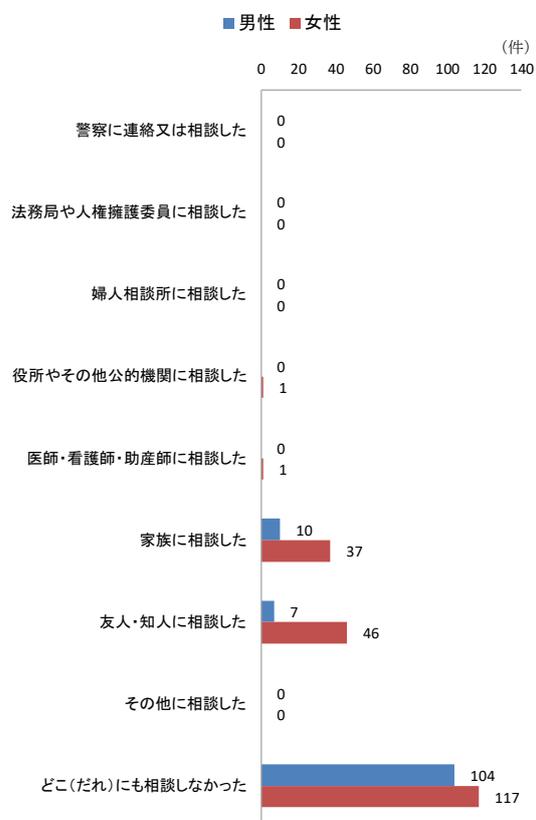
前回調査と比較すると「警察に連絡又は相談した」「役所やその他公的機関に相談した」が増加している。



【今回 (H28)】



【前回 (H24)】

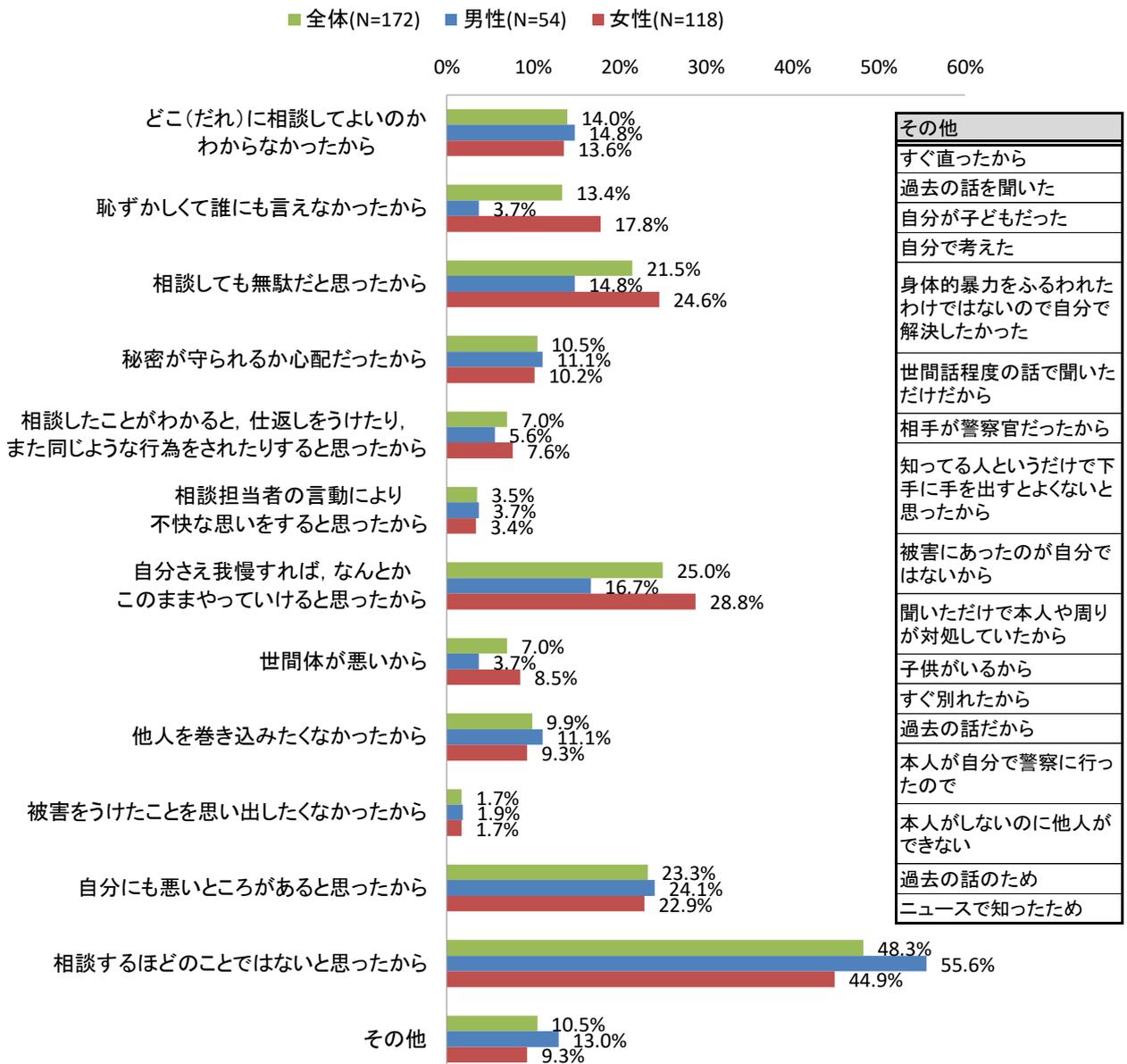


問 24 【問 23】で「9 どこ（だれ）にも誰にも相談しなかった」を選んだ方におたずねします。どこにも誰にも相談しなかった（できなかった）のは、どのような理由からですか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

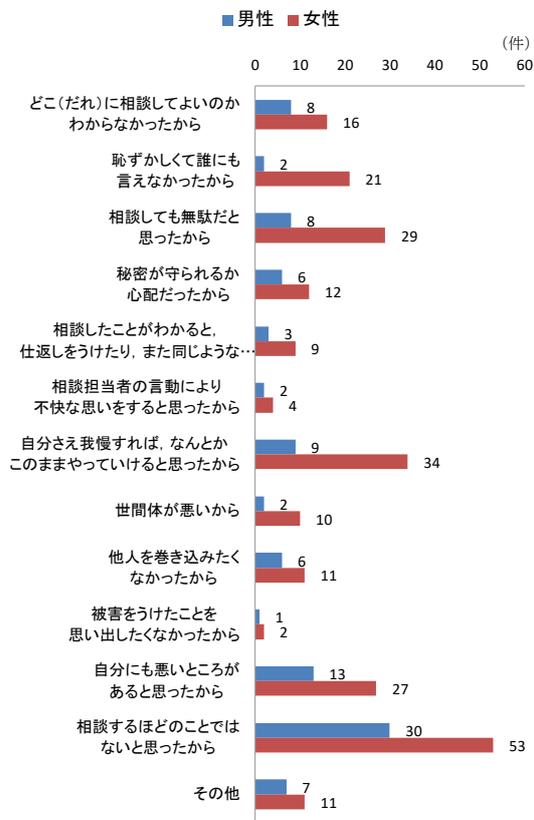
誰にも相談しなかった（できなかった）のは、どのような理由からですかについては、「相談するほどのことではないと思ったから」が 48.3%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 25.0%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 23.3%となっている。

性別では、男女共に「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、次いで、男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」、女性では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」となっている。

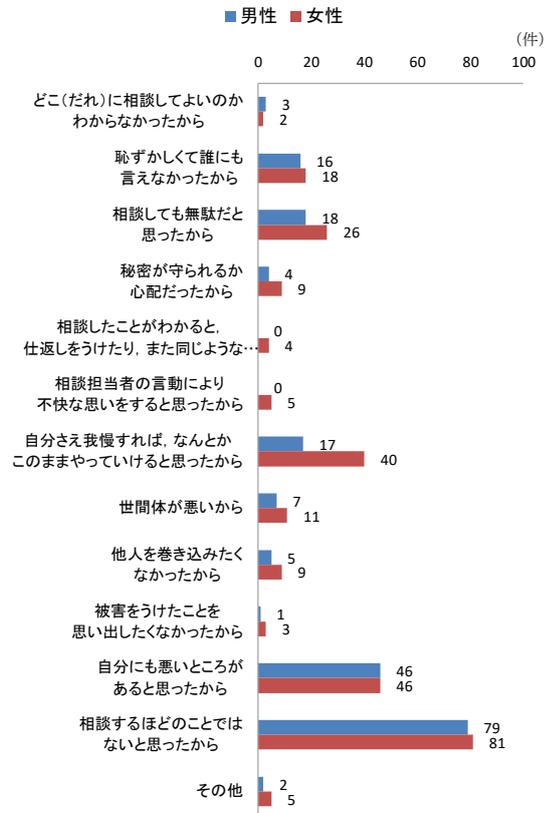
前回調査と比較すると、男性では「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が減少し、女性では「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」が増加している。



【今回 (H28)】

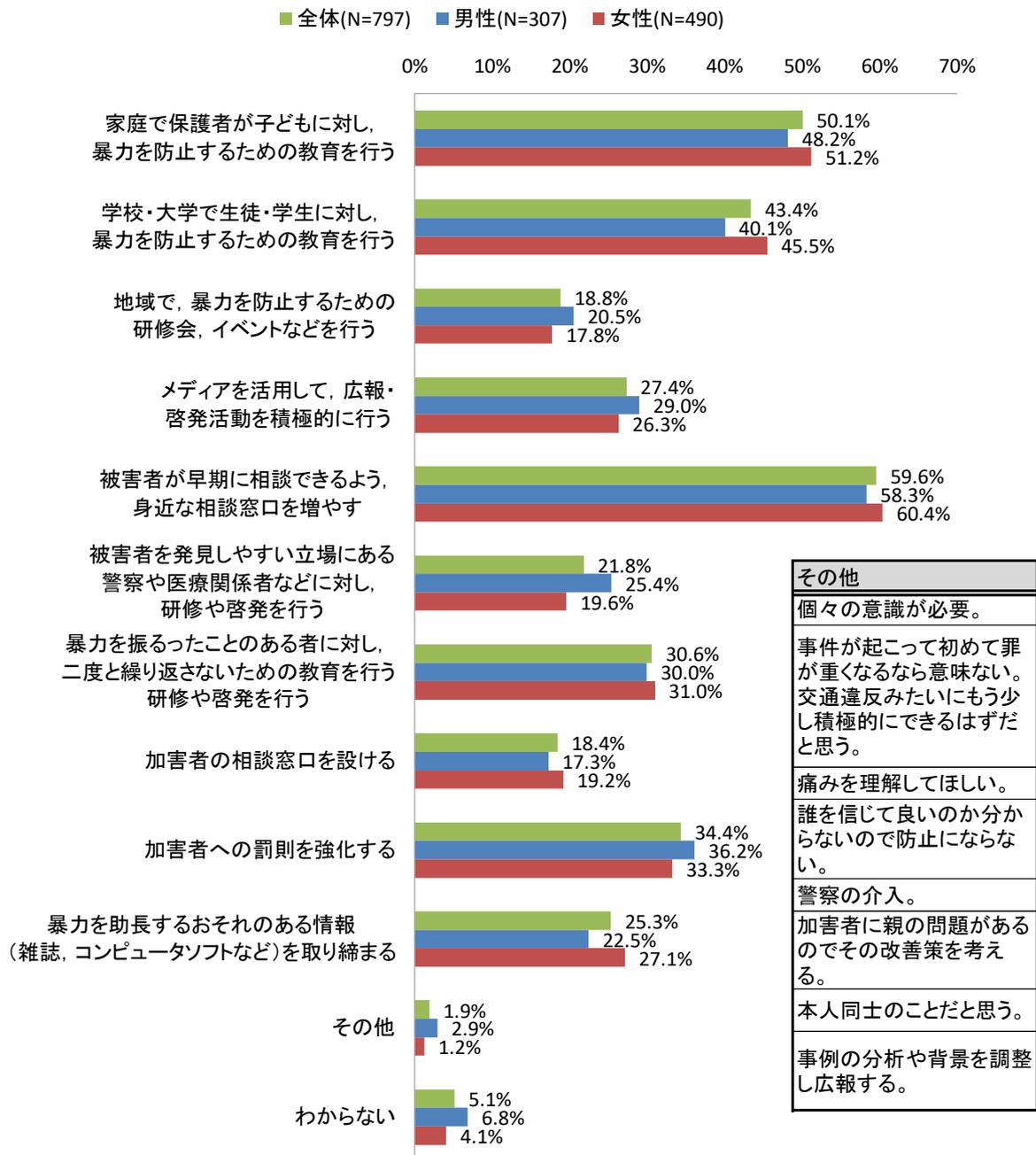


【前回 (H24)】



問 25 あなたは、男女間における暴力や児童虐待などを防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

男女間における暴力や児童虐待などを防止するためには、どのようなことが必要かについては、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が59.6%で最も多く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が50.1%、「学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が43.4%となっている。



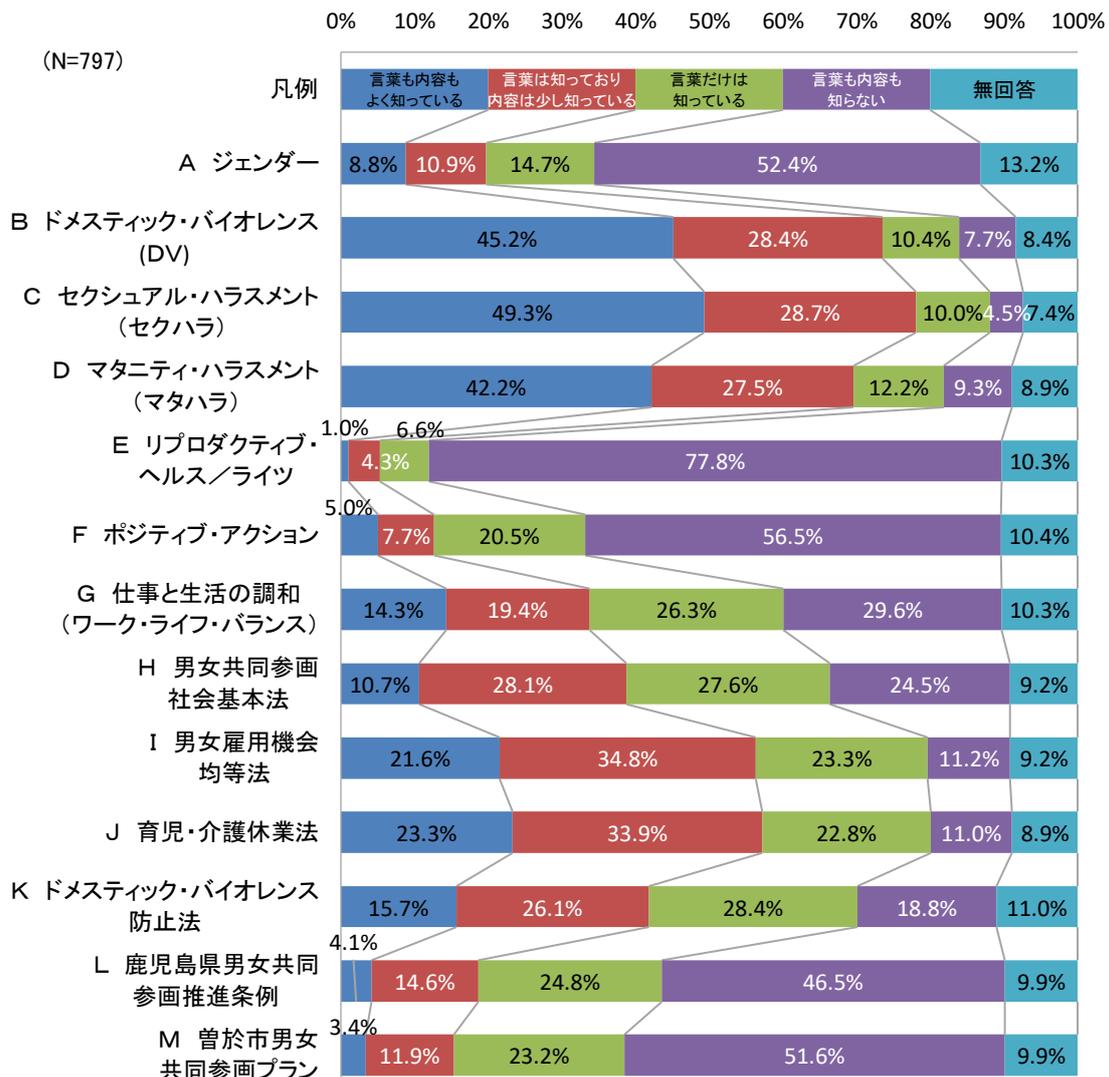
問 26 あなたは、次の言葉についてご存知ですか。A～Jのそれぞれの項目について右欄の1～4にあてはまる番号を1つお選びください。

知っている言葉については、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）がドメスティック・バイオレンス(DV)、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）、マタニティ・ハラスメント（マタハラ）、育児・介護休業法が8割以上となっている。

この中で、ドメスティック・バイオレンス(DV)、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）、マタニティ・ハラスメント（マタハラ）、は「言葉も内容もよく知っている」が4割以上となり、認知度が高いことが伺える。

「言葉も内容も知らない」はリプロダクティブ・ヘルス/ライツが77.8%と最も多く、次いでポジティブ・アクションが56.5%、ジェンダー52.4%、曾於市男女共同参画プラン51.6%となっている

## 総括



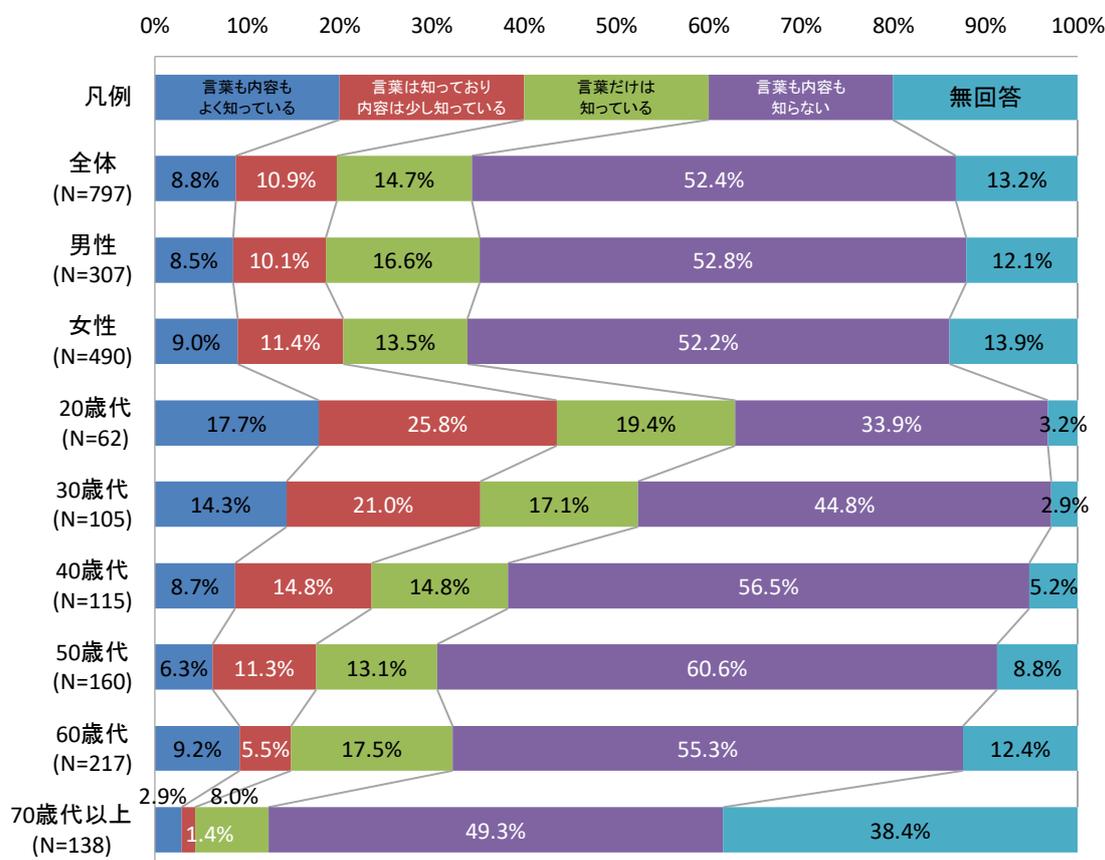
## A ジェンダー

ジェンダーについては、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が34.4%、「言葉も内容も知らない」が52.4%となっている。

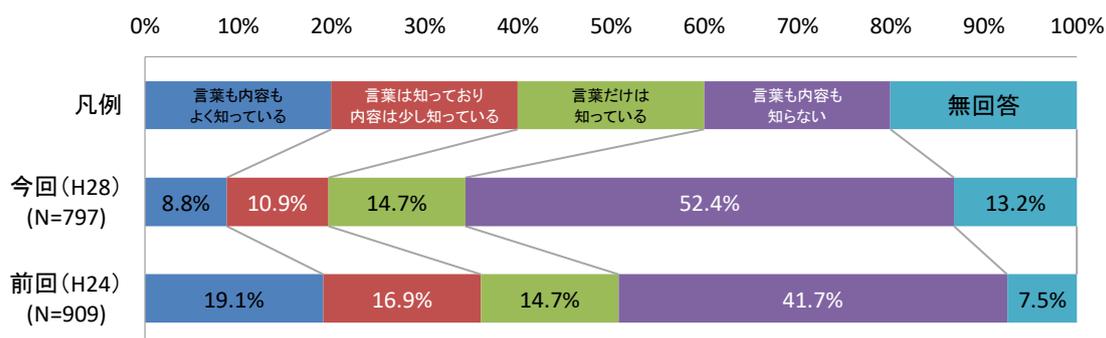
性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「20歳代」が62.9%で最も多く、年齢が上がるごとに認知度が低いことが伺える。

前回調査と比較すると、「言葉も内容も知らない」が10.7ポイント増加していて認知度が低くなっている。



### 【前回 (H24 との比較)】



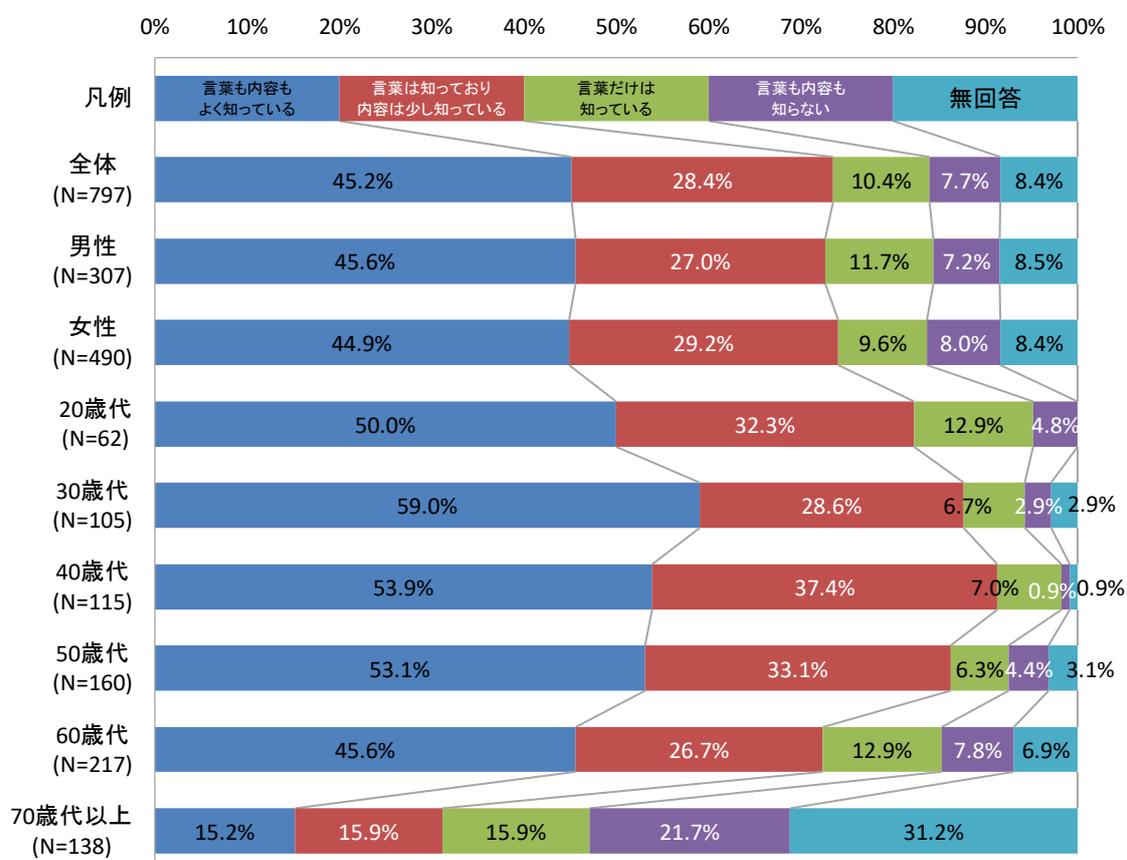
## B ドメスティック・バイオレンス(DV)

ドメスティック・バイオレンス(DV)については、「知っている」(言葉も内容もよく知っている+言葉は知っており内容は少し知っている+言葉だけは知っている)が83.9%となっている。

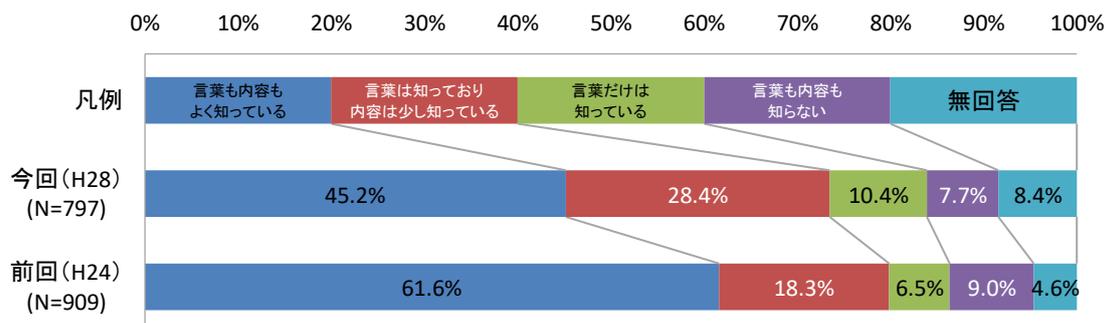
性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「70歳代以上」を除きすべての年代が8割以上となっていて認知度が高いことが伺える。

前回調査と比較すると、「言葉も内容もよく知っている」が16.4ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



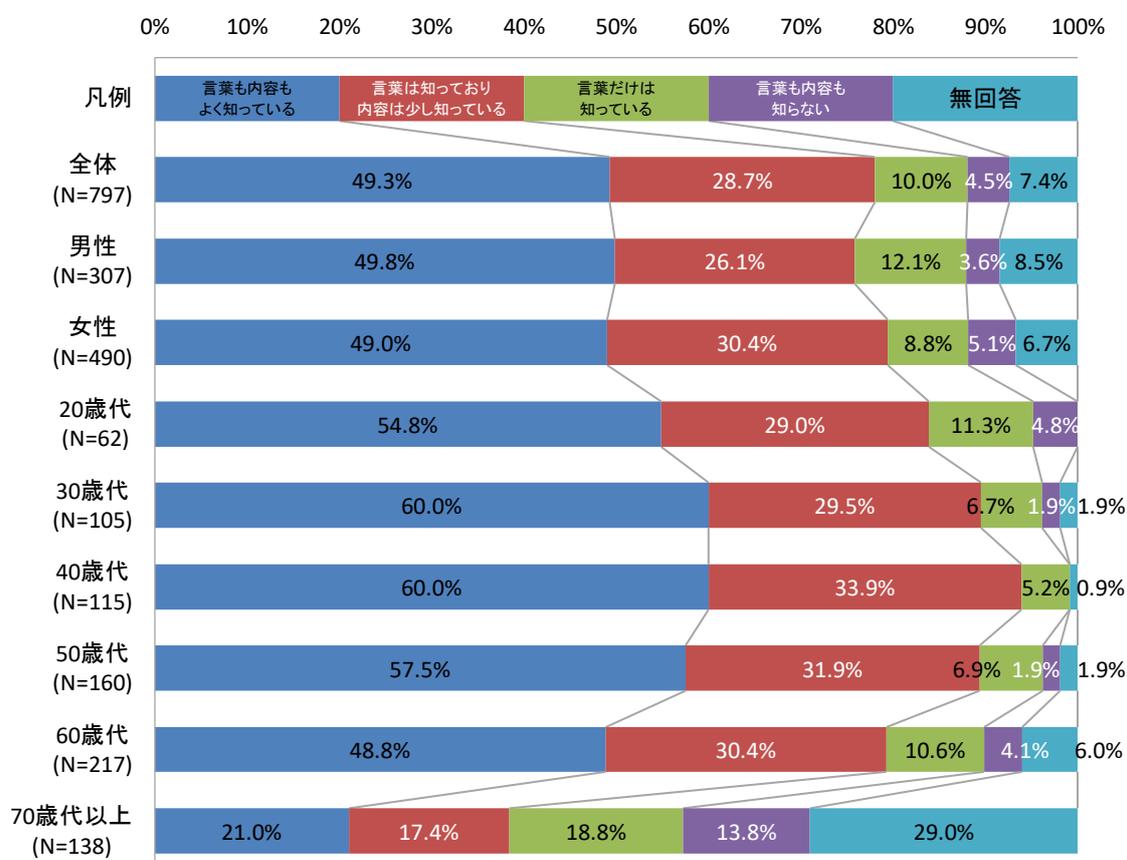
### C セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)

セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）については、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が88.1%となっている。

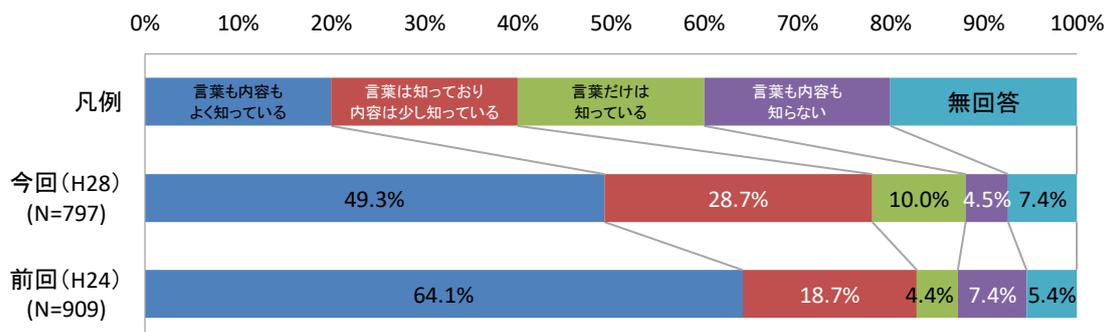
性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「70歳代以上」を除きすべての年代が8割以上となっていて認知度が高いことが伺える。

前回調査と比較すると、「言葉も内容もよく知っている」が14.8ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



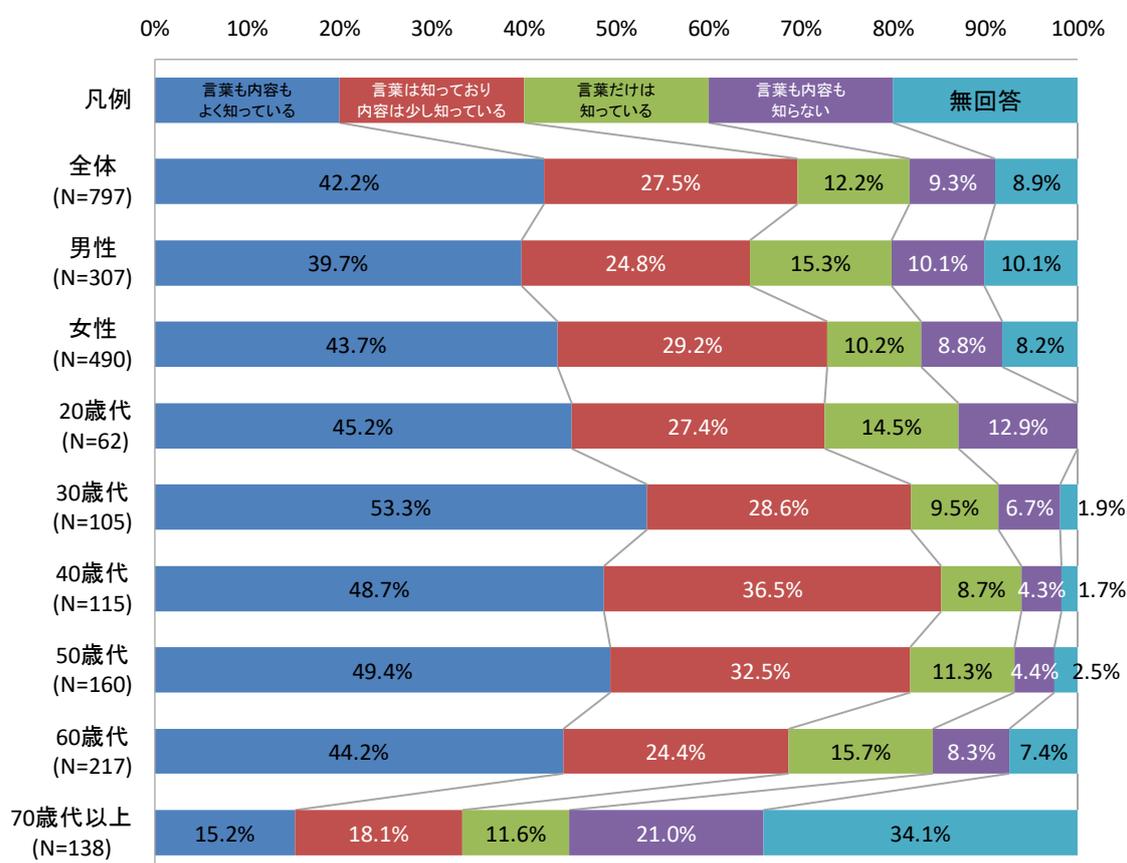
## D マタニティ・ハラスメント(マタハラ)

マタニティ・ハラスメント（マタハラ）については、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が81.8%となっている。

性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「70歳代以上」を除きすべての年代が8割以上となっていて認知度が高いことが伺える。

前回調査と比較すると、「言葉も内容もよく知っている」が14.8ポイント減少している。



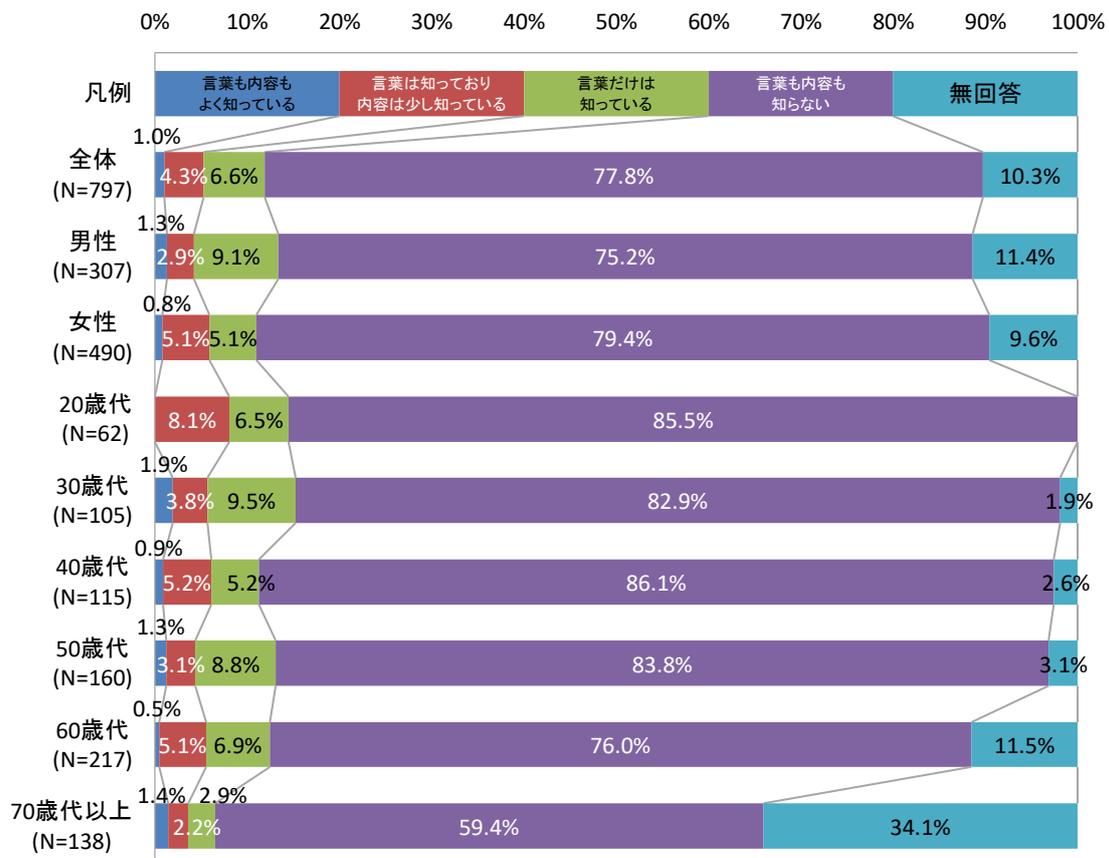
## E リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

リプロダクティブ・ヘルス/ライツについては、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が11.9%となっている。

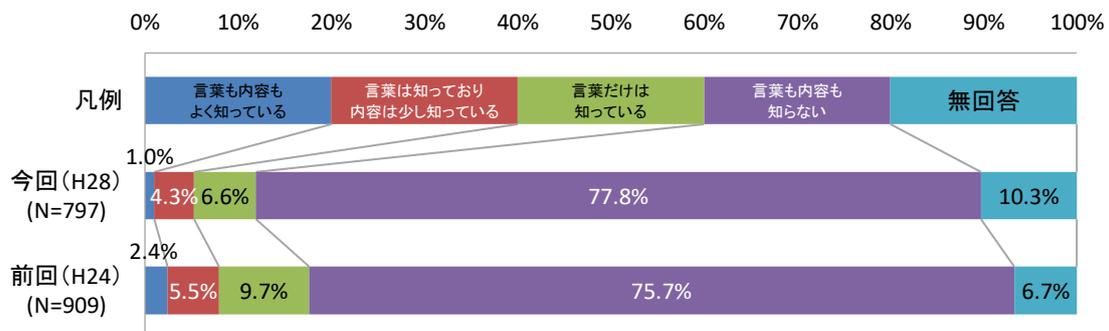
性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、全ての年代で認知度が低いことが伺える。

前回調査と比較すると、「言葉だけは知っている」が3.1ポイント減少している。



### 【前回 (H24 との比較)】



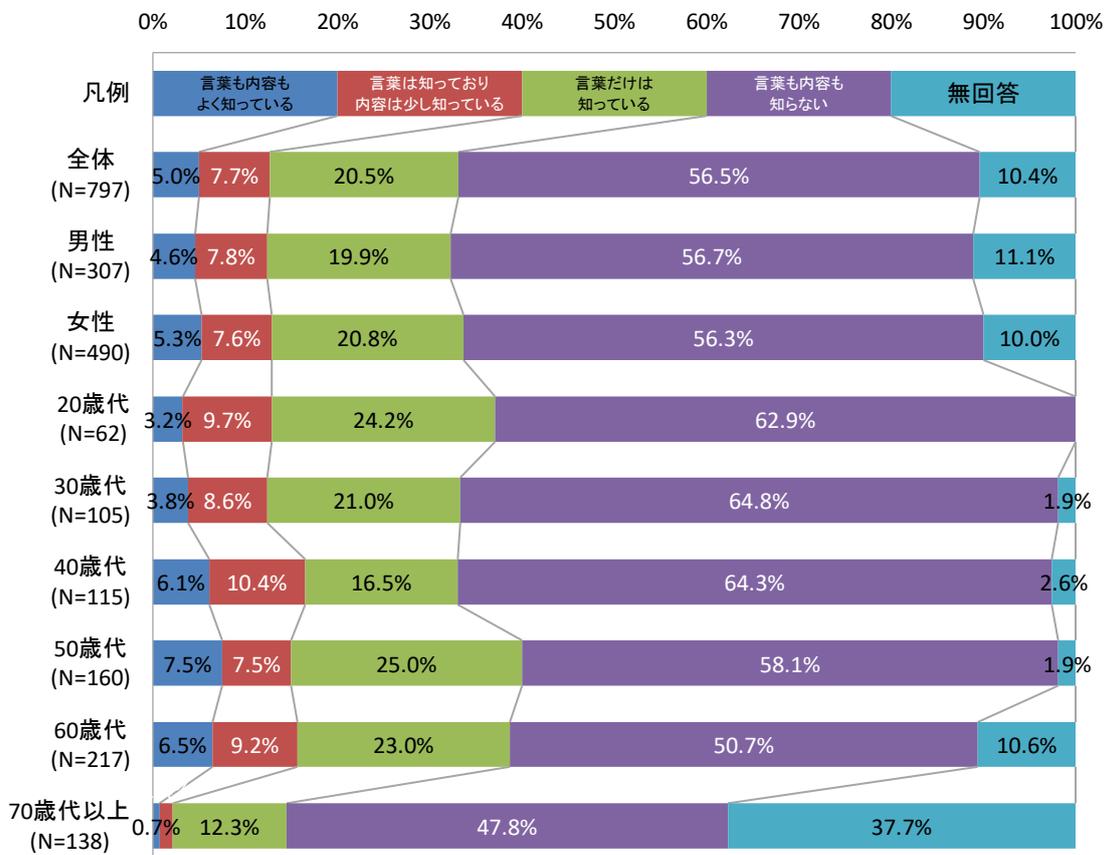
## F ポジティブ・アクション

ポジティブ・アクションについては、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が 33.1%となっている。

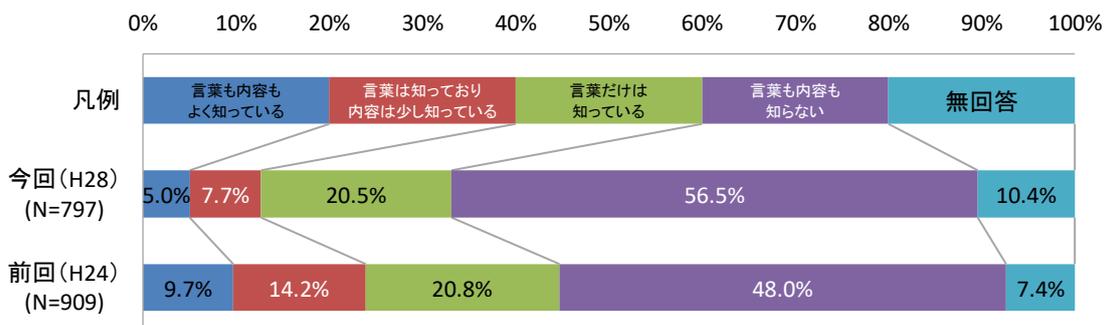
性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「70歳代以上」が 14.5%と最も低いが、その他の年代でも4割以下で認知度が低いことが伺える。

前回調査と比較すると、認知度が低くなってきている。



【前回 (H24 との比較)】

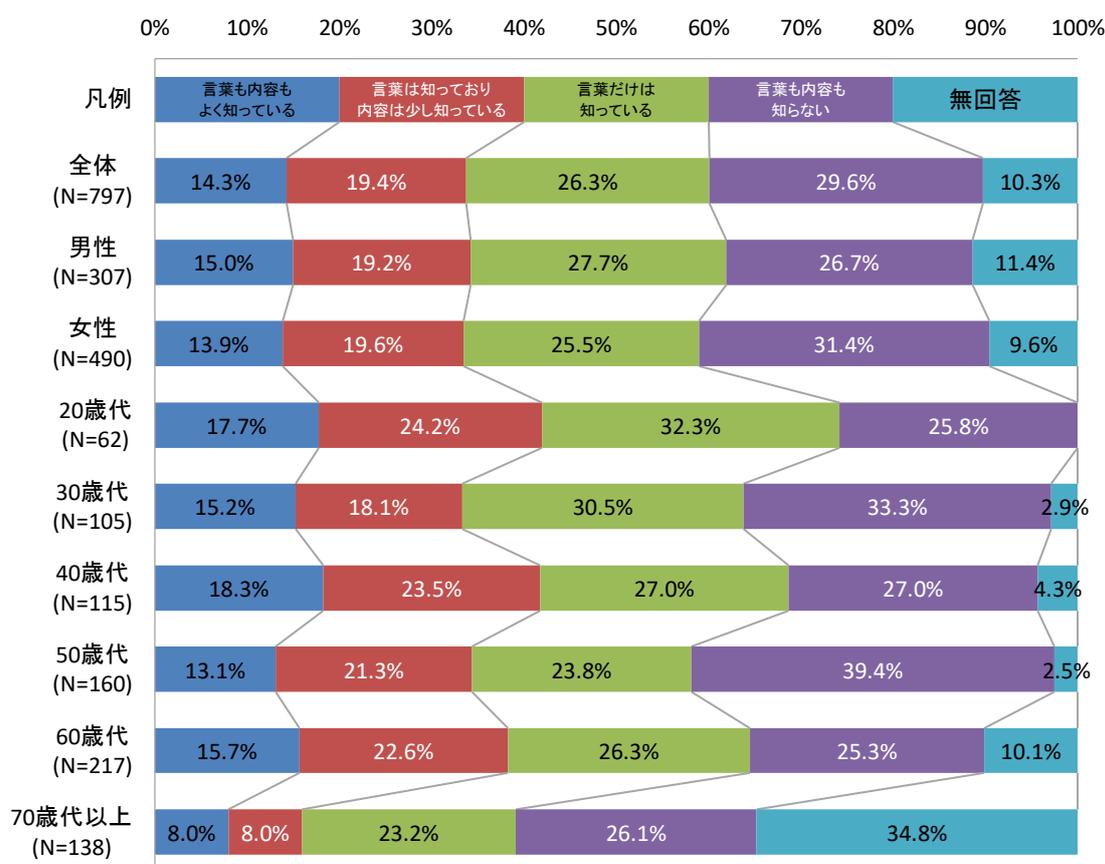


## G 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)については、「知っている」(言葉も内容もよく知っている+言葉は知っており内容は少し知っている+言葉だけは知っている)が60.1%となっている。

性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「70歳代以上」が39.1%と最も少なく、その他の年代は6割以上で認知度が高いことが伺える。



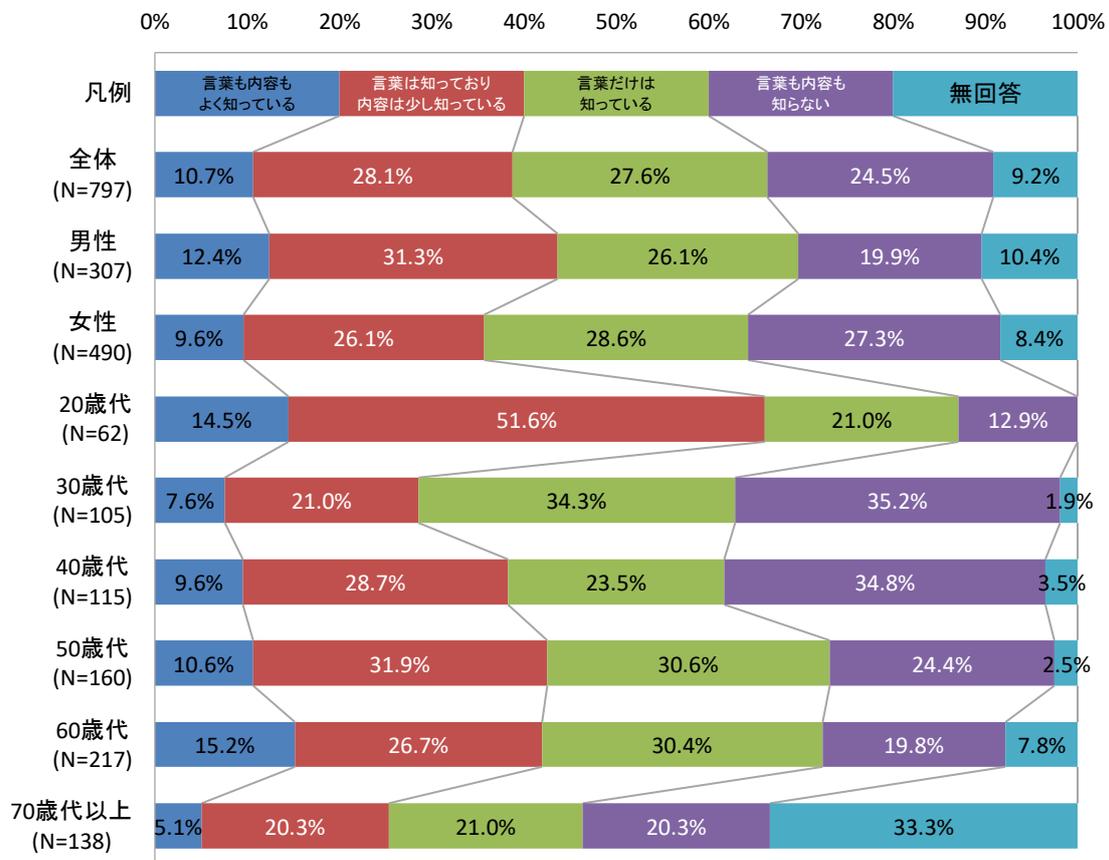
## H 男女共同参画社会基本法

男女共同参画社会基本法については、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が 66.4%となっている。

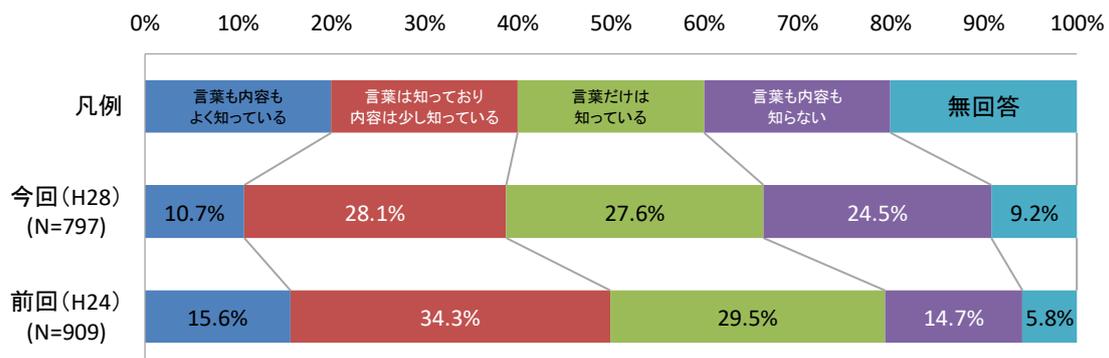
性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「20 歳代」が 87.1%と最も多く認知度が高いことが伺える。

前回調査と比較すると、「言葉も内容も知らない」が 9.8 イント増加し、認知度が減少している。



【前回 (H24 との比較)】



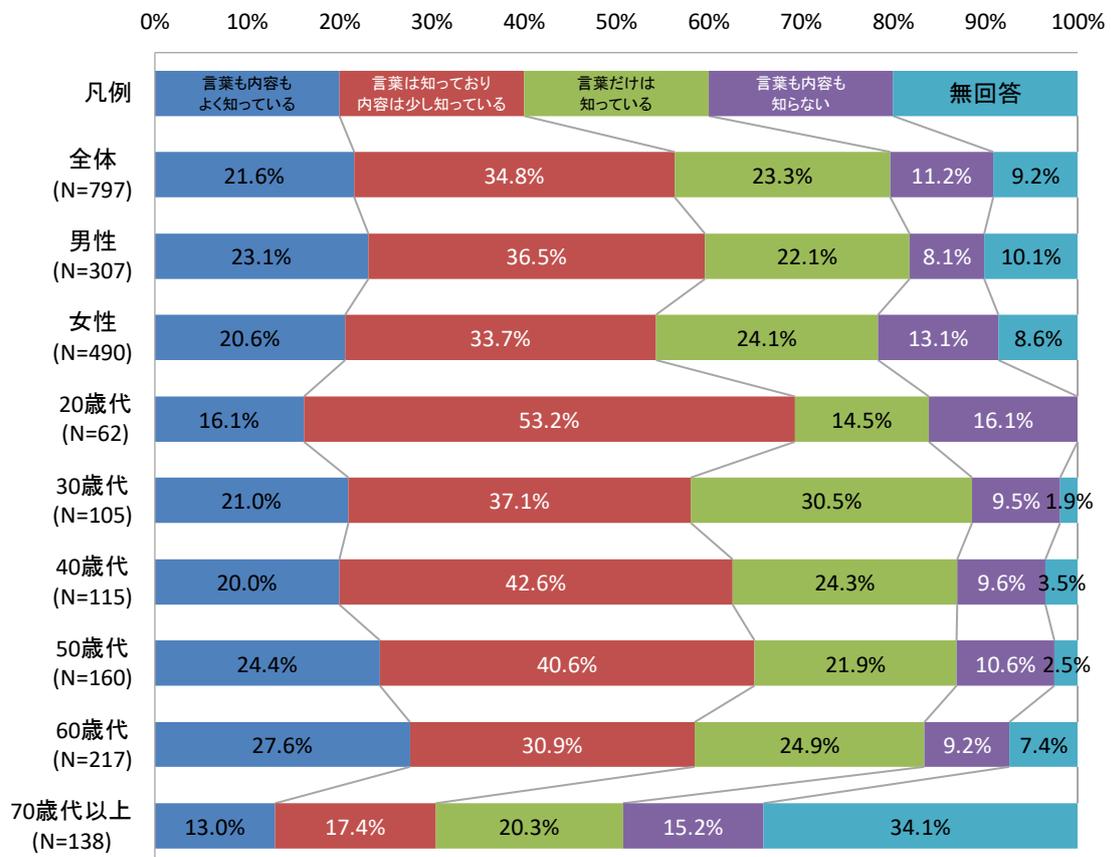
## I 男女雇用機会均等法

男女雇用機会均等法については、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が 79.7%となっている。

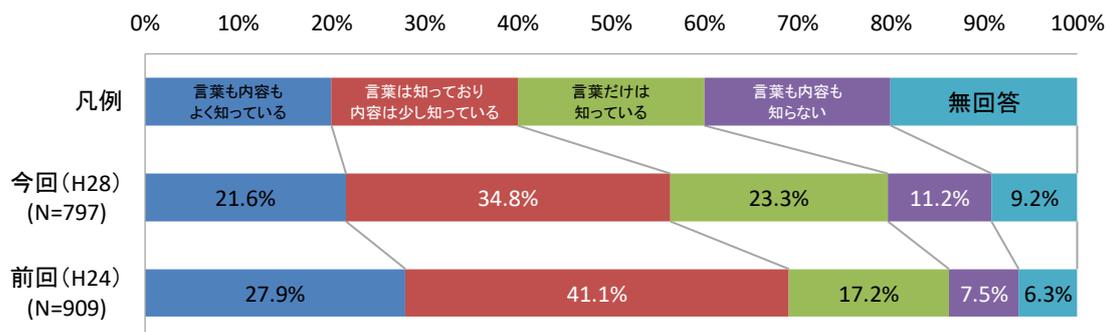
性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「70歳代以上」を除く他の年代が8割以上で認知度が高いことが伺える。

前回調査と比較すると、「言葉も内容も知らない」が 6.3ポイント、「言葉は知っており内容は少し知っている」が 6.3ポイント減少している。



【前回 (H24 との比較)】



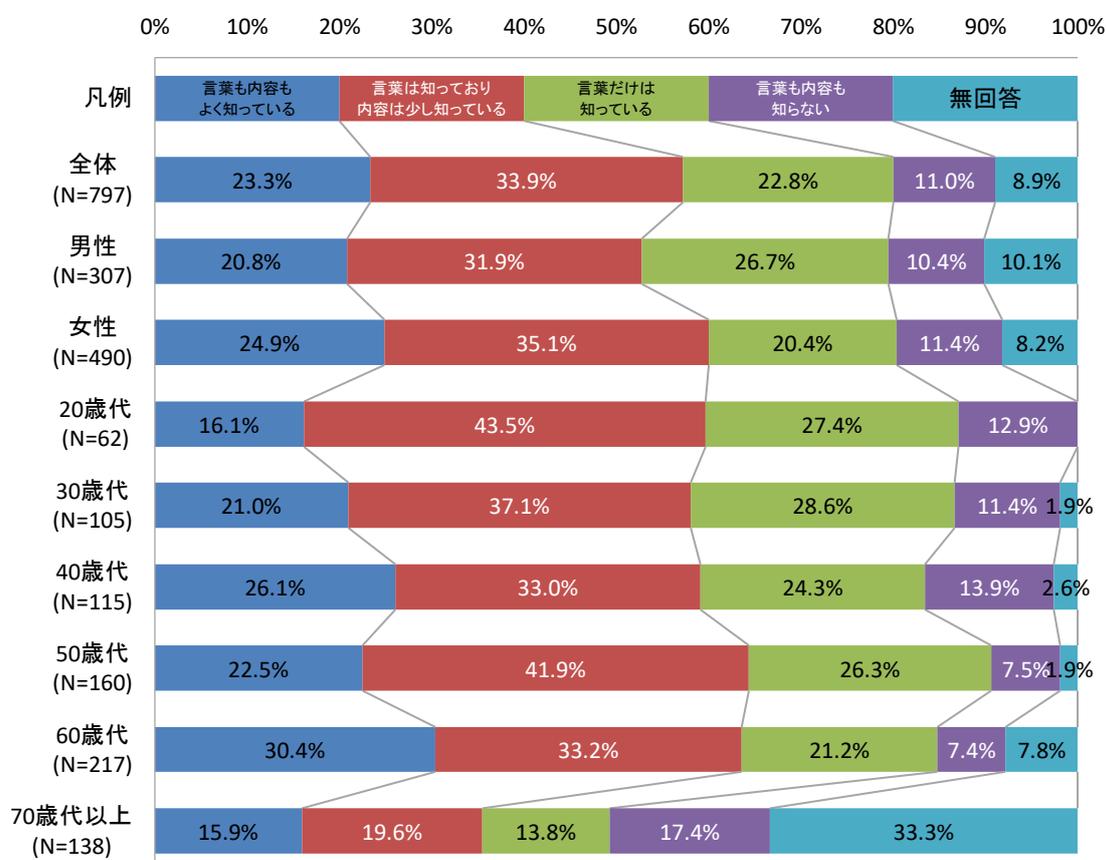
## J 育児・介護休業法

育児・介護休業法については、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が 80.1%となっている。

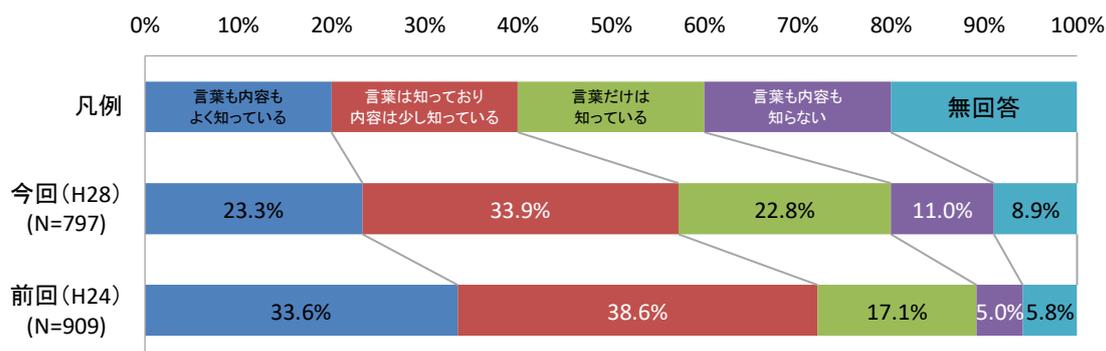
性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「70歳代以上」を除く他の年代が8割以上で認知度が高いことが伺える。

前回調査と比較すると、「言葉も内容も知らない」が5.7ポイント増加し、認知度が減少している。



【前回 (H24 との比較)】



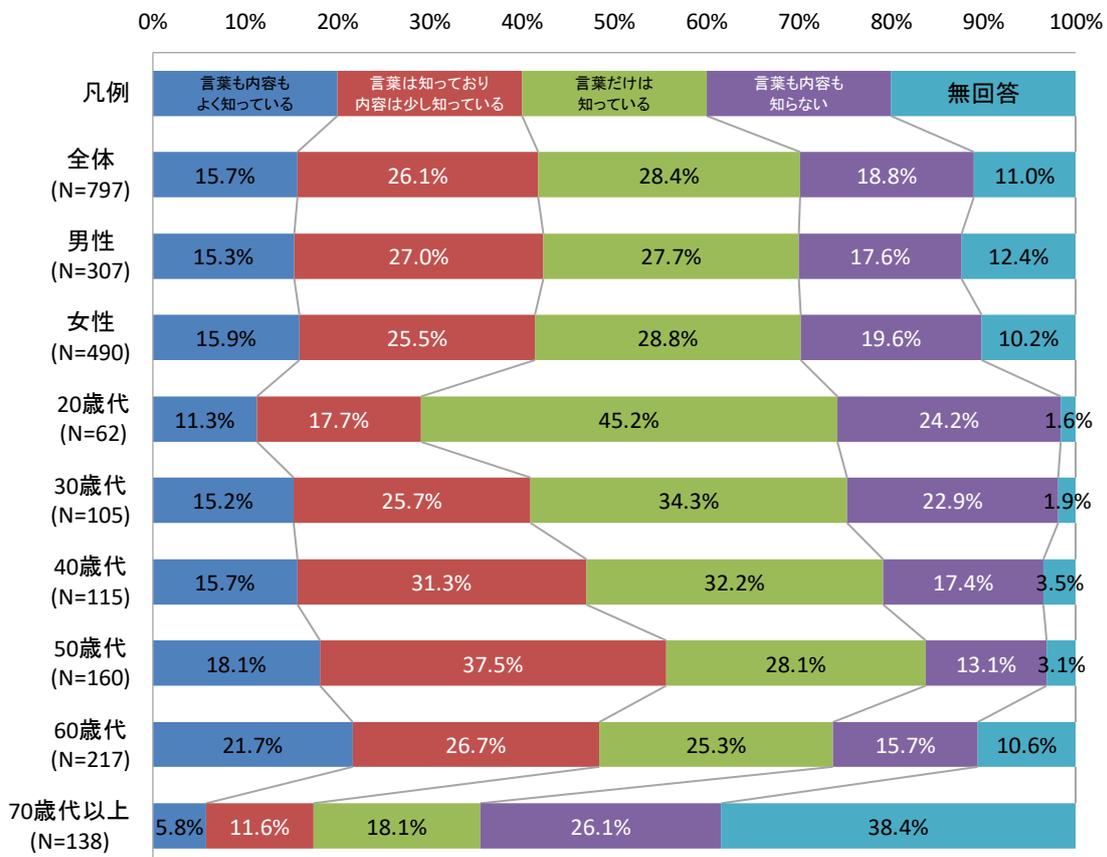
## K ドメスティック・バイオレンス防止法

ドメスティック・バイオレンス防止法については、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が70.1%となっている。

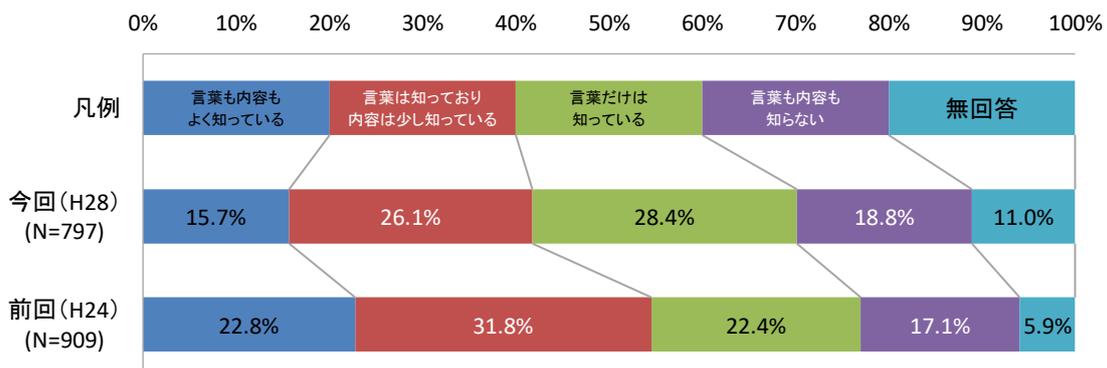
性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「70歳代以上」を除く他の年代が7割以上で認知度が高いことが伺える。

前回調査と比較すると、「言葉も内容もよく知っている」が7.1ポイント減少している。



【前回（H24 との比較）】



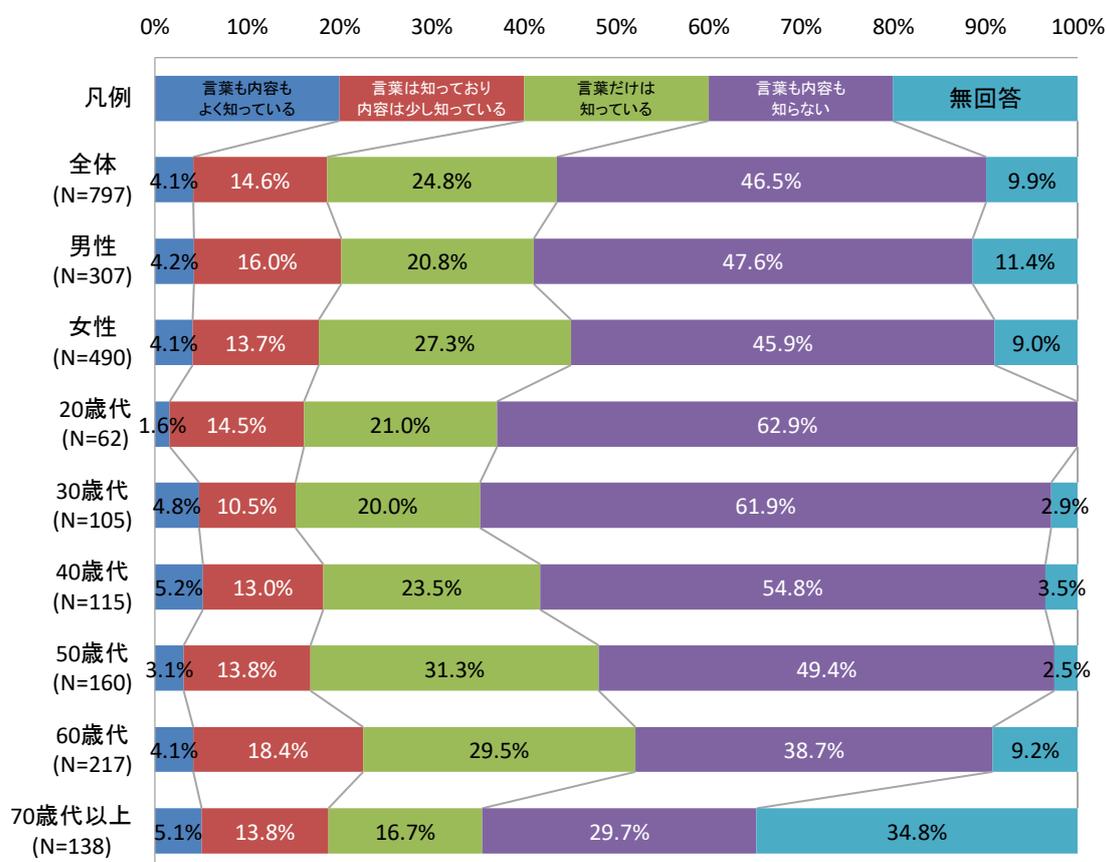
## L 鹿児島県男女共同参画推進条例

鹿児島県男女共同参画推進条例については、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が43.5%となっている。

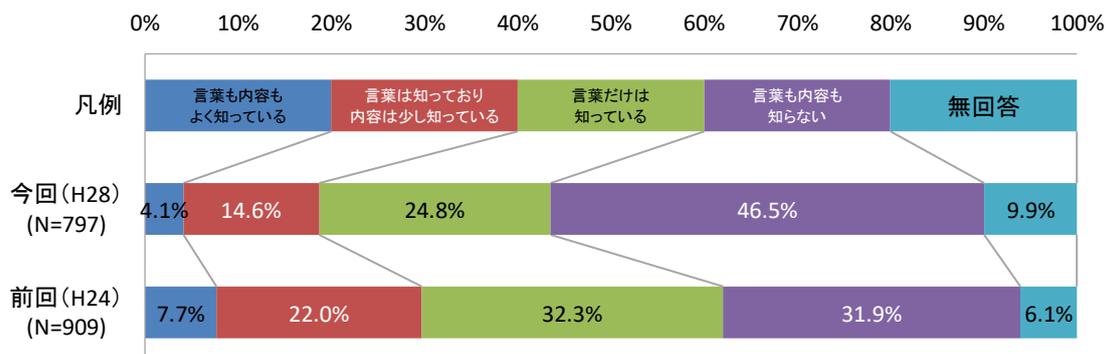
性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、「60歳代」以外は全てにおいて5割以下となっており、認知度が低いことが伺える。

前回調査と比較すると、「言葉も内容も知らない」が14.6ポイント増加し、認知度が減少している。



【前回（H24 との比較）】

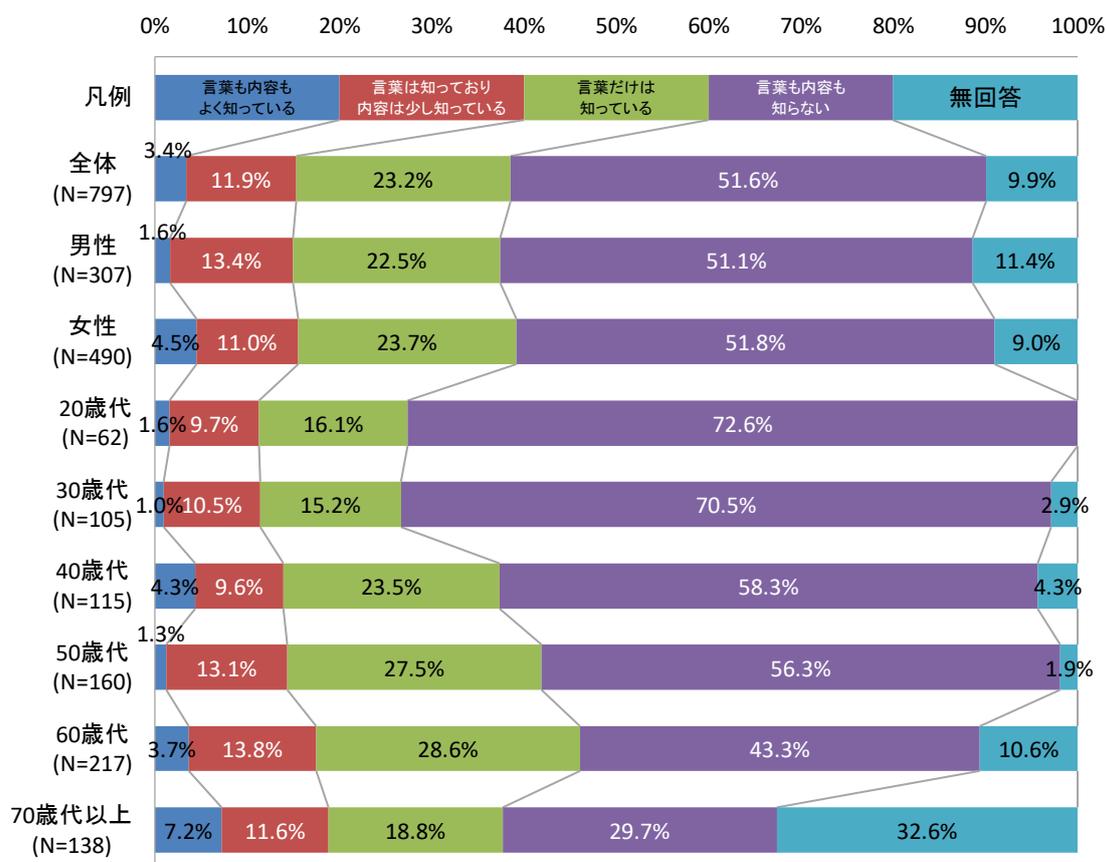


## M 曾於市男女共同参画プラン

曾於市男女共同参画プランについては、「知っている」（言葉も内容もよく知っている＋言葉は知っており内容は少し知っている＋言葉だけは知っている）が 38.5% となっている。

性別では、大きな差異はみられない。

年代別では、全ての年代において5割以下で認知度が低いことが伺える。



## 【自由回答】

<地域で生活していて又は地域に生活する人々を見ていて気になること>

- DVなどを相談できる部署を知らない。(女性/50歳代)
- いつどこで何をしているかわからない。(男性/60歳代)
- いまだに女より男が偉いと考える人がいる地域なのでいくら行政が対策をとってもどうにもならないと思います。(女性/20歳代)
- まだまだ高齢者がいる自治体などは、昔はこうだったと強くいわれて何も言えないときもある。時代の流れを感じてほしいです。夫の代わりに出席しても妻だから黙っておけといわれるようです。(男性/60歳代)
- まだまだ昔の風習が根強く残っていて人の目を気にして思っていることがいえないで人の意見に合わす人が多いと思う。(女性/60歳代)
- マナーと常識。(男性/60歳代)
- ゆとりのある生活を送れるような社会づくりが必要。古い考え方の人が多く苦しかったことを自慢しているようではだめ。(男性/40歳代)
- 暗い時間に散歩されている人が反射材などを身に着けずに歩いている方が危ないなど思います。街灯も少なくとももう少し明りがあればいいのになと思うところがあります。(女性/40歳代)
- 育児や家事は女性がすることと考えている人が多い。しかし最近は共働きが当たり前で女性の負担が増えているように感じる。(女性/20歳代)
- 家事育児パートの資格取得に追われて日々の周りの状況を見渡す余裕はない。結婚を機に福岡や大分から鹿児島に引っ越してきたが南九州の男性の方が女性に優しく節度を持って接して下さる傾向がある。しかし男性優位に変わりではなく女性の社会進出への理解は低いと感じられる。男性女性がともに不平等を感じることなく働ける社会や会社というのはトップが本当に平等の気持ちがあるかどうかによる。企業の部下たちはトップの考えに沿って流れる事なかれ主義になるのでそういう雰囲気を作らない男性や管理職の意識改革が一番重要であると思う。たとえば部下の社員にたまには家族サービスをして来いとか家事を手伝ってあげなさいという言葉かけはやめていただきたい。サービスをしてやっている、手伝ってあげているという父親の自己満足を満たすだけで平等に機能していないことを自覚したほうがよい。(女性/30歳代)
- 岩川方面に子供が遊ぶところがない。(女性/50歳代)
- 希望の保育園に入れず遠い保育園に入れることになった人がいる。二人目以降の子供が生まれた際すぐに仕事に復帰しなければ保育園が退園になってしまい結果下の子が病気など多くなり休み仕事がしにくくなっていく悪循環がある。鹿児島はただでさえ賃金が少ないのに子育て世代への助成などが少ないので子どもを産むことをためらっている。(女性/30歳代)

- 急激な人口減の対策は行政の産業創生のへの努力不足。コミュニティの構築や教育の充実が高齢者化により困難に思う。(男性／60 歳代)
- 厳しいこの時代に男女問わずみんなよく頑張っていると思う。この地域は賃金も安くその中で頑張っている。私の周りでは男女お互いに助け合い調和をとっていると思う。(女性／60 歳代)
- 公共的な住居にもっと入所しやすい方法をとってもらいたい。高齢者になれば保証人などが難しくなってきます。(女性／70 歳代以上)
- 高齢の身でこのような企画に参加させていただきありがとうございます。質問に対して的を得ないところもあると思いますがご容赦ください。(女性／70 歳代以上)
- 高齢化が進み自治体の役員や会長や会計を引き受ける人がいなくなり苦慮している自治体もある。市役所はあまり難しくならないように配慮をしてほしい。(男性／60 歳代)
- 高齢化になり集落の生活や介護も不安です。(女性／60 歳代)
- 高齢者が多く今までやってきている習慣が平等とかはあまり感じていない。(意識していない)。(男性／50 歳代)
- 高齢者の独り暮らし。(女性／40 歳代)
- 今の若い夫婦は夫の協力が多いいのではないかと思う。理解もあり逆に女性が強いのかなと思う。年をとると言い合うこともなくなります。夫婦で参加できるような趣味を持てればいいと思う。(女性／50 歳代)
- 今の若者は子供を作ることも難しい体になっている人が多い気がします。小さいころから食事の大切さを勉強するのも大事だと思う。(女性／60 歳代)
- 仕事をしているためなかなか休みを取ることができません。地域には昔からの行事や風習が残っていて参加しないと地域の方々(特に年配の方)の言葉にもうその場には住んでいられないような気持ちになります。仕事をするということは社会の風習を相反することだと思えます。孤独でも一人でも構わない自分の生き方をしようと仕事に日々頑張っています。男女共同参画社会の前に働く者への理解が欲しいです。(女性／60 歳代)
- 子育てやDVに悩み相談したいがどこに相談すればいいかわからないという人がいた。自分自身そういう状況になった時どこでどのような相談ができるのか全く知らない。また警察などに連絡されて大きな問題になってしまうのでは。秘密を絶対に守ってくれるのか。そういう不安を感じる人もいることを分かってほしい。(女性／20 歳代)
- 市役所女性職員も管理職に登用して才能を引き出すべきである。(男性／50 歳代)
- 私どもの地域では65歳以上の方々には職場をやめて家にこもる人が多くみられます。もっと社会にでて働いてみられたらと思います。私は75歳になりますが介護施設で働いています。老人たちはもっと元気を出して頑張りましょう。(女性／70 歳代以上)
- 自治会で準備や片付けをするのは女性であり男性も当たり前だと思っている。自治会の参加を無視やりさせられる。参加しないと影で言われる。これはいじめだと思う。

参加したくない人に無理に参加させたくないし参加が少ないのであれば需要が低いのでやめればよい。自治会の参加がいやで入らない人が多い。(女性／30歳代)

- 自治会に入らない人が多くなった。市の方で対策してほしい。(男性／70歳代以上)
- 自治会の整理をしてほしい。街灯を多くしてほしい。町内を明るくしてほしい。(男性／50歳代)
- 自治会の中で高齢者であるほど男女格差があるように思える。今後時がたつにつれて格差はなくなっていくと思うが小学教育からより一層男女平等の内容を教えていった方がよい。(男性／30歳代)
- 自治体の男性が家をうろうろして困っている。家の庭にいる犬に食べ物をあげにきて困っている。相手にはわからなくてもいつも何かする人に対して犬の動きで誰までわかる。分かるうえに気持ちが悪い。思いこみをしている。子供まで相手をしていて勘違いしていると思う。(女性／50歳代)
- 自分でもそうなると思うが年配者の交通安全の意識が薄れている。歩行者や特に運転者は基本的な技術の勉強が必要だと思う。(男性／60歳代)
- 自分の生活に精いっぱい地域に貢献する時間がない。(女性／40歳代)
- 鹿児島という風土がそうさせているのか女性に対し軽んじているのではないが、仕事や進学社会生活でも男尊女卑と感じる場面が多いように思われる。女性でも男性でもその人間性を尊重すべきだと思う。(男性／60歳代)
- 鹿児島という風土的に男女に差があるため平等とは無縁のようだ。基本的な考え方を男女とも変えない限り進歩はないと考える。(男性／50歳代)
- 鹿児島市などと比べて曾於市は所得が低いため仕事のため時間的に余裕がなく学びの意欲や自分を向上させようという意識が低いと思う。男女共同参画プランの認知度も低く学びの場も少ないしキッズルームなども少ない。(女性／40歳代)
- 住んでいる自治会で掃除や行事など戸主(男性)が参加することになっているが用事などで参加できないときに代わりに妻が参加すると罰金があるのが納得いかない。不参加よりは金額は少ないが同じ作業をしているのに罰金を払ってまで参加したくはないと思うことがある。(女性／30歳代)
- 女性の社会進出はもう当たり前になってきていますが男女ともそもそも違う動物であることに間違いのないと思います。どちらともに役割を持って生きていくことは忘れてはいけないと思います。上手に共同していく道を探っていきましょう。(女性／40歳代)
- 女性は何か問題があると女性だからと逃げてしまうところがある。(男性／50歳代)
- 少々の騒音はあるが快適に過ごしている。(男性／60歳代)
- 障害者のいる家庭を訪問し仕事ができる支援をしてほしい。(女性／50歳代)
- 身の回りは高齢者ばかりで若い人とはなかなか話をすることはない。あまり近所づきあいがなのでさびしいです。(女性／70歳代以上)

- 人がともに生きる中で思いやり仲良く楽しく暮らしていける倫理観を学びたい。老親との同居を嫌がる人が増えてきているように思います。しかし私たちは家庭の中で愛情に囲まれて育ったのではないのでしょうか。(女性／60歳代)
- 他県出身ということもあり南九州における男女の役割はまだ根強い印象があります。年齢が高いほど「男はこうであるべき」という考えがあるのだろうと感じさせる言動はよく耳にします。また子どもをなかなか授からないことに対する周囲の目を気にする人もいます。自己決定権は誰にでもありますし一人一人がいきいきと生活できることを心から願います。(女性／30歳代)
- 体罰をいまだに肯定する人がいる。だから暴力は決してしてならない。(男性／50歳代)
- 男社会が根強い。女性の年配の方が強いので若い人はやりにくそう。(女性／50歳代)
- 男女が平等で協力していける町や地域づくりにしていけば仲間意識も違ってくると思うのでそのような社会にしてほしい。(女性／40歳代)
- 男女は社会的にも何ともならないことがまだ多くあると思いますがともに助けあうことが大事だと思いました。子供たちへの思いやりの心を育てていけるようにできたらいいのですが学校現場も大変だと思うので。(女性／40歳代)
- 男女間というよりも曾於市では他所から来た者に対してのいじめがあった。男尊女卑の考え方も強く古臭い考え方の人が多くあまり付き合いたくない。(女性／50歳代)
- 男女共同参画が現在どんな活動をしているのか分かりません。(女性／60歳代)
- 男女共同参画をよく聞きますがまだまだ現実には差があるように思う。もっともっとすべての行事や運営などにも女性の立場をもっと上げる努力が社会全体で必要だと思う。(女性／60歳代)
- 男女参画以前に自治会活動が入らなければいけない感覚や差別など昔ながらのイメージが強く不平等不公平を感じる。(男性／50歳代)
- 男性の人々が女性の人々への言葉遣いが荒い。男性の理性の低さを感じる。(女性／60歳代)
- 地域でも高齢化が進み近隣の人とのつながりも年々薄くなってきて家から一步を踏み出せない人もいる。地域内でのつながりが深ければもっと安心して日々を送れると思うのですが。(女性／70歳代以上)
- 地域的にまだ古い考えから抜け出せていない方が多くあることも事実だしいくら新しい現状へと踏み出しても世間体の圧力に消極的にならざるを得ない方も多くいらっしゃる方も多い気がします。行政でいくら指導したとしても表面と内面の差は難しい状況を今後どのようなアクションでしていくのか期待します。(男性／40歳代)
- 地域内での自治会が乱れているのが気になる。万が一災害が発生した時自治会の機能が発揮されすぎるのではと気になる。(男性／60歳代)
- 中年男性以上の意識改革をしてほしい。特に鹿児島はレベルが低いことをもっとアピ

ールして具体的な例を書いたりしてアピールしてほしい。(女性/50歳代)

- 町に人が少なくなった気がします。商店街もガランとしていて町に人が集まるイベントなどが増えるといいなと思います。子供から年配まで楽しめる施設や無料開放の施設など暮らしに役立つ情報など曾於市内だけではなく県外の方にも足を運んでもらえるような町づくりを希望しています。(女性/30歳代)
- 得るものはあり失うものはなし。(男性/30歳代)
- 年だから外に出るより家にいた方がいいとテレビ相手の生活をして人との会話や遊びに参加しない人が多いからもっと誰でも参加できるような楽しみを作ってあげることが必要だと思う。体を動かすことが一番だと思う。(女性/70歳代以上)
- 付き合いがなく情報が入ってこない。月々か年に1回位集落での若者の集いや集まる場所で情報提供をしてほしい。報告連絡相談の徹底。集落でのいじめや無視にあっている。悪口を言われている。(男性/40歳代)
- 夫が支配・上位の家庭はかなり少なくなっているように思う。夫を掌で動かす妻も多い。互いの意思を聞きつつ求めつつ与えられた職務に就きつつ家事育児介護社会貢献などに努めていけたら満足できる人生になると思う。(女性/60歳代)
- 部落に入ってなかったので全然部落のことは知らない。(男性/70歳代以上)
- 母子家庭の方とか介護で仕事に就けない方のためによりよい社会づくりをしてほしい。(女性/50歳代)
- 役員や議員を信用していないのでない。きちんと金額に合った仕事たとえば弱い者いじめなど本当に必要なことをしてほしいと思う。(女性/40歳代)
- 老人ばかりで子どもたちの遊ぶ声が聞こえない。大型車で道路を壊しても直そうとしない。自分の敷地内は整理する。境界ぎりぎりに杭を立てて所有権を主張するが他人の通行の便意を図るなどの公共性がない。親しい人には親切だが広く社会のためや地域のためといった視点がなく見知らぬ人に譲る広い心がない。ひたすら自己中心である。地域のトラブルを調整したり潤滑油になる人がいない。老人や年配者には社会のリーダーとして若い人を指導する自信がなく遠慮しつつ生きている。子供はスーパーなどで暴れまわるが親は無論誰も注意しない。年配者が権威をもって道徳的社会を支配するという形は崩壊したがそれに代わる新しい秩序はできていない。出来つつもない。行き過ぎたジェンダーフリーには抵抗がある。男女は別の生き方をし役割を果たすように脳にプログラミングされている。それを否定されて教育され続けると子どもはむしろ混乱しアイデンティティーはうちたてられなくなる。家庭内では依然として暴力で支配する例があると聞くが社会の暴力を許容する背景があるとは思わない。絶対に許容してはいけないのなら外に訴えやすいシステムを作るべき。役所や警察は積極的に関与して罰し暴力を許さない社会にしていくべきである。そうすれば近隣住民の警察に訴えやすいと思う。そういう雰囲気がないと田舎の人はなかなか突出した行動はとらないように思う。市役所は家庭訪問をして積極的に啓発活動をするべきだ。

集会もいいが集まる人は少ないとも思う。就職差別や職場差別に関して今は年齢や性別で差別してはいけないが実際は面接などでやんわり断られているようだ。女子が多く就業している職場では男子を拒む傾向があるがその逆は聞かない。女子で職場のルールや秩序が形成されている場所に男子が入るとそれが崩れ雇用者にとって仕事の成果に悪影響が出るだろう。女子が狭量で保守的である。男子も受け入れて新たな職場環境を作る姿勢と努力が必要だと思う。(男性／60歳代)

<その他>

- DVや暴力などについて親からや交際相手から受けた方が加害者になるケースがよくあると聞きました。長期のケアが必要なのではないかと思います。(女性／40歳代)
- DVを受けた人への対応をしっかりとすることも大切だと思う。言葉の表現力が大事。(女性／60歳代)
- このようなアンケートがある自体男女平等ではない証のような気がします。人生の選択肢が増え支える人の形も個々で変わっていいのではないかと思います。男が働き女は家と決めるのではなく個々に柔軟に支えあえる社会になればいいと思います。(女性／40歳代)
- どこまでがしつけでどこからが暴力なのか分けられない。自分は悪くない自分を怒らせる相手が悪いという性格が変わらない限りはどうすることもできない。毎日そのような状況というわけではないがこれからも我慢しながら生活していくと思う。(女性／60歳代)
- 以前男女共同参画の勉強をしましたが適材適所であれば女だろう男だろうとどちらでもいいのでは。昔は女に学は必要ないといわれましたが今は平等です。(女性／70歳代以上)
- 意識と現状についての調査とありますがそのあとにアンケート回収はどのようにされているのでしょうか。曾於市に男女参画や協働推進というものがあるのでも知りませんでした。具体的に何をしているのか知りたい。(男性／60歳代)
- 何をしているのか知る方法を教えてほしい。(男性／60歳代)
- 家庭において教育の現場において国を愛すること家族を愛すること隣人を愛することを教えるべきである。優しさが不足していると思います。男女共同参画社会にもつながると思う。(女性／60歳代)
- 我が家にも年頃の娘がいます。結婚しても曾於には産科がなく都城と鹿屋に行くしかありません。少子化対策のためにも若い人が喜んで子育てができるように産科が必要だと思います。(女性／60歳代)

- 官公庁では男女共同参画についての理解が進んでいるように感じるが一般企業ではそういう配慮がなされているようには感じない。特に地方では何も変わっていないのではないのでしょうか。見ていて気持ちのいい場面とは言えないところも見たことがあります。将来のある子どもたちや現代を生きる市民が気持ちよく過ごせる社会に近づきますように。(女性/20歳代)
- 議員や公務関係者の「常識」への認識。(男性/60歳代)
- 給料は増えないのに差し引かれる金額が年々増えていくため何のために働いているのかわからない。(男性/50歳代)
- 近所に引っ越してきたり新築されても集落に入らずあいさつも来られない。これでは地域活動は無理である。(女性/60歳代)
- 近年自治会を脱会する人が増えている。住居はあるのに入会することもなく。高齢化や人数の減少は自治会の行事や奉仕作業にも影響が出てくる。参加する人は大変です。人数が減っていくなかでの自治会の在り方も考えるべきだと思う。(女性/70歳代以上)
- 公務員と同様に子育てしながら働きやすい育児休暇が取得できる社会になるよう共同推進係で曾於市の各会社への積極的な啓発を期待します。各企業への女性の働きに対しての意識調査など実施して企業への意識改革の啓発を期待します。(男性/60歳代)
- 項目自体差別的なものが見られますがあの項目は差別している側の人間をあぶりだすためにやっているのですか？(男性/20歳代)
- 高齢者には難しいアンケート調査でした。(女性/70歳代以上)
- 今までを通して仕事のための生活だったのであまり周りのことや男女共同参画について興味もなかった。今後あらゆる活動を知り参画できればいいと思う。今年曾於市に引っ越してきたので今の曾於市内のこともよくわかりません。(女性/60歳代)
- 最低賃金を上げてほしい。(女性/40歳代)
- 子どものいじめについてですが曾於市の小中学校をときどき抜き打ちで子供たちにアンケートをした方がいいと思います。先生たちも研修をした方がいいと思います。(男性/50歳代)
- 子育てと介護は別々のアンケートを取った方がいいと思いました。それぞれの立場で細かい意見が届けられるのではないかと思う。(女性/40歳代)
- 私の感覚的な意見になりますが比較的50歳以下の方は男尊女卑や性差別による慣習やしきたりなどは見受けないように感じます。(男性/40歳代)
- 字が見えないので答えることができません。(男性/70歳代以上)
- 質問が多すぎる。文言が難解なため回答するのが大変です。(男性/50歳代)
- 社会的マナーが低いと感じます。(女性/70歳代以上)
- 世代によって考え方は違うと思う。「女医」や「女性議員」などわざわざ女をつけることに違和感を感じる。私自身は女性ということで配慮を受けたことはありますが差別を感じたことはないので平等にということは大変なことだと思います。(女性/50歳代)

- 政治が変わり政策を見直し今一度人の道徳心を教育することから考えるべき。日本でも曾於市でも中心からもう少し考えていくべきだと思う。今のままで将来に夢が持てるでしょうか。(女性／60歳代)
- 正しい教育が大事だと思う。(女性／50歳代)
- 正規職員で子供がいる場合小学生までは残業などはない又は減給でもいいから短時間で勤務できるような制度を作ってほしい。(男性／30歳代)
- 曾於市や近隣の地域は仕事も少なく賃金もかなり低いいためまず地域の活動に参画する余裕が持てない状態だと思います。年金暮らしになった時点でいざ参画したいと思っても体がついて行かない可能性もあるので家庭の収入に対する税金をもっと見直してほしい。親から引き継いだ土地などの税金も収入によっては考慮してほしいです。余裕がないので。(女性／50歳代)
- 曾於市男女共同参画プラン。当局としては一生懸命に曾於市のために努力されていることだと存じますがその一生懸命さが私どもに伝わってこないです。こういう件をわれわれにどう伝えるか考えてほしいものです。恥ずかしいことですが初めて知りました。(男性／60歳代)
- 男女共同参画社会づくりはどこで知ることができますか？(男性／50歳代)
- 著名人や有名な方の公演を聴く機会があるといいなと思いますが夫婦で聞きに行くことはないと思いますが、一人でカリカリするしかないのかなと思っています。(女性／70歳代以上)
- 年を重ね夫婦ともに生活する役割を若い時から学び実行していく互いに思いやりを持ち励ましながら年を重ねていくことが大切だと思います。(男性／70歳代以上)
- 年齢制限で仕事もないので60歳になったらシルバーの仕事があるかもしれないと思いき楽しみ。短時間でもいいので少しでも稼いで楽しみたい。(女性／50歳代)
- 夫と息子違いは感じます。家事育児積極的に協力するのは息子です。時代の流れもあるのでしょうかやはり男性の考えを変えてお互いに協力が必要かと思う。(女性／60歳代)
- 問21と22は質問内容がよくわからなかった。(女性／70歳代以上)

# 平成28年度 曾於市男女共同参画に関する 意識調査

平成28年10月

## ご協力をお願い

日頃から、市政に対するご理解とご協力に感謝いたします。

さて、市では、誰にとっても住みよいまち、男女共同参画社会の実現のために「曾於市男女共同参画プラン」を平成20年3月に策定していましたが、その計画期間（10年間）がまもなく終了します。そこで、これまでのプランの検証と第2次プラン策定のため、市内の20歳以上の2,000名の方を対象に市民の皆様の男女共同参画に関する意識と現状について調査を行います。

この度、その一人としてあなた様をお願いすることになりました。ご多忙のところお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解のうえご協力くださいますようお願いいたします。

調査の回答は無記名で、すべて統計数字として処理しますので、個人の秘密が漏れたり、ご迷惑をおかけしたりすることは一切ございません。どうぞ、日頃のお考えを率直にお答えください。

## ご記入に際してのお願い

- 1 アンケートは、あなた自身のことについてご記入下さい。
- 2 回答は、この調査票に、ボールペンや鉛筆にて直接ご記入ください。
- 3 アンケートは、当てはまる選択肢の番号を○で囲んでいただく場合がほとんどです。もし、間違えて記入した場合は、その番号に×をつけて訂正し、改めて当てはまる番号に○をつけてください。
- 4 設問によって、1つだけ選んでいただく場合と、複数選んでいただく場合があります。また、該当する方にのみ回答をお願いする場合がありますので、各設問の説明にしたがってお答えください。
- 5 項目で「その他」を選んでいた場合は、( )になるべく具体的にその内容を記入してください。
- 6 このアンケート用紙は、**12月22日(木)**までに、同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。(切手の貼付、お名前・ご住所の記入は不要です)。なお、直接、企画課にご提出いただく場合は、下記までご持参ください。

【お問い合わせ先】 曾於市役所 企画課 男女参画・協働推進係

〒899-8692 曾於市末吉町二之方1980

電話 0986-76-8802 FAX 0986-76-1122







【問5】は、ふだん収入になる仕事をしていない方におたずねします。それ以外の方は【問6】にお進みください。

【問5】あなたが、現在、仕事をしていないのは、どのような理由からですか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

- |  |
|--|
| 1. 経済的に働く必要がないから<br>2. 職業をもたないほうが自分のやりたいことができるから<br>3. 家庭で家事・子育てに専念したいから<br>4. 家事や子育ての負担が大きいから<br>5. 健康や体力に自信がないから<br>6. 希望どおりの仕事を得られないから<br>7. 配偶者や子どもなど家族が望まないから<br>8. 親や病気の家族の世話をするため<br>9. 働くことが好きでないから<br>10. やりがいのある仕事がないから<br>11. 職場内に結婚や出産による退職慣行があったため<br>12. 学生又は高齢のため<br>13. その他 ( )<br>14. 特に理由はない |
|--|

【問6】あなたは、次にあげるような項目で男女の地位は平等になっていると思いますか。A～Hのそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

	非常に平等 になっている	どちらかと 言えば平等 になっている	どちらかと 言えば平等 になってい ない	全然平等に なっていない	わからない
A 社会全体	1	2	3	4	5
B 家庭生活	1	2	3	4	5
C 職場	1	2	3	4	5
D 学校教育の場	1	2	3	4	5
E 政治の場	1	2	3	4	5
F 法律や制度上	1	2	3	4	5
G 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
H 自治会・公民館などの地域社会	1	2	3	4	5

【問7】あなたは今でも「男尊女卑」の気風が残っていると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- |          |           |              |          |
|----------|-----------|--------------|----------|
| 1. 残っている | 2. 残っていない | 3. どちらとも言えない | 4. わからない |
|----------|-----------|--------------|----------|

現在結婚している方におたずねします。

【問 8】あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の事柄を、主に誰が行っていますか。A～Gのそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。(育児、介護等については現在該当しなくても過去に経験があればそれをもとにお答えください。該当がない場合は5をお選びください。)

	夫	妻	夫と妻 が分担	その他 の人	該当 しない
A 家事	1	2	3	4	5
B 育児	1	2	3	4	5
C 家族の介護・看護	1	2	3	4	5
D PTAや子ども会への参加	1	2	3	4	5
E 教育方針の決定	1	2	3	4	5
F 自治会や公民館などの地域活動への参加	1	2	3	4	5
G 高額の商品や土地・家屋の購入の決定	1	2	3	4	5

【問 8】に回答された方におたずねします。

【問 9】あなたは、次にあげるような家庭内の事柄を、誰にして欲しいとお考えですか。A～Gのそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

	夫	妻	夫と妻 が分担	その他 の人	該当 しない
A 家事	1	2	3	4	5
B 育児	1	2	3	4	5
C 家族の介護・看護	1	2	3	4	5
D PTAや子ども会への参加	1	2	3	4	5
E 教育方針の決定	1	2	3	4	5
F 自治会や公民館などの地域活動への参加	1	2	3	4	5
G 高額の商品や土地・家屋の購入の決定	1	2	3	4	5

【問 10】あなたは、「男は仕事，女は家庭」などと、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- |               |
|---------------|
| 1. 賛成         |
| 2. どちらかといえば賛成 |
| 3. どちらかといえば反対 |
| 4. 反対         |
| 5. わからない      |

【問 10】で「1. 賛成」「2. どちらかといえば賛成」を選んだ方におたずねします。

【問 11】それはどのような理由ですか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 男性は仕事、女性は家事や子育てに向いているから
2. 女性が家を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから
3. 女性が働きに出ると、家事（掃除・洗濯など）・子育て・介護に差し支えるから
4. 男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
5. 自分の両親も役割分担をしていたから
6. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

【問 12】一般的に女性が仕事をもつ（外に出て働くこと）ことについて、あなたはどうか考えですか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 女性は仕事をもたないほうがよい
2. 女性は仕事をもつほうがよい
3. 結婚するまでは、仕事をもつほうがよい
4. 子どもができるまでは、仕事をもつほうがよい
5. 子どもができて、育児制度等を利用しながら、ずっと仕事を続けるほうがよい
6. 子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をもつほうがよい
7. 結婚後や子どもができてからはパートやアルバイトのほうがよい
8. その他（ \_\_\_\_\_）
9. わからない

【問 13】あなたは、職場や家庭、地域活動において、男女がともに責任や役割を果たすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号をいくつでもお選び下さい。

1. 社会の中で、家事、子育て、介護、地域活動に対する評価を高める
2. 男性のための家事や子育て、介護に関する研修会やセミナーを開催する
3. 女性のための家事や子育て、介護に関する研修会やセミナーを開催する
4. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
5. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
6. 長時間労働などの働き方を見直すための市民を対象にした研修会を開催する
7. 女性が地域や職場で責任ある立場に就くことに対する男性の抵抗感をなくすこと
8. 女性が地域や職場で責任ある立場に就くことに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
10. 特に必要なことはない

【問 14】あなたは、社会の中で仕事と家庭の調和（ワーク・ライフ・バランス）を進めるためにどのような取り組みをする必要があると思いますか。あてはまる番号を3つ以内でお選びください。

1. ワーク・ライフ・バランスについて理解を広める
2. ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる企業の事例を紹介する
3. 企業が国・県などの各種支援策等を積極的に活用するよう働きかけを行う
4. 事業所ごとに従業員の働き方に対する実態調査や希望調査を行う
5. 特に必要なことはない
6. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

【問 15】あなたは、子育てや介護に対する社会の支援について、どのようにお考えですか。  
あてはまる番号を1つお選びください。

1. 基本的に家族が行うことであり、社会が支援する必要はない
2. 基本的に家族が行うことであるが、社会がある程度支援する必要がある
3. 家族だけでは過重な負担がかかるので、社会が積極的に支援する必要がある
4. 家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである
5. その他 ( )

【問 16】少子化がわが国の深刻な問題となっていますが、その理由は何だと思えますか。  
あてはまる番号をいくつでもお選びください。

1. 子どもの教育にお金がかかるから
2. 育児には心理的、身体的負担があるから
3. 家が狭いから
4. 仕事をしながら子育てするのが困難だから
5. 出産により退職したら再就職が困難だから
6. 自分の趣味やレジャーと両立しないから
7. 結婚年齢があがっているから
8. 結婚する人が少ないから
9. いじめや児童虐待等子どもの将来に不安が大きいから
10. 子どもが欲しくないから
11. その他 ( )

【問 17】あなたは現在、何か地域活動等に参加していますか。また活動にやりがいを感じていますか。A～I のそれぞれの項目について、右欄の1～5にあてはまる番号を1つお選びください。

	大変やりがいを感じながら参加している	少しやりがいを感じながら参加している	参加させられている	参加していない(できない)	参加する必要がない
A 公民館、自治会、婦人会、老人会などの地域団体活動	1	2	3	4	5
B 青少年グループ・子ども会・PTAなどの活動	1	2	3	4	5
C 社会福祉にかかわる活動	1	2	3	4	5
D 地域づくり、まちづくり、ボランティア清掃などの活動	1	2	3	4	5
E スポーツ振興や文化振興(郷土芸能含む)に関する活動	1	2	3	4	5
F 消費者運動、環境保護運動などの住民運動	1	2	3	4	5
G 民生委員などの公的な委員活動	1	2	3	4	5
H 生涯学習講座や趣味の活動	1	2	3	4	5
I その他の地域活動	1	2	3	4	5

【問 18】 一般的に、政策決定の場や自治組織等の方針決定の場への女性の参画が少ないようですが、それはなぜだと思いますか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

1. 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識がある
2. 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない
3. 家族の支援・協力が得られない
4. 女性の能力開発の機会が不十分
5. 女性の活動を支援するネットワークがない
6. 女性側の関心や積極性が十分でない
7. 男性がなるほうがいい（なるものだ）
8. その他（ )

【問 19】 あなたは、性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

1. 避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）
2. 避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること
3. 災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）
4. 公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮
5. 被災者に対する男女両方の相談員の配置
6. 防災・復興会議に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること
7. 災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること
8. その他（具体的に： )

【問 20】 男女共同参画社会の実現に向けて、今後どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号を3つ以内でお選びください。

1. 男女の役割分担についての社会通念や慣習を改善する
2. 人権尊重の意識改革を図る
3. 男女平等についてお互い理解し、協力する
4. 就職・昇進・賃金など職業上の不平等をなくす
5. 子どものときから男女平等教育をよりいっそう進める
6. 男女が共に自立する
7. 行政などが女性の地位向上のための条件を整備する
8. 男女が共に政策や方針決定過程に参画する
9. その他（ )



【問 23】【問 21】【問 22】の回答で該当する方のみお答えください。そのようなとき、あなたはどのようにしましたか。あてはまる番号を3つ以内でお選びください。

1. 警察に連絡又は相談した
2. 法務局や人権擁護委員に相談した
3. 婦人相談所に相談した
4. 役所やその他公的機関に相談した
5. 医師・看護師・助産師に相談した
6. 家族に相談した
7. 友人・知人に相談した
8. その他に相談した（相談先： \_\_\_\_\_）
9. どこ（だれ）にも誰にも相談しなかった

【問 24】【問 23】で「9 どこ（だれ）にも誰にも相談しなかった」を選んだ方におたずねします。どこにも誰にも相談しなかった（できなかった）のは、どのような理由からですか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

1. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 秘密が守られるか心配だったから
5. 相談したことがわかると、仕返しをうけたり、また同じような行為をされたりすると思ったから
6. 相談担当者の言動により不快な思いをすと思ったから
7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人を巻き込みたくなかったから
10. 被害を受けたことを思い出したくなかったから
11. 自分にも悪いところがあると思ったから
12. 相談するほどのことではないと思ったから
13. その他（ \_\_\_\_\_）

【問 25】あなたは、男女間における暴力や児童虐待などを防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号をいくつでもお選びください。

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
7. 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う研修や啓発を行う
8. 加害者の相談窓口を設ける
9. 加害者への罰則を強化する
10. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる
11. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
12. わからない

【問 26】 あなたは、次の言葉についてご存知ですか。A～Jのそれぞれの項目について右欄の1～4にあてはまる番号を1つお選びください。

	言葉も内 容もよく 知っている	言葉は知 っており 内容は少 し知って いる	言葉だけ は知って いる	言葉も 内容も 知らない
A ジェンダー	1	2	3	4
B ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3	4
C セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)	1	2	3	4
D マタニティ・ハラスメント(マタハラ)	1	2	3	4
E リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3	4
F ポジティブ・アクション	1	2	3	4
G 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	1	2	3	4
H 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
I 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
J 育児・介護休業法	1	2	3	4
K ドメスティック・バイオレンス防止法	1	2	3	4
L 鹿児島県男女共同参画推進条例	1	2	3	4
M 曾於市男女共同参画プラン	1	2	3	4

以上で質問は終わりですが、男女共同参画社会づくりに関することについて、ご意見やご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

<地域で生活していて又は地域に生活する人々を見ていて気になること>
<その他>

ご協力誠にありがとうございました。〈調査実施機関：曾於市企画課男女参画・協働推進係〉



## 用語の説明

**ジェンダー**：社会的文化的に作られた性のことを指します。これに対し、生物学的な性をセックスといいます。

**ドメスティック・バイオレンス（DV）**：配偶者等（パートナー）からの暴力のこと。婚姻の有無を問わず親密な関係にある男性が女性に対して用いる身体的・心理的暴力のことを指します。

**セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）**：相手の意に反した性的な言動や身体への過剰な接触，性的関係の強要，性的うわさの流布などあらゆる場においての性的いやがらせのことです。

**マタニティ・ハラスメント（マタハラ）**：職場において妊娠や出産した人に対して，妊娠や出産が仕事に支障をきたすという理由で精神的，身体的な嫌がらせを受けることです。

**リプロダクティブ・ヘルス/ライツ**：「性と生殖に関する健康・権利」の意味。妊娠，出産に関わる女性の健康を重視し，いつ何人産むかを自己決定する概念のことをいいます。

**ポジティブ・アクション**：[積極的改善措置]の意味。様々な分野において，活動に参画する機会の男女間の格差を改善するため，必要な範囲内において，男女のいずれか一方に対し，活動に参画する機会を積極的に提供するものです。

**ワークライフ・バランス**：仕事と生活の調和のこと。誰もがやりがいや充実感を感じながら働き，仕事上の責任を果たすとともに，家庭や地域生活においても，子育て期，中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択，実現できる社会の実現を目指します。

**男女共同参画社会基本法**：男女共同参画社会は，男女が，社会の対等な構成員として，自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保されることにより男女が当該活動に参画し，かつ共に責任を担うべき社会のことです。男女共同参画社会の形成についての基本理念を明らかにしてその方向を示し，将来に向かって国，地方公共団体及び国民の男女共同参画社会の形成に関する取組を総合的かつ計画的に推進するため，平成11年6月に制定されました。

**男女雇用機会均等法**：雇用の際，募集・採用・配置・昇進，教育，待遇面等において，性別による差別的な扱いを禁止した法律です。

**育児・介護休業法**：子の養育又は家族の介護を行う労働者の雇用の継続及び再就職の促進を図り，職業生活と家庭生活との両立を支援することにより，福祉の増進，経済及び社会の発展に寄与することを目的としています。

**ドメスティック・バイオレンス（DV）防止法**：「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」の意味。配偶者からの暴力に係る通報，相談，保護，自立支援等の体制を整備し，配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とする法律です。

**鹿児島県男女共同参画推進条例**：男女共同参画社会の実現を目指して，県，事業者，県民及び市町村が一体となって男女共同参画の推進に取り組むことを決意し，平成13年12月に制定されました。

